

令和4年度（2022年度）
ヤングケアラー実態調査

報 告 書

練馬区教育委員会

目 次

調査の概要	1
I 調査の背景と目的.....	1
II 調査の実施	1
III 調査の種類および概要	2
IV 集計・分析に関する留意事項	4
第1章 児童・生徒の家庭・生活状況（世話の有無別集計）	5
1-1 回答者の属性	5
1-2 児童・生徒の家庭・生活状況.....	8
1-2-1 世帯構成.....	8
1-2-2 睡眠と朝食	12
1-2-3 自分の時間.....	16
1-3 生活満足度.....	18
1-4 家族の世話をする児童・生徒の状況.....	20
1-4-1 世話をする対象者	20
1-4-2 家庭内で世話を担う人.....	21
1-4-3 世話の内容	22
1-4-4 世話をする理由.....	23
1-4-5 世話をする日数・時間.....	24
1-5 世話をするることによる影響と思い	26
1-5-1 世話をするることによる影響	26
1-5-2 世話をするることについて思っていること	27
1-5-3 周囲に助けてほしいこと	28
1-6 相談の状況.....	30
1-6-1 相談の状況	30
1-6-2 相談していない理由	32
第2章 世話の関わり方による児童・生徒の状況（世話の関わり方別 クロス集計）	34
2-1 回答者の属性	34

2-2	家族の世話をする児童・生徒の状況.....	38
2-2-1	世帯構成.....	38
2-2-2	世話をする対象者.....	40
2-2-3	世話の内容.....	42
2-2-4	世話をする理由.....	44
2-2-5	世話をする日数・時間.....	46
2-3	世話をすることによる影響と思い.....	48
2-3-1	世話をすることによる影響.....	48
2-3-2	世話をすることについて思っていること.....	50
2-3-3	周囲に助けてほしいこと.....	52
2-4	相談の状況.....	54
2-4-1	相談の状況.....	54
2-4-2	相談していない理由.....	58
2-5	家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況.....	60
2-5-1	睡眠と朝食.....	60
2-5-2	自分の時間.....	62
2-6	生活満足度.....	64

第3章 世話の時間の長さによる児童・生徒の状況（世話の時間の長さ別 クロス集計）

		66
3-1	回答者の属性.....	66
3-2	家族の世話をする児童・生徒の状況.....	71
3-2-1	世話をする対象者.....	71
3-2-2	世帯構成.....	72
3-3	世話の内容と理由.....	74
3-3-1	世話の内容.....	74
3-3-2	世話をする理由.....	76
3-4	世話をすることによる影響と思い.....	78
3-4-1	世話をすることによる影響.....	78
3-4-2	世話をすることについて思っていること.....	80
3-4-3	周囲に助けてほしいこと.....	82
3-5	相談の状況.....	84
3-5-1	相談経験のある子どもの状況.....	86
3-5-2	相談していない理由.....	88
3-6	家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況.....	90
3-6-1	睡眠と朝食.....	90

3-6-2 自分の時間	92
3-7 生活満足度	94
第4章 ヤングケアラー概念の認知度と自由記述	96
4-1 ヤングケアラー概念の認知度	96
4-2 家族の世話をする子どもに必要なだと思うこと、してもらいたいこと	97
第5章 ヤングケアラーに関する学校調査（教員対象 単純集計）	106
5-1 属性	106
5-2 ヤングケアラー概念の認知度	107
5-3 ヤングケアラーの把握	108
5-4 教員が把握しているヤングケアラーの状況	109
5-5 学校で行っているヤングケアラーへの支援	112
5-6 教員がヤングケアラーを把握できない理由	116
5-7 ヤングケアラー支援に対する教員の思い	117
第6章 ふれあい月間調査（令和4年6月期）（児童・生徒調査）	120
6-1 回収状況	120
6-2 調査結果	120
第7章 ヤングケアラーの実態把握について（調査結果と考察）	122
7-1 調査の特徴	122
7-2 「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」の分類について	123
7-3 子どもの世話の関わり方と時間の長さによる分類の評価	124
7-4 ヤングケアラーの実態把握	125
7-5 ヤングケアラー支援に向けて	126
7-6 まとめ	127
資料	（巻末）

調査の概要

I 調査の背景と目的

本来、大人が担うべき家族の看護・介護や家事などを日常的に行っているヤングケアラーの問題は、当事者である子どもたちにとっては、当たり前の行為となっているため、自分をヤングケアラーだと認識することは難しく、社会的認知度が低いこともあいまって、顕在化しにくい状況となっている。

令和3年に練馬区が把握した支援が必要なヤングケアラーの実数は72名（区立学校に在籍する児童・生徒の0.15%）であり、令和2年から令和4年にかけて国が実施した実態調査の結果（小学生6.5%、中学生5.7%）とは乖離^{かいり}していた。

子どもたちの健やかな育ちのためにはヤングケアラーを早期に発見し、一人ひとりの家庭の状況に応じて、福祉・医療・教育・子育てなどの関係機関が連携して支援することが必要である。

練馬区の現状と国の調査結果との乖離の理由を明らかにするとともに、今後の支援の充実に向けて、ヤングケアラーの実態をより把握し、学校と関係機関が連携した支援体制を構築するために調査を実施した。

II 調査の実施

これまでも区では、支援が必要な子どもの存在を発見した場合には、教育や子育て、福祉、保健分野の現場で、連携しながら子どもと家庭の支援を行ってきた。令和4年2月、区では、ヤングケアラーへの支援を充実するために、各分野にまたがる検討組織「ヤングケアラー支援連携推進会議（以下、「連携会議」という。）」を新たに設置し、現在、検討を進めている。本調査は、学識経験者の助言のもと、連携会議での検討を踏まえ、教育委員会で実施した。

Ⅲ 調査の種類および概要

(1) 児童・生徒調査

- ① 「小学生の家庭・生活状況調査」「中学生の家庭・生活状況調査」
(第1章、第2章、第3章、第4章に調査結果を記載)

対象	練馬区立学校に在籍する小学6年生および中学2年生 (小中一貫教育校は6年生および8年生)
実施期間	令和4年6月2日～30日
調査方式	アンケート調査(A3判、二ツ折り)、無記名式
調査事項	世話をしている家族の有無、世話の内容や日常生活への影響など (問16、問18、問21については、年齢による理解度等の差を考慮し、小学生調査と中学生調査の選択肢構成に差異を設けた。また、中学生調査については、世話による影響や支援希望を問う設問で進路関係の選択肢を設けた)
回収状況	小学生 5,404件(調査対象者5,711人、回収率94.6%) 中学生 4,162件(調査対象者4,570人、回収率91.1%)
その他	① 保護者宛てに調査への協力の案内を配付 ② 調査対象児童・生徒に相談先の案内を記載したチラシを配布

② 「ふれあい月間調査（令和４年６月期）」

（第６章に調査結果を記載）

対象	練馬区立小・中学校に在籍する全児童・生徒
実施期間	令和４年６月１日～３０日
調査方式	アンケート調査、記名式
調査事項	いじめや不登校などの悩みに合わせて、ヤングケアラーを把握するための設問を追加
回収状況	小学生 32,966 件（調査対象者 33,666 人、回収率 97.9%） 中学生 12,691 件（調査対象者 13,449 人、回収率 94.4%）

（２）学校調査

【調査名】「ヤングケアラー支援に関する実態調査」

（第５章に調査結果を記載）

対象	練馬区立学校に勤務する全教員(常勤)
実施期間	令和４年７月１２日～２９日
調査方式	アンケート調査（web調査）、無記名式
調査事項	「ヤングケアラー」概念の認知状況、「ヤングケアラー」と思われる子どもの把握状況、「ヤングケアラー」への支援・対応の状況 等
回収状況	小学校教諭 1,234 件（調査対象者 1,737 人、回収率 71.0%）、中学校教諭 484 件（調査対象者 829 人、回収率 58.4%）

Ⅳ 集計・分析に関する留意事項

- アンケート調査の設問には、主に、選択肢から該当するものを1つ選択する単一回答形式の設問と、該当するものを複数選択することが可能な複数回答形式の設問がある。
- 回答の比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、単一回答の設問において各選択肢の回答に関する数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答形式の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。
- 図表内の「n=〇〇」はその設問についての集計対象件数を示している。なお、母集団のデータの数を示す場合は、「N=〇〇」と表記する。
- クロス分析において、サンプルサイズ（抽出した標本におけるデータの個数）が少ない場合には、全体の状況を代表しているとは限らない点に留意が必要である。

第1章 児童・生徒の家庭・生活状況

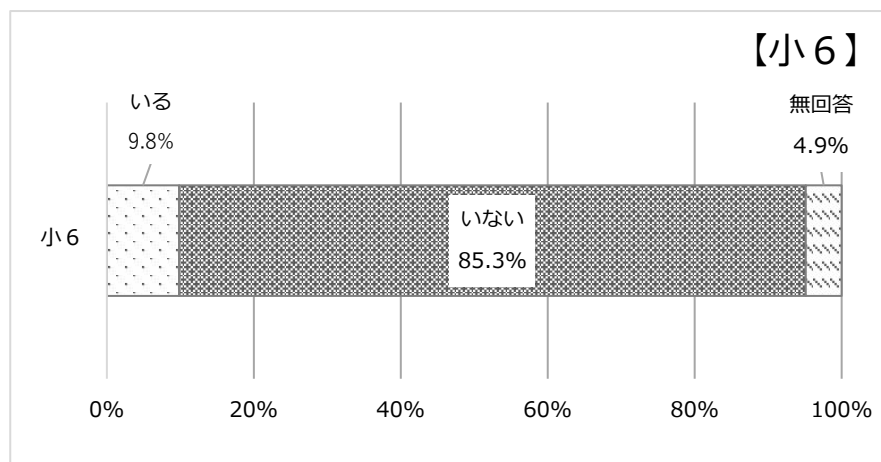
(世話の有無別集計)

1-1 回答者の属性

設問【問8】において、「家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人がいる」と回答した小学生は531人、中学生は355人であった（図表1-1-1）。また、世話が必要な家族がいると回答した児童・生徒に【問11】において、児童・生徒が手助けや世話に関わっているかを尋ねたところ、小学生419名、中学生273名が「世話をしている」と回答（図表1-1-2）。家族の世話をしている児童・生徒が全体に占める割合は、小学生7.8%、中学生6.6%であった。

【問8】（単一回答）家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか。

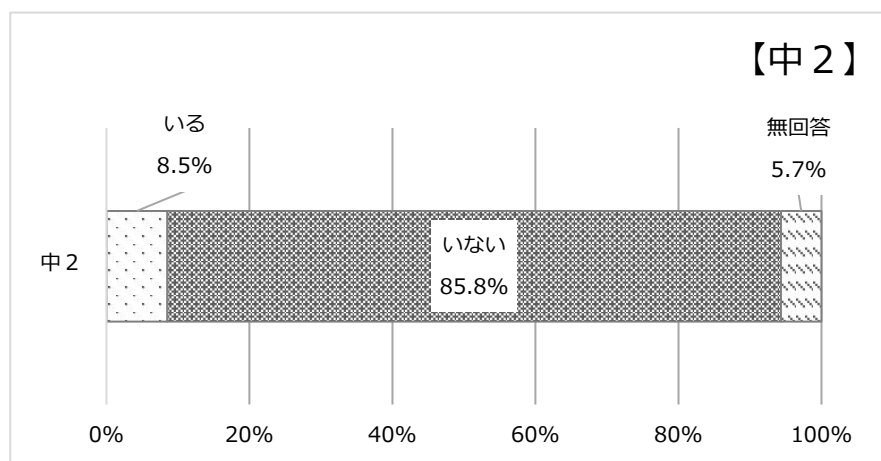
図表1-1-1 手助けや世話を必要とする家族の有無



(単位：人)

いる	531
いない	4,609
無回答	264

N = 5,404



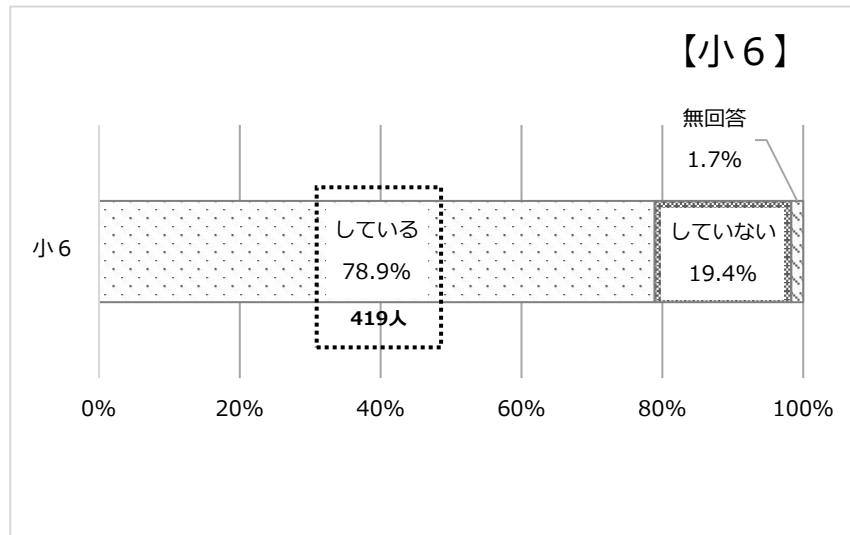
(単位：人)

いる	355
いない	3,571
無回答	236

N = 4,162

【問 11】（単一回答）あなたはお世話をしていますか。

図表 1-1-2 世話をしている子どもの割合

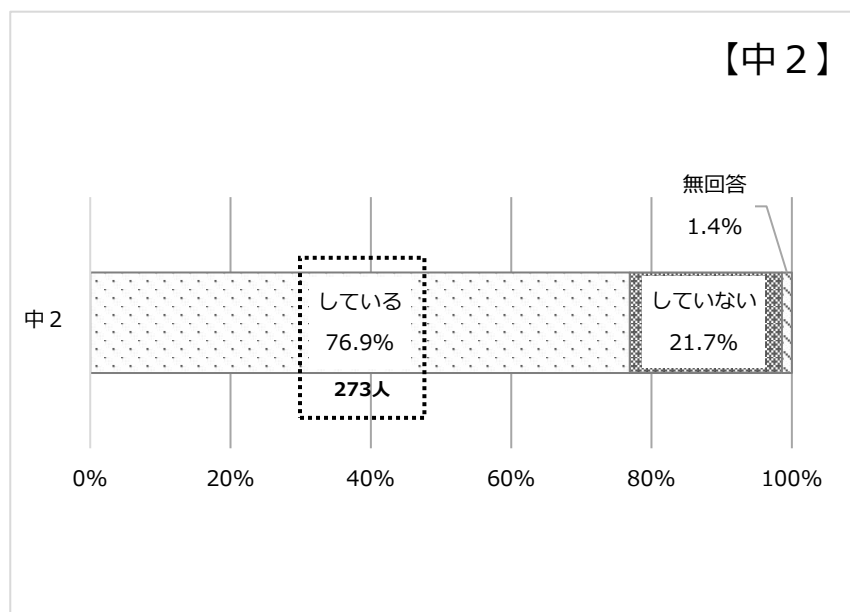


（単位：人）

している	419
していない	103
無回答	9

n = 531

419 人/5,404 人（回答者全数）
= 7.8%



（単位：人）

している	273
していない	77
無回答	5

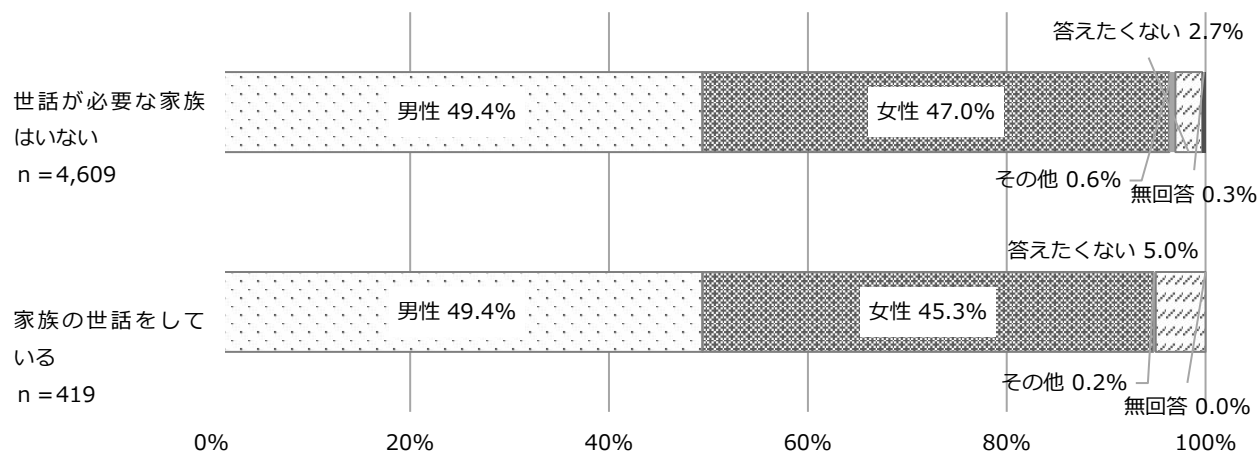
n = 355

273 人/4,162 人（回答者全数）
= 6.6%

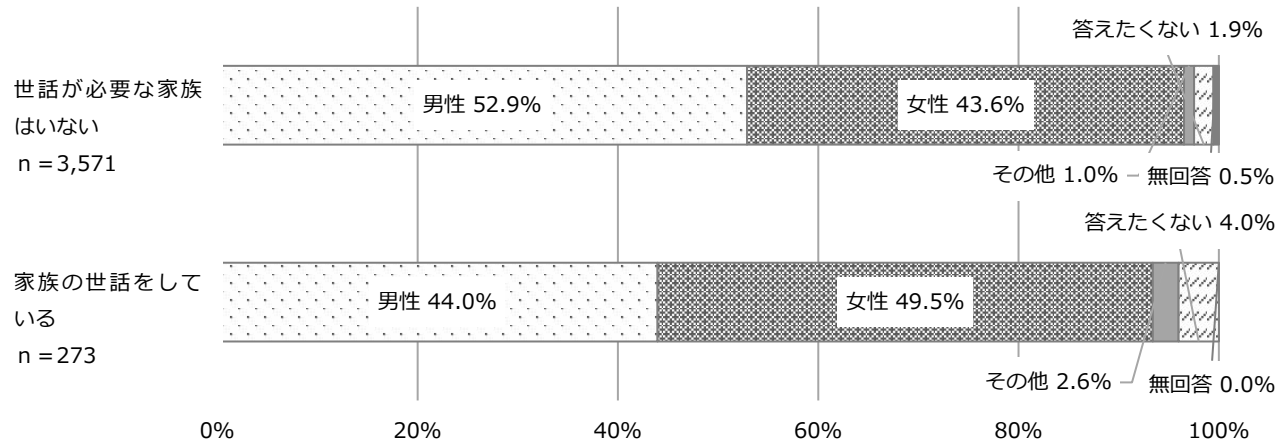
【問 1】（単一回答）あなたのことについて教えてください（性別）。

図表 1-1-3 性別

【小 6】



【中 2】



1-2 児童・生徒の家庭・生活状況

【問 8】「家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか」で「いない」を選択した「世話が必要な家族はいない」群と、【問 11】「あなたはお世話をしていますか」で「している」を選択した「家族の世話をしている」群（図表 1-1-1、図表 1-1-2）に区分し、クロス集計により、生活状況を比較した。

1-2-1 世帯構成

「世話が必要な家族はいない」群、「家族の世話をしている」群いずれの群においても「2 世代世帯」の割合が最も多いが、「家族の世話をしている」群は、「世話が必要な家族はいない」群に比し、小学生、中学生ともに「3 世代」の割合が高い。また、中学生では「ひとり親世帯」の割合もやや高い（図表 1-2-1-2）。

【問 7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。

図表 1-2-1-1 いっしょに住んでいる人

（単位：人）

	世話が必要な家族はいない 小 6 n = 4,609	家族の世話をしている 小 6 n=419	世話が必要な家族はいない 中 2 n=3,571	家族の世話をしている 中 2 n=273
お母さん	4,531	411	3,484	262
お父さん	4,121	372	3,120	223
おばあさん	390	64	302	60
おじいさん	228	44	173	27
兄・姉	2,143	148	1,770	113
弟・妹	2,030	287	1,595	175
その他	203	46	161	26
無回答	28	1	20	1

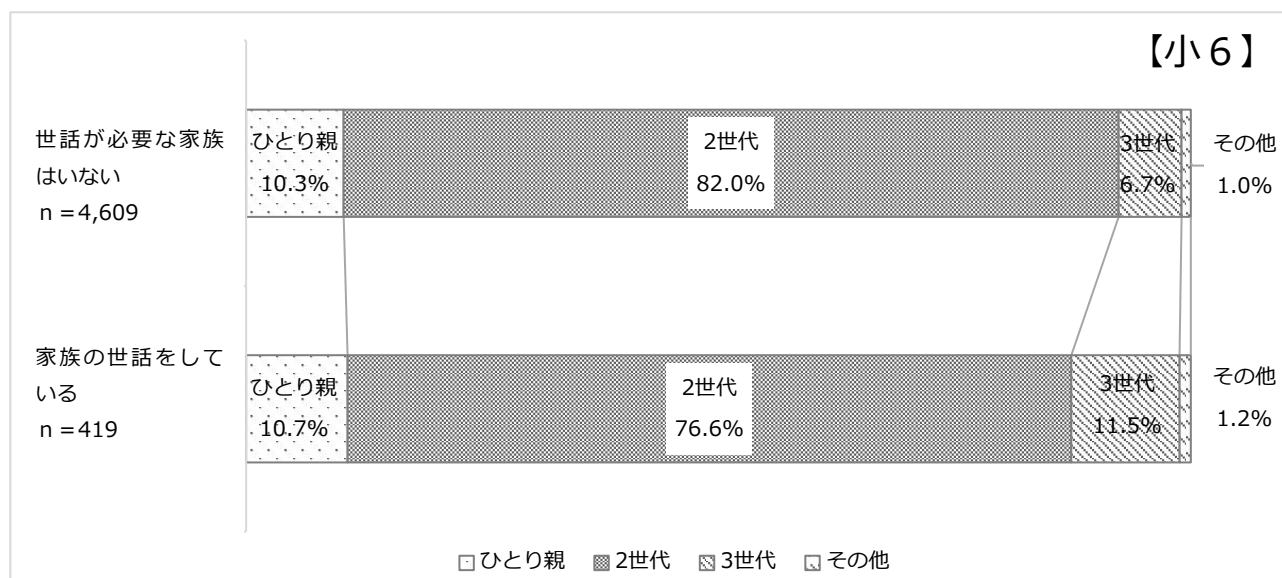
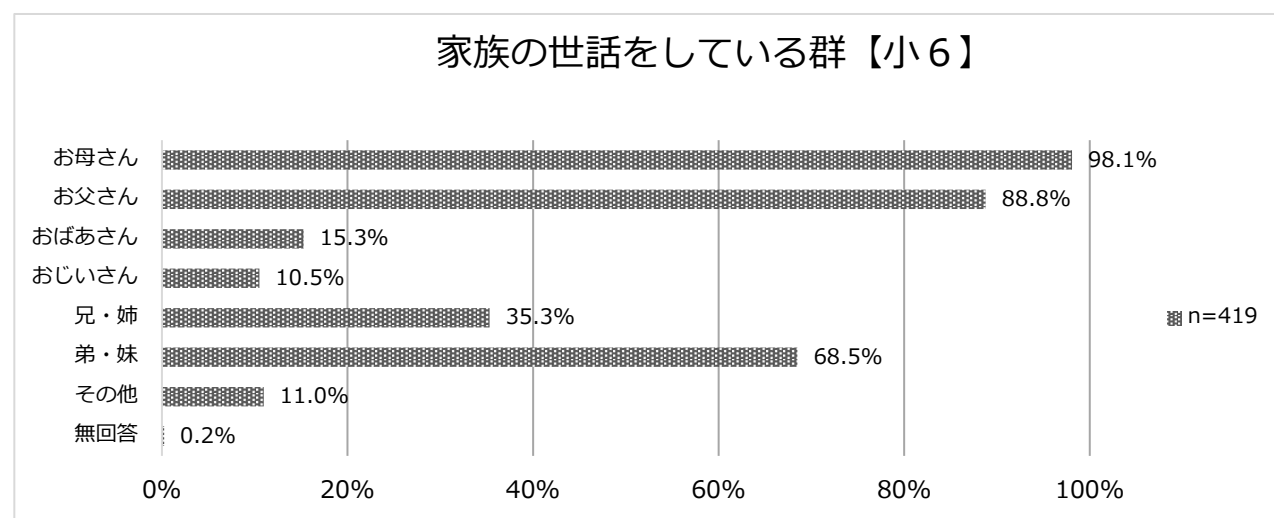
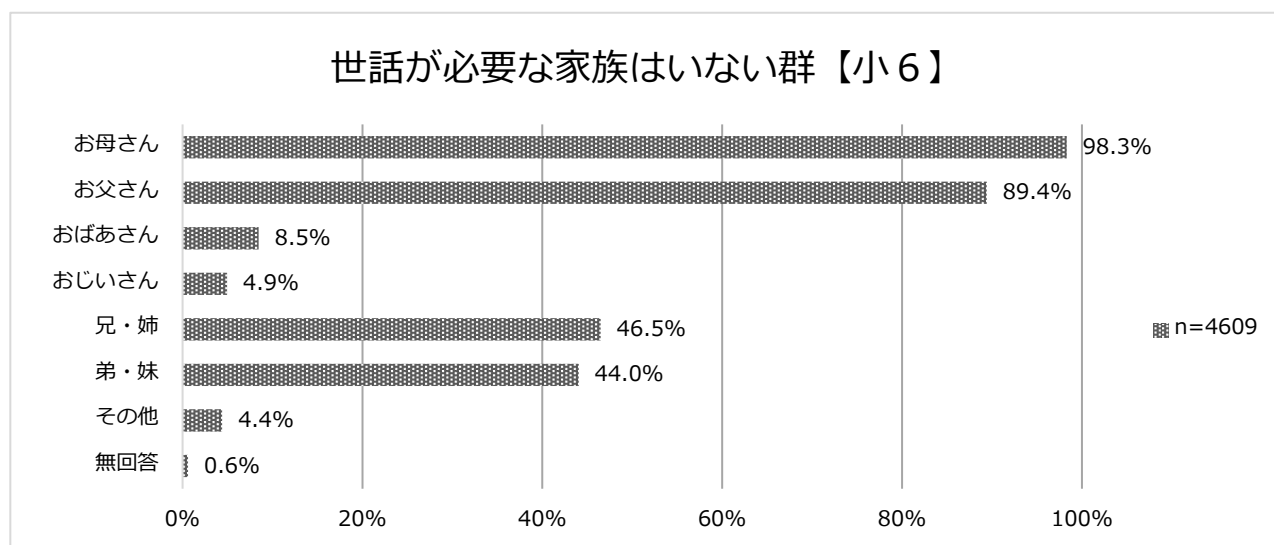
世帯構成の分類方法

【問7】 いっしょに住んでいる人はだれですか（複数回答）の回答をつぎの条件に基づき分類

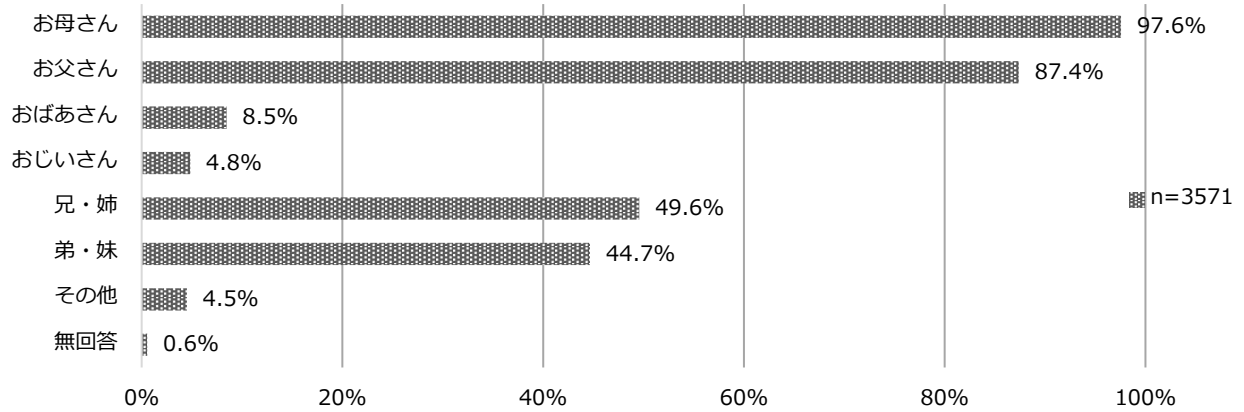
分類	条件
2世代	お母さん、お父さんのいずれにも○があり、おばあさん、おじいさんのいずれにも○がない
3世代	お母さん、お父さんのいずれにも○があり、おばあさん、おじいさんの両方またはいずれかに○がある
ひとり親	お母さん、お父さんのどちらか一方のみに○がある
その他	上記以外 （例）お母さん、お父さんのいずれにも○が無い、選択肢をいずれも選んでいない

【問7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。（回答から世帯状況を分類）

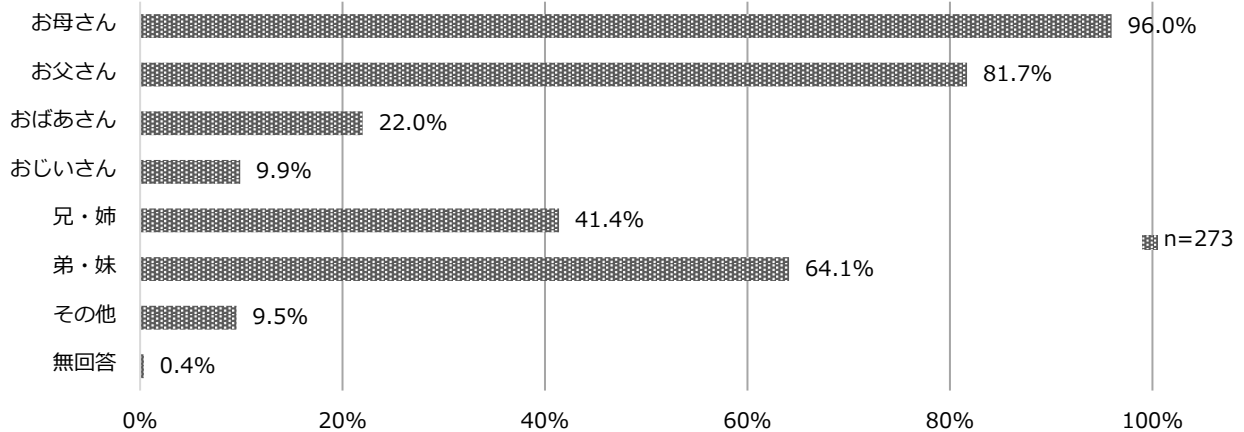
図表 1-2-1-2 同居家族と世帯状況



世話が必要な家族はいない群【中 2】



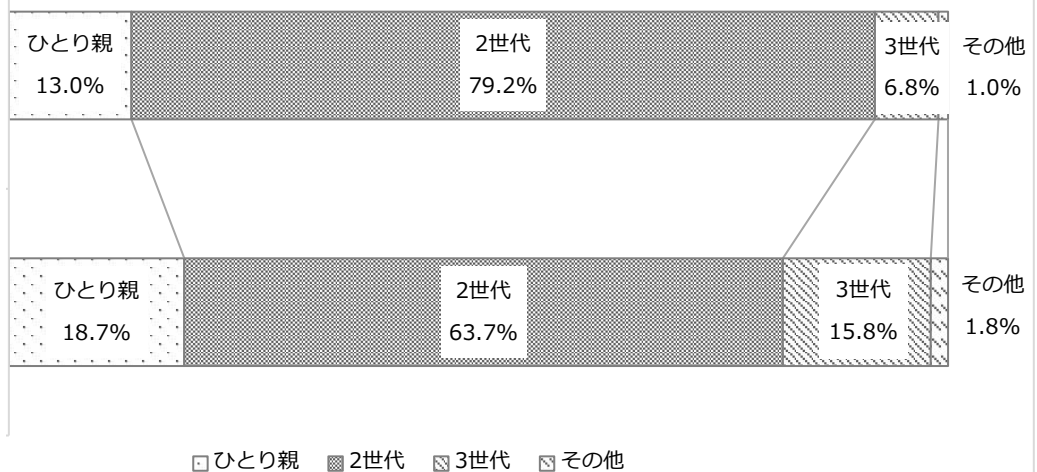
家族の世話をしている群【中 2】



【中 2】

世話が必要な家族
はいない
n = 3,571

家族の世話をし
ている
n = 273



1-2-2 睡眠と朝食

睡眠時間は、小学生の「家族の世話をしていない」群で「8 時間」の項目の割合がやや高いものの、他には特徴的な差は見られない（図表 1-2-2-3）。朝食の喫食状況では、中学生の「家族の世話をしている」群で「世話が必要な家族はいない」群より「毎日食べている」の割合はやや低く、「どちらかといえば」の割合はやや高くなっているが、「毎日食べている」、「どちらかといえば食べている」の 2 項目を合計した場合で見ると、群間の差はほぼない（図表 1-2-2-4）。

【問 2】（単一回答）平日（学校がある日）朝は、何時ごろに起きていますか。

図表 1-2-2-1 起床時間

（単位：人）

	世話が必要な 家族はいない 小 6 n = 4,609	家族の世話を している 小 6 n = 419	世話が必要な 家族はいない 中 2 n = 3,571	家族の世話を している 中 2 n = 273
午前 6 時より前	451	43	295	29
午前 6 時台	1,956	181	1,375	113
午前 7 時台	2,109	183	1,836	127
午前 8 時過ぎ	25	5	32	3
その他	53	6	25	1
無回答	15	1	8	0

【問 6】（単一回答）平日（学校がある日）夜の寝る時間は何時ごろですか。

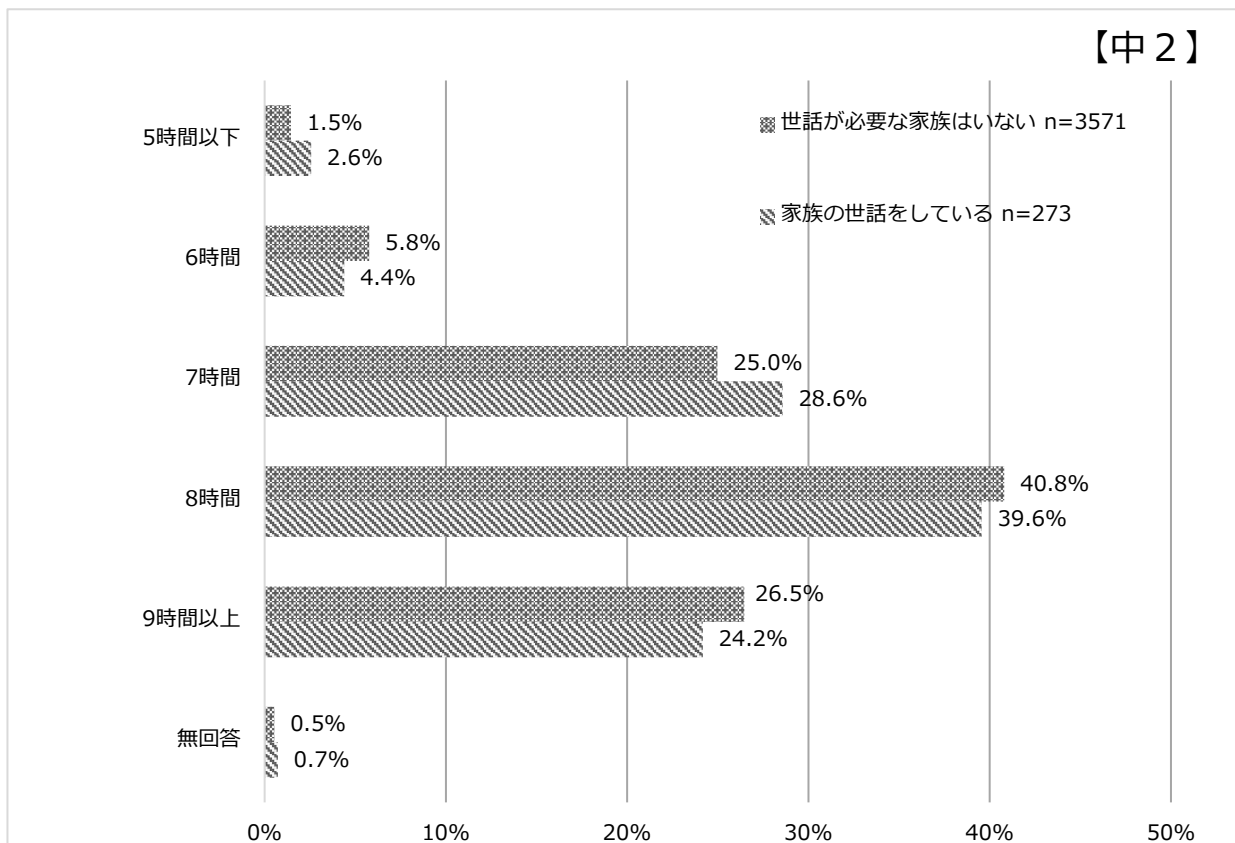
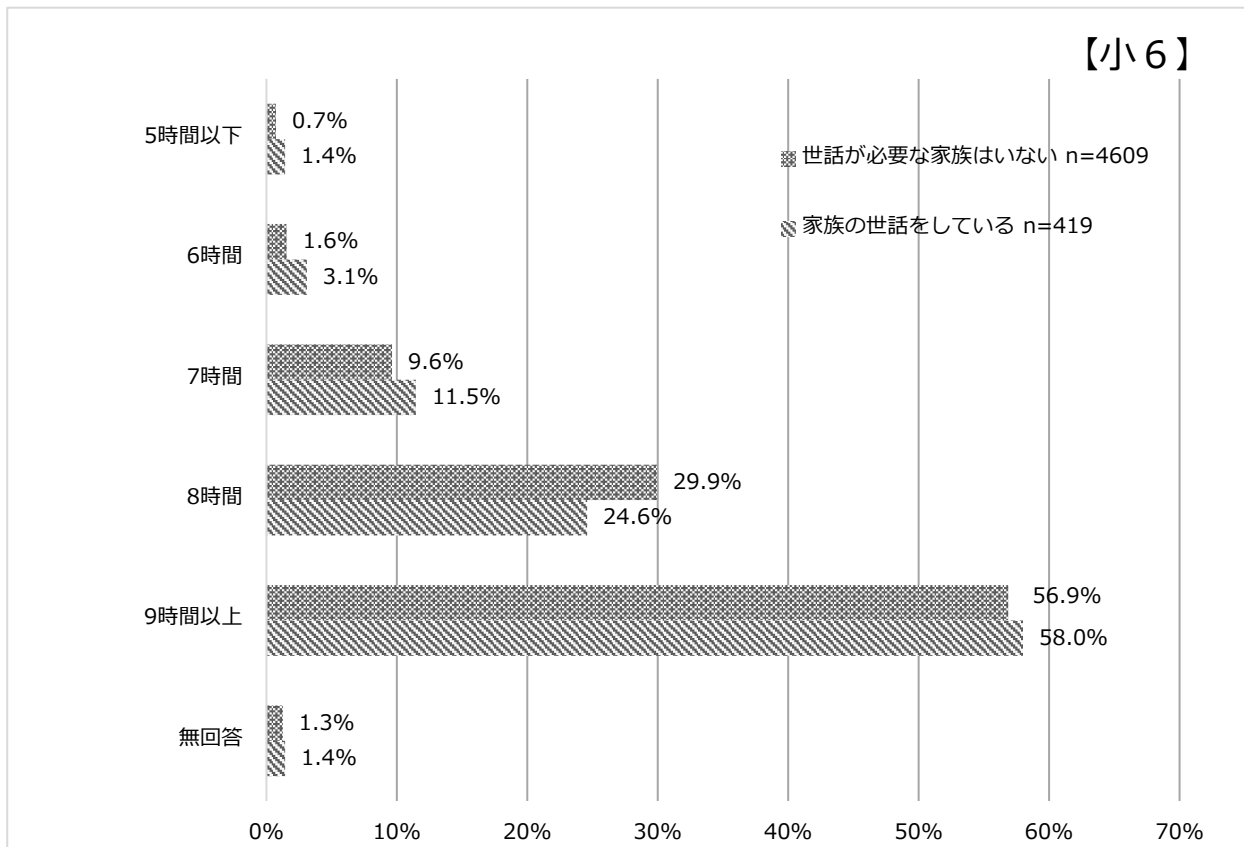
図表 1-2-2-2 就寝時間

（単位：人）

	世話が必要な 家族はいない 小 6 n = 4,609	家族の世話を している 小 6 n = 419	世話が必要な 家族はいない 中 2 n = 3,571	家族の世話を している 中 2 n = 273
午後 9 時過ぎから 10 時の間	1,678	165	380	28
午後 10 時過ぎから 11 時の間	1,932	151	1,344	103
午後 11 時過ぎから午前 0 時の間	635	51	1,261	92
午前 0 時より後	149	25	534	41
その他	172	22	40	8
無回答	43	5	12	1

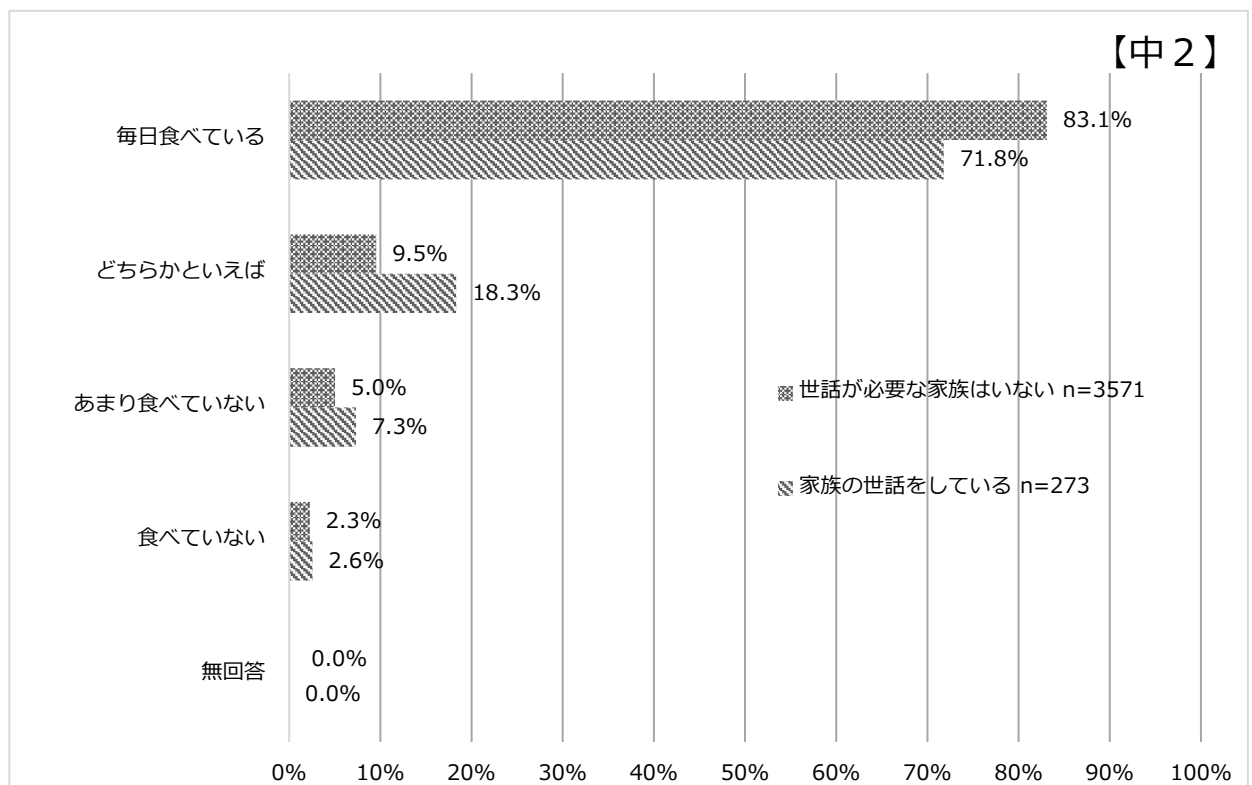
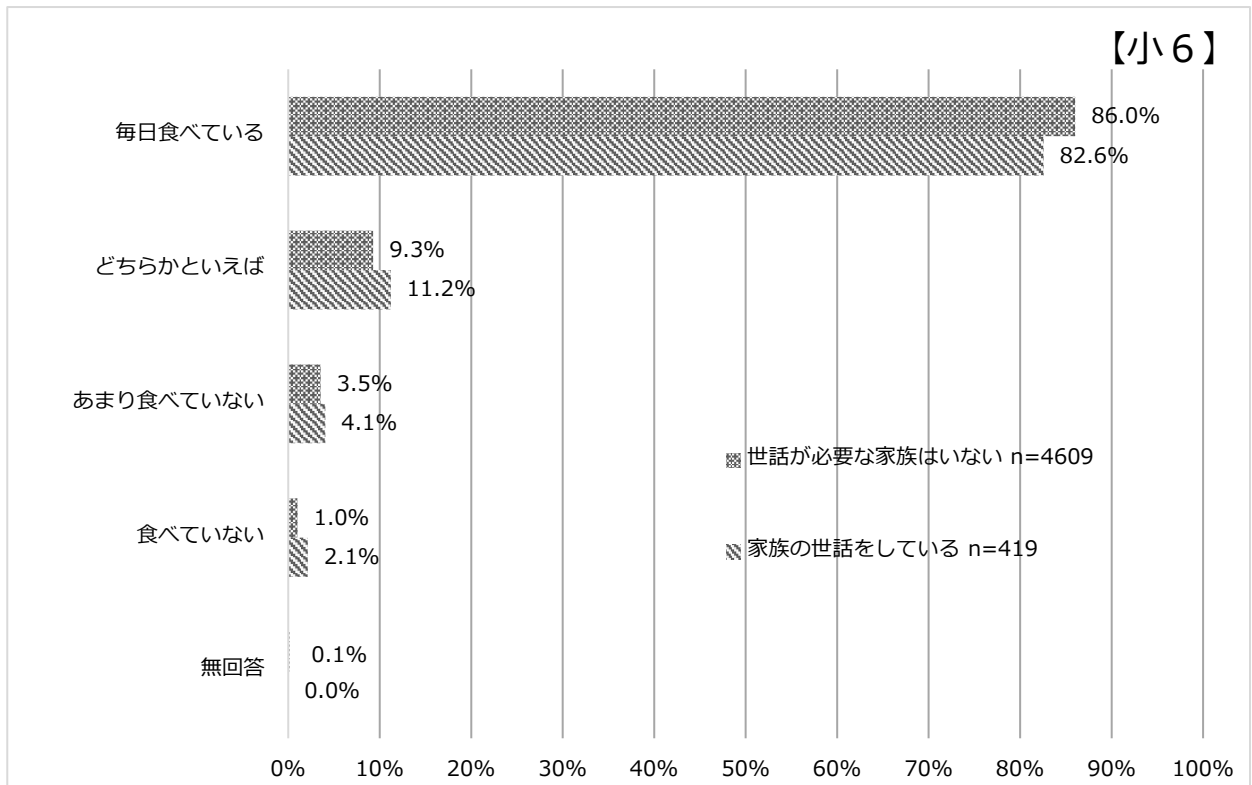
図表1-2-2-3 睡眠時間

※【問 2】起床時間と【問 6】就寝時間の回答から算出



【問 3】（単一回答）平日（学校がある日）朝食を毎日食べていますか。

図表 1-2-2-4 朝食の喫食状況





©2011 練馬区ねり丸

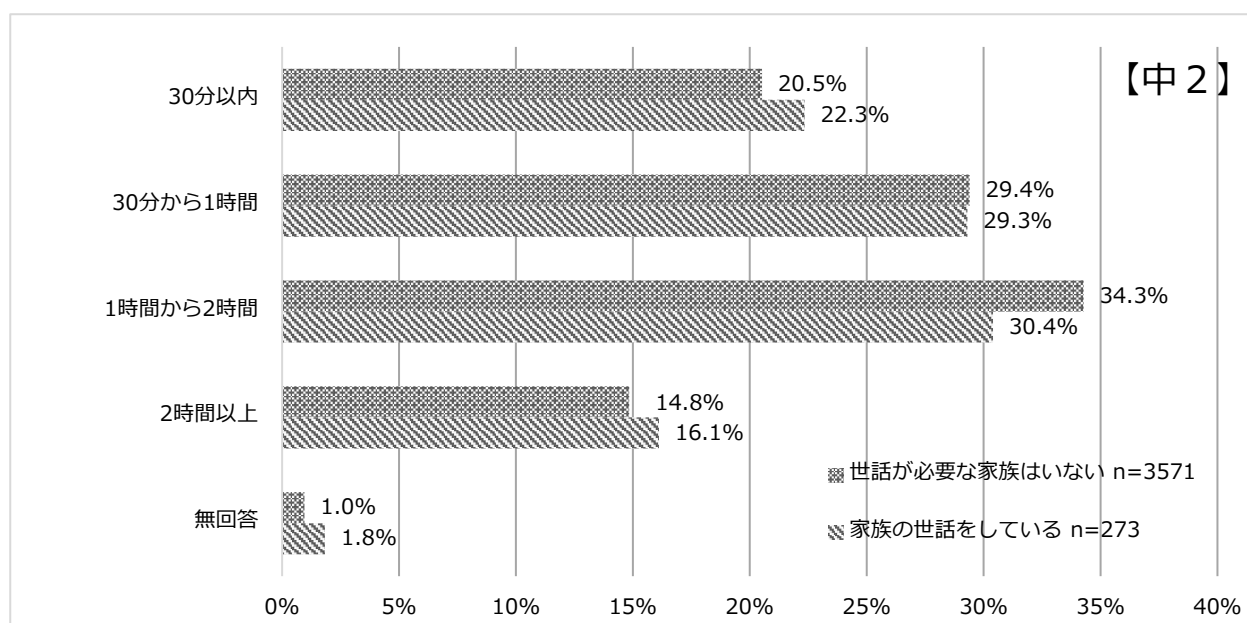
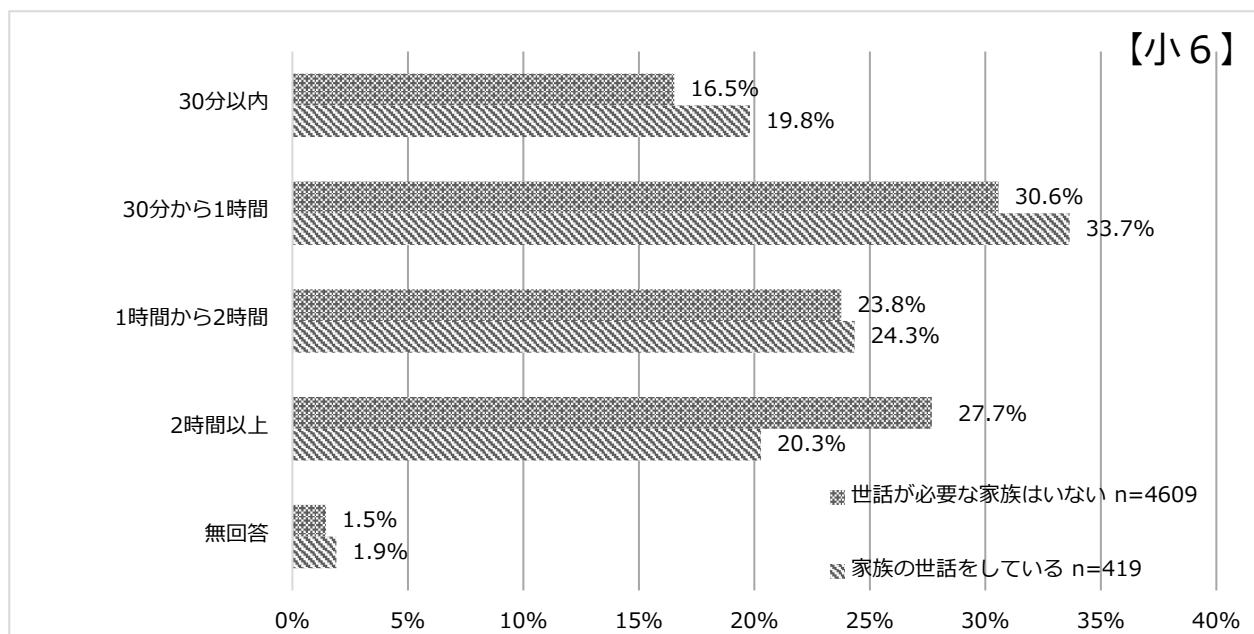
1-2-3 自分の時間

勉強時間について、「家族の世話をしている」群と「世話が必要な家族はいない」群の間で、小学生では「家族の世話をしている」群で「2時間以上」と回答した割合がやや低くなっているものの、特徴的な差はない（図表 1-2-3-1）。

自由時間について、「家族の世話をしている」群と「世話が必要な家族はいない」群の間で、「家族の世話をしている」群で「2時間以上」と回答した割合がやや低くなっているものの、特徴的な差はない（図表 1-2-3-2）。

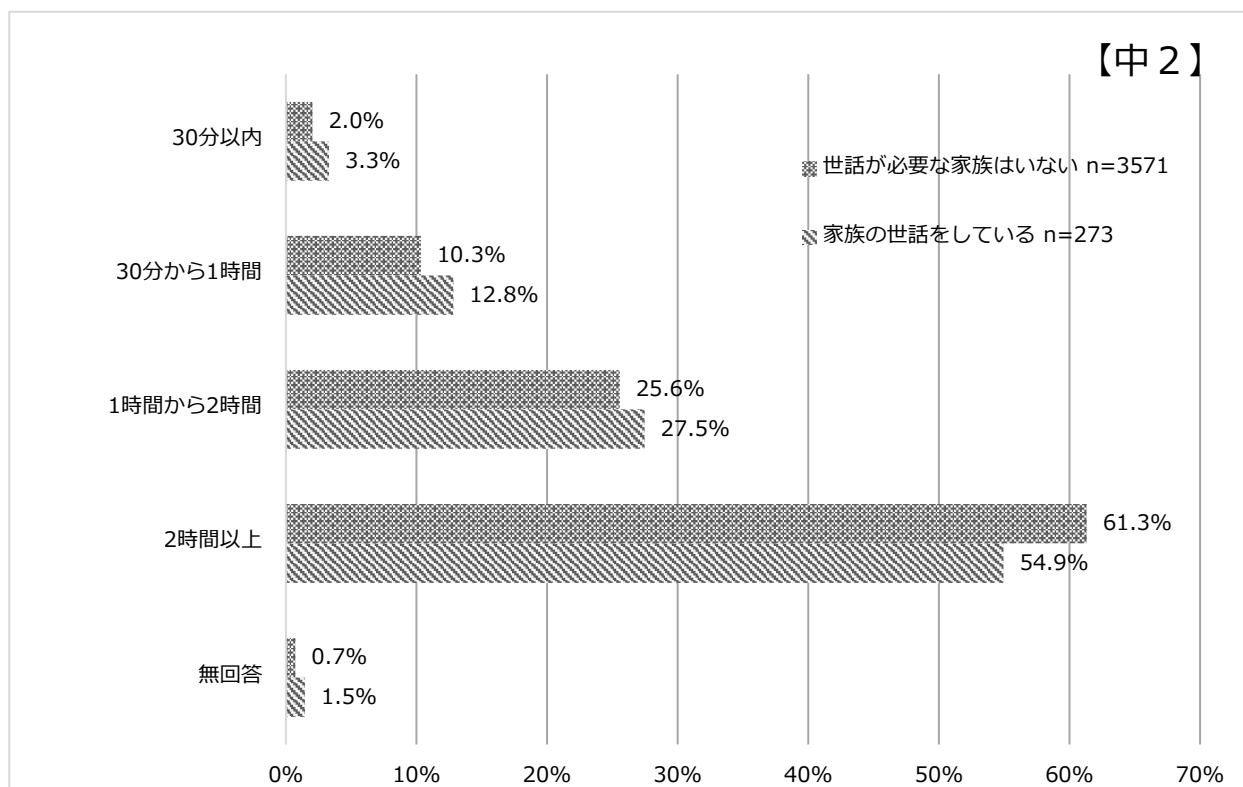
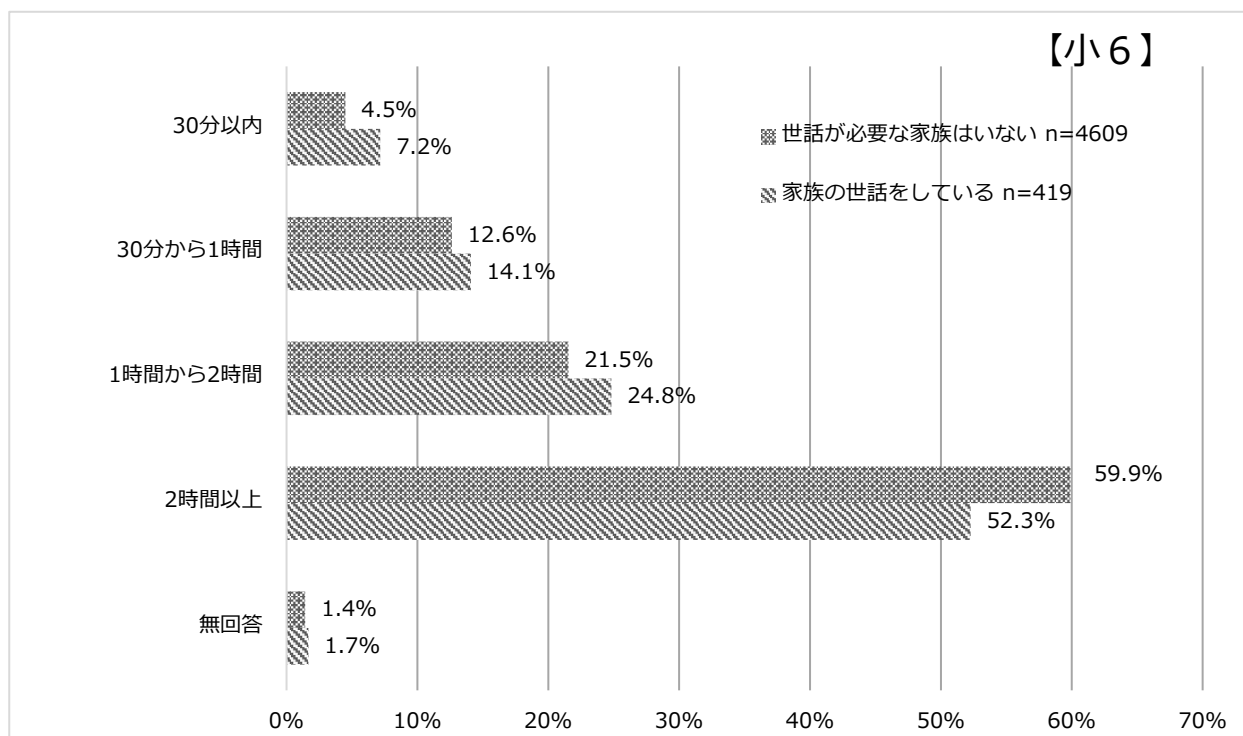
【問 4】（単一回答）平日（学校がある日）学校以外で勉強をする時間は1日どのくらいですか。

図表 1-2-3-1 勉強時間



【問 5】（単一回答）平日（学校がある日）学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいありますか。

図表 1-2-3-2 自由時間



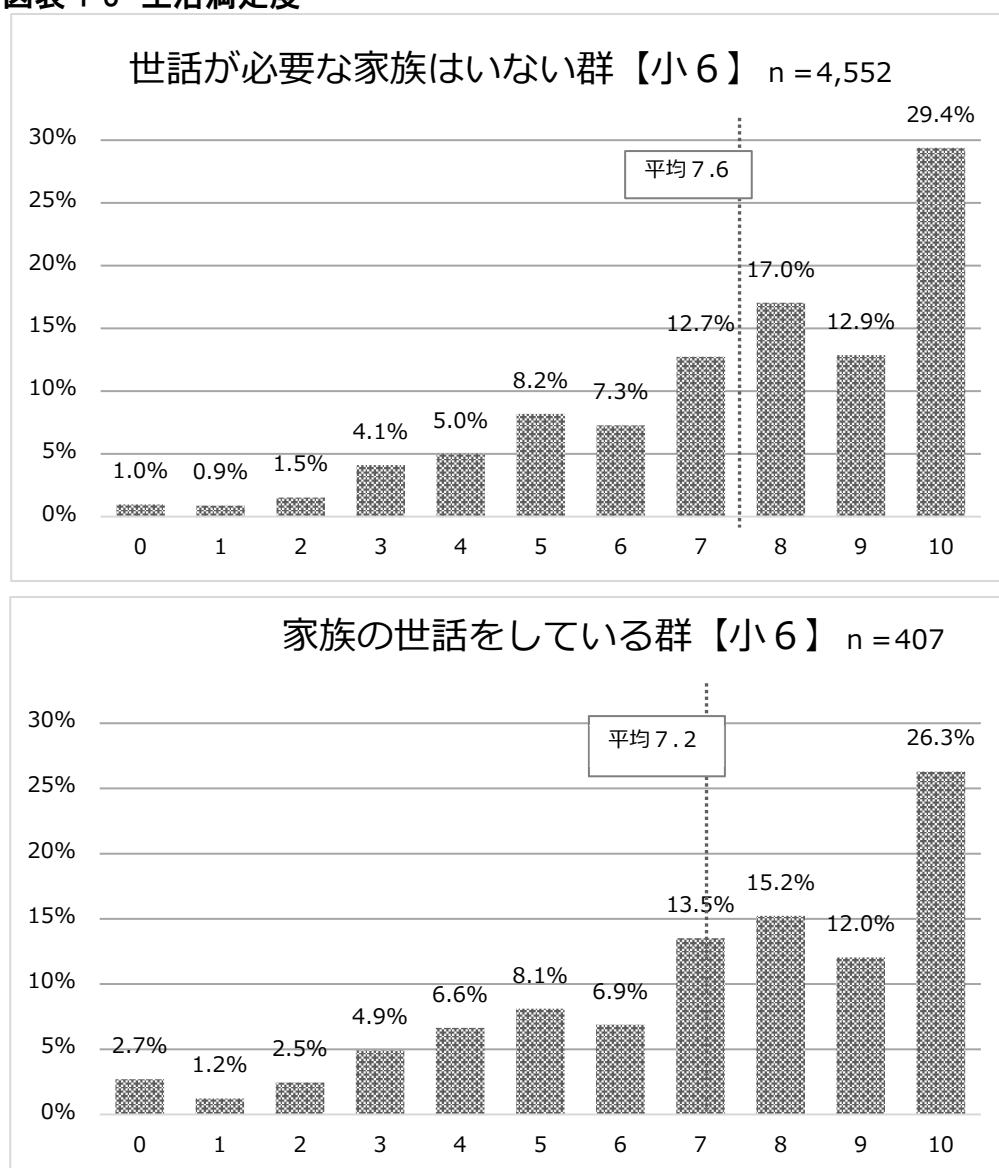
1-3 生活満足度

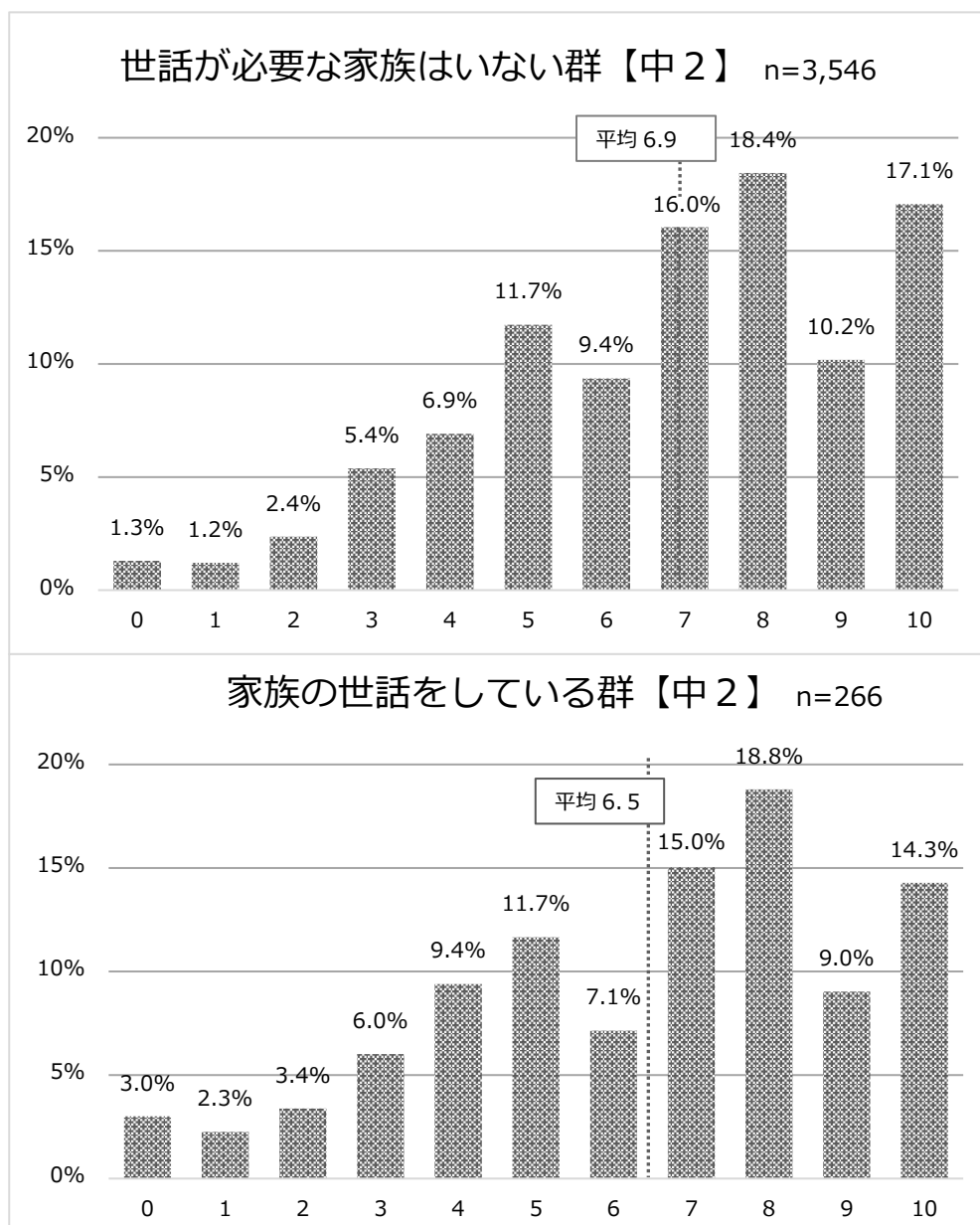
生活満足度は、現在の生活にどの程度満足しているかを「全く満足していない」の0点から「十分に満足している」の10点までの11段階で調査した。回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値は、中学生の「世話をしている」群が「9」、他の群が「6」であった。最頻値は小学生が「10」、中学生が「8」となっており、群間の差はなかった。平均は「世話が必要な家族はいない」群で小学生は7.6、中学生は6.9、「世話をしている」群で小学生は7.2、中学生は6.5であった。群間では、0.4ポイントの差がある(図表 1-3)。(生活満足度の集計には無回答を母数から除く。)

参考として「OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2018 年度調査」によると、日本の生徒 (15 歳) で生活満足度の平均は 6.2 であり、各群ともに全国平均以上である。

【問 23】(単一回答) 最近の生活にどのくらい満足していますか。

図表 1-3 生活満足度





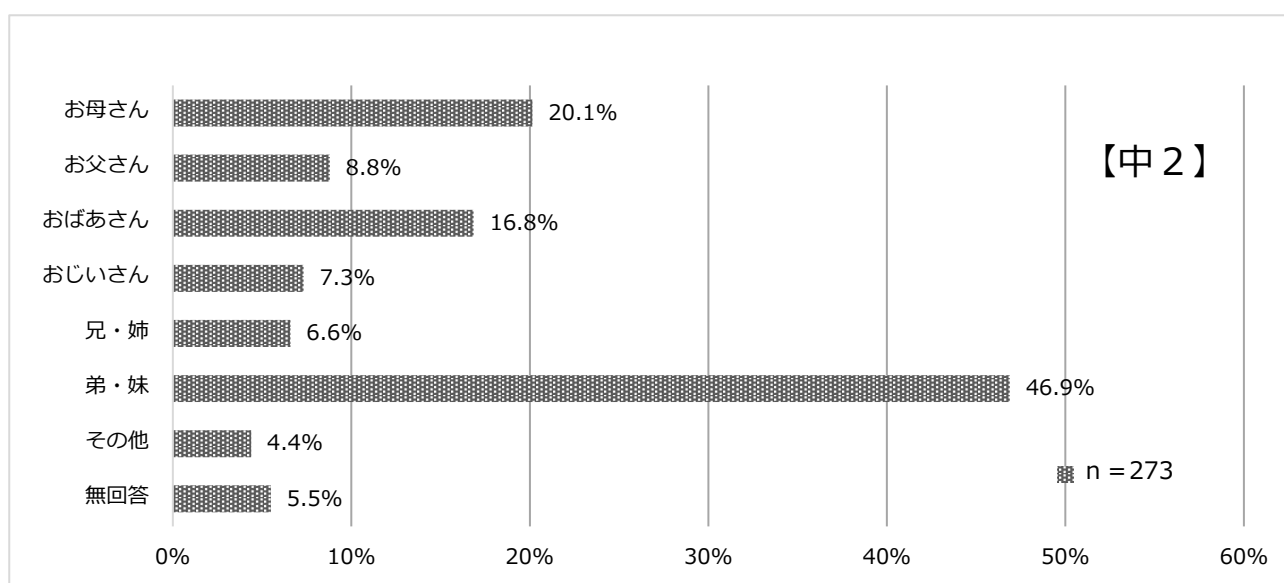
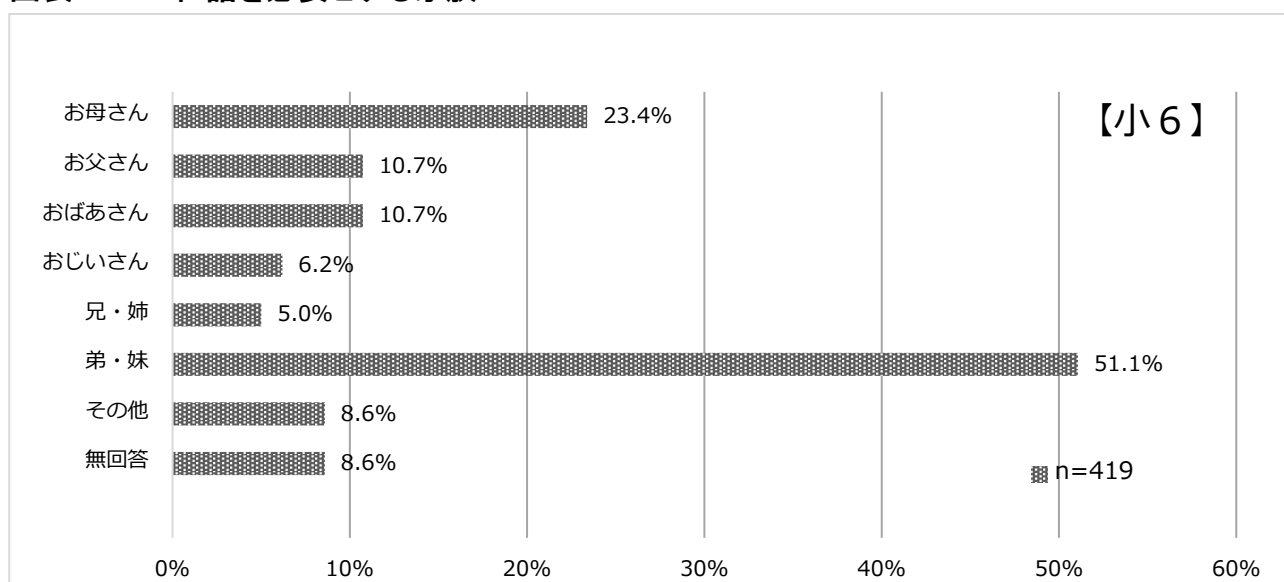
1-4 家族の世話をする児童・生徒の状況

1-4-1 世話をする対象者

世話が必要な家族は、小学生、中学生ともに「弟・妹」が最も多く、約 5 割の児童・生徒が選択している。次いで「母」を選択した児童・生徒が約 2 割であった。また、「祖母」は中学生で 16%、小学生で 10%が選択している（図表 1-4-1）。その他では、同居の親族や知人のほか、ペットと回答したものが一定数あった。

【問 9】（複数回答）お世話を必要とする人はだれですか。

図表 1-4-1 世話を必要とする家族

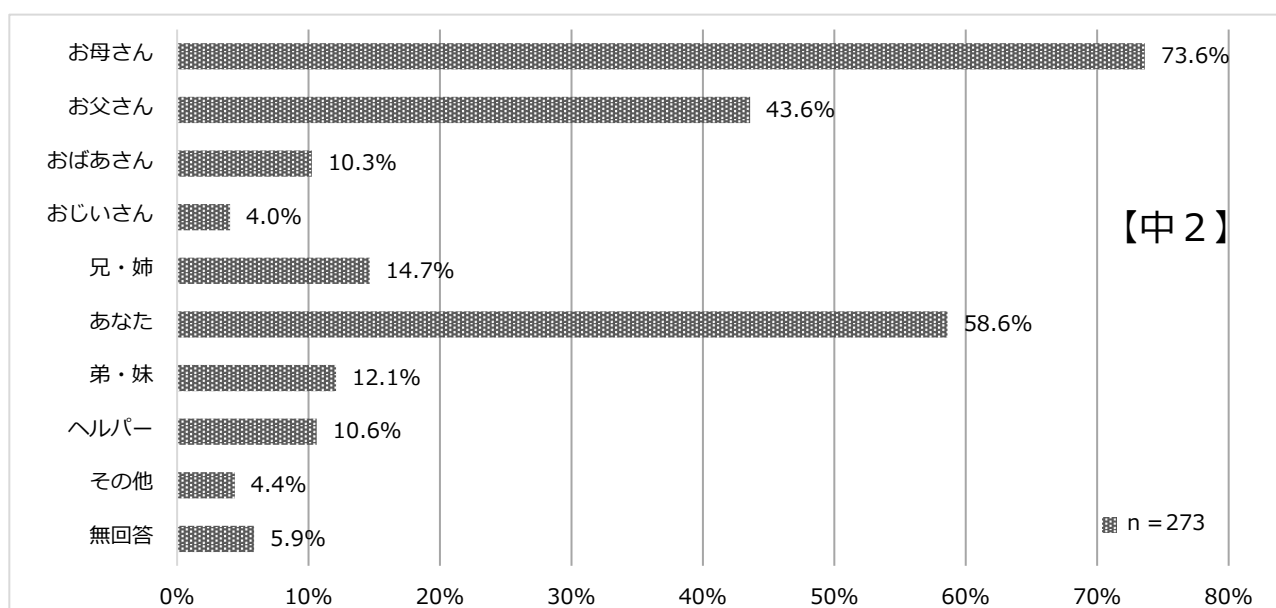
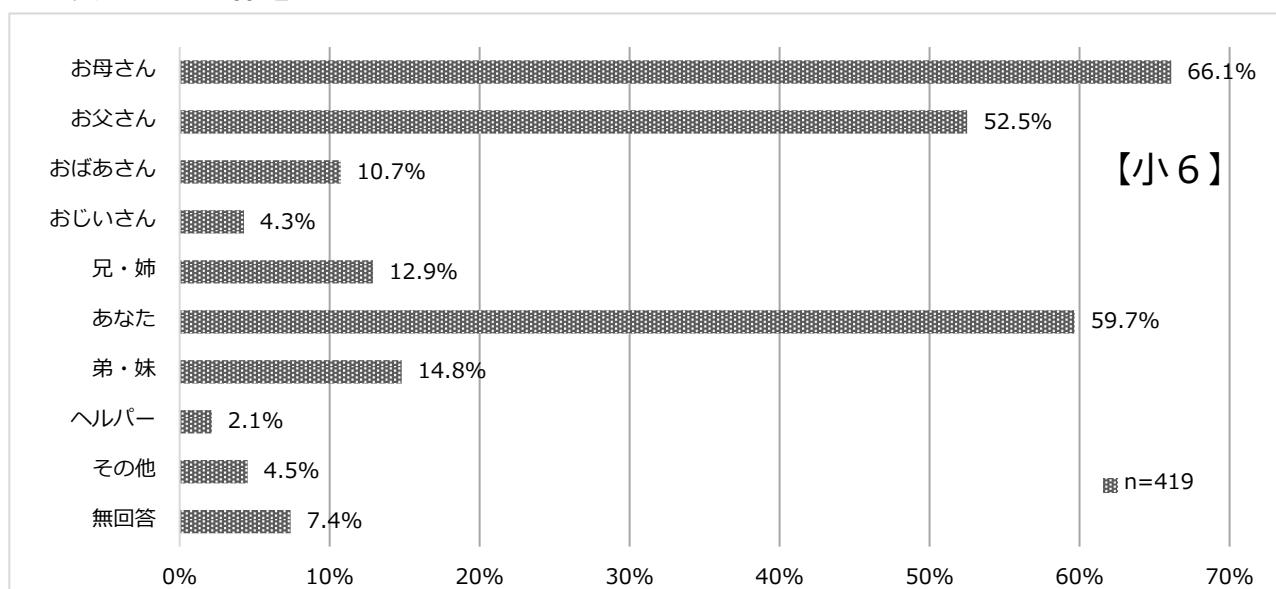


1-4-2 家庭内で世話を担う人

小学生、中学生ともに「世話が必要な家族」の世話を主に担う人として、「母」を選択した児童・生徒は約7割で最も多く、2番目に「あなた（自分）」の選択が約6割となっている（図表 1-4-2）。【問 11】「あなたは世話をしているか」の設問では、児童・生徒の8割弱が「世話をしている」と回答し（図表 1-1-2）、主に世話を担っている子ども（約6割）と、主にではないが世話を担っている子ども（約2割）の存在がわかる。世話の関わり方の違いにより、生活状況等への影響に差が出る可能性があり、さらに詳細な分析が必要である。

【問 10】（複数回答）その人（お世話を必要とする家族）のお世話を主にしている人はだれですか。

図表 1-4-2 世話を主に担う人

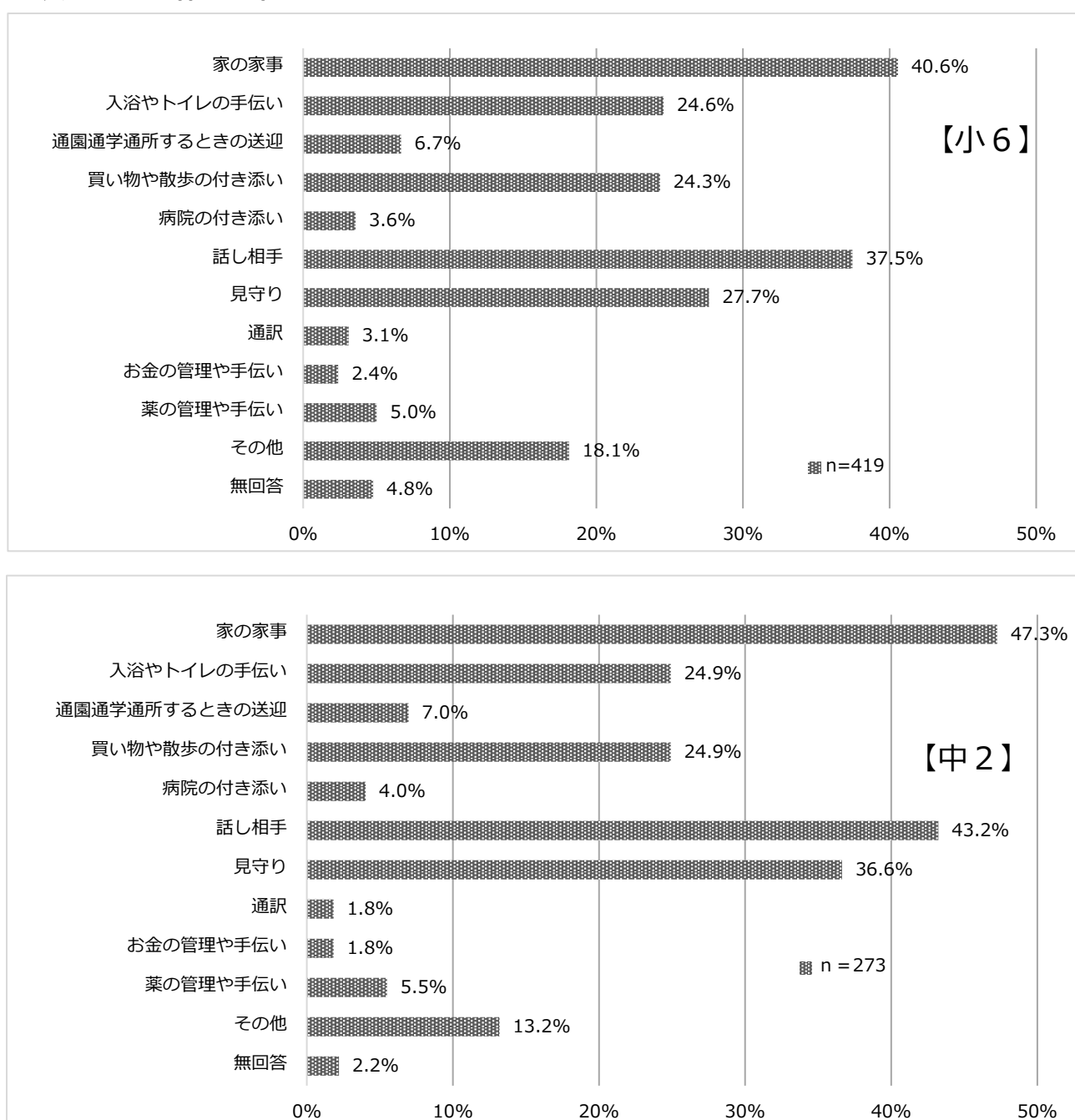


1-4-3 世話の内容

世話の内容については、小学生、中学生ともに「家事」、「話し相手」、「見守り」の順で割合が高くなっている。「家事」は中学生の約5割、小学生の約4割が選択しており、「話し相手」は、中学生・小学生の約4割、「見守り」は、中学生の約4割、小学生の約3割が選択している。割合は極めて低いものの、金銭管理や服薬管理など、より責任が重いと思われる役割を選択した児童・生徒がいた（図表 1-4-3）。

【問 12】（複数回答）あなたがしているお世話の内容を教えてください。

図表 1-4-3 世話の内容

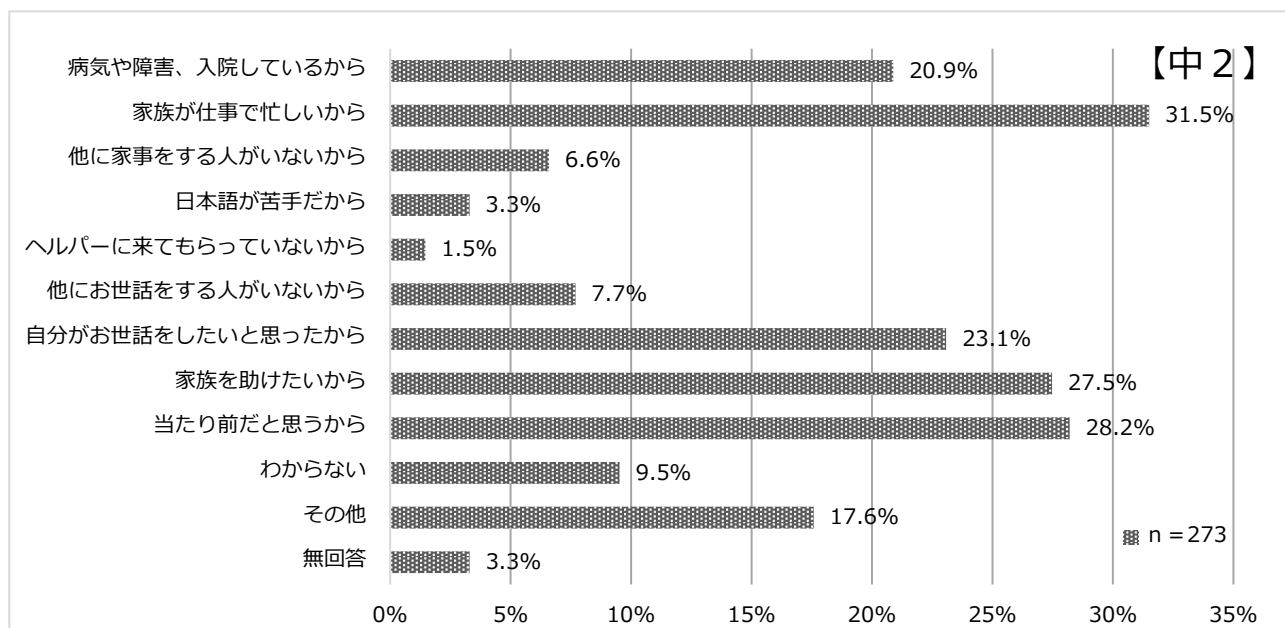
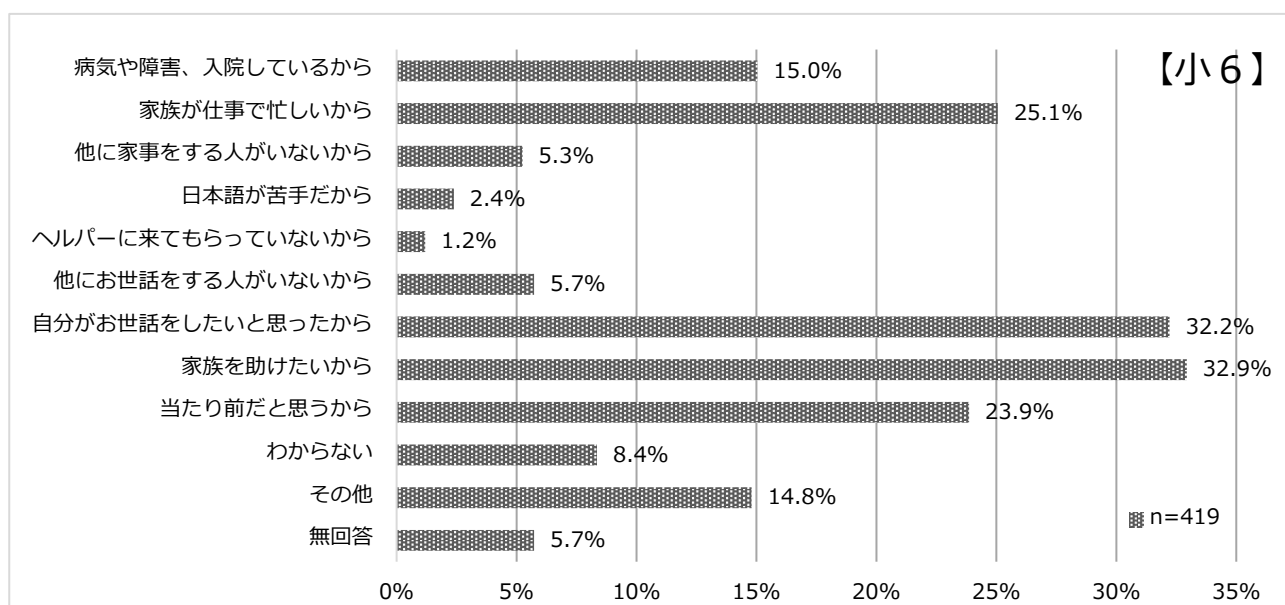


1-4-4 世話をする理由

世話をする理由については、小学生では「自分が世話をしたいと思った」、「家族を助けたい」を選択した割合が3割以上で最も高く、「家族が仕事で忙しい」、「当たり前だと思う」がそれぞれ2割台半ばとなっている。中学生では「家族が仕事で忙しい」が3割以上で最も高く、次いで「当たり前だと思う」、「家族を助けたい」が3割弱となっている。また、家族の「病気や障害、入院」の選択が小学生で1割台半ば、中学生で約2割あった（図表1-4-4）。

【問13】（複数回答）あなたがお世話をしている理由を教えてください。

図表 1-4-4 世話をする理由



1-4-5 世話をする日数・時間

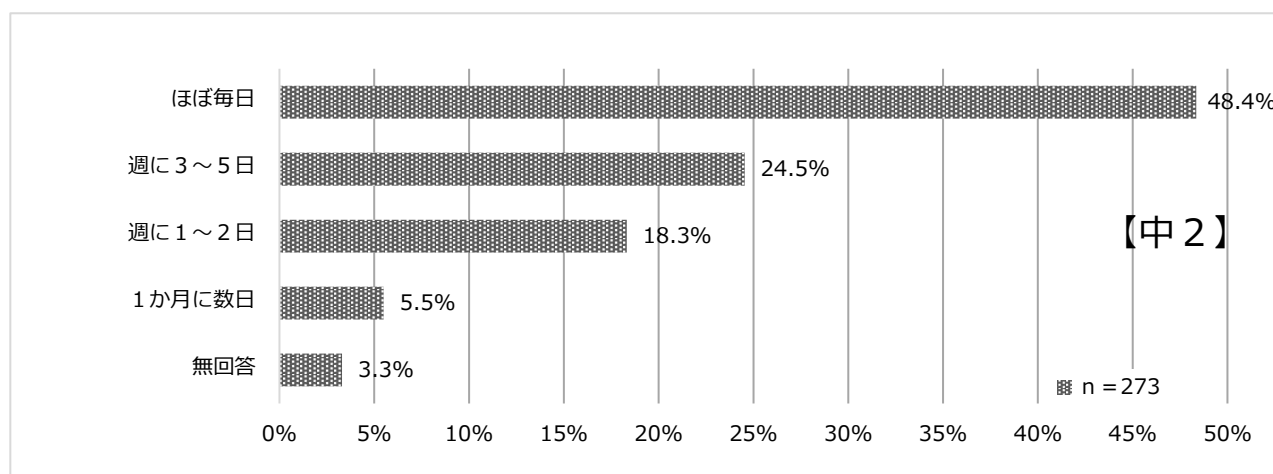
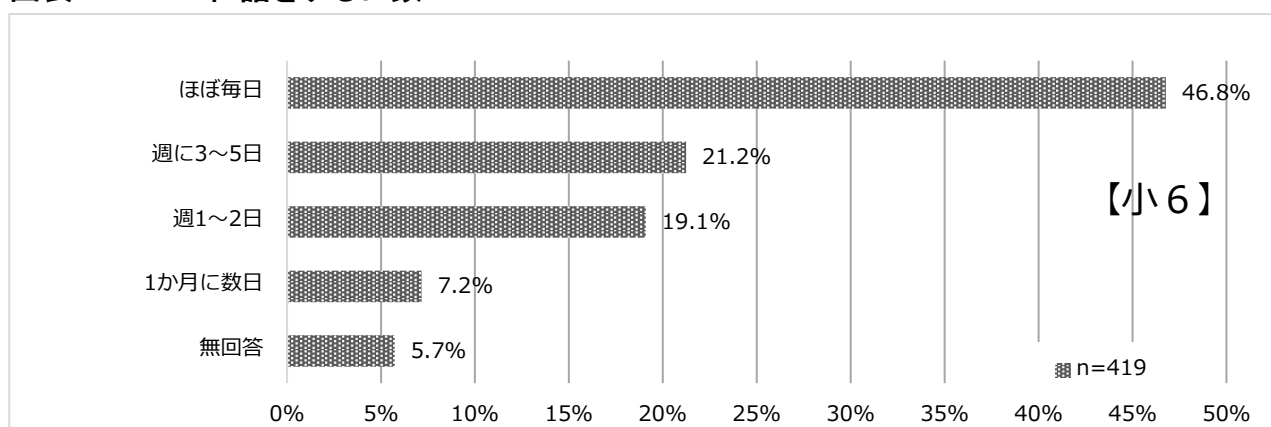
【問 14】世話をする日数は、小学生、中学生ともに約 5 割が「ほぼ毎日」を選択しており、次いで「3 日から 5 日」を児童・生徒の約 2 割が選択している（図表 1-4-5-1）。

【問 15】世話をする時間は、小学生、中学生ともに「30 分から 1 時間」が最も多く、児童・生徒の 4 割弱となっている。次いで「30 分以内」が小学生、中学生ともに約 3 割となっている。1 日 2 時間以上世話をしている児童・生徒は 1 割以下（小学生で 5.5%、中学生で 7%）となっており、「その他」の選択肢には、5 時間以上の長時間の記載もあった（図表 1-4-5-2）。

約 7 割の児童・生徒が日常的に家族の世話に関わっていることがわかる一方で、1 日あたりに関わる時間は 1 時間以内が 7 割となっている。支援に向けて子どもの負担を把握するためには、より詳細な分析が必要である。

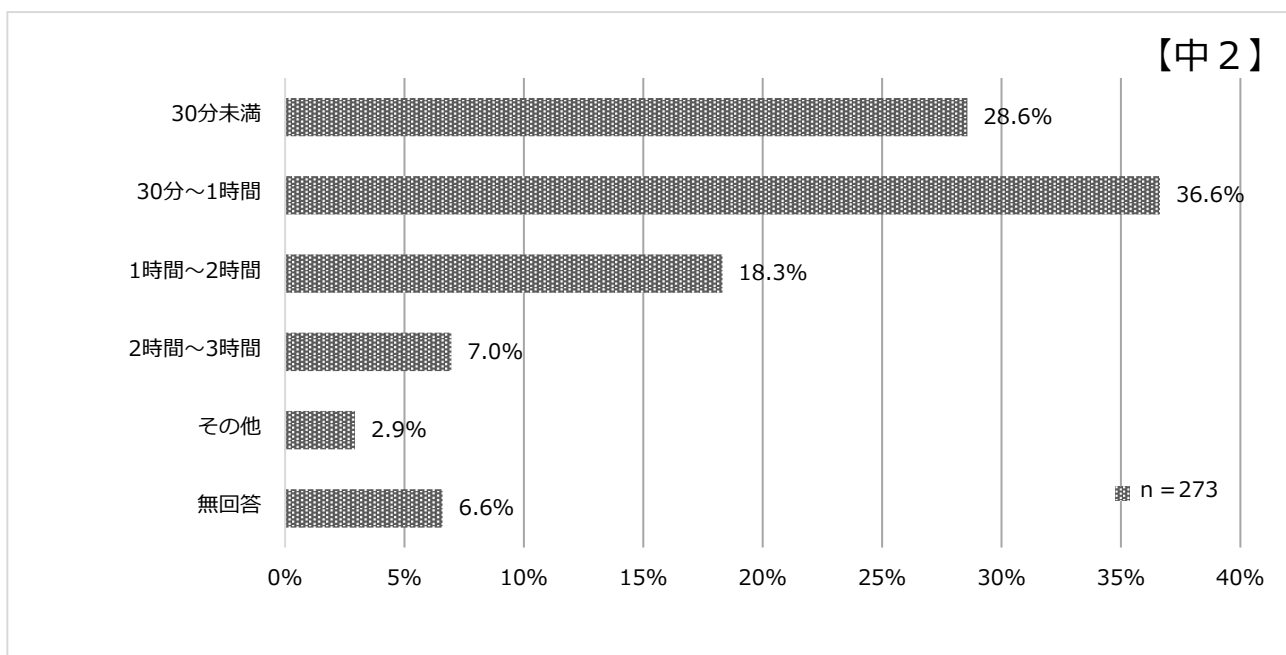
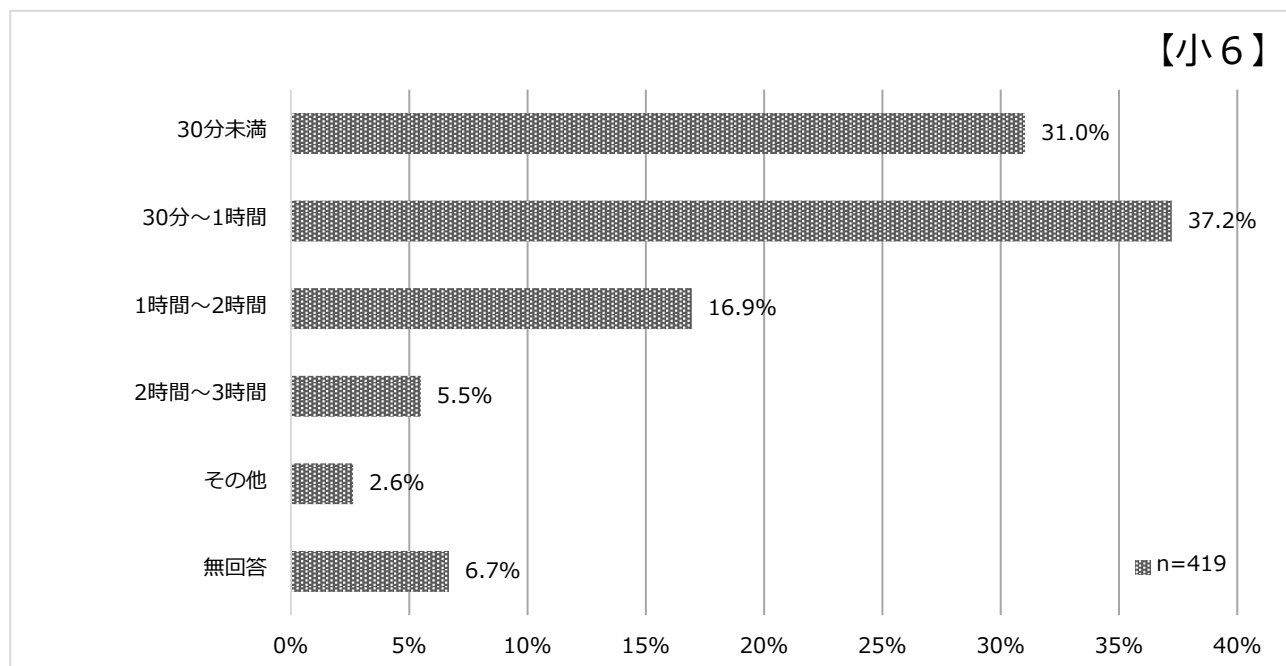
【問 14】（単一回答）あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか。

図表 1-4-5-1 世話をする日数



【問 15】（単一回答）あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか。

図表 1-4-5-2 世話をする時間



1-5 世話をすることによる影響と思い

1-5-1 世話をすることによる影響

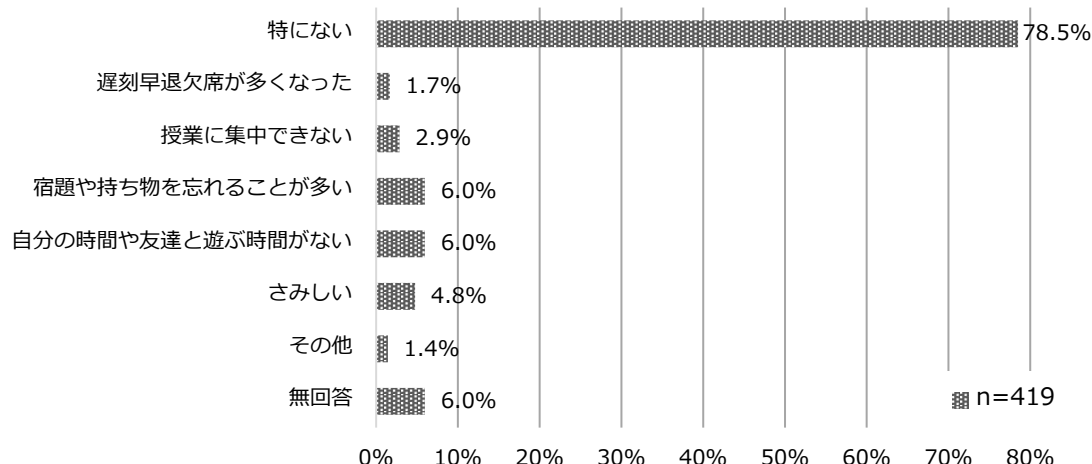
世話をすることによる影響については、小学生、中学生ともに 8 割近くが「特にない」としており、他の項目の選択はいずれも 1 割を下回っている。「特にない」以外では、「自分の時間や友達と遊ぶ時間がない」、「宿題や持ち物を忘れることが多い」を選択した割合が高く、次いで小学生では「さみしい」、中学生では「進路の希望がかなえられるか心配」を選択した割合が高い。（図表 1-5-1）

国の調査ではヤングケアラーが受ける影響として「宿題忘れ」や「遅刻欠席早退」などが高い割合となることが示されており、本調査の結果と差異がある。

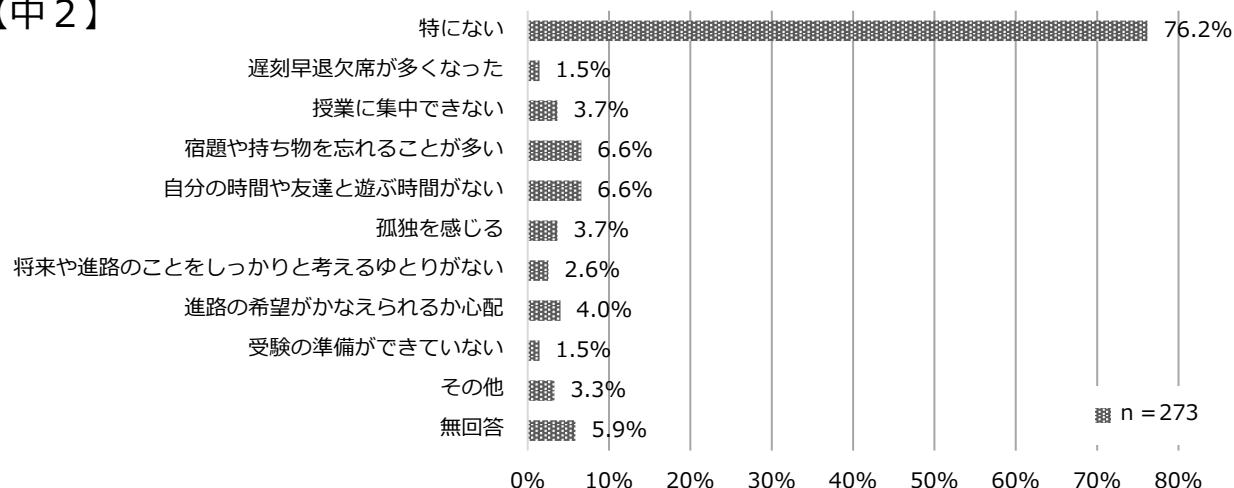
【問 16】（複数回答）お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか。

図表 1-5-1 世話をすることによる影響

【小 6】



【中 2】



1-5-2 世話をすることについて思っていること

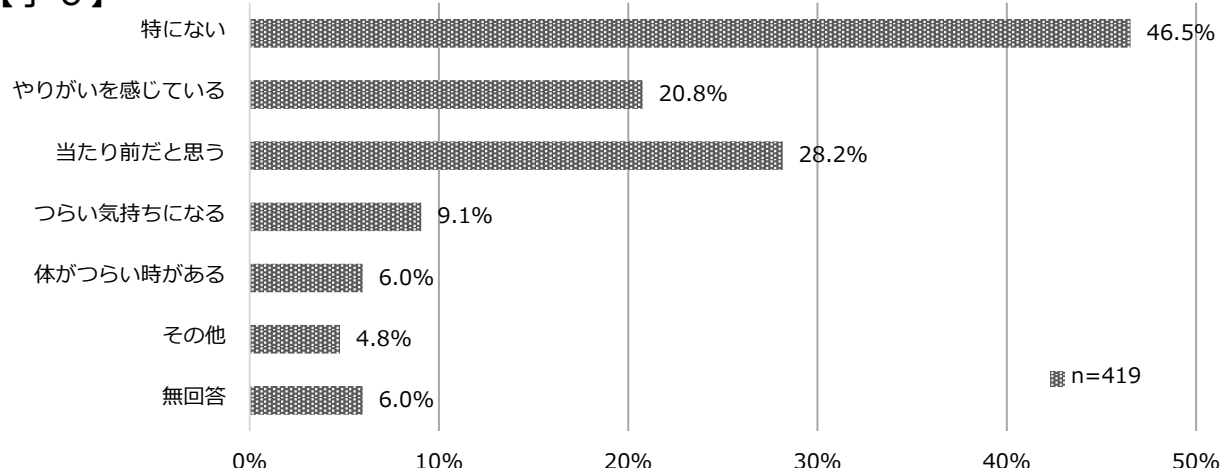
本人が思っていることは、小学生、中学生ともに「特にない」が最も多く約5割となっている。次に「当たり前だと思う」の割合が約3割、「やりがいを感じている」も小学生で約2割、中学生で1割台半ばの選択があった。また、「つらい気持ちになる」と回答した児童・生徒が約1割、「体がつらい時がある」と回答した児童・生徒が小学生の6%、中学生の7%いた（図表 1-5-2）。

家族の世話を当たり前と思いながら、やりがいを感じて世話をしている子どもの中に、つらい気持ちになったり、体がきつくなったりと、世話の負担が過度になっている子どもが一定数いることがわかる。

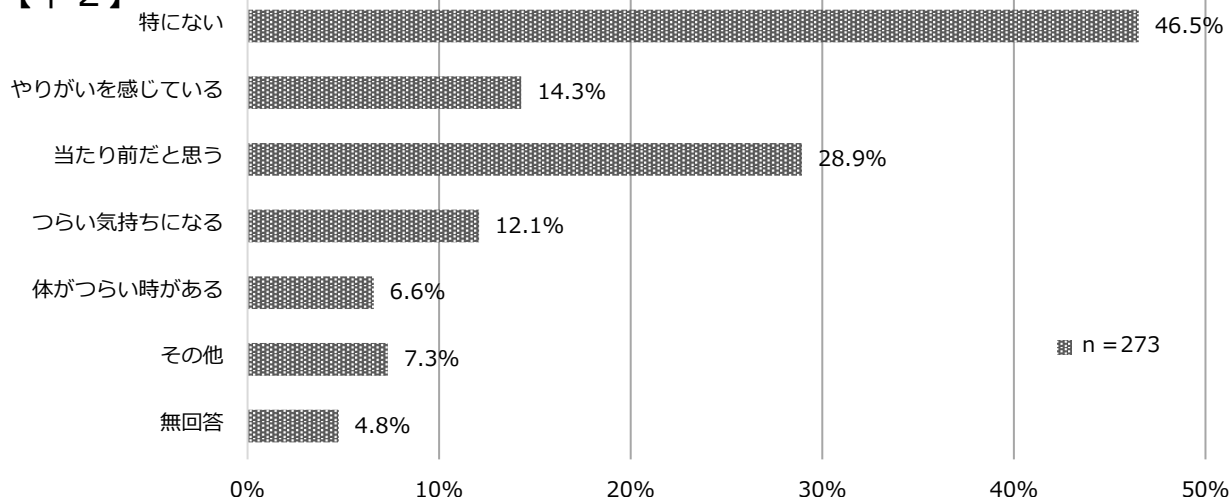
【問 17】（複数回答）お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください。

図表 1-5-2 世話をすることについて思っていること

【小6】



【中2】



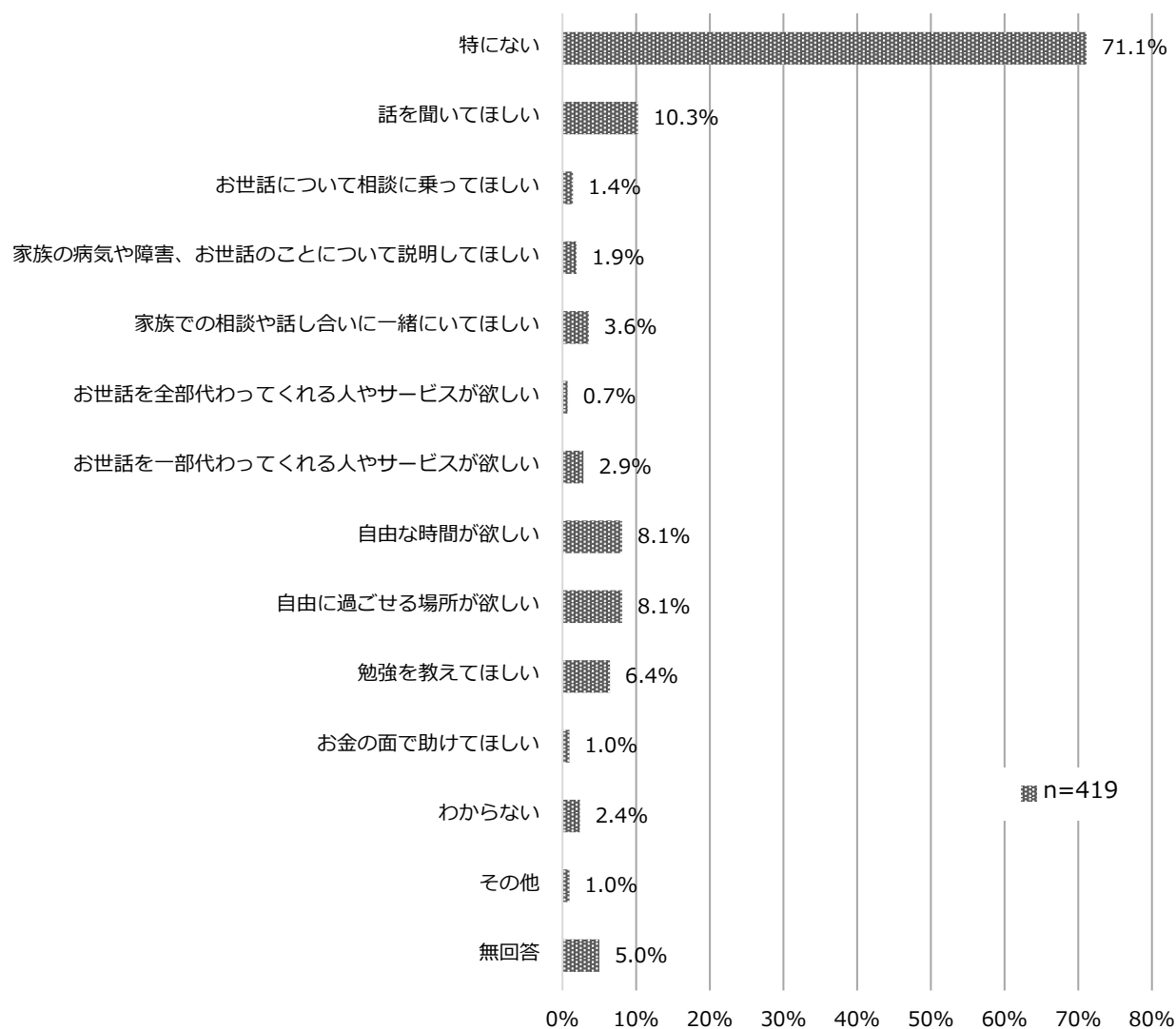
1-5-3 周囲に助けてほしいこと

周囲に助けてほしいことは、小学生、中学生ともに約7割が「特にない」と回答している。次に多い割合は「話を聞いてほしい」の項目であり、小学生、中学生の約1割が選択している。「自由な時間」、「自由に過ごせる場所」、「勉強を教えてほしい」については、小学生、中学生ともに1割に満たないが選択があり、中学生では「進路などの相談にのってほしい」も約7%が選択している。一方で、「世話を代わってくれるサービスが欲しい」を選択した児童・生徒は小学生3%、中学生で1%以下であった（図表 1-5-3）。

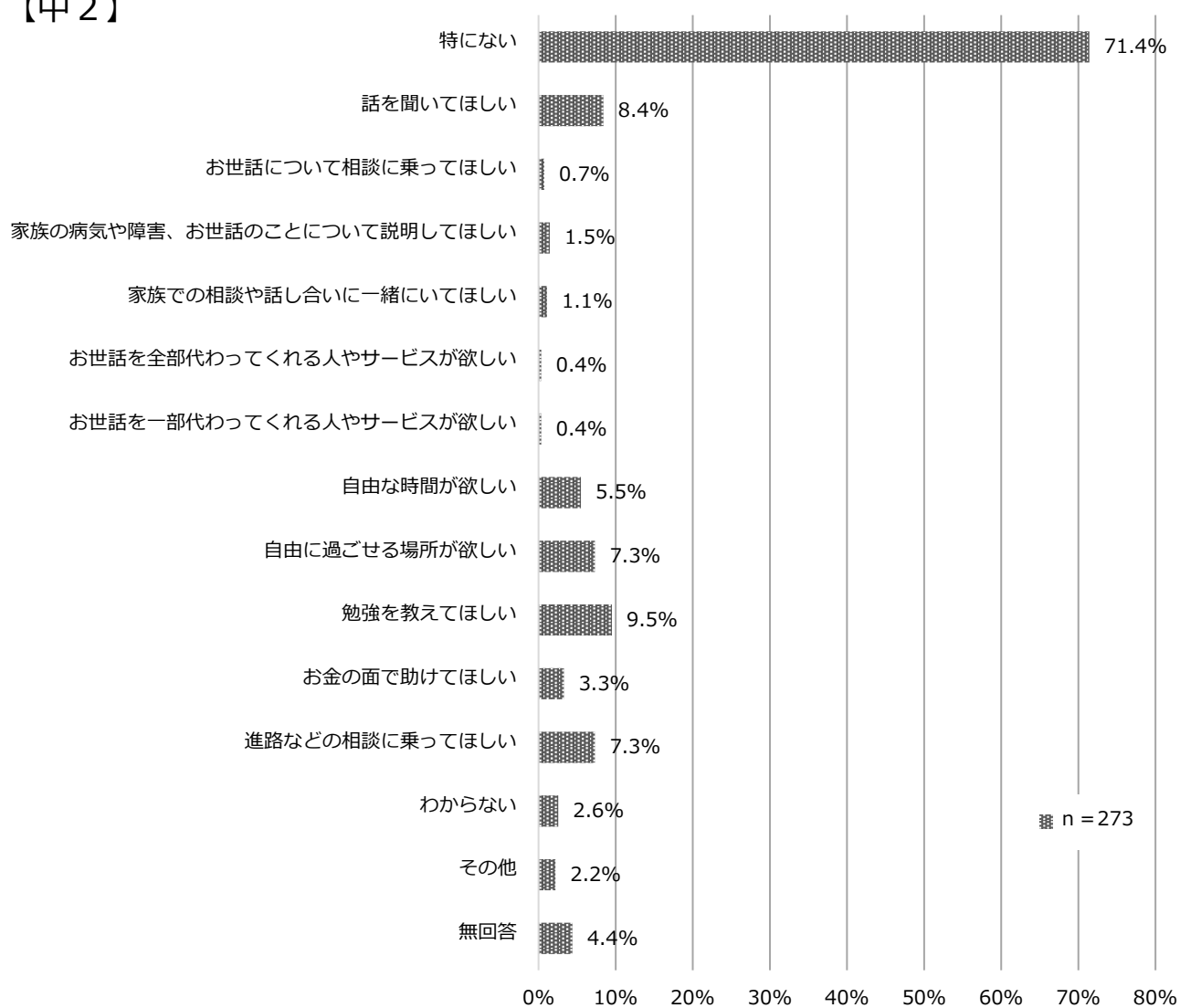
【問 18】（複数回答）学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。

図表 1-5-3 学校や周りの大人に助けてほしいこと

【小 6】



【中 2】



1-6 相談の状況

1-6-1 相談の状況

世話に関する相談経験については、小学生、中学生ともに「経験がある」が約2割にとどまり、世話の相談経験は少ない（図表 1-6-1-1）。また、相談する相手は、小学生、中学生ともに「母」、「友だち」の順で多く、次いで「父」、「きょうだい」が多い。主に家庭内で相談している様子がある。外部での相談は、学校（先生、養護教諭、スクールカウンセラー等）での相談が多く、小学生、中学生ともに2割程度あり、中でも「先生（教員）」への相談が最も多く約14%となっている。

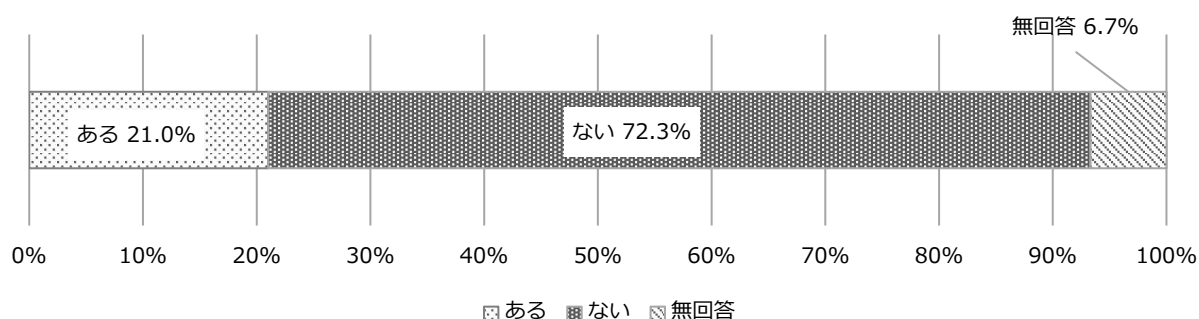
中学生ではより「友だち」に相談する傾向が顕著になるほか、「SNSの知り合い」も小学生よりやや多い。割合としては低いが、公的な機関への相談経験も一部にあった（図表 1-6-1-2）。

【問 19】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

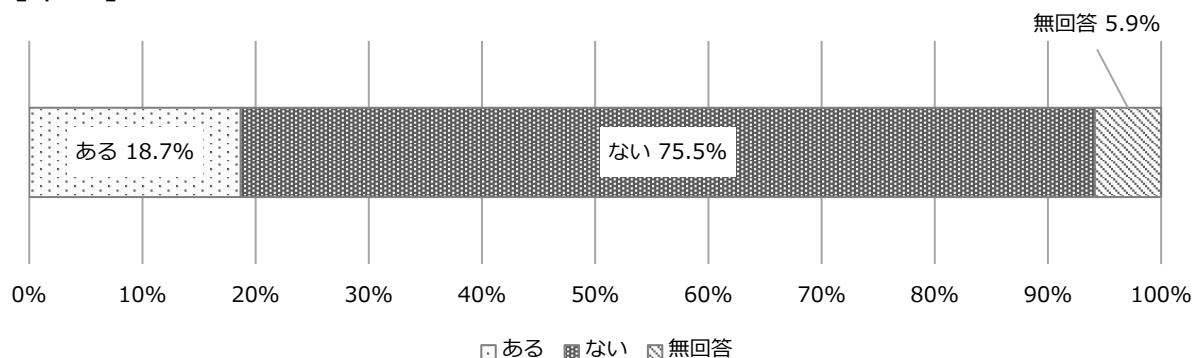
【問 20】（複数回答）相談した相手の人はだれですか。

図表 1-6-1-1 世話についての相談経験の有無

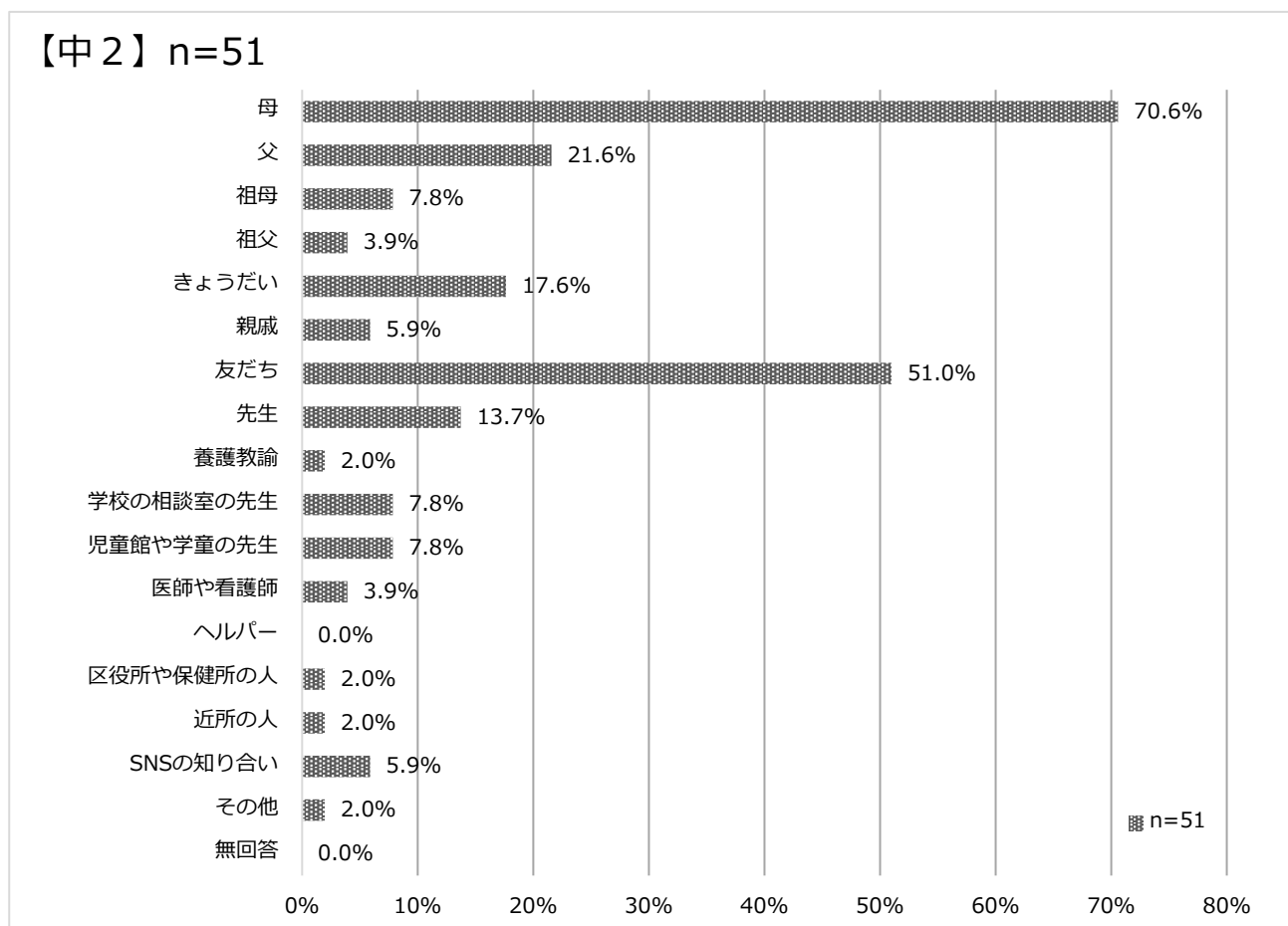
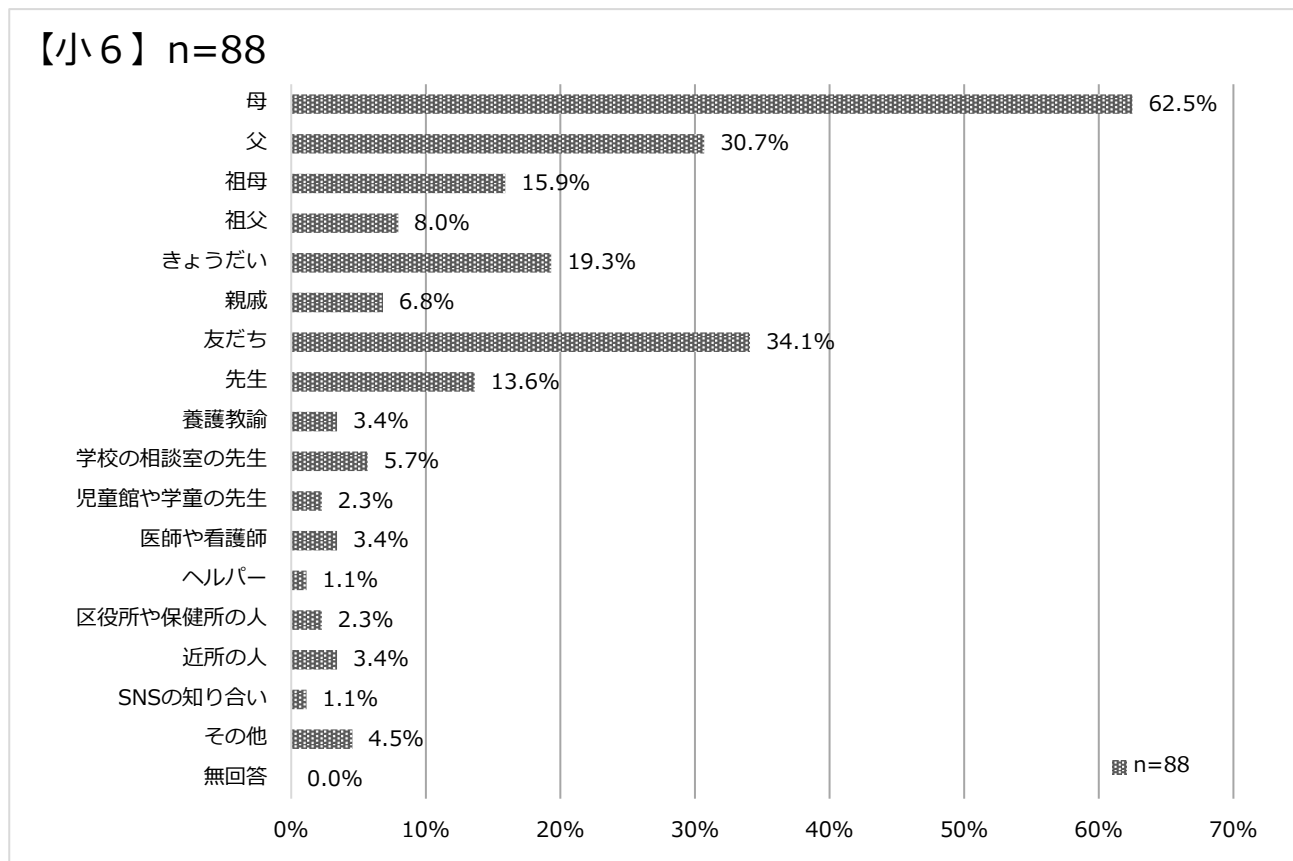
【小6】 n=419



【中2】 n=273



図表 1-6-1-2 世話についての相談相手



1-6-2 相談していない理由

相談していない児童・生徒は約 8 割となっている（図表 1-6-1-1）。

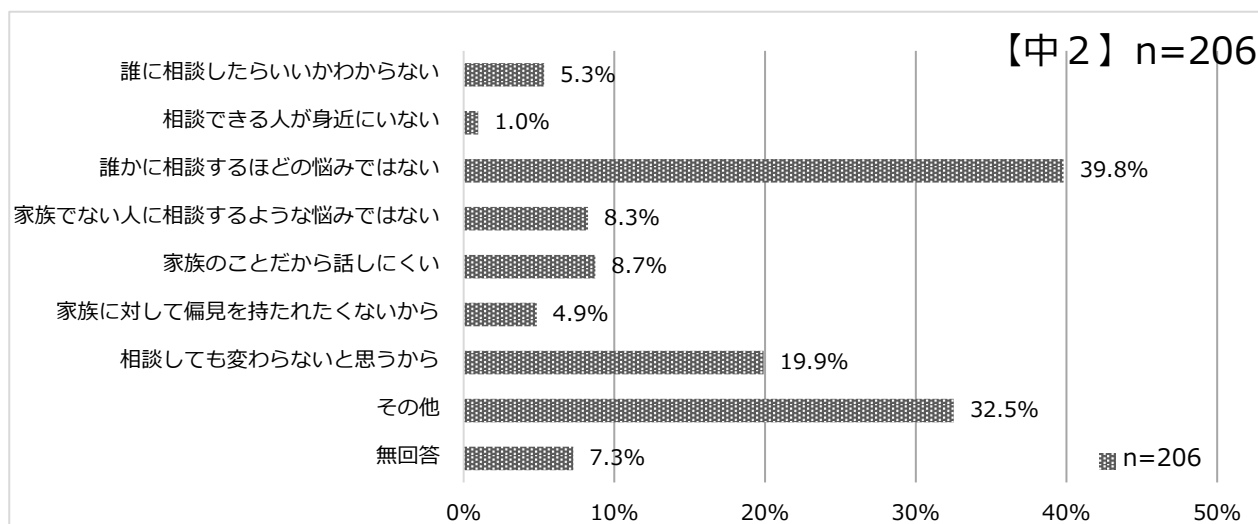
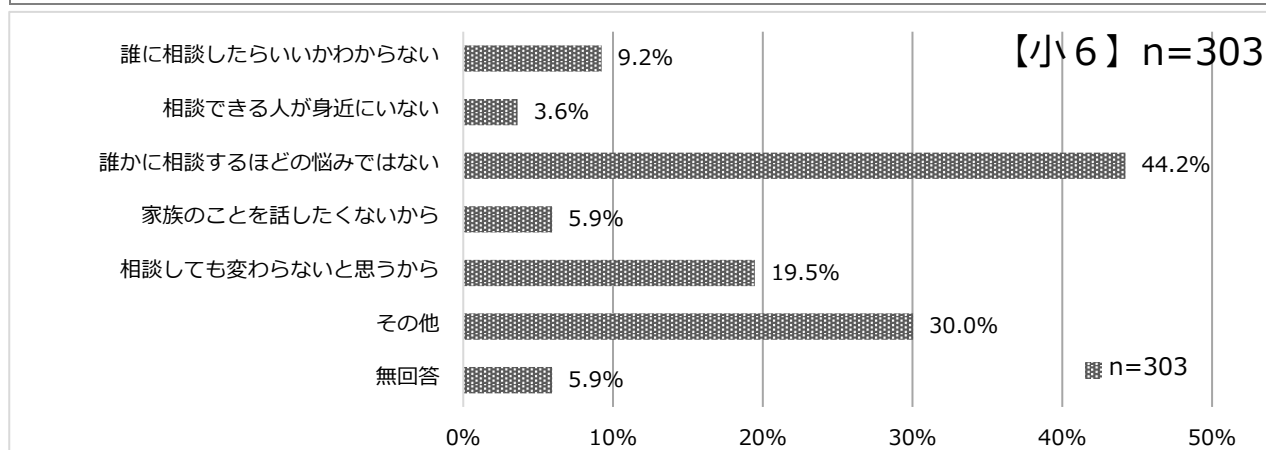
相談しない理由としては「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も多く、小学生で 4 割台半ば、中学生で約 4 割となっている。「相談しても何も変わらないと思うから」の回答も多く約 2 割あり、「誰に相談したらよいかわからない」「相談できる人が身近にいない」の回答も 1 割程度あった（図表 1-6-2-1）。「その他」では、「悩んでいない（悩みがない）」の記載が大半を占めたが、「相談したくない」「自分で考える」などの外部に助けを求めない記載もあった。設問【問 22】で、悩みを聞いてくれる人の有無については、小学生、中学生ともに 3 割弱の児童・生徒が「いない」と回答している（図表 1-6-2-2）。

図表 1-6-2-1 相談していない理由

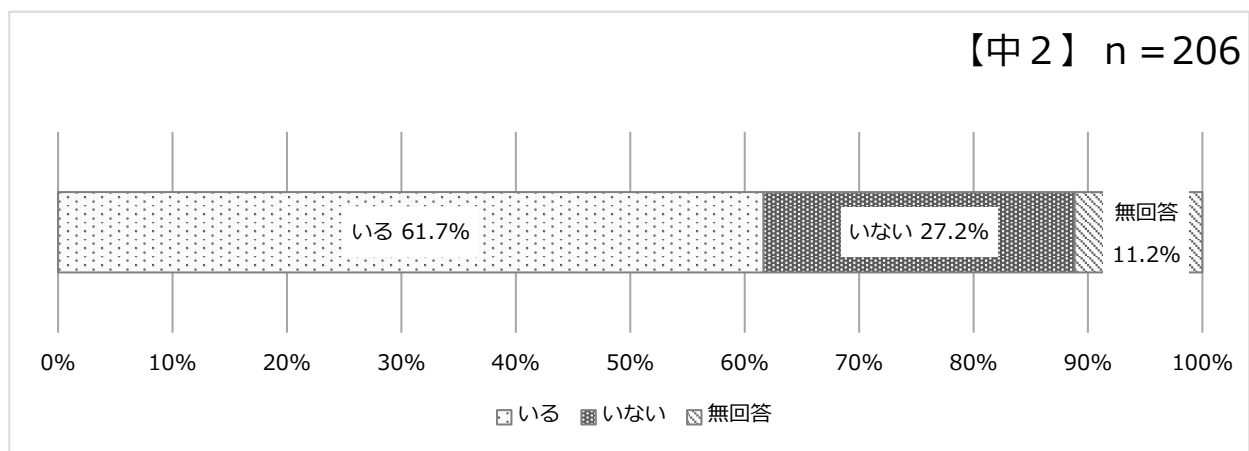
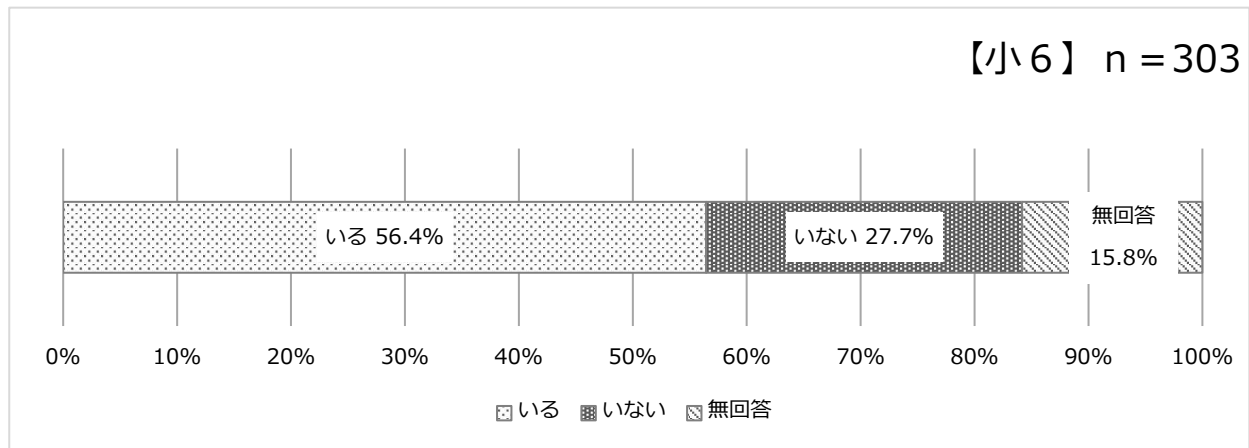
（相談経験のない回答者対象）

【問 21】（複数回答）相談していない理由を教えてください。

【問 22】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。



図表 1-6-2-2 悩みを聞いてくれる人の存在



第2章 世話の関わり方による児童・生徒の状況

(世話の関わり方別 クロス集計)

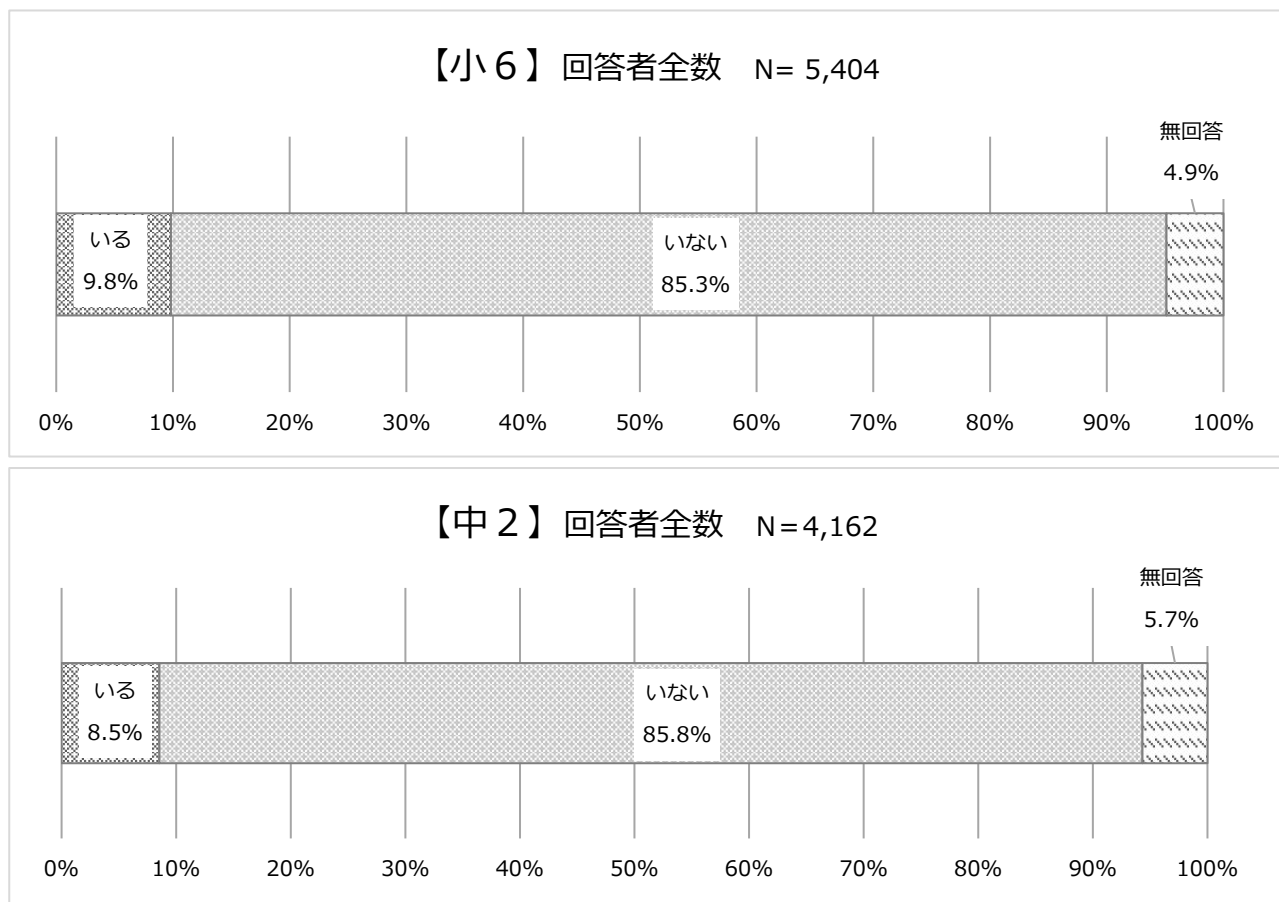
2-1 回答者の属性

【問 8】において、「家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人がいる」と回答した小学生は 9.8%、中学生は 8.5%であった（図表 2-1-1）。

【問 10】により世話を主にしている人を特定（図表 2-1-2）し、【問 11】において、児童・生徒が手助けや世話に関わっているかを尋ねたところ、小学生は 419 名、中学生は 273 名から世話をしていると回答があった。第 2 章では、「世話をしている」児童・生徒を世話の関わり方（①自分だけで世話をしている群、②自分と家族で主に世話をしている群、③主に世話をする人は別にいる群）で 3 区分（図表 2-1-3）し、生活状況の詳細を確認する。

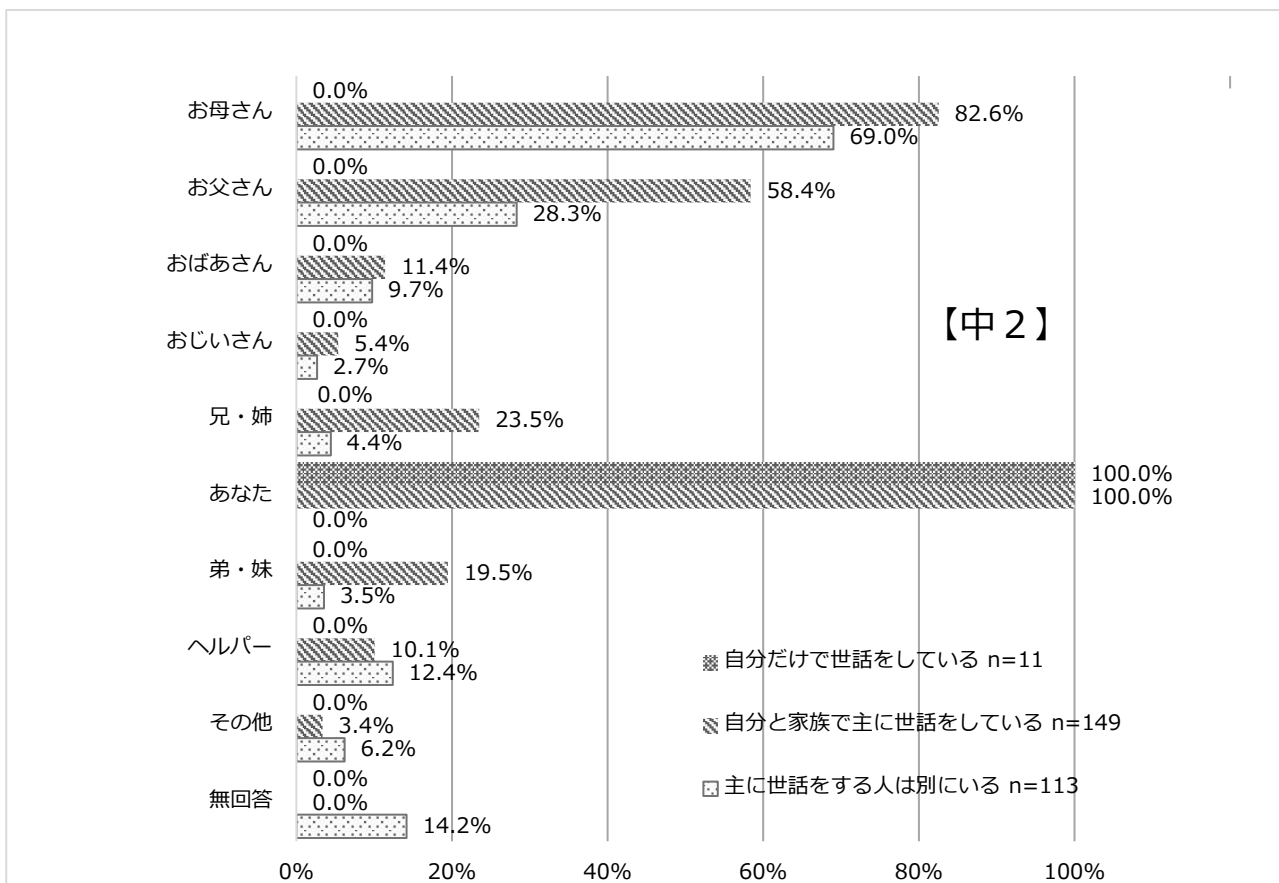
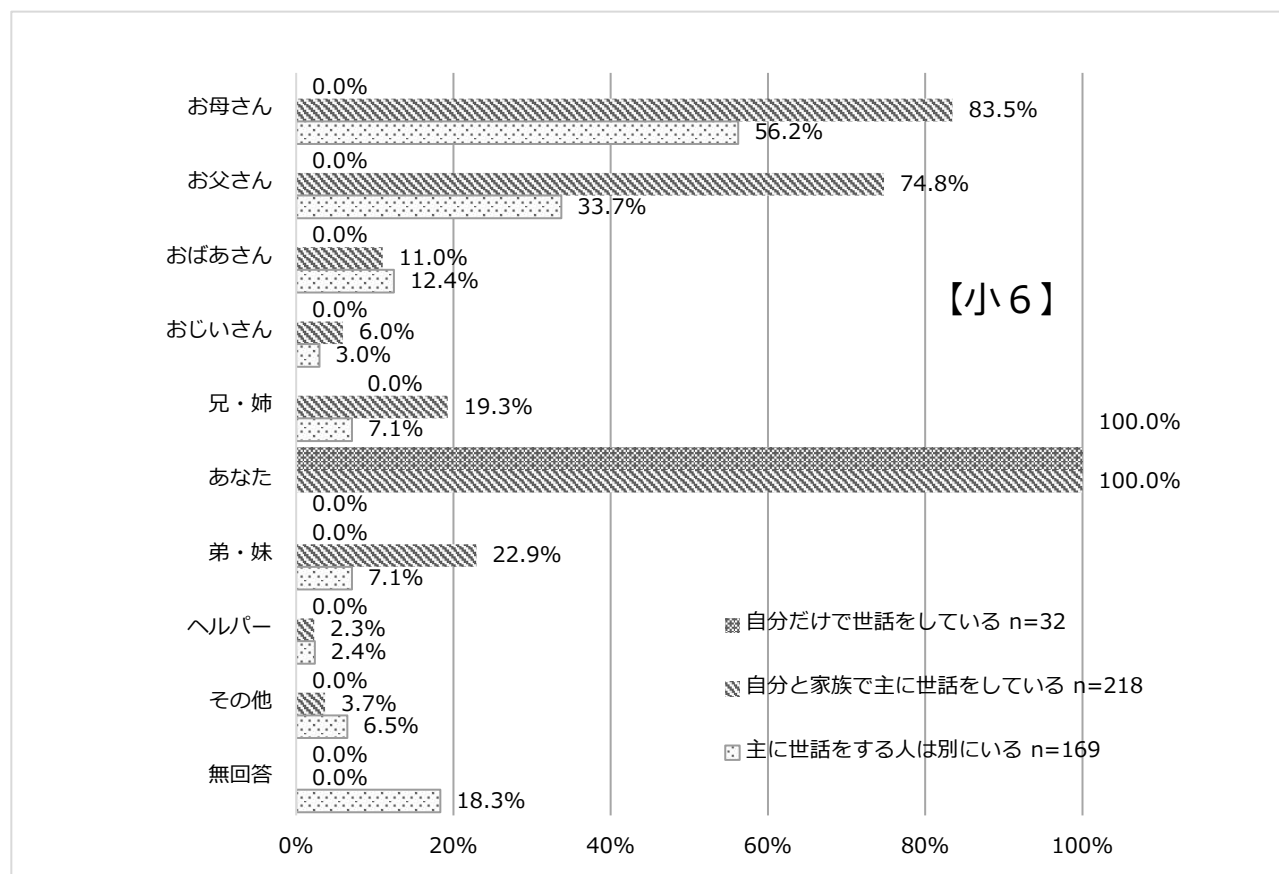
【問 8】（単一回答）家族の中に、ふだんの生活で手助けやお世話が必要な人はいますか。

図表 2-1-1 手助けや世話を必要とする家族の有無



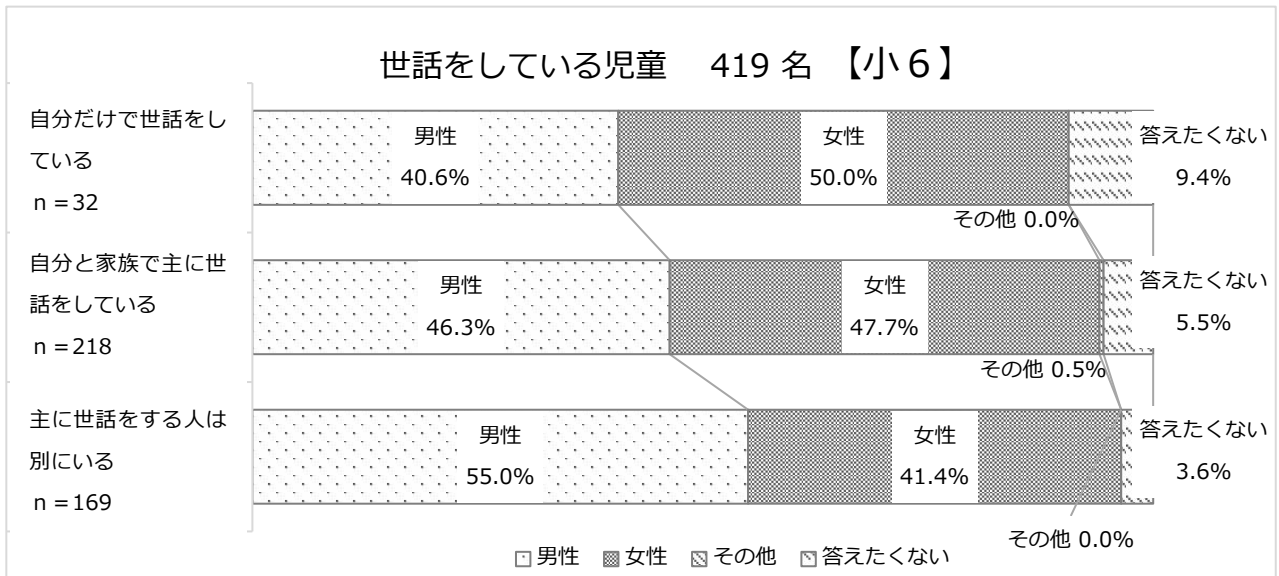
【問 10】（複数回答）その人（お世話を必要とする家族）のお世話を主にしている人はだれですか。

図表 2-1-2 世話を主に担う人



【問 11】（単一回答）あなたはお世話をしていますか。（クロス集計により、関わり方で3分類）

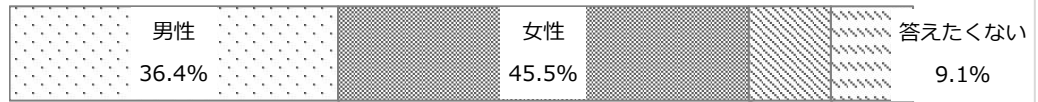
図表 2-1-3 家族の手助けや世話への児童・生徒の関り方



	自分だけで 世話をしている	自分と家族で 主に世話をしている	主に世話をする人は 別にいる
男 性	13	101	93
女 性	16	104	70
その他	0	1	0
答えたくない	3	12	6
計	32	218	169

世話をしている生徒 273 名【中 2】

自分だけで世話をしている
n = 11



自分と家族で主に世話をしている
n = 149



主に世話をする人は別にいる
n = 113



□ 男性 ■ 女性 ▨ その他 ▩ 答えたくない

	自分だけで世話をしている	自分と家族で主に世話をしている	主に世話をする人は別にいる
男 性	4	60	56
女 性	5	80	50
その他	1	3	3
答えたくない	1	6	4
計	11	149	113

2-2 家族の世話をする児童・生徒の状況

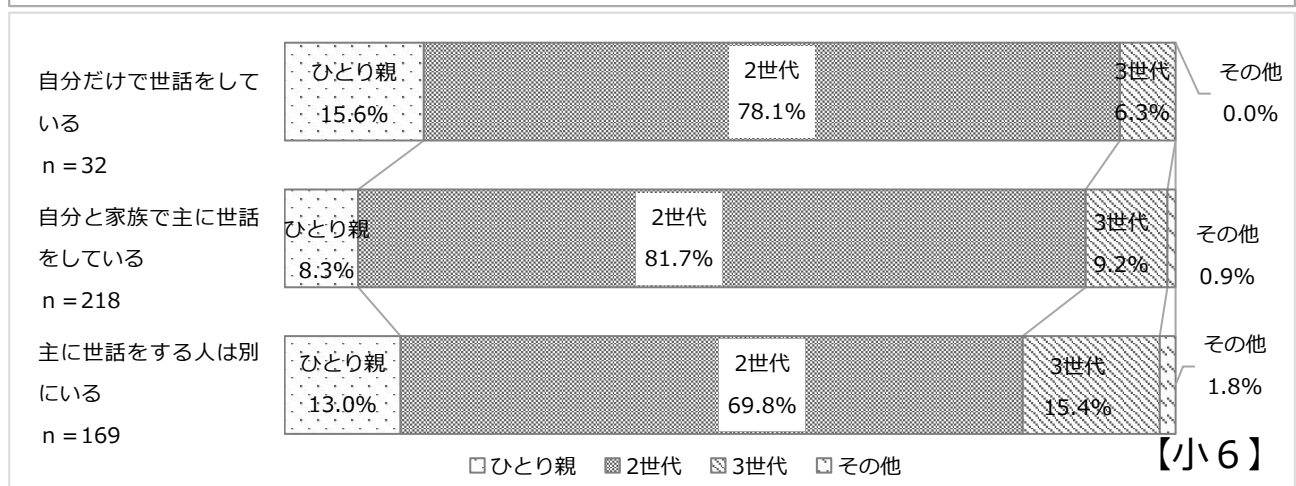
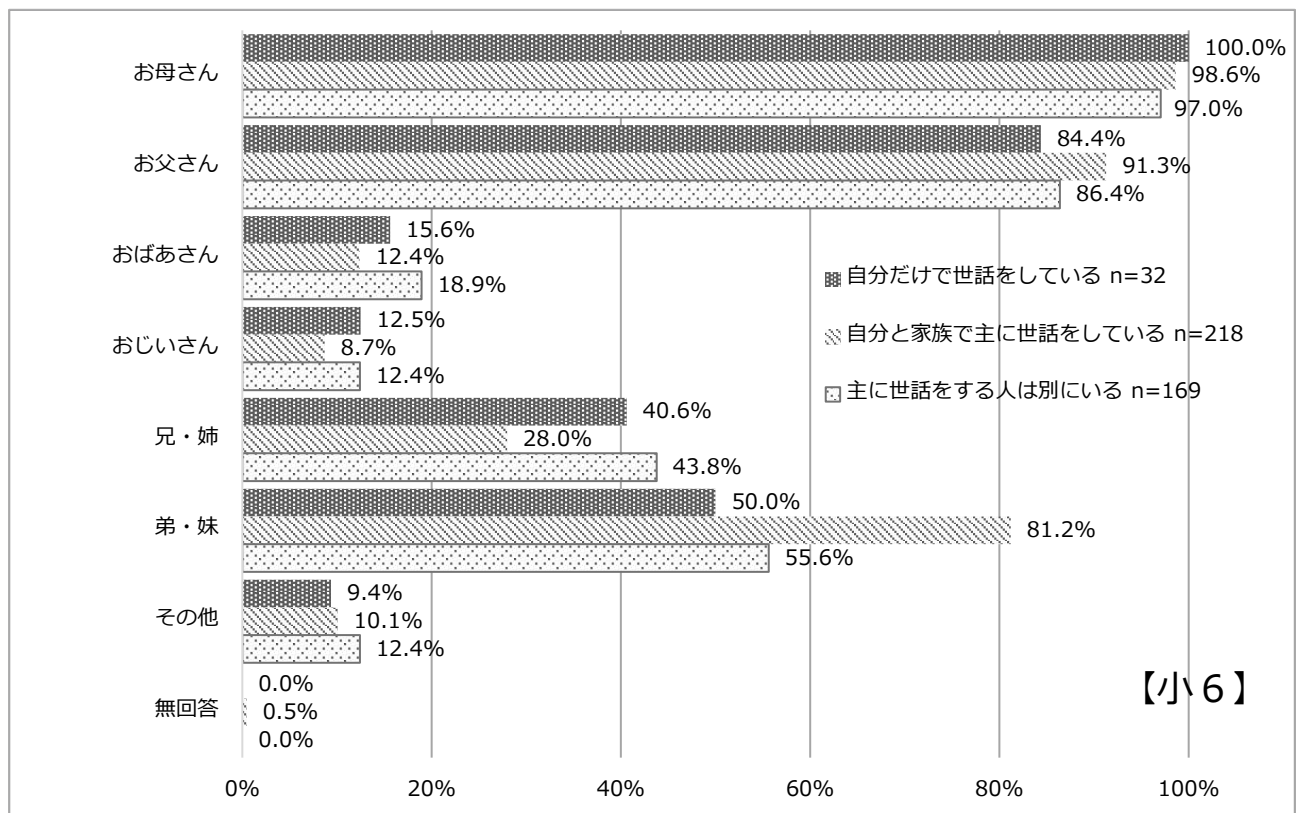
2-2-1 世帯構成

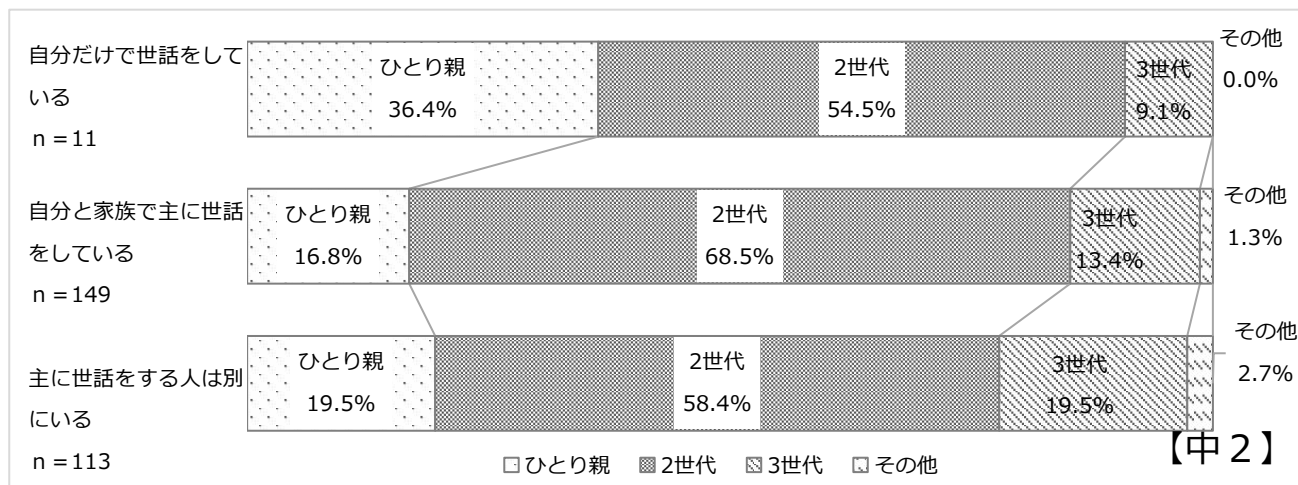
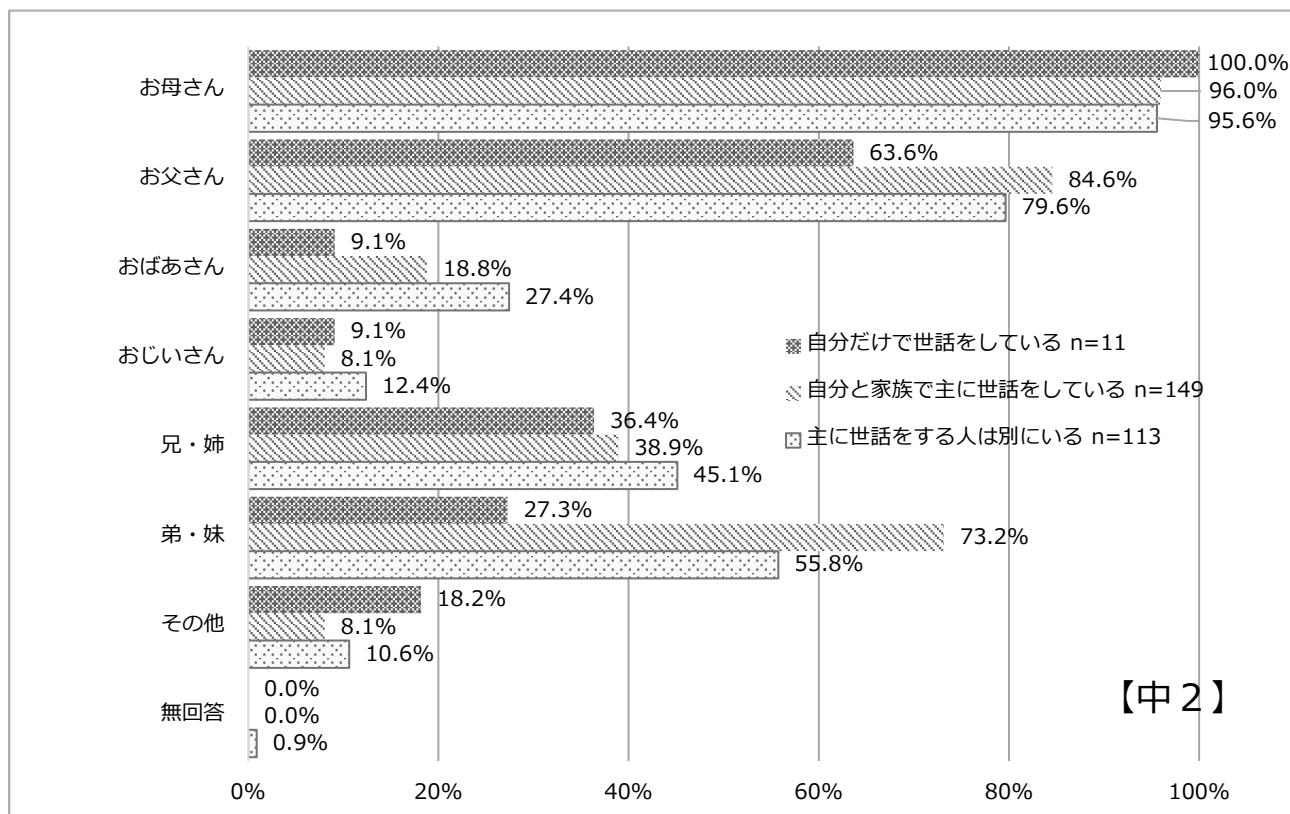
いずれの群においても「2 世代世帯」の割合が多いが、「自分と家族で主に世話をしている」群に比し、「自分だけが世話をしている」群では「ひとり親世帯」の割合が多くなっている。

また、「主に世話をする人は別にいる」群では、「3 世代世帯」の割合が高くなっている（図表 2-2-1）。

【問 7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。（回答から世帯状況を分類）

図表 2-2-1 同居家族と世帯状況



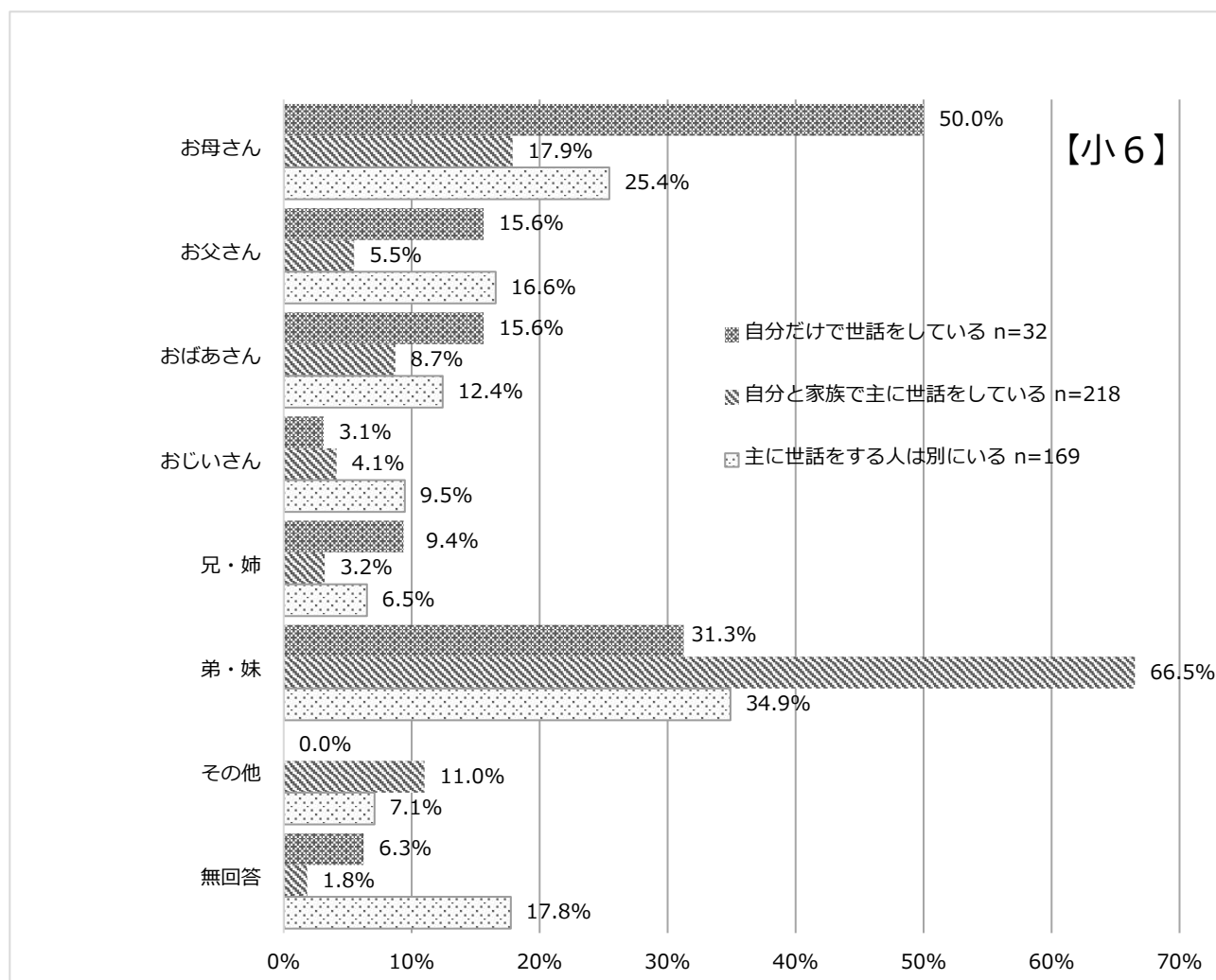


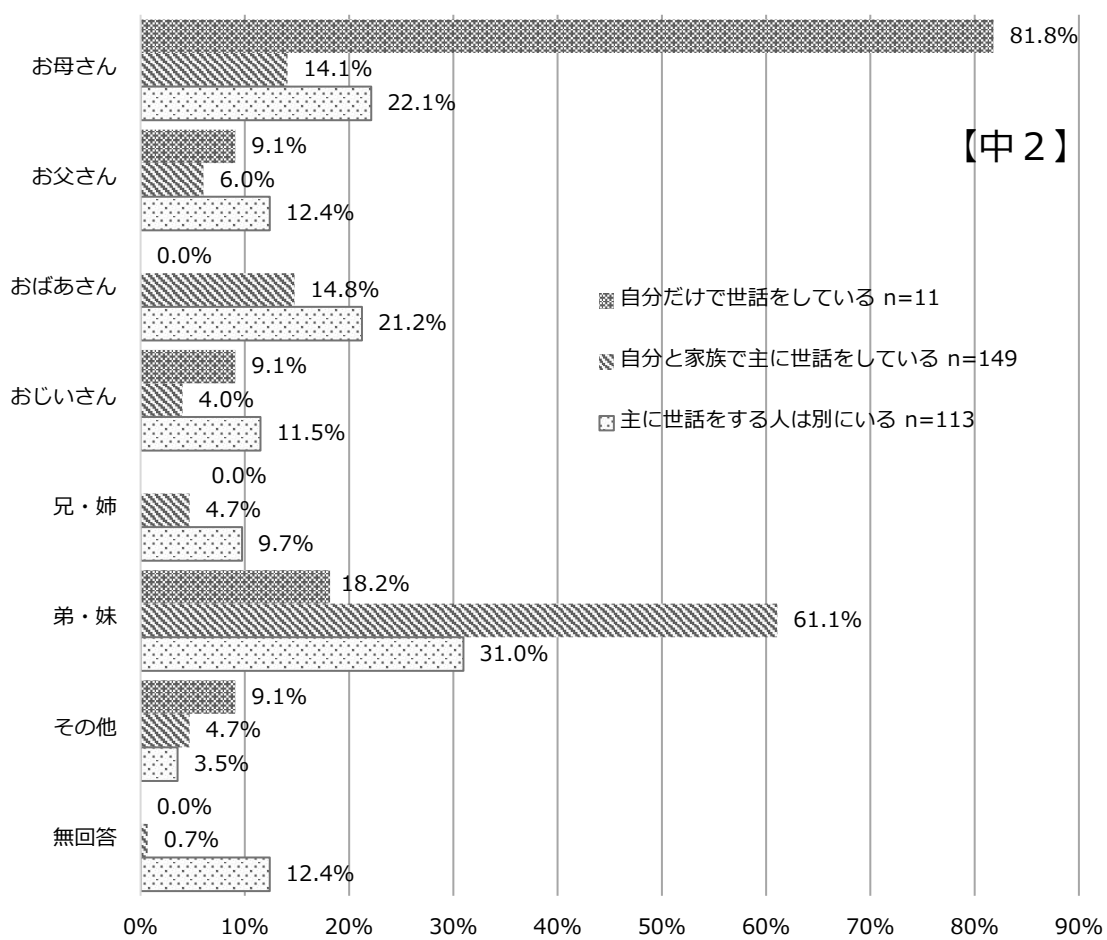
2-2-2 世話をする対象者

世話が必要な家族について、「自分だけが世話をしている」群では半数以上が「母」と回答し（中学生では約8割）、次いで「弟・妹」。「自分と家族で主に世話をしている」群では「弟・妹」が最も多く（6割以上）、「主に世話をする人は別にいる」群では「弟・妹」、「母」の順となる（図表 2-2-2）。

【問 9】（複数回答） お世話を必要とする人はだれですか。

図表 2-2-2 世話を必要とする家族





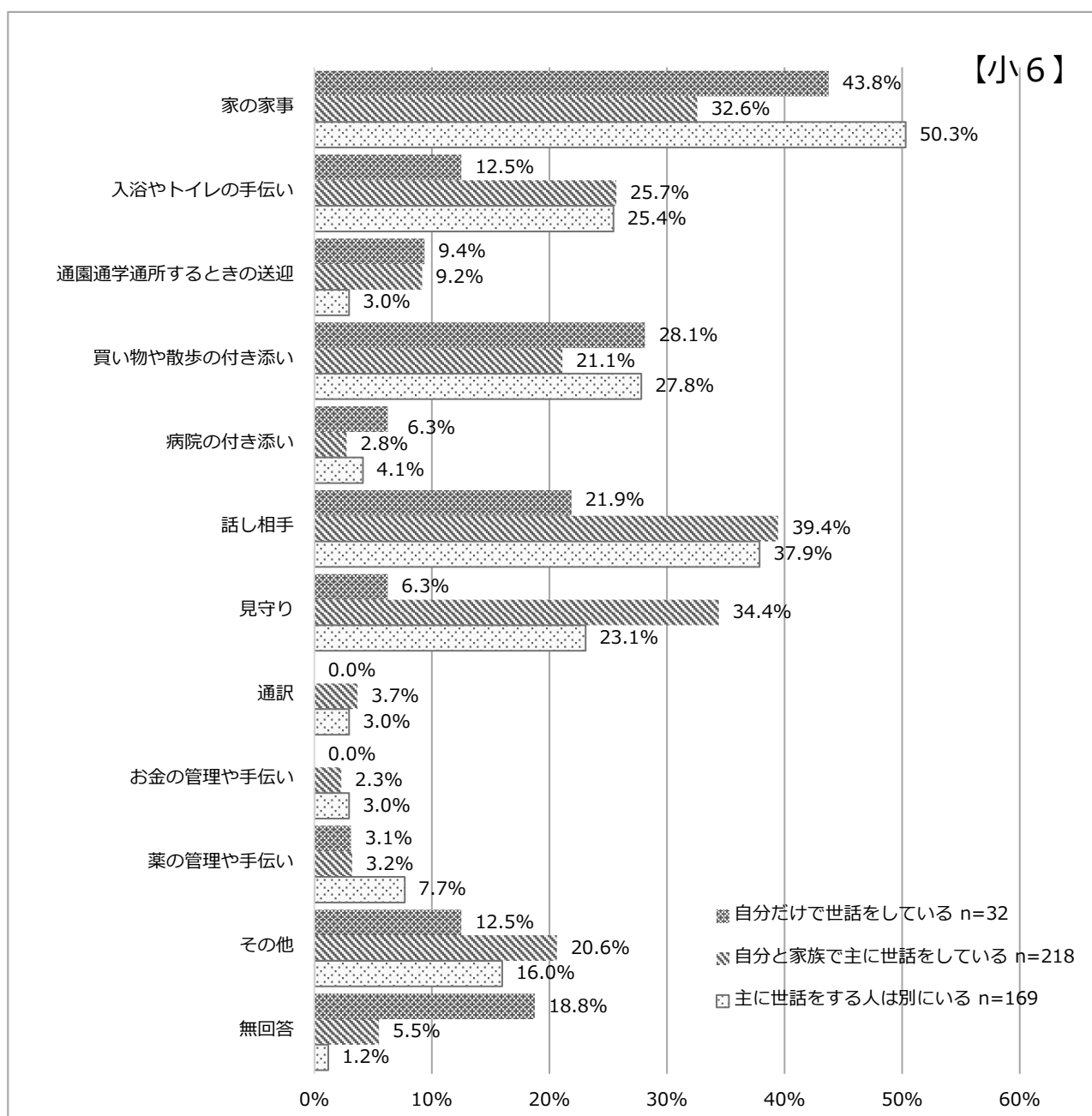
2-2-3 世話の内容

世話の内容は、全体では「家事」、「話し相手」、「見守り」が多い。「自分だけが世話をしている」群では「家事」の割合が最も多く、「自分と家族で世話をしている」群では、「話し相手」、「見守り」、「主に世話をする人は別にいる」群は、「家事」「話し相手」の順で多くなっている。

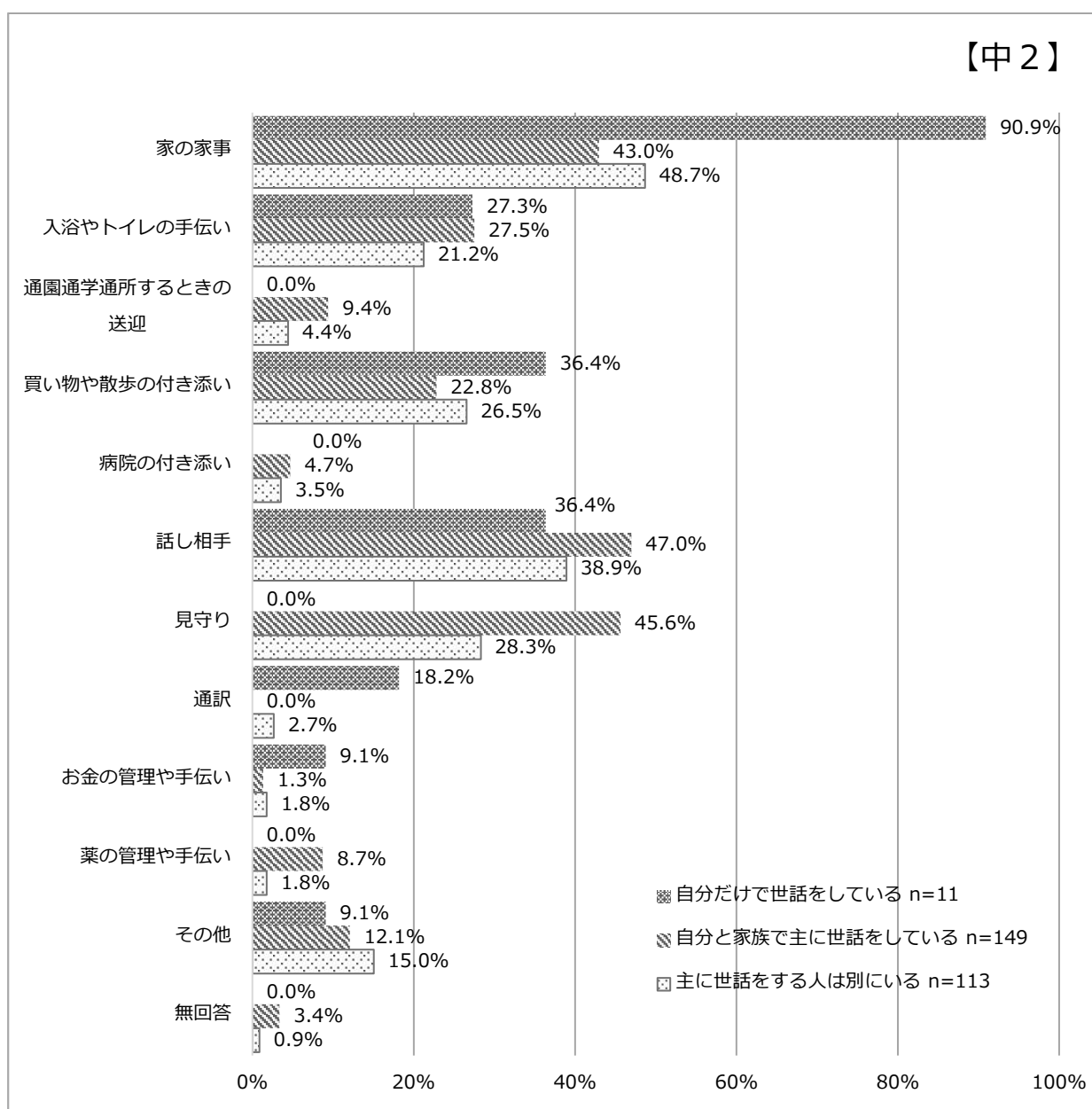
また、中学生の「自分だけが世話をしている」群では、90.9%が「家事」をあげている（図表 2-2-3）。

【問 12】（複数回答）あなたがしているお世話の内容を教えてください。

図表 2-2-3 世話の内容



【中2】

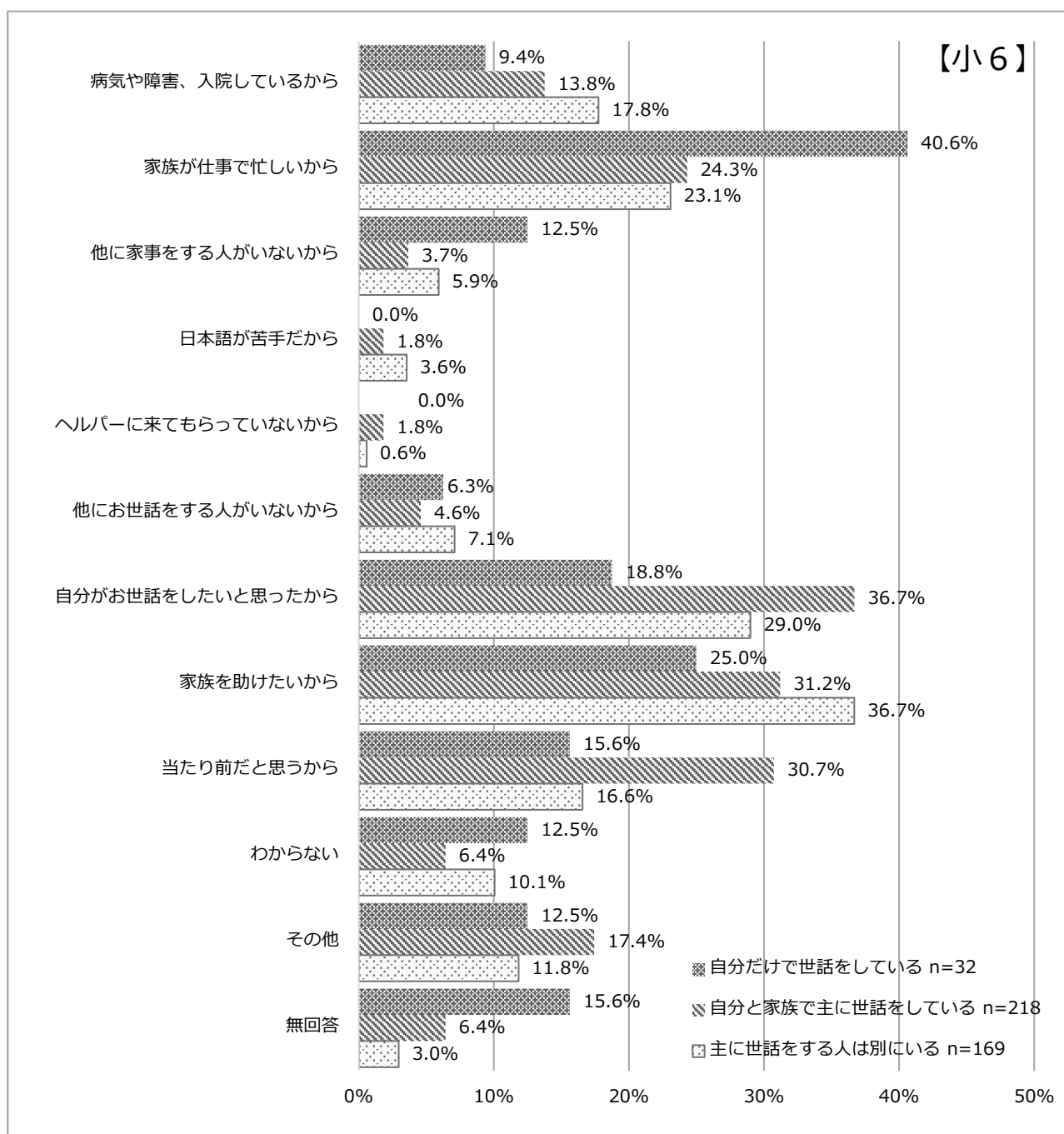


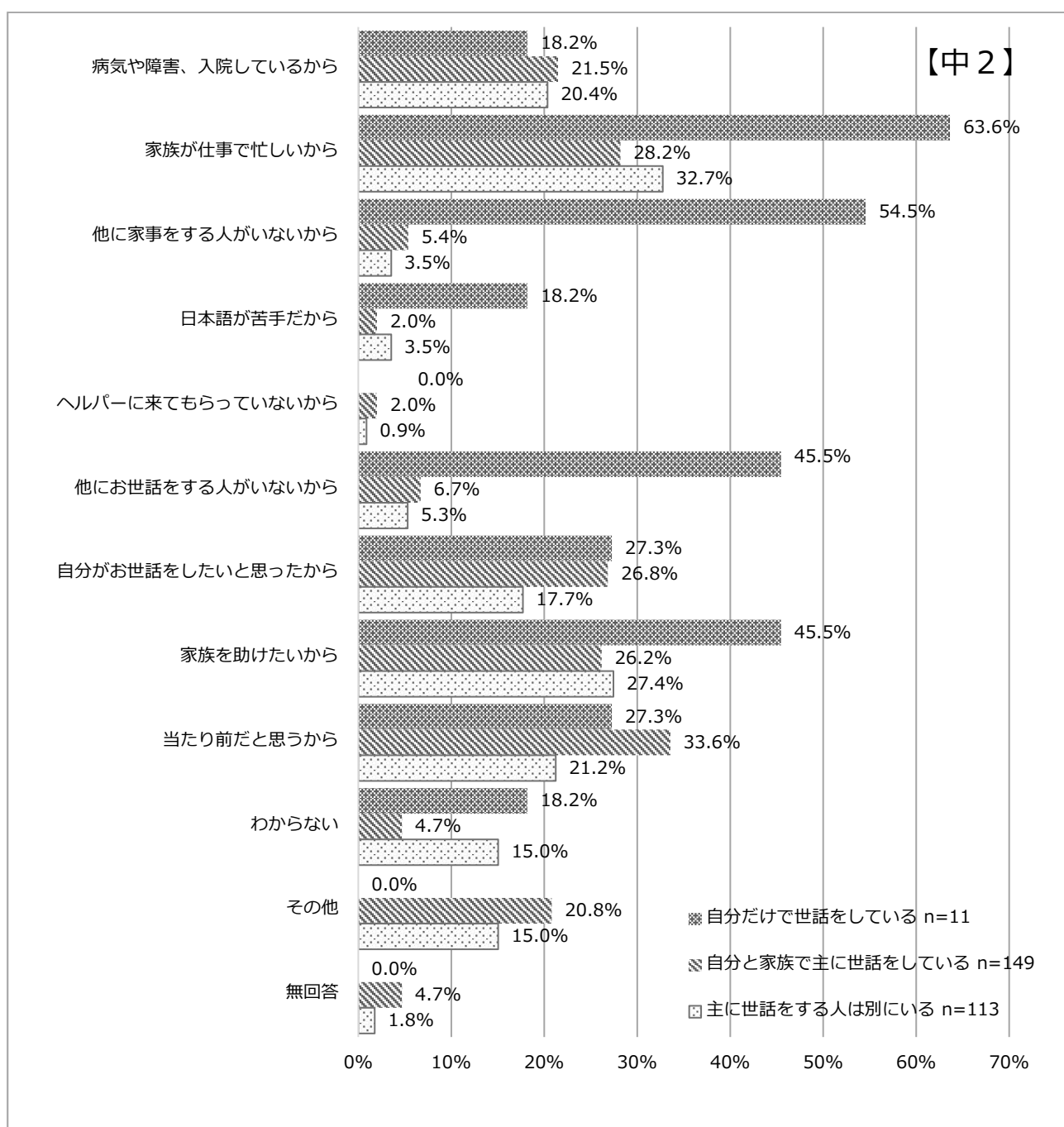
2-2-4 世話をする理由

世話をする理由として、小学生では「自分だけが世話をしている」群が、「家族が仕事等で忙しいから」の割合が高いのに対し、他の群では「自分がお世話をしたいと思ったから」、「家族を助けたいから」の割合が高くなっている。中学生では、「自分だけが世話をしている」群で、「家族が仕事等で忙しいから」のほか、「他に家事をする人がいないから」、「他にお世話をする人がいないから」など具体的な家庭状況に基づく回答が多くなっている（図表 2-2-4）。

【問 13】（複数回答）あなたがお世話をしている理由を教えてください。

図表 2-2-4 世話をする理由





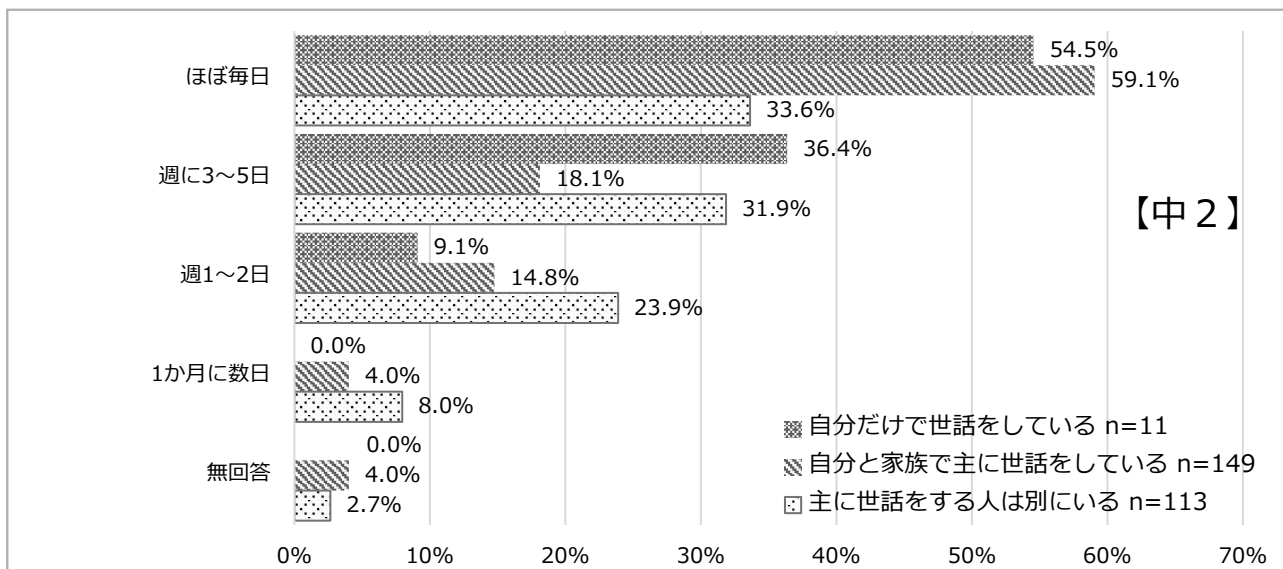
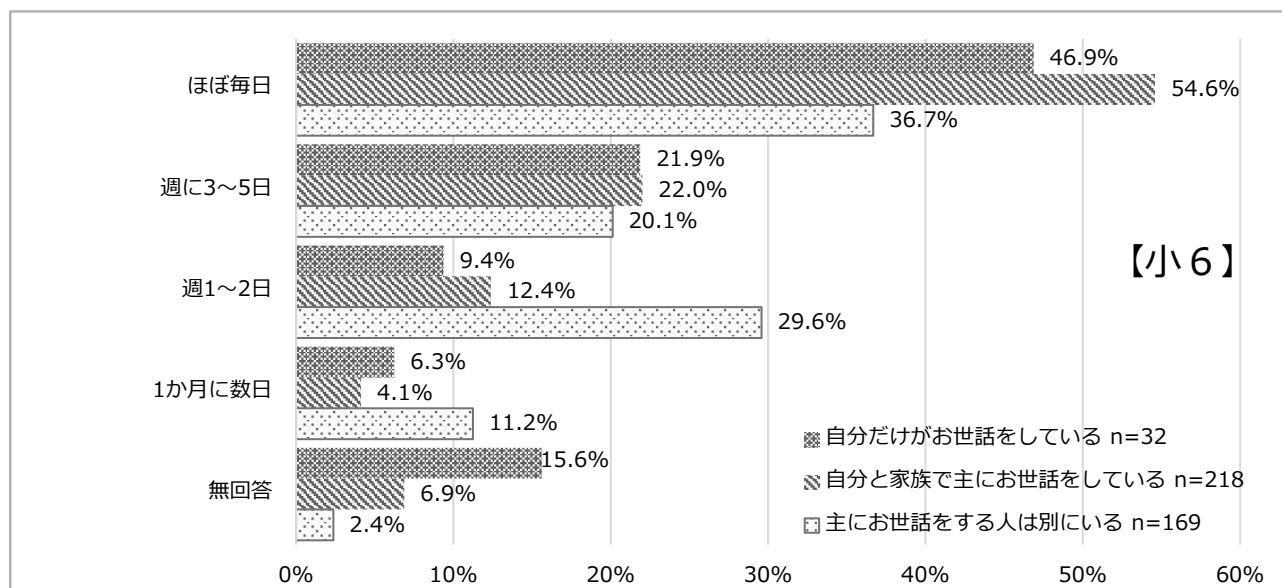
2-2-5 世話をする日数・時間

世話をする日数については、中学生の「自分だけが世話をしている」群において、「ほぼ毎日」と「週に3～5日」を合算すると、90.9%と高い割合を占める。一方、「主に世話をする人は別にいる」群は、他の群に比し、「週に1～2日」、「1か月に数日」が多くなっている（図表 2-2-5-1）。

また、時間数では、中学生の「自分だけが世話をしている」群で、「2時間～3時間」が18.2%、選択時間枠にない3時間以上の「その他」も18.2%となるなど、長時間傾向のケースが多いことがわかる。一方、「主に世話をする人は別にいる」群は、他の区分に比し、「30分未満」の回答が多い（図表 2-2-5-2）。

【問 14】（単一回答）あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか。

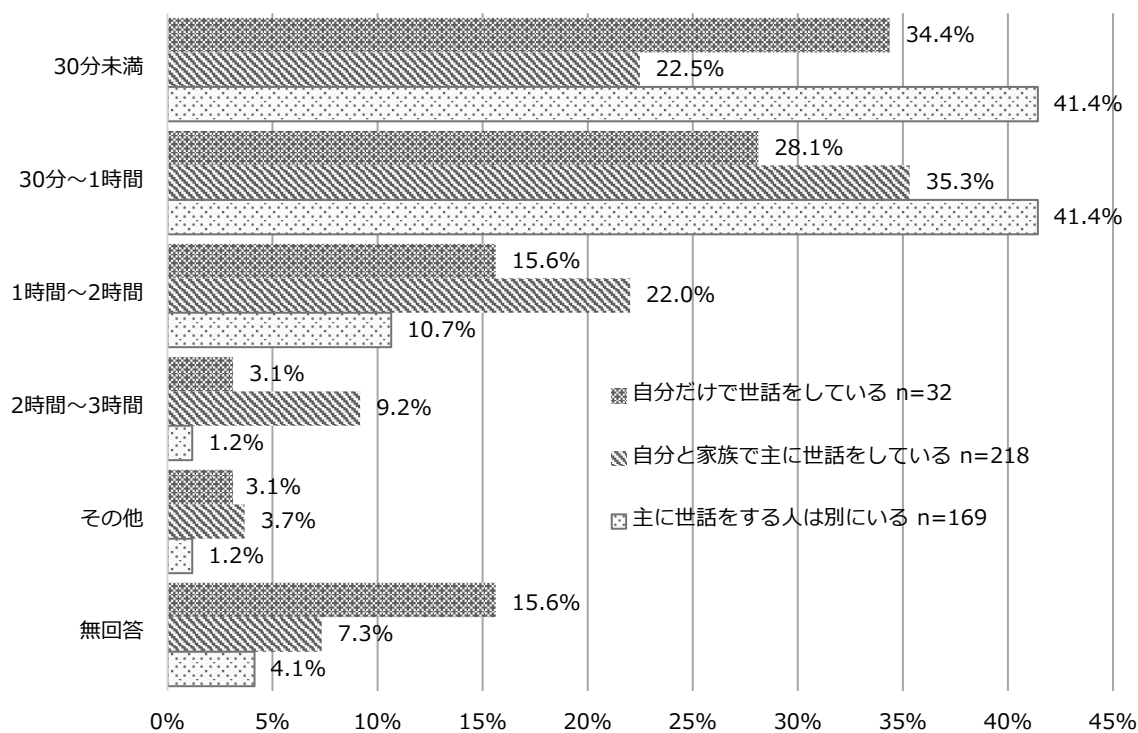
図表 2-2-5-1 世話をする日数



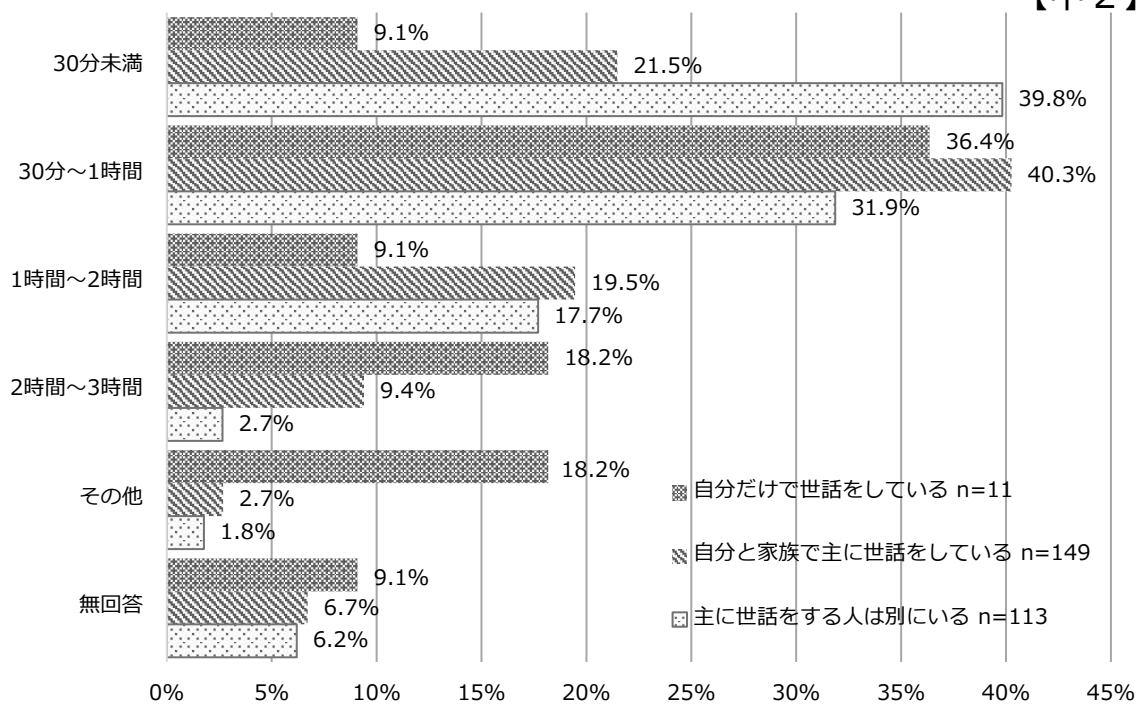
【問 15】（単一回答）あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか。

図表 2-2-5-2 世話をする時間

【小 6】



【中 2】



2-3 世話をすることによる影響と思い

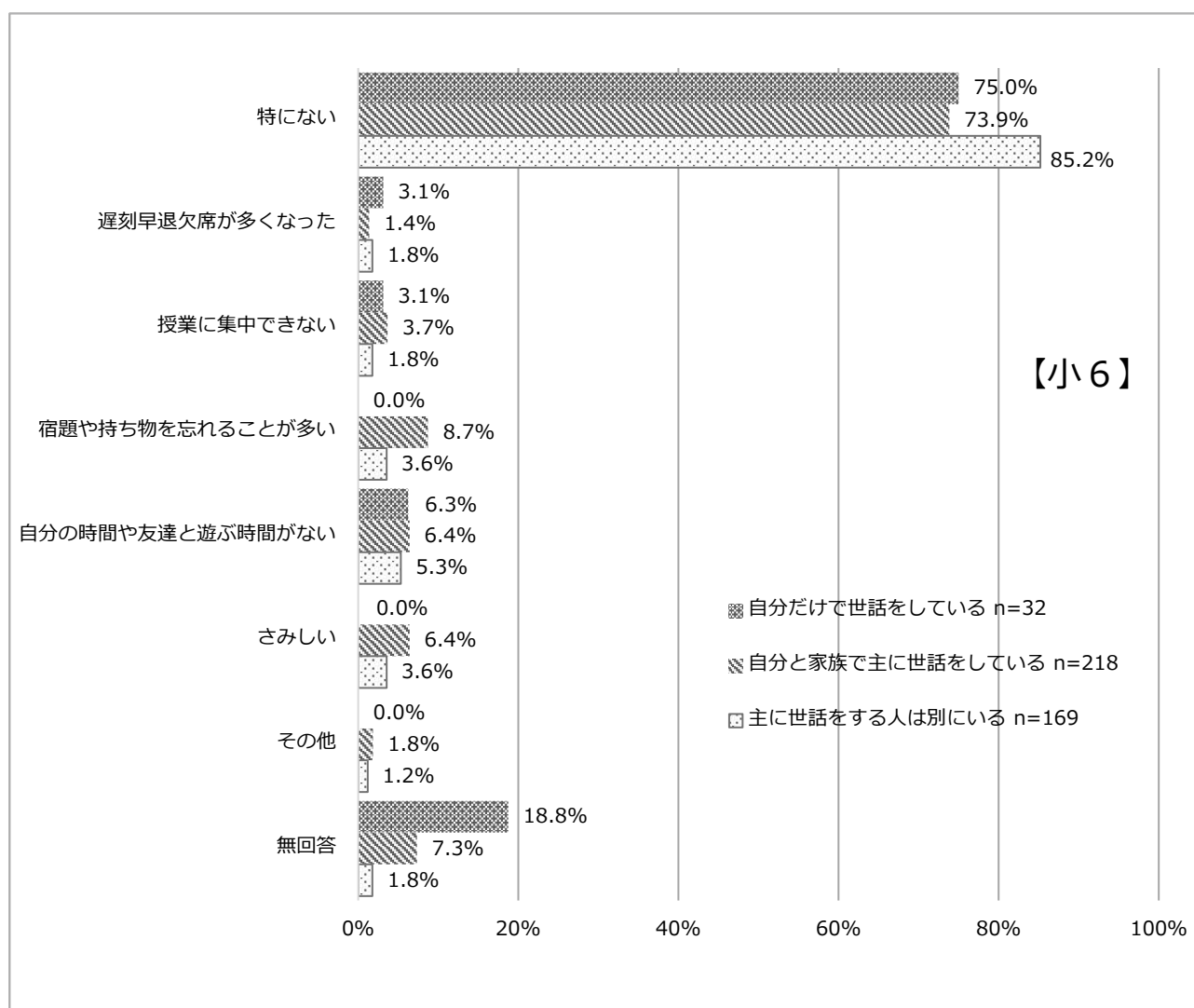
2-3-1 世話をすることによる影響

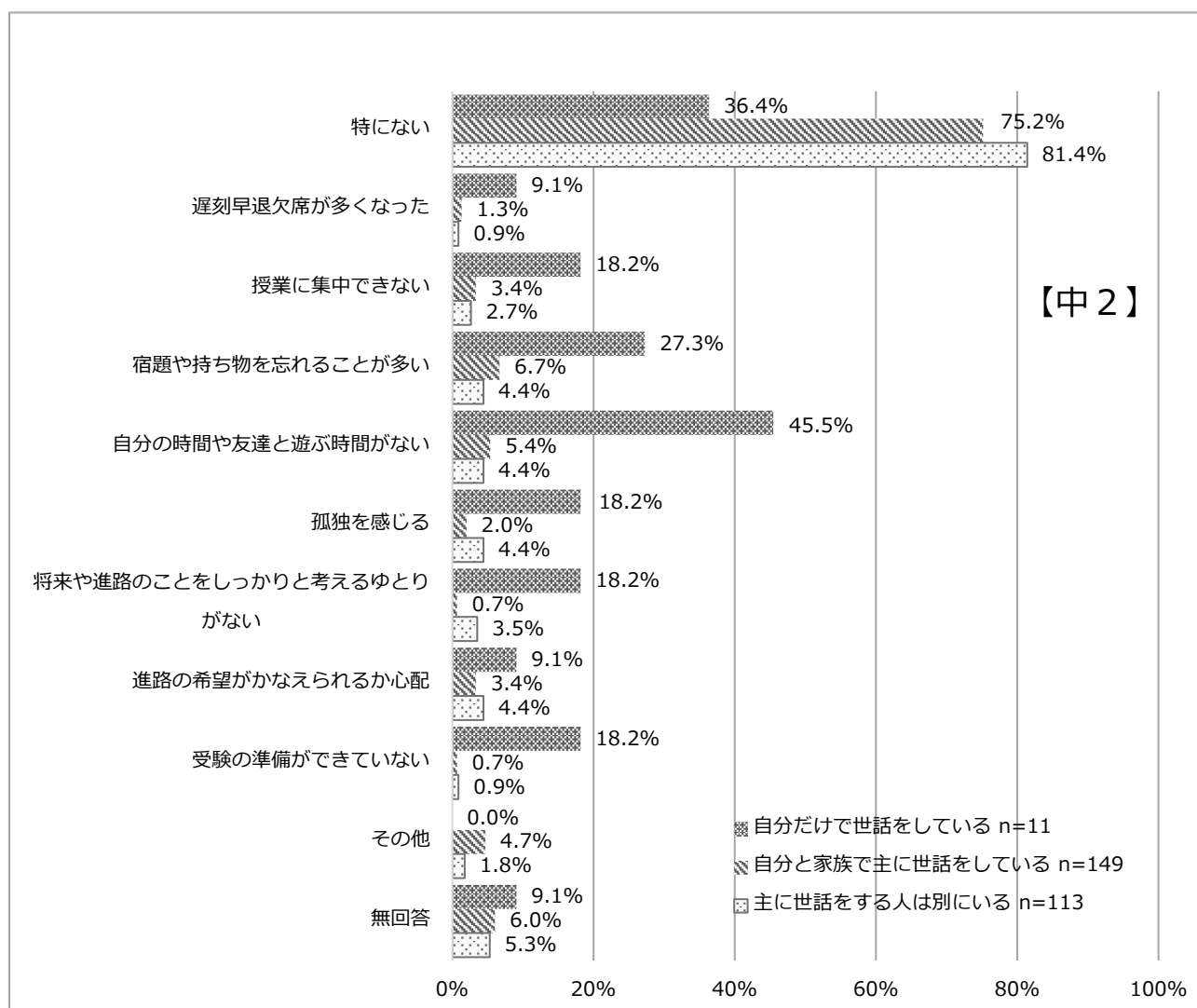
世話をすることによる影響について、他の群では7割以上が「特にない」と回答しているが、中学生の「自分だけが世話をしている」群は「特にない」が36.4%にとどまり、具体的な影響項目を選択している。特に「自分の時間や友達と遊ぶ時間がない」は45.5%と他の群に比して選択が顕著であるほか、「宿題や持ち物を忘れることが多い」、「授業に集中できない」、「孤独を感じる」といった項目も多くなっている。

中学生のみにある進路関係の設問の、「将来や進路のことをしっかりと考えるゆとりがない」、「進路の希望がかなえられるか心配」、「受験の準備ができない」などの項目においても「自分だけが世話をしている」群の選択は多くなっている（図表 2-3-1）。

【問 16】（複数回答）お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか。

図表 2-3-1 世話をすることによる影響



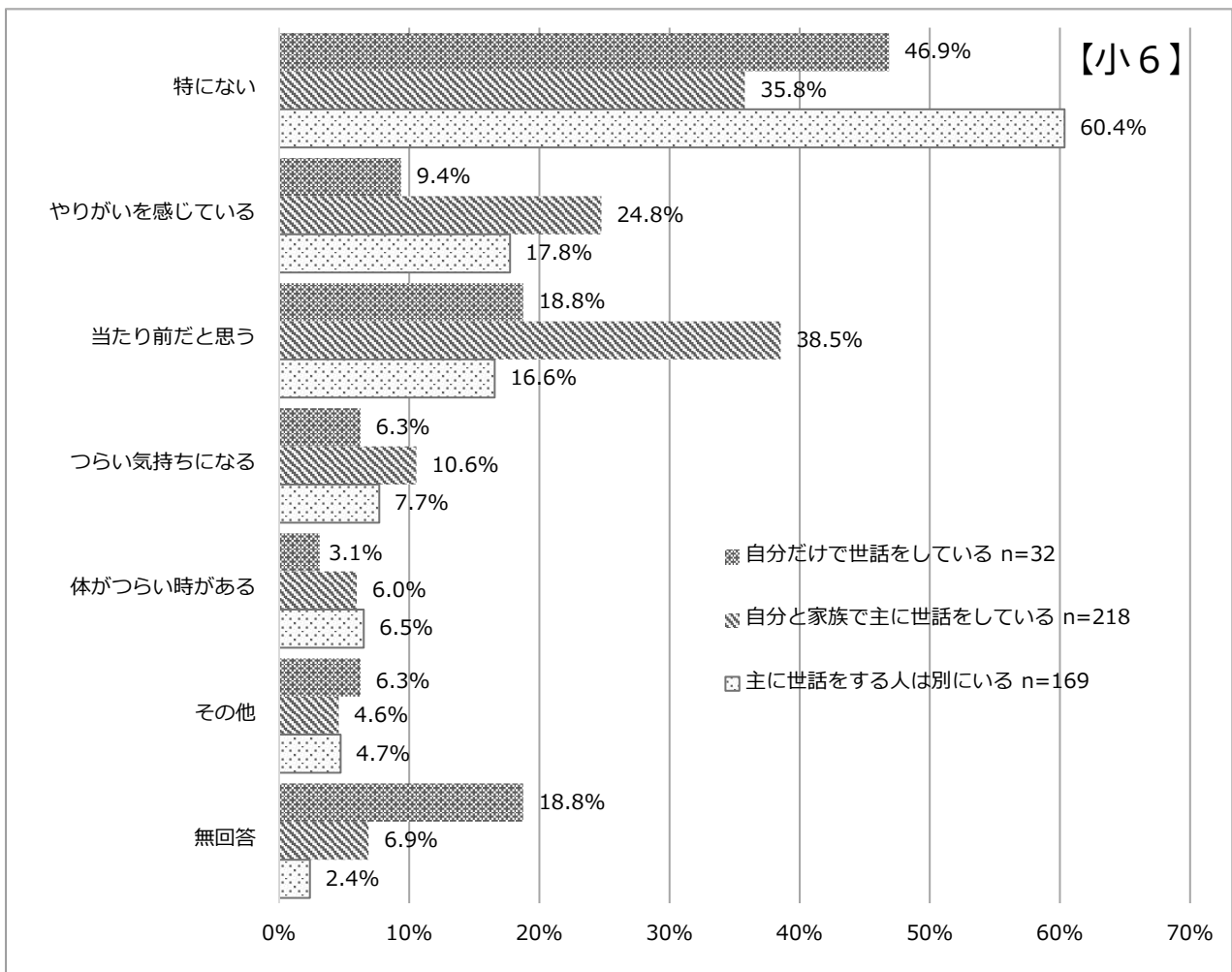


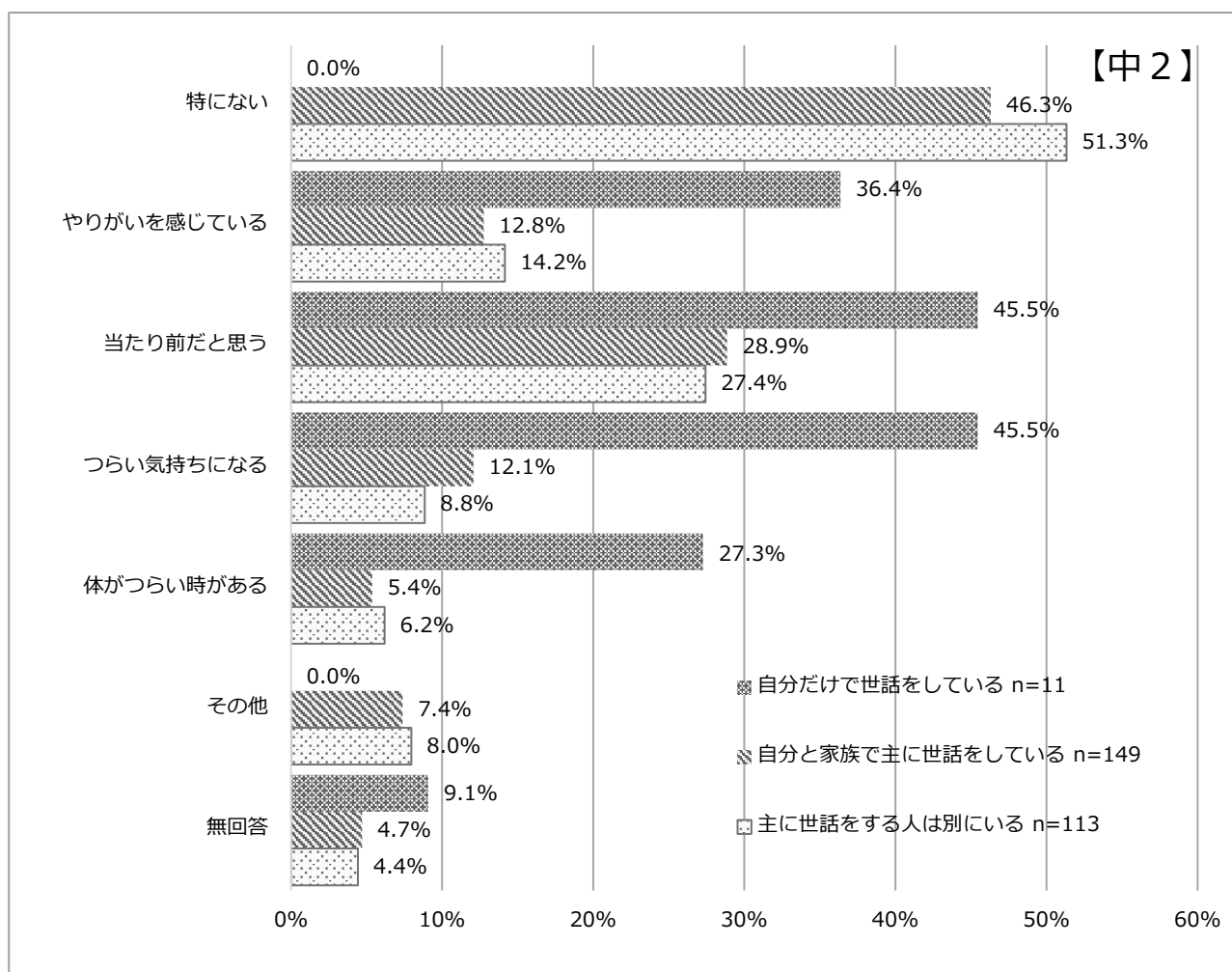
2-3-2 世話をすることについて思っていること

本人が思っていることとしては、中学生の「自分だけが世話をしている」群では、「家族を助けることにやりがいを感じている」、「家族だから世話をするのは当たり前だと思う」の選択が多い一方、「つらい気持ちになることがある」、「体がつらいときがある」と心身への影響があることも自覚している状態が読み取れる（図表 2-3-2）。他の群においては「特にない」とする回答が多いなかで、中学生の「自分だけが世話をしている」群は、「特にない」は0%であり、当該群は全員が何らかの思いがあることがわかる。

【問 17】（複数回答） お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください。

図表 2-3-2 世話をすることについて思っていること



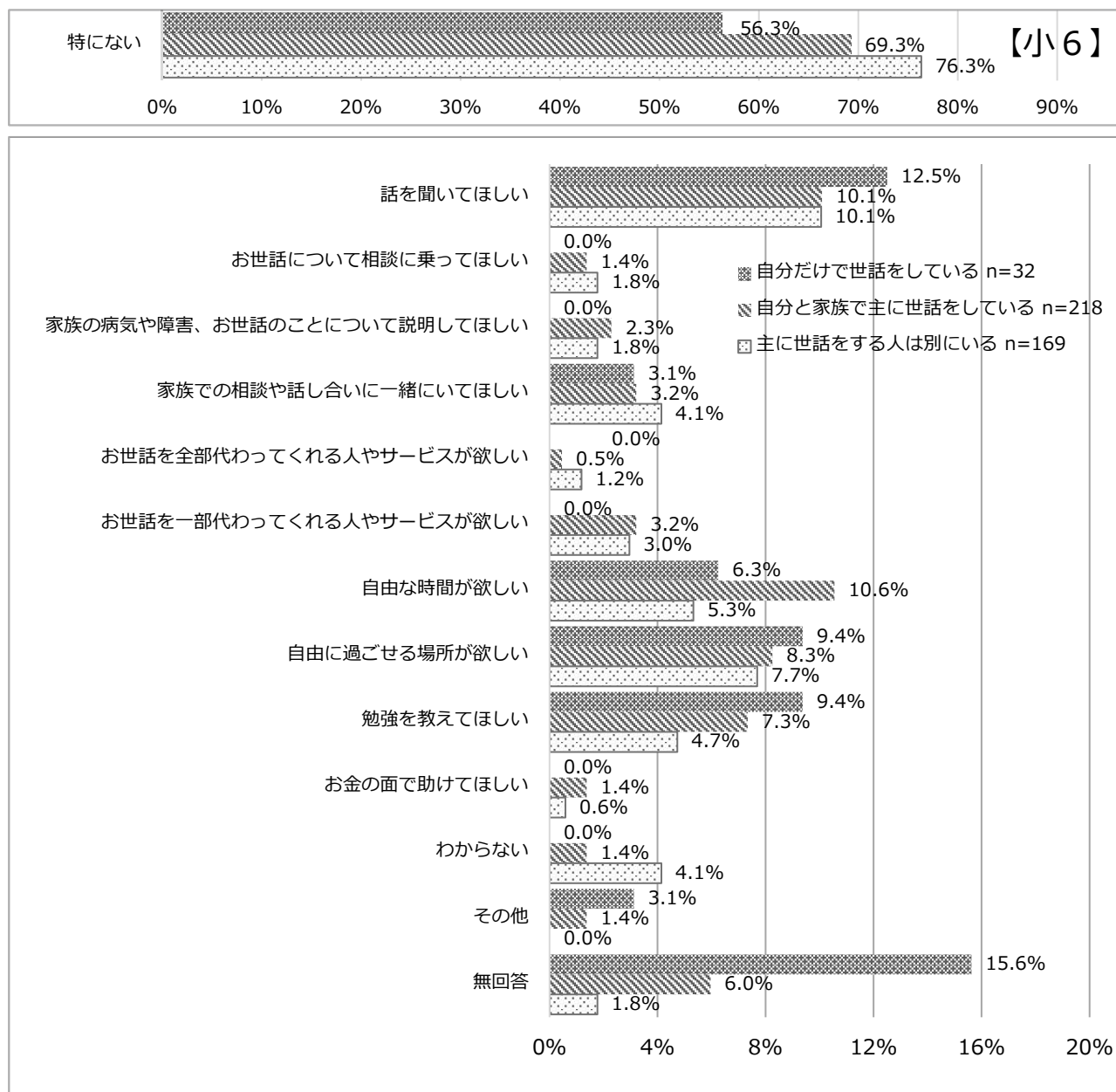


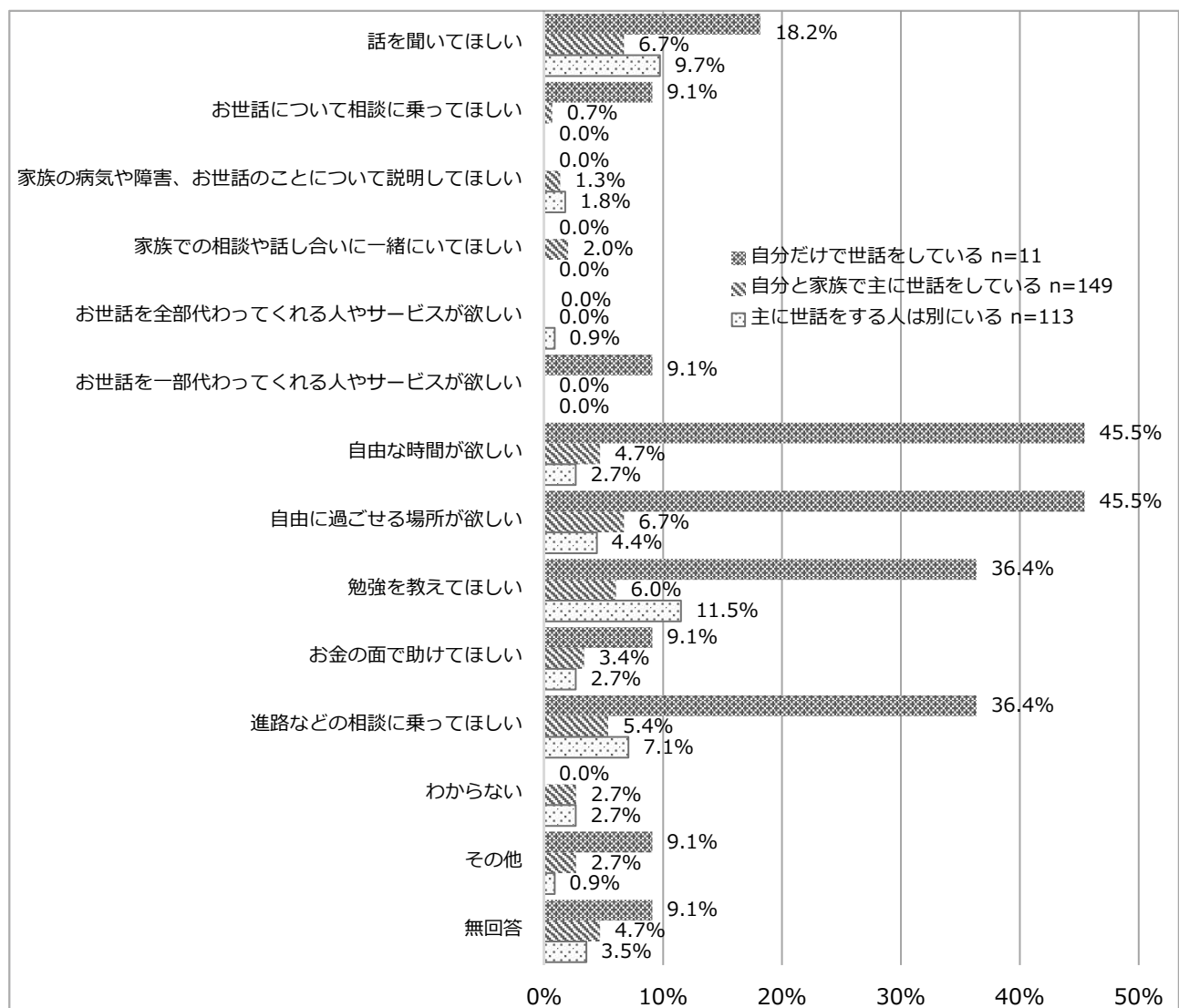
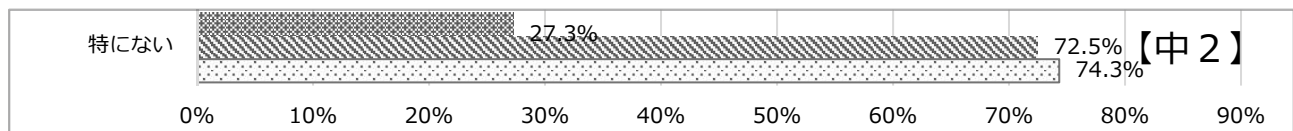
2-3-3 周囲に助けてほしいこと

学校や周りの大人に助けて欲しいこととして、小学生では全体的に「話を聞いてほしい」、「自由な時間が欲しい」、「自由に過ごせる場所が欲しい」、「勉強を教えてほしい」等が多くなっている（図表 2-3-3）。中学生では「自分だけが世話をしている」群に特徴的な傾向が見受けられる。特徴として、他群で 7 割以上を占める「特にない」の回答がこの群では 27.3%にとどまり、具体項目を選択している。「自由な時間が欲しい」、「自由に過ごせる場所が欲しい」（いずれも 45.5%）が最も多く、次いで「勉強を教えてほしい」、「進路などの相談に乗ってほしい」（いずれも 36.4%）であった（図表 2-3-3:具体項目を明確にするため「特にない」を分離して表示）。

【問 18】（複数回答）学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。

図表 2-3-3 学校や周りの大人に助けてほしいこと





2-4 相談の状況

2-4-1 相談の状況

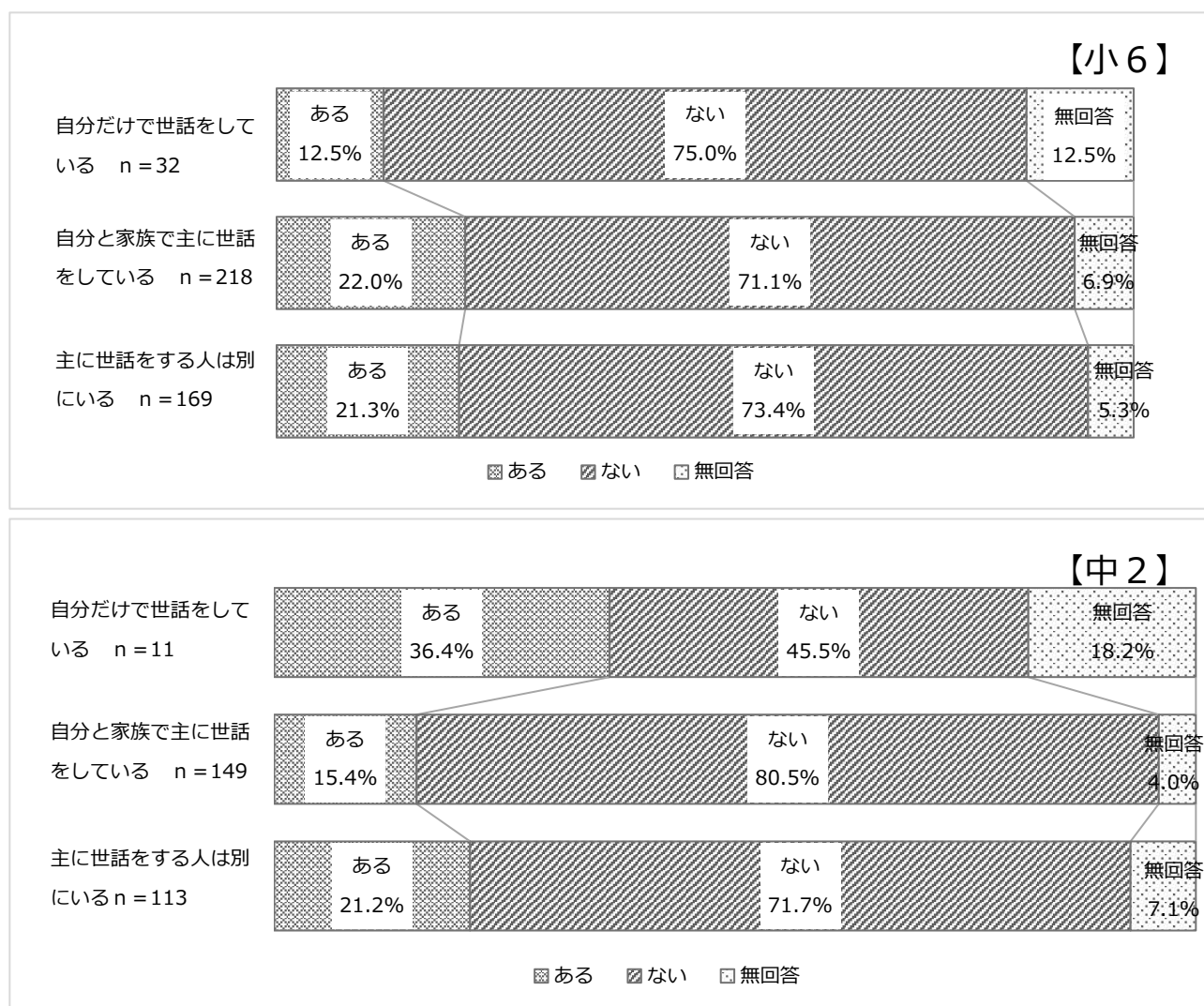
世話の相談経験については、世話の関わり方の違いによる傾向は見いだせないが、「自分だけが世話をしている」群で、小学生の「相談経験あり」が12.5%にとどまるのに対し、中学生では36.4%となっている（図表 2-4-1-1）。

また、相談する相手は、小学生、中学生ともに「母」、「友だち」の割合が高いが、中学生ではより「友だち」が多くなるほか、「SNS の知り合い」、「学校の相談室の先生」、「児童館職員」など家族以外のさまざまな相談相手も増えている（図表 2-4-1-2）。

【問 19】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

【問 20】（複数回答）相談した相手の人はだれですか。

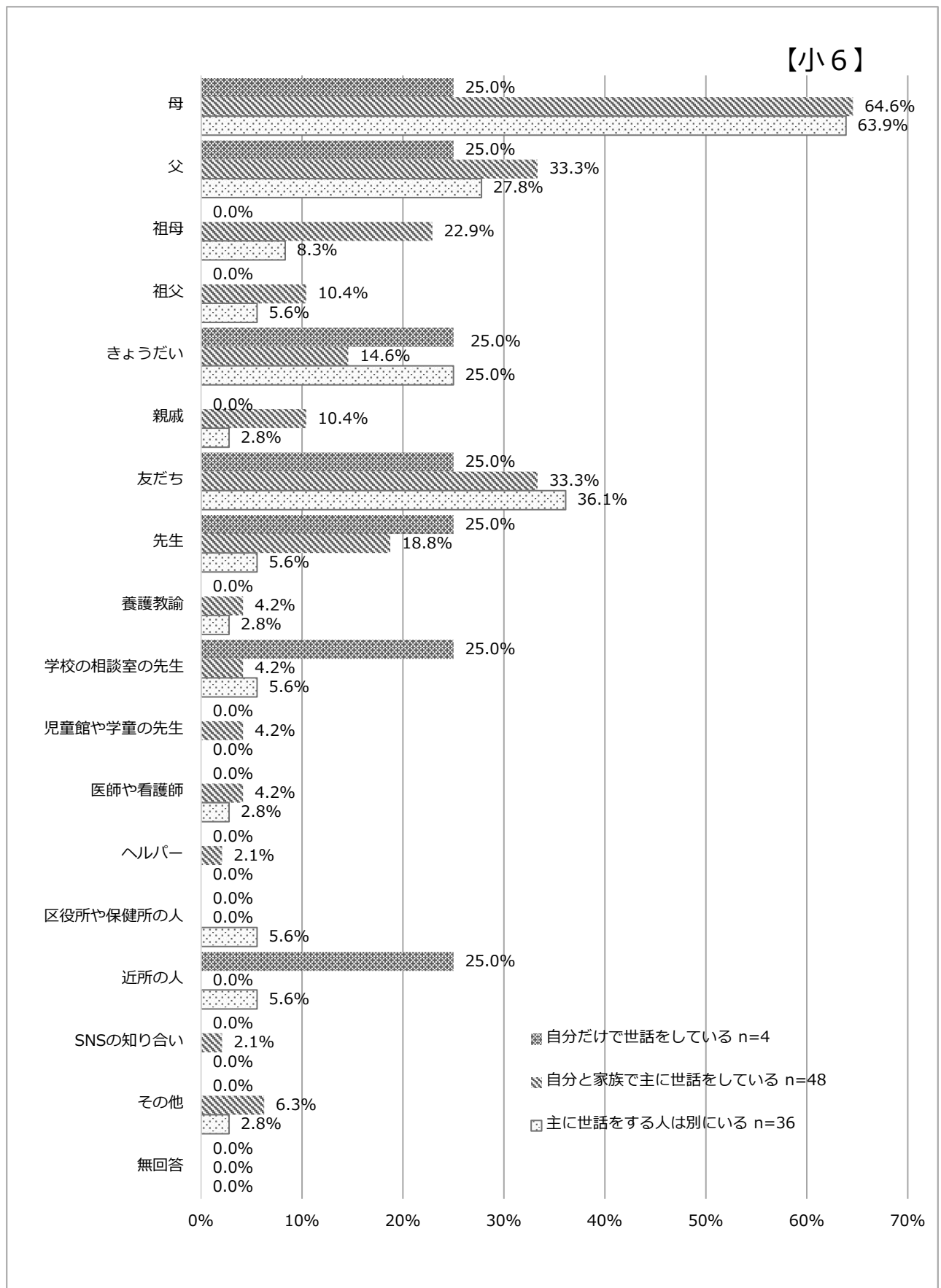
図表 2-4-1-1 世話についての相談経験の有無



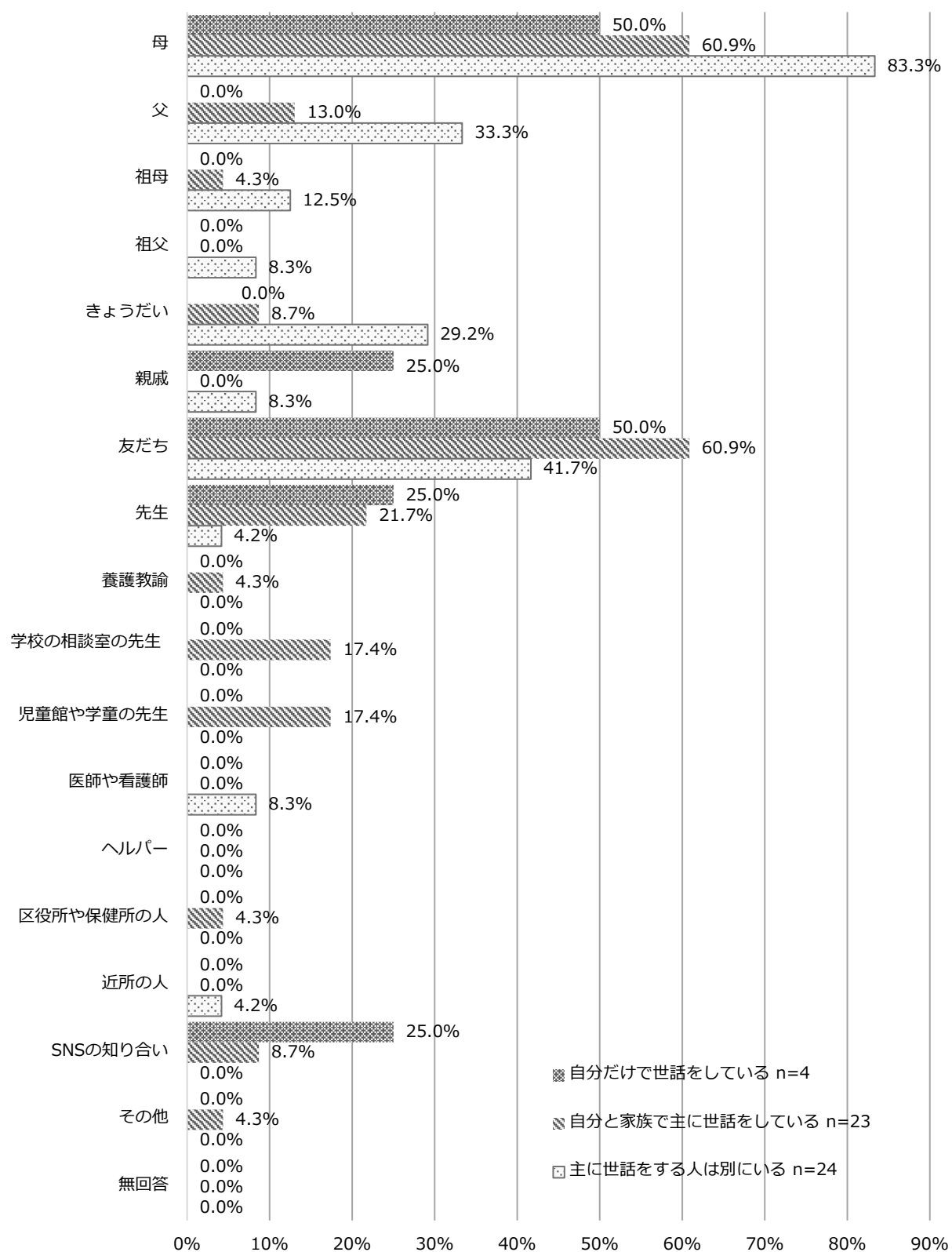


©2011 練馬区ねり丸

図表 2-4-1-2 世話についての相談相手



【中2】



2-4-2 相談していない理由

相談していない理由としては、小学生では「誰かに相談するほどの悩みではない」、「相談しても変わらないと思うから」、「誰に相談したらいいかわからない」が多い。中学生では世話の関わり方で傾向が明確になり、「自分と家族で世話をしている」群と「主に世話をする人は別にいる」群では「誰かに相談するほどの悩みではない」と回答する中学生が多い一方で、「自分だけが世話をしている」群では「相談しても変わらないと思うから」との回答が多くなる（図表 2-4-2-1）。

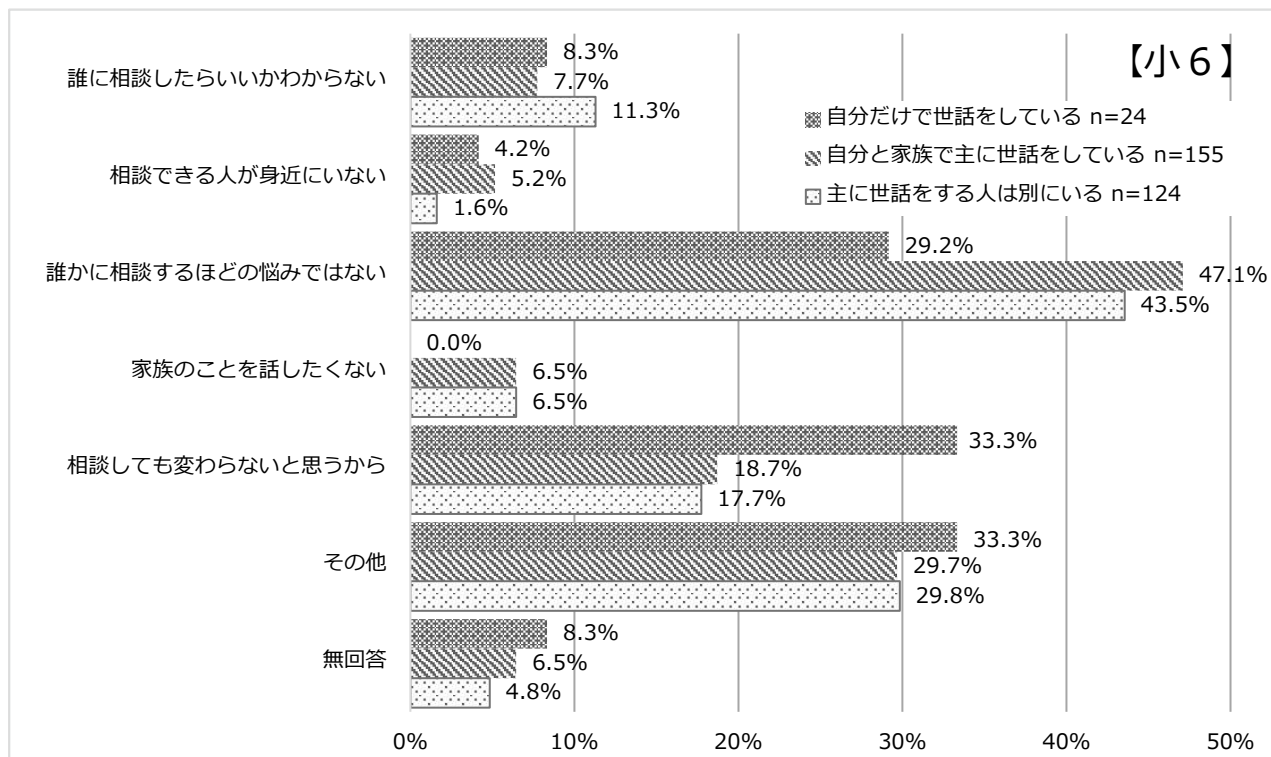
また、問 22「悩みを聞いてくれる人がいるか」に対して、小学生は全ての群で「いる」と答えた児童の方が多く、中学生でも「自分と家族で世話をしている」群と「主に世話をする人は別にいる」群は同様の結果となった（図表 2-4-2-2）。

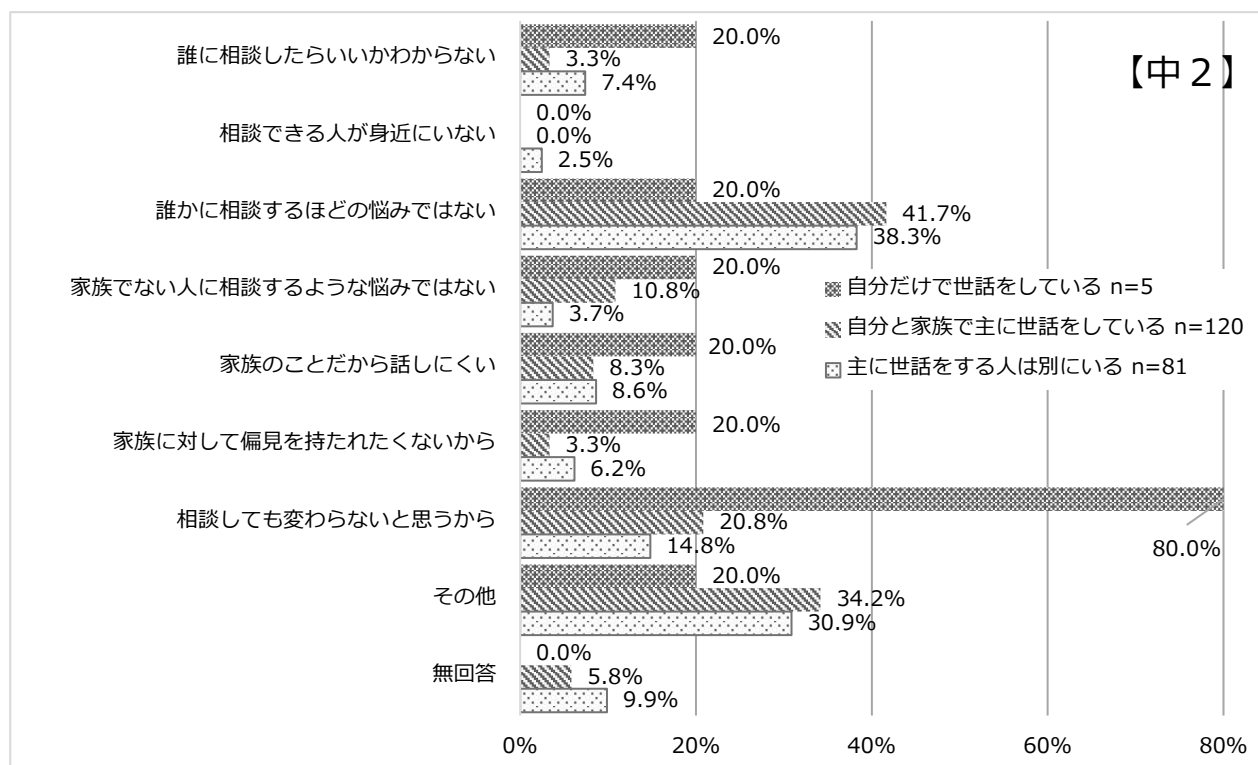
（相談経験のない回答者対象）

【問 21】（複数回答）相談していない理由を教えてください。

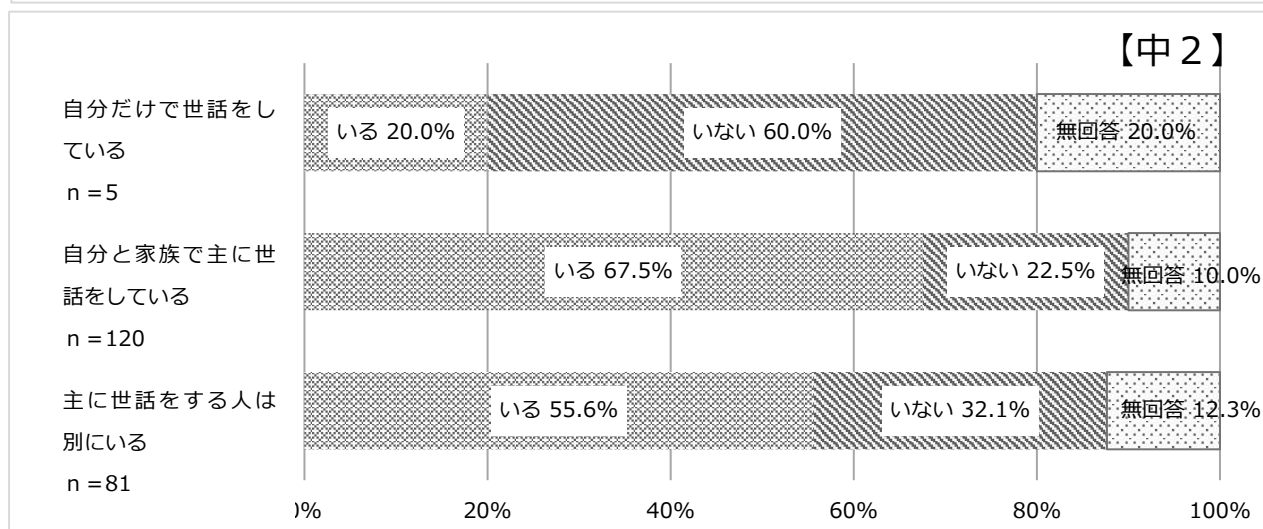
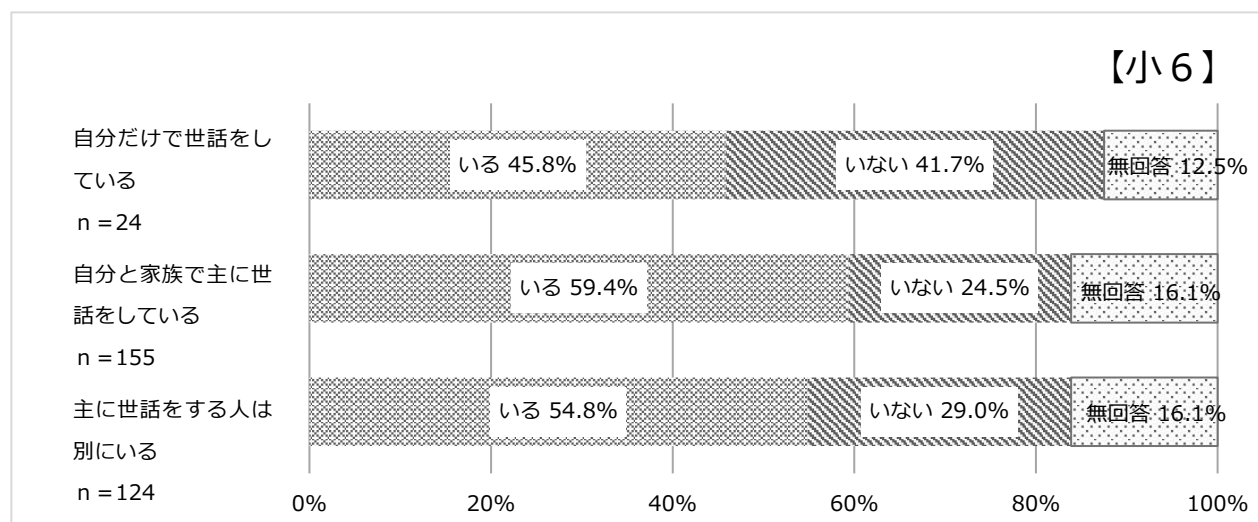
【問 22】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

図表 2-4-2-1 相談していない理由





図表 2-4-2-2 悩みを聞いてくれる人の存在



2-5 家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況

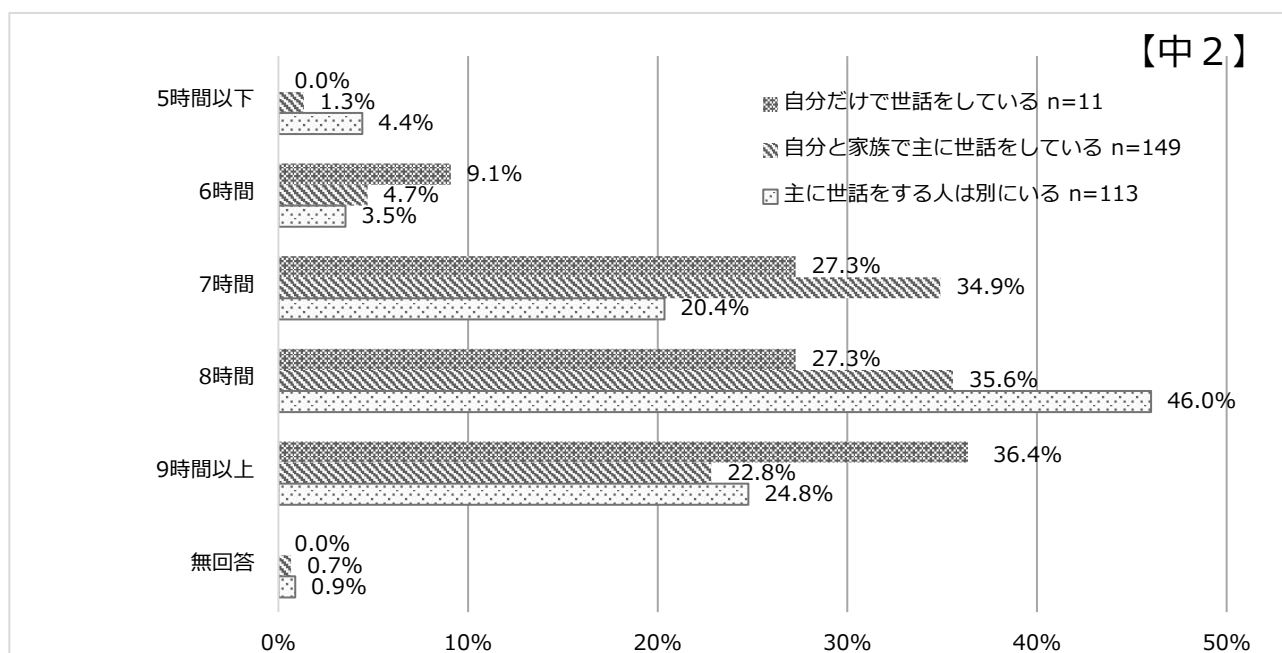
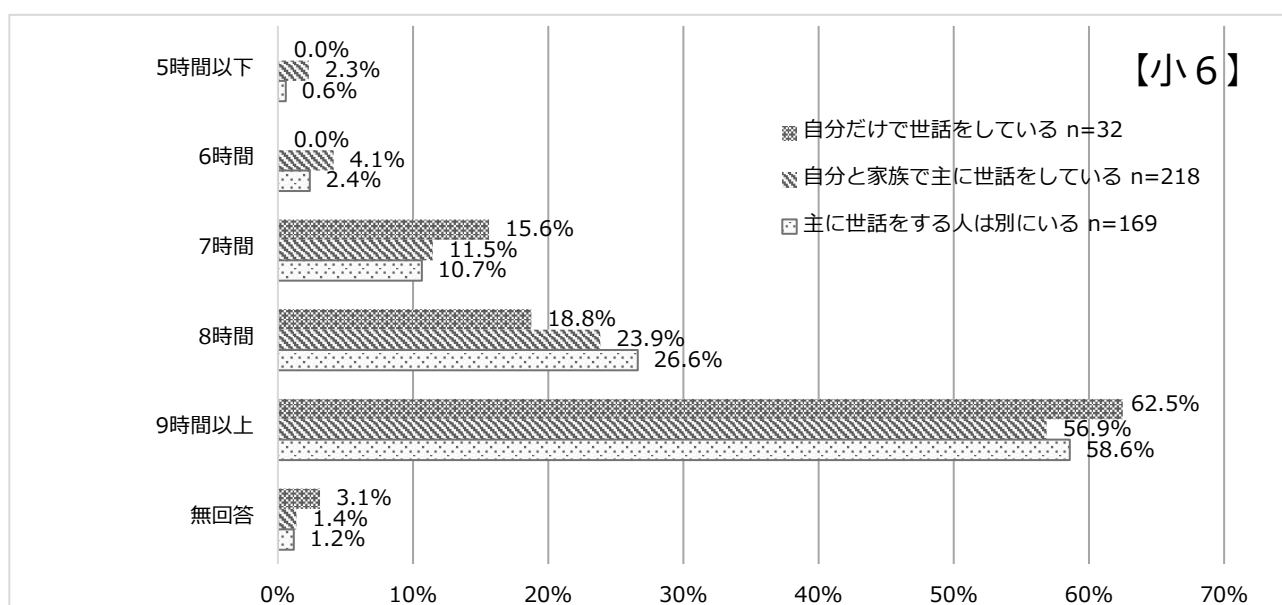
2-5-1 睡眠と朝食

睡眠時間については、各群間の特徴的な差はほとんど見られない。小学生、中学生ともに「自分だけが世話をしている群」は、9時間以上の回答が他の群より多く、5時間以下の回答が最も少なくなっている（図表 2-5-1-1）。

朝食の喫食状況については、中学生の「自分だけが世話をしている群」が他の群に比べ、「毎日食べている」割合が低く、「あまり食べていない」割合が高い（図表 2-5-1-2）。

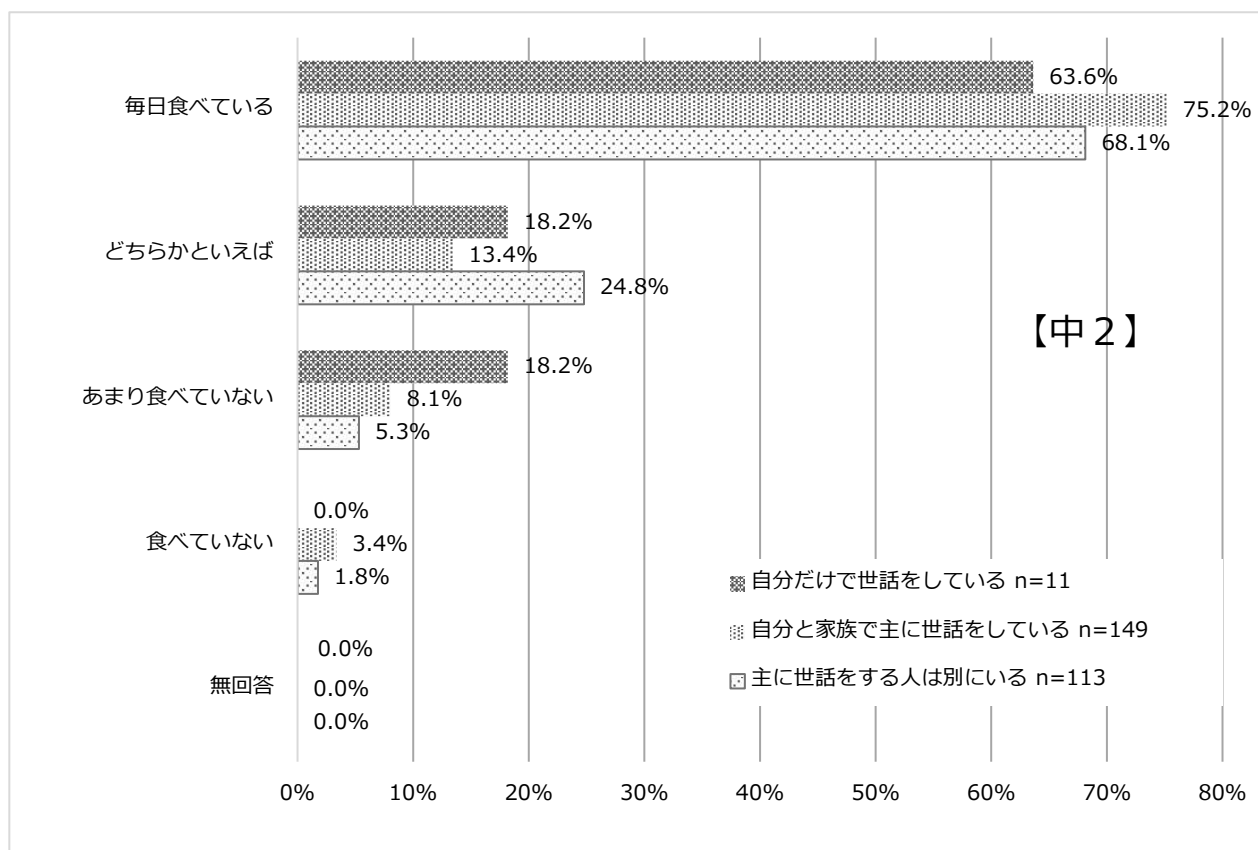
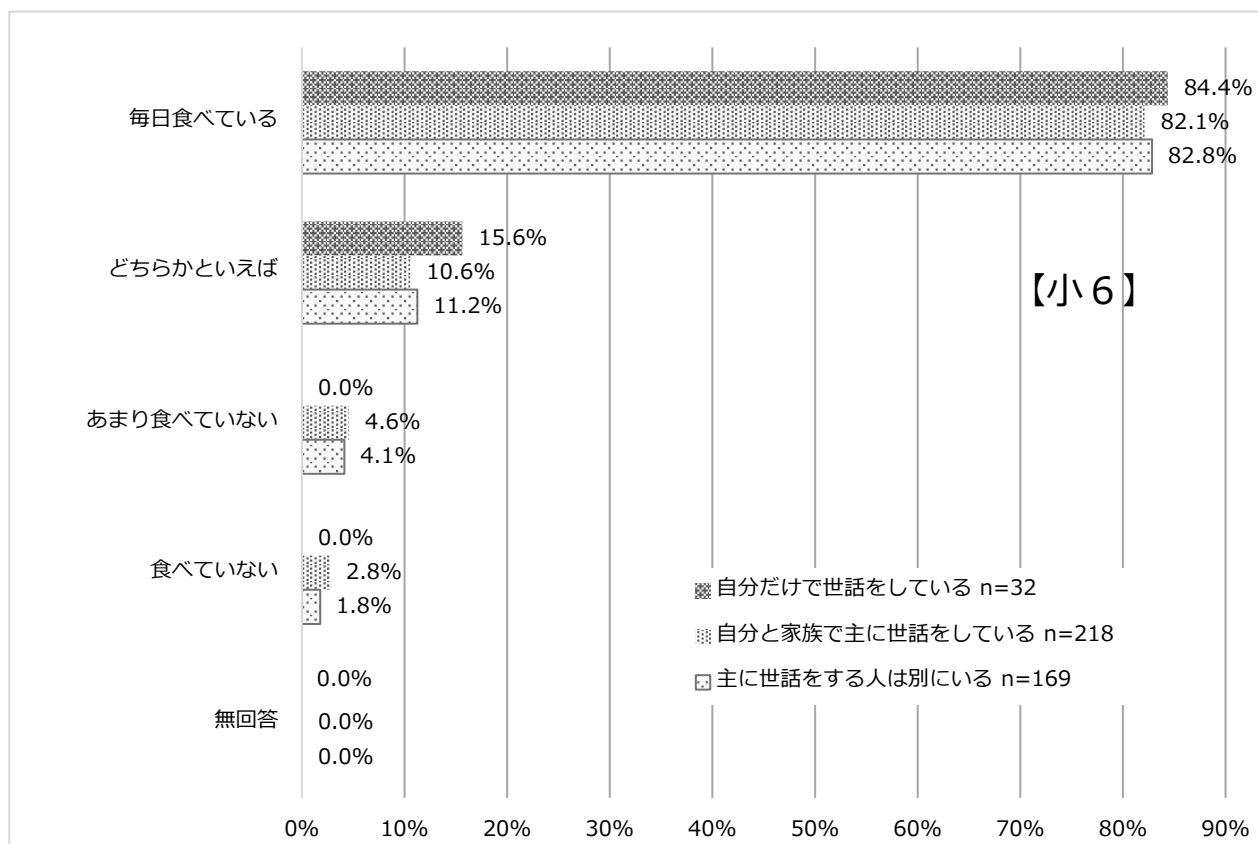
※【問 2】起床時間と【問 6】就寝時間の回答から算出

図表 2-5-1-1 睡眠時間



【問 3】（単一回答）朝食を毎日食べていますか。

図表 2-5-1-2 朝食の喫食状況

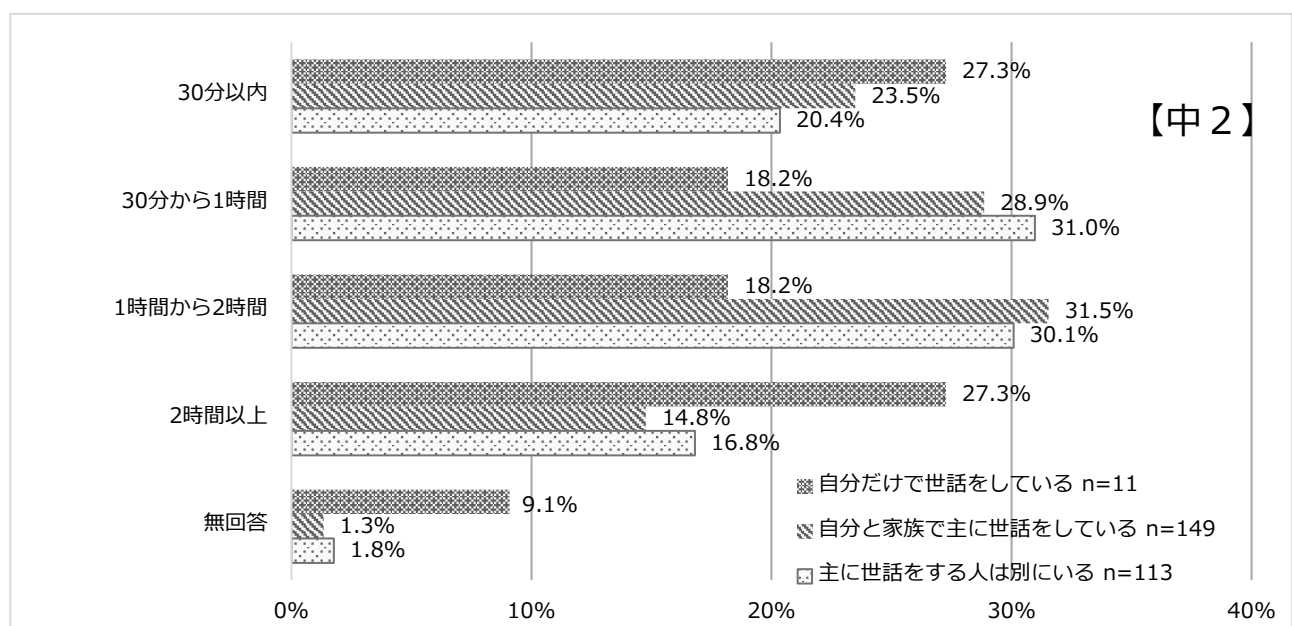
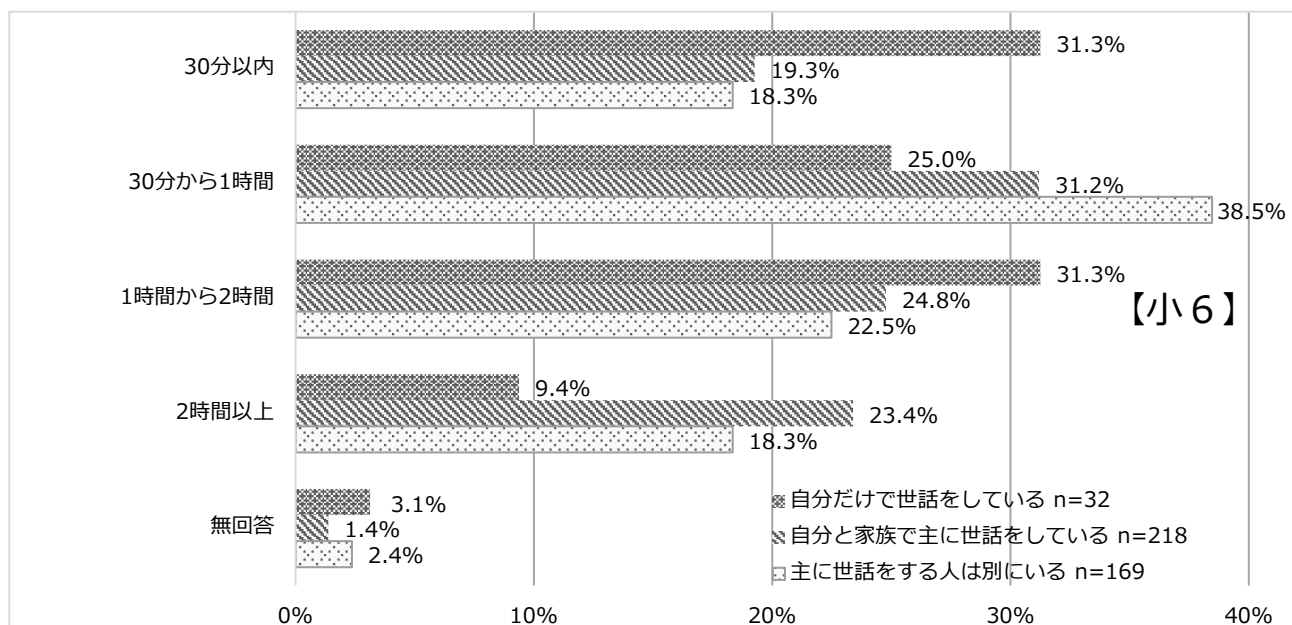


2-5-2 自分の時間

勉強時間については、小学生の「自分だけがお世話をしている」群が他の群より「30 分以内」の割合が高く、「2 時間以上」の割合が低くなっている。一方、中学生の「自分だけがお世話をしている」群は、他の群より勉強時間が長めの傾向にある（図表 2-5-2-1）。自由時間については、小学生では各群間に特徴的な差異は認められないが、中学生の「自分だけがお世話をしている」群は、他の群に比べ「30 分以内」、「30 分から 1 時間」の割合が高くなっている（図表 2-5-2-2）。

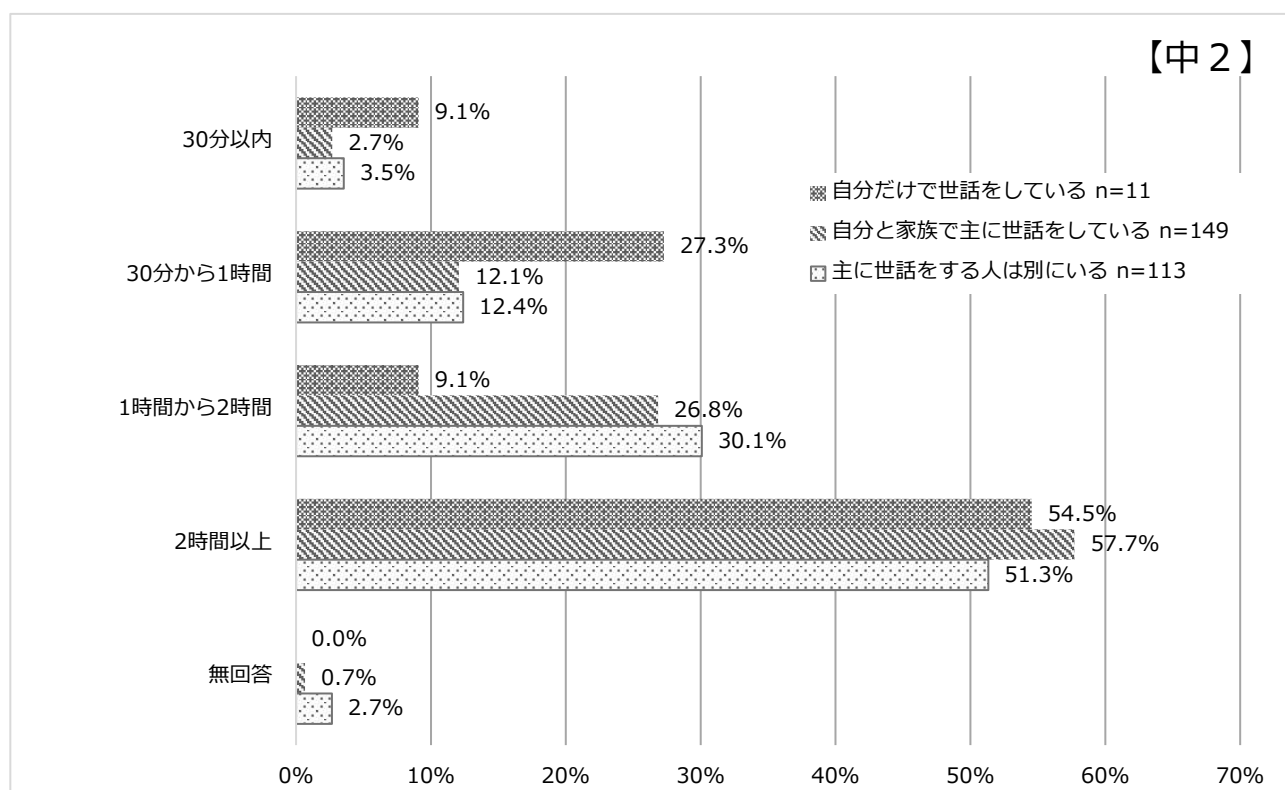
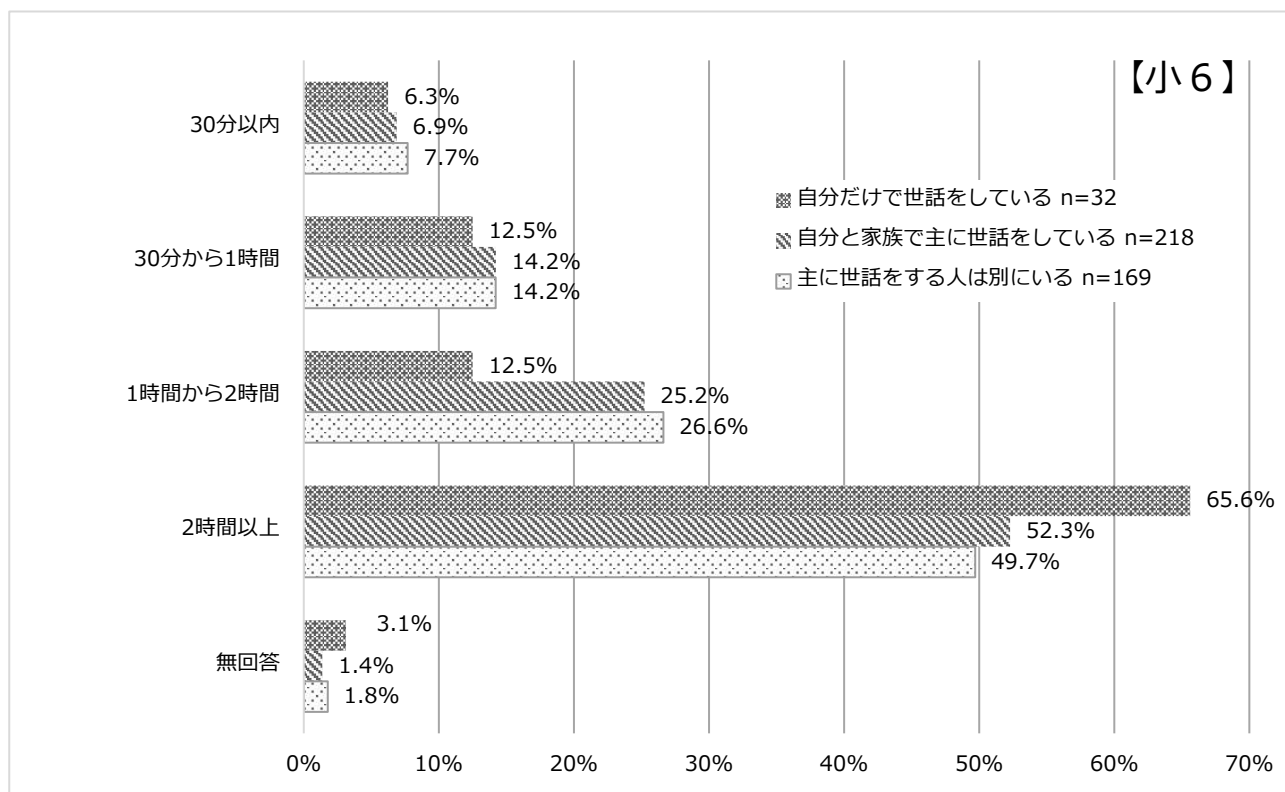
【問 4】（単一回答）学校以外で勉強する時間は 1 日どのくらいですか。

図表 2-5-2-1 勉強時間



【問 5】（単一回答）学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいですか。

図表 2-5-2-2 自由時間

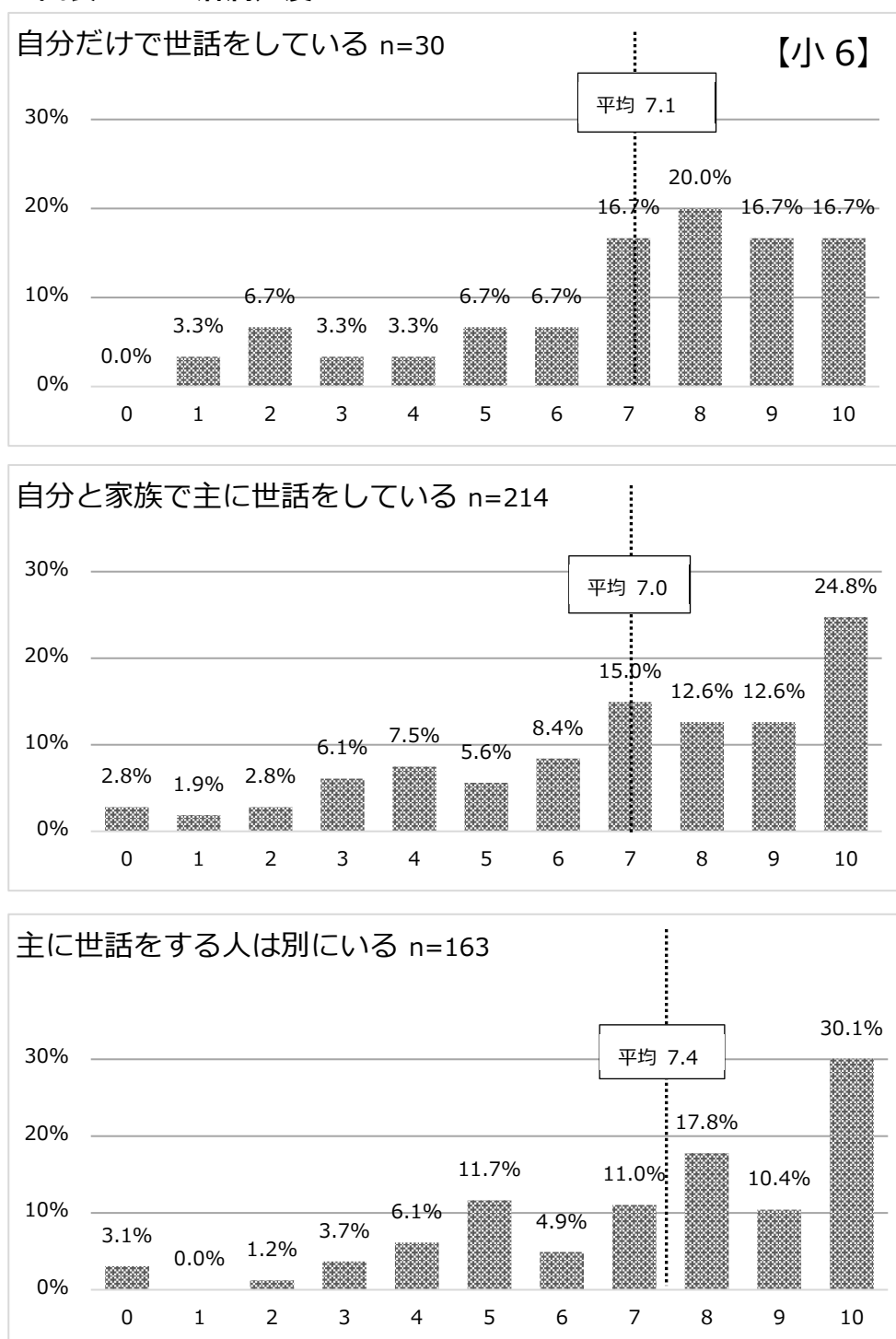


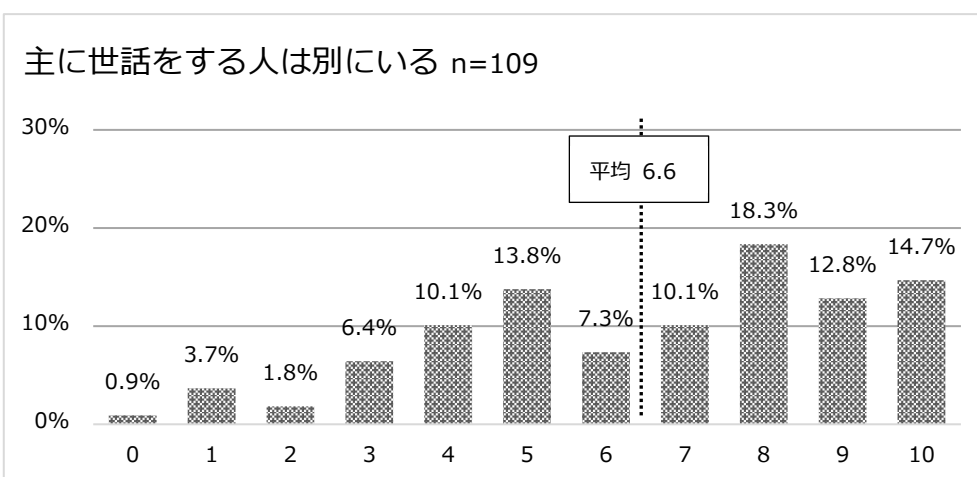
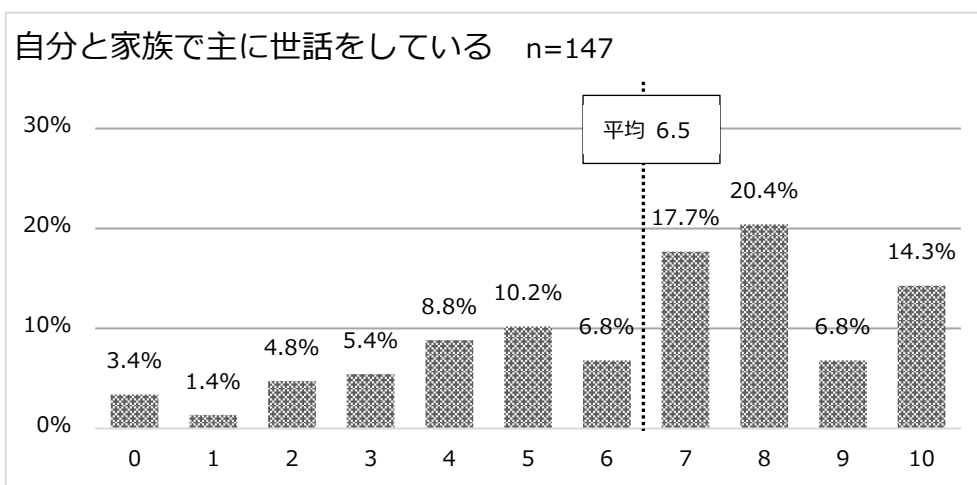
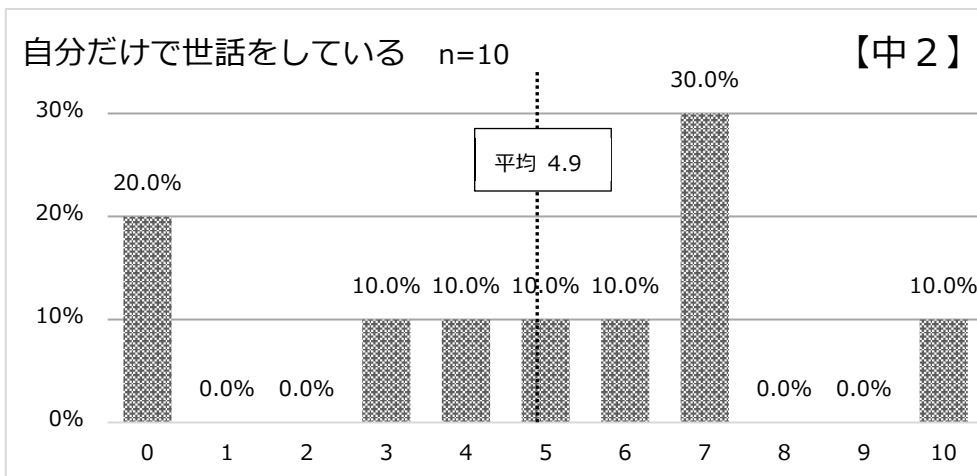
2-6 生活満足度

生活満足度の平均を比較すると、小学生では各群間に特徴的な差異は認められないが、中学生では「自分だけでお世話している群」の平均が他群に比べ低い結果となった(図表 2-6)。ただし、「自分だけで世話をしている」群はデータの個数が少なく、比較にあたっては留意が必要である。※生活満足度の集計には無回答を母数から除いている。

【問 23】(単一回答) 最近の生活にどのくらい満足していますか。

図表 2-6 生活満足度





第3章 世話の時間の長さによる児童・生徒の状況

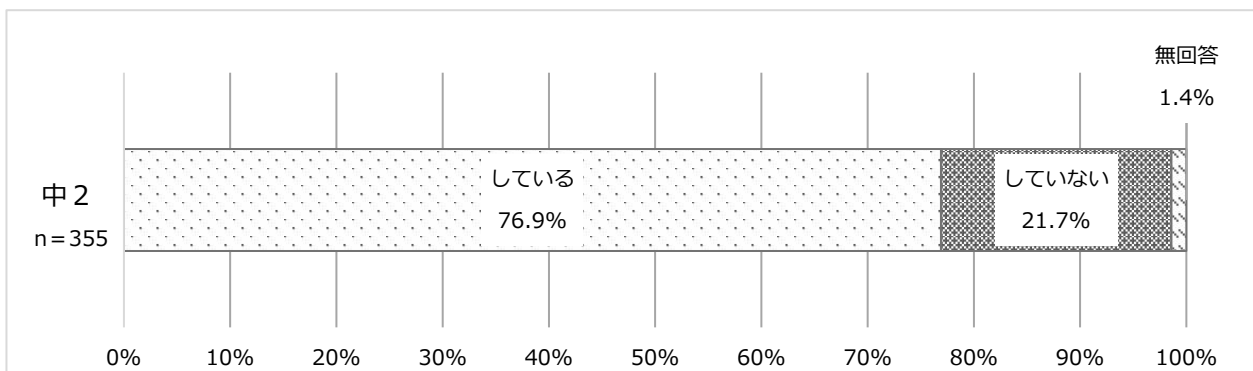
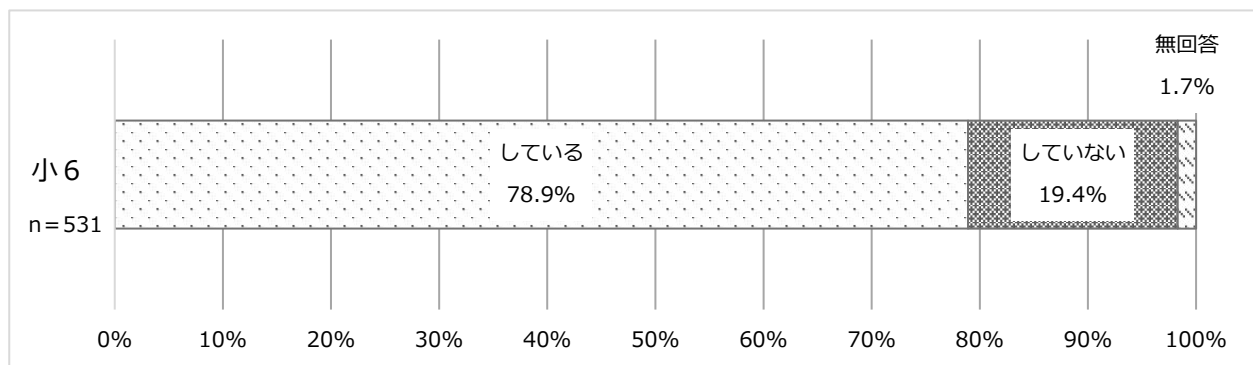
(世話の時間の長さ別 クロス集計)

3-1 回答者の属性

【問 11】において、「あなたは家族のお世話をしていますか」に小学生 419 名、中学生 273 名が「世話をしている」と回答している。【問 11】で「世話をしている」児童・生徒を特定し、世話をしている日数（【問 14】、図表 3-1-4）と平日に世話をしている時間（【問 15】、図表 3-1-5）で世話の時間の長さに 3 分類（図表 3-1-2）し、生活状況の詳細を確認する。

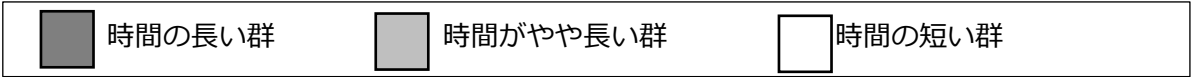
【問 11】（単一回答） あなたはお世話をしていますか。

図表 3-1-1 世話をしている子どもの割合

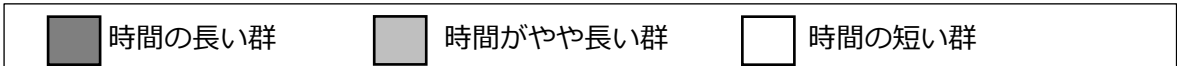


図表 3-1-2 子どもが家族の世話をする時間の長さ

小 6		問 15 による世話の時間で分類					
		3 時間超	2 ～ 3 時間	1 ～ 2 時間	30 分～ 1 時間	30 分 未満	無回答
問 14 による世話の日数で分類	ほぼ毎日	9	19	47	72	47	32
	週に 3 ～ 5 日	1	1	11	48	27	
	週に 1 ～ 2 日	0	2	8	28	39	
	1 か月に 数日	28					
	無回答	分類不能					



中 2		問 15 による世話の時間で分類					
		3 時間超	2 ～ 3 時間	1 ～ 2 時間	30 分～ 1 時間	30 分 未満	無回答
問 14 による世話の日数で分類	ほぼ毎日	4	14	37	41	28	21
	週に 3 ～ 5 日	0	3	6	41	16	
	週に 1 ～ 2 日	0	2	5	14	26	
	1 か月に 数日	15					
	無回答	分類不能					

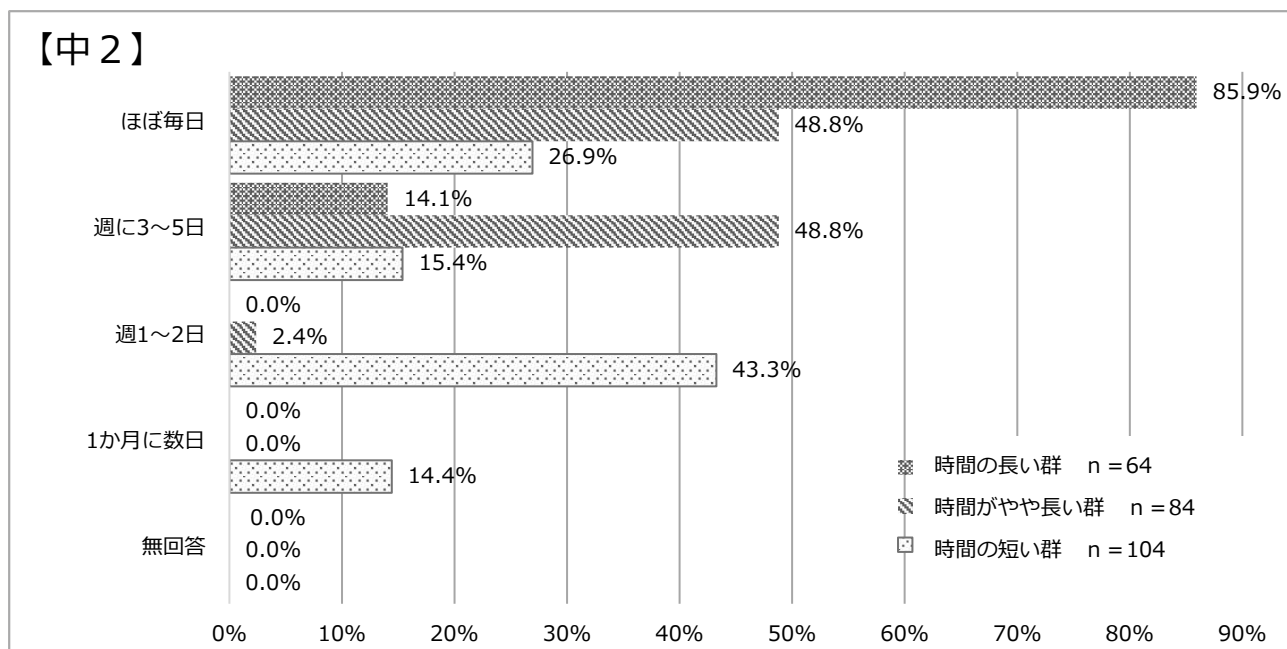
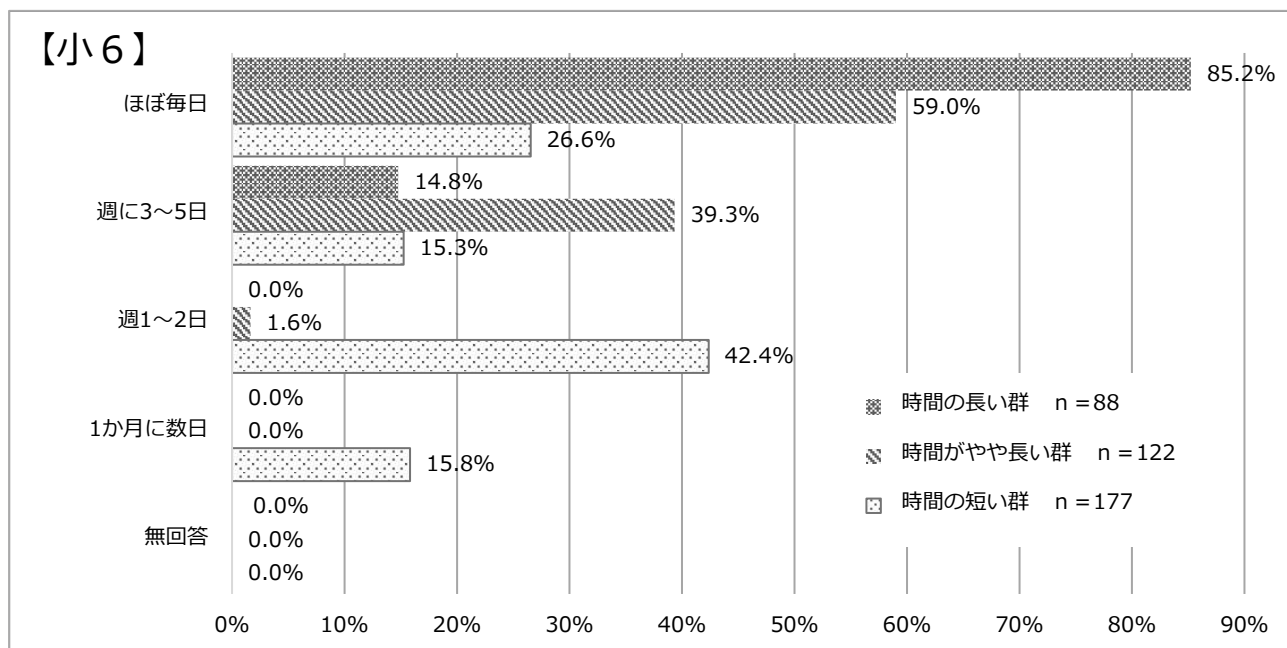


図表 3-1-3 「世話の有無」、「世話をしている日数」、「世話をしている時間」のクロス集計により算出した各分類群に属する子どもの数

	時間の長い群	時間がやや長い群	時間の短い群	(分類不能)
小学 6 年生	88 人	122 人	177 人	(32 人)
全体に占める割合 (n = 5,404)	1.6%	2.3%	3.3%	(0.6%)
中学 2 年生	64 人	84 人	104 人	(21 人)
全体に占める割合 (n = 4,162)	1.5%	2.0%	2.5%	(0.5%)

【問 14】（単一回答）あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか。

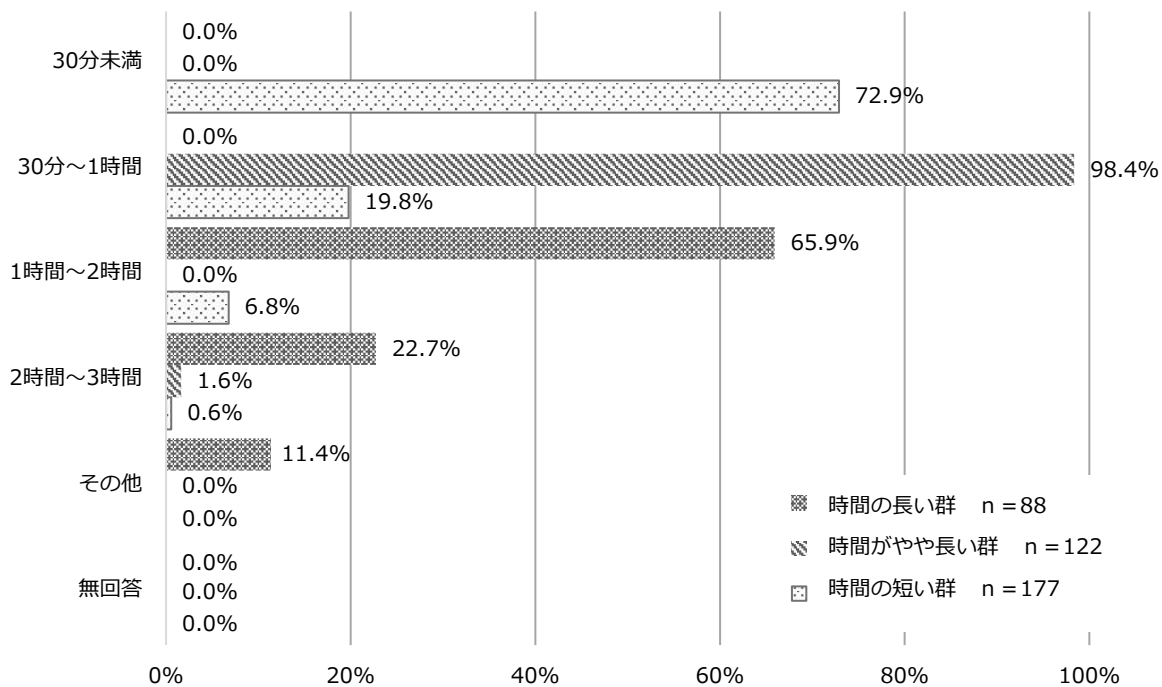
図表 3-1-4 世話をする日数



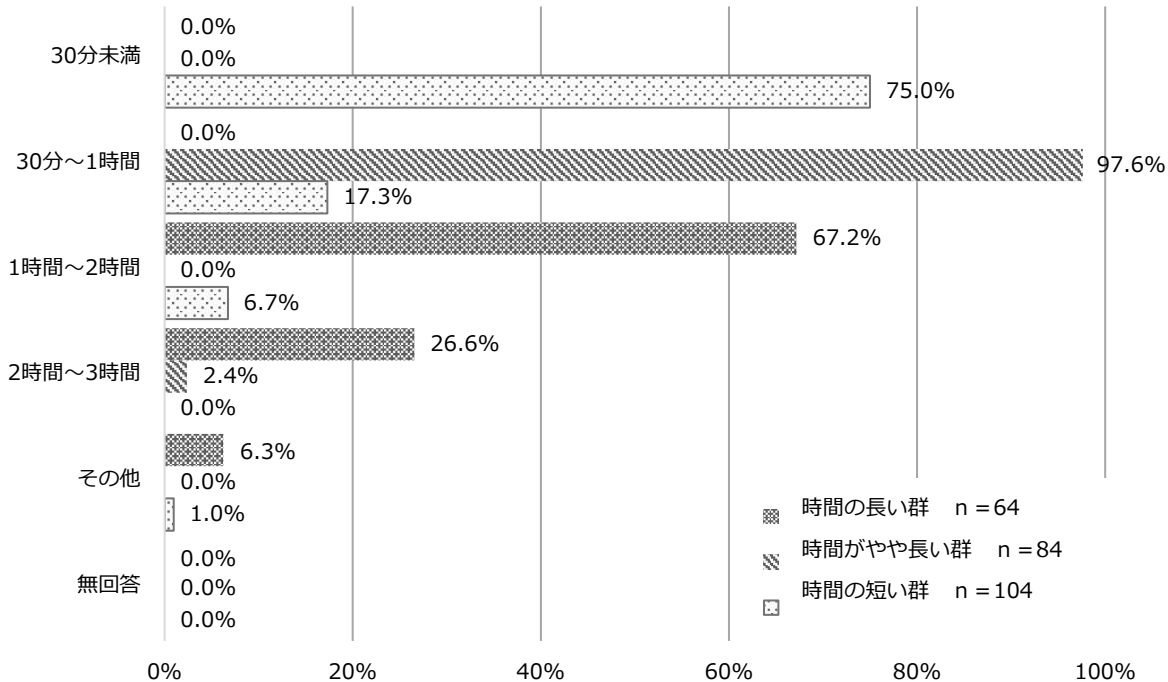
【問 15】（単一回答）あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか。

図表 3-1-5 世話をする時間

【小 6】

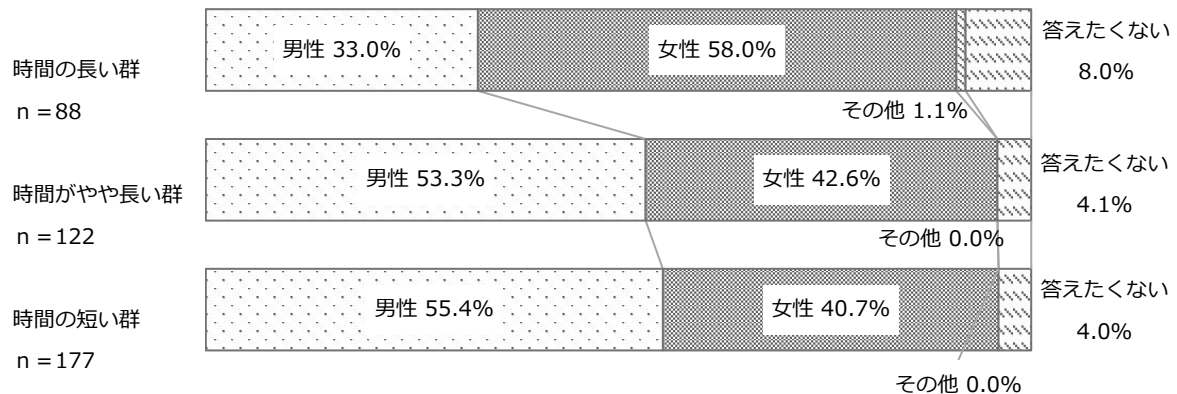


【中 2】



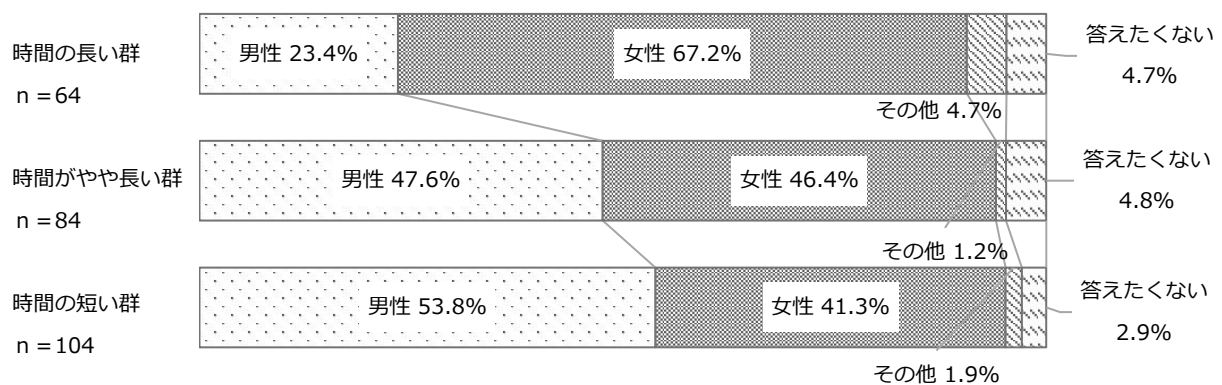
図表 3-1-6 世話の時間の長さ別 男女比

【小6】



性別	時間の長い群	時間がやや長い群	時間の短い群
男性	29	65	98
女性	51	52	72
その他	1	0	0
答えたくない	7	5	7
計	88	122	177

【中2】



性別	時間の長い群	時間がやや長い群	時間の短い群
男性	15	40	56
女性	43	39	43
その他	3	1	2
答えたくない	3	4	3
計	64	84	104

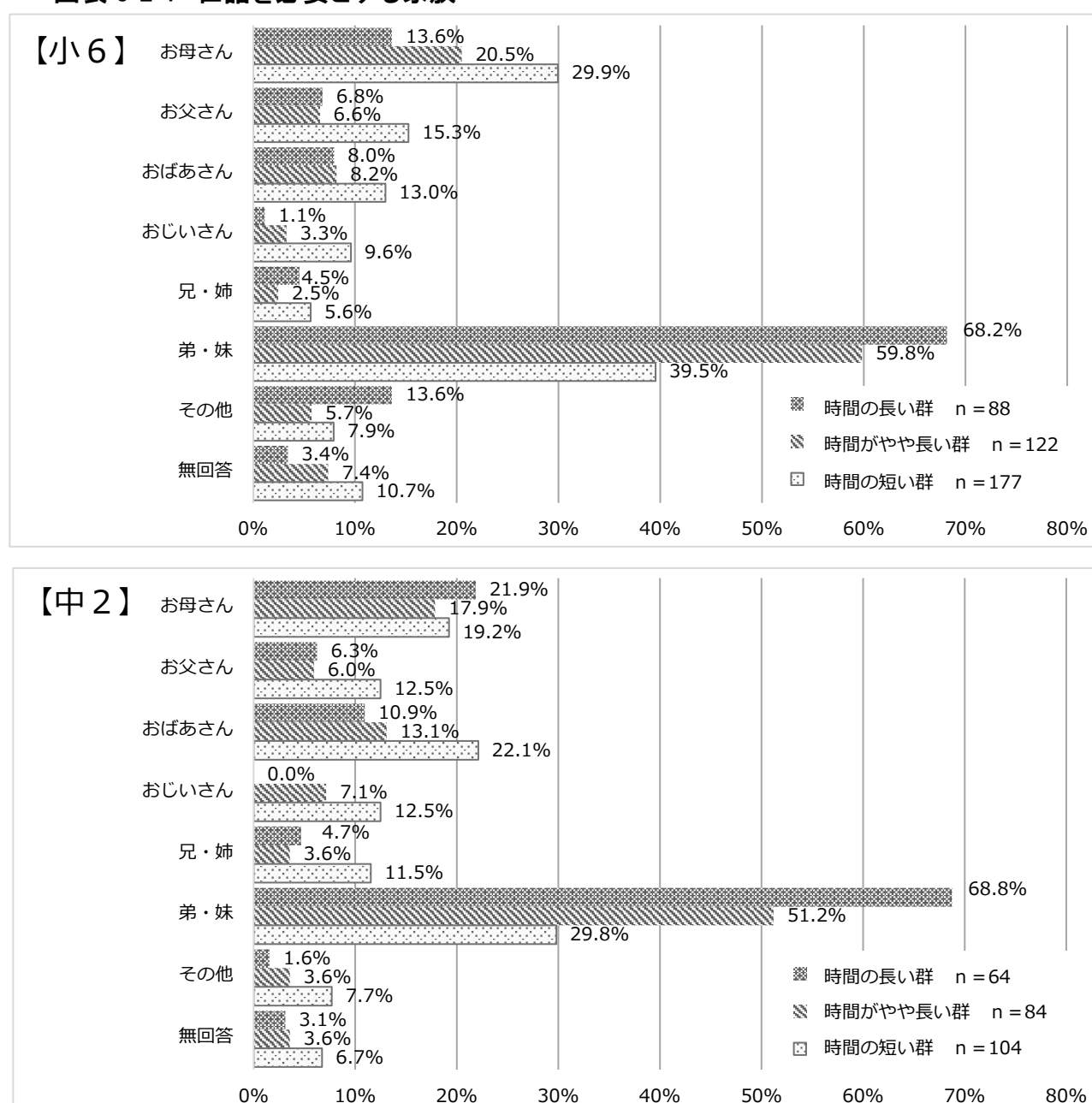
3-2 家族の世話をする児童・生徒の状況

3-2-1 世話をする対象者

世話を必要とする家族は、いずれの群も「弟・妹」が多く、小学生、中学生ともに「時間の長い」群でその回答が多くなる特徴がある。「時間の短い」群では、「祖父母」が他の群と比べてやや多くなっている（図表 3-2-1）。

【問 9】（複数回答） お世話を必要とする人はだれですか。

図表 3-2-1 世話を必要とする家族

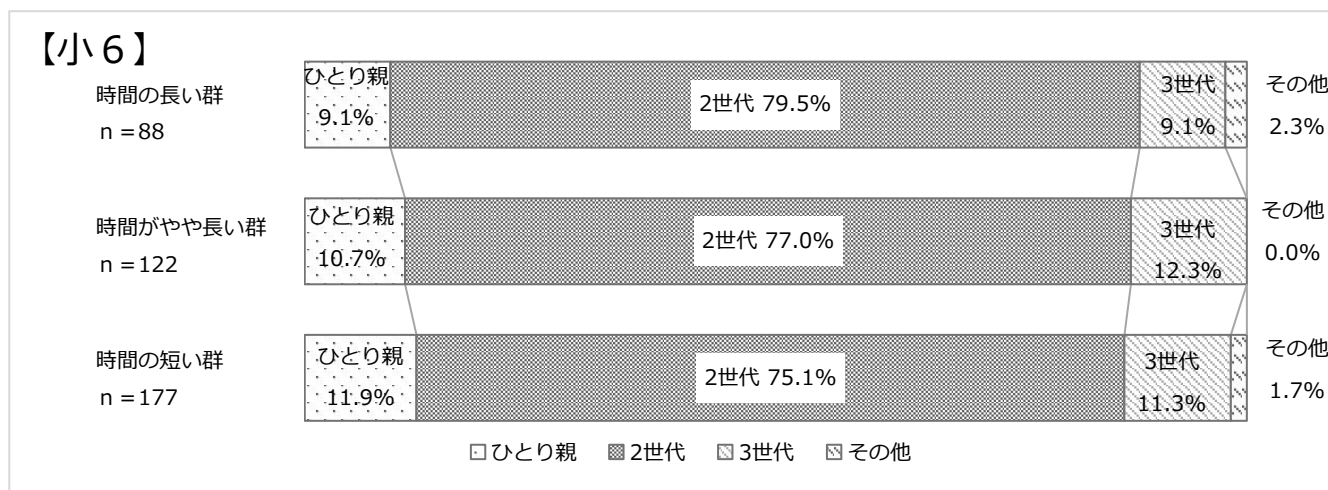
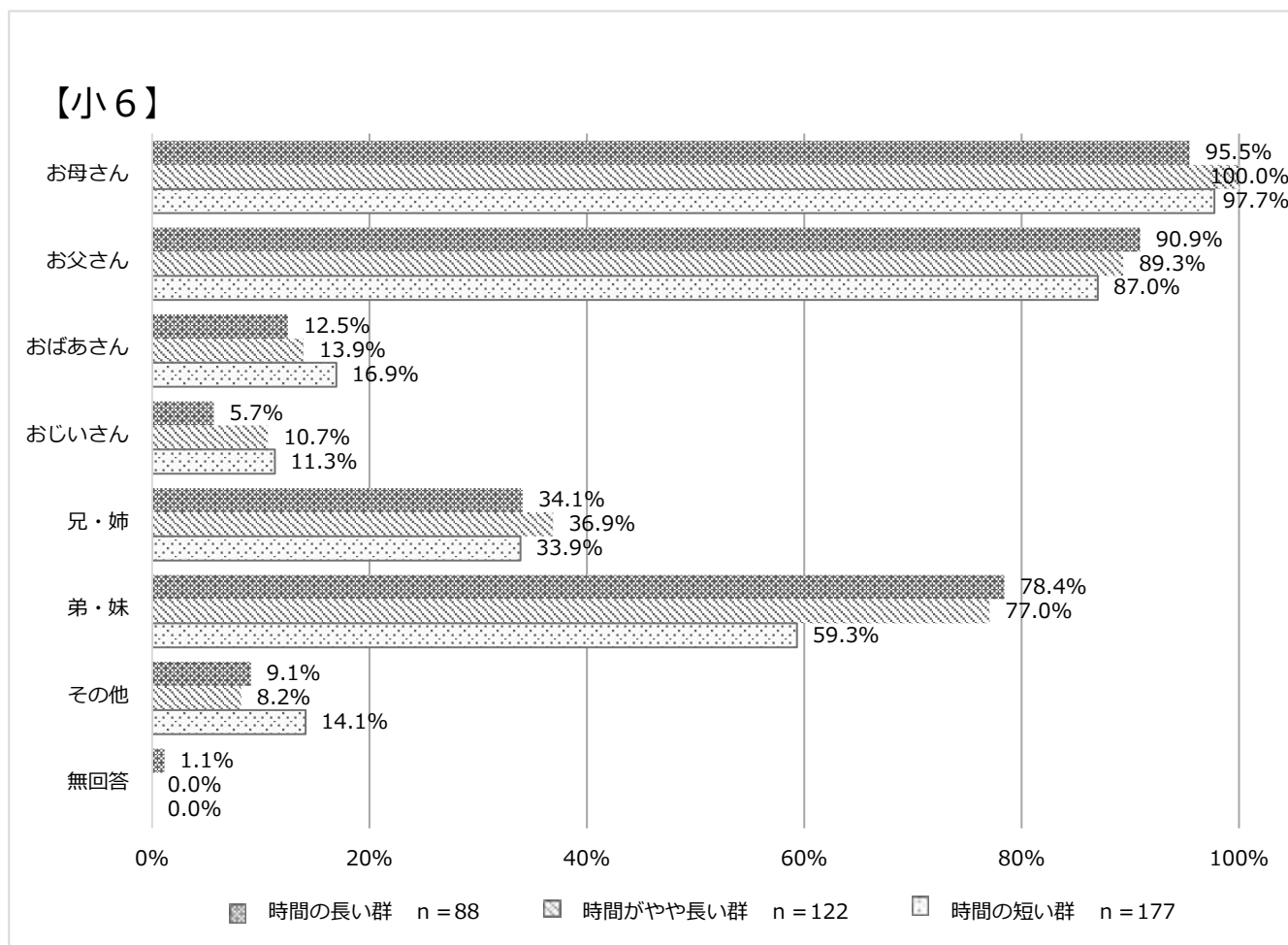


3-2-2 世帯構成

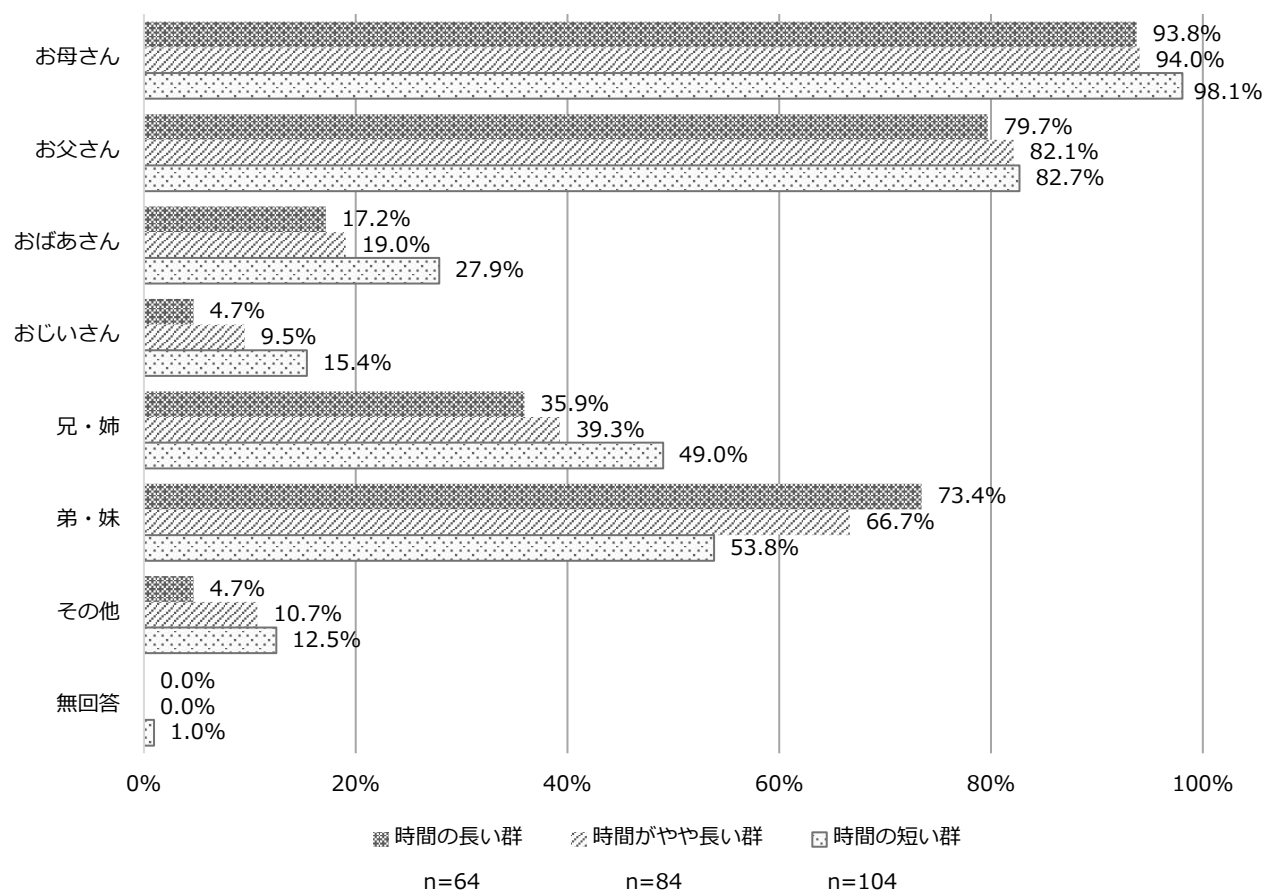
世帯構成においては、すべての群で「2世代」が多いが、中学生においては「時間の長い」群で「ひとり親世帯」がやや多く、「時間の短い」群で「3世代」が多い特徴がみられる（図表 3-2-2）。

【問 7】（複数回答） いっしょに住んでいる人はだれですか。（回答から世帯状況を分類）

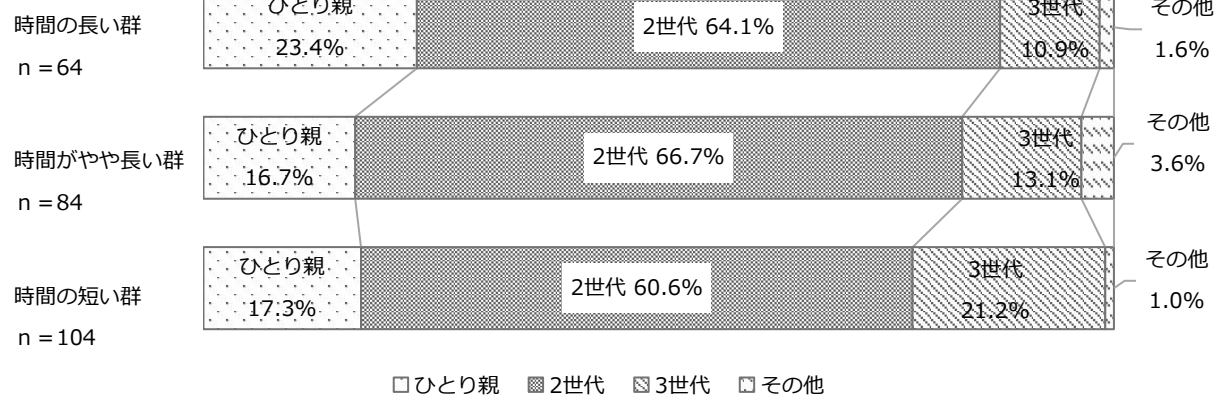
図表 3-2-2 同居家族と世帯状況



【中2】



【中2】



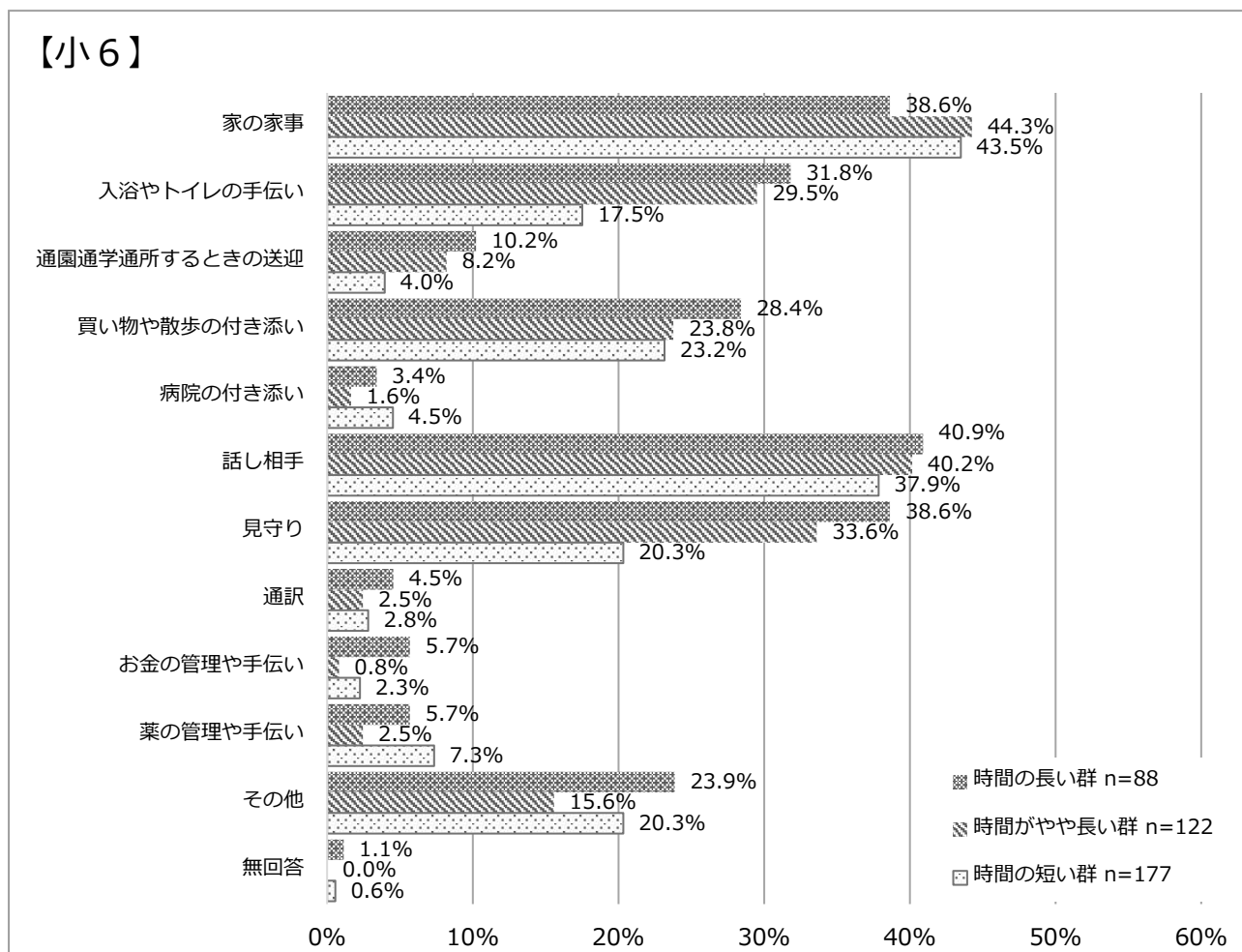
3-3 世話の内容と理由

3-3-1 世話の内容

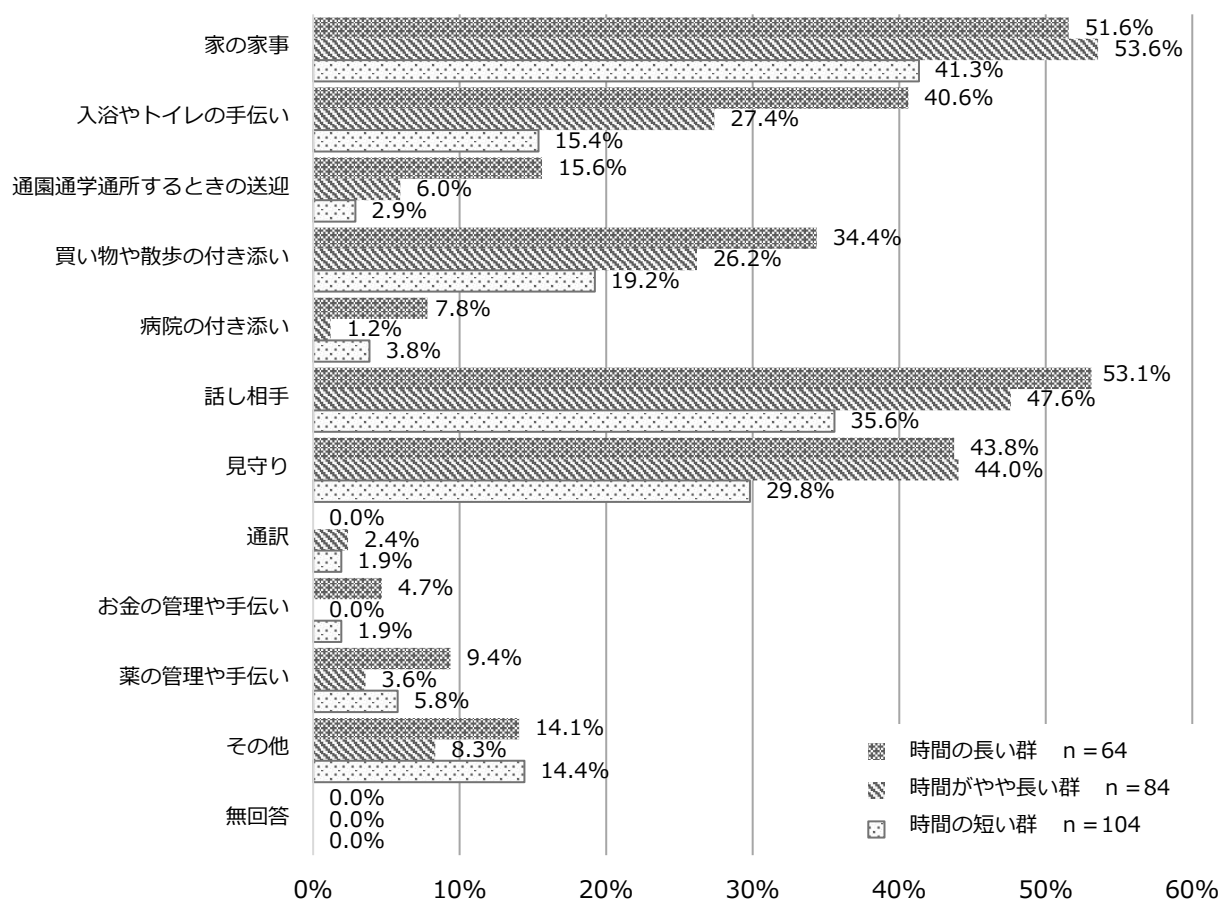
世話の内容では、すべての群で「家事」や、「話し相手」、「家族の見守り」が多いが、順位は群によって異なっている。「時間の長い」群では、「話し相手」、「家事」の順であるが、他の群では「家事」、「話し相手」となっている（図表 3-3-1）。また、中学生の「時間の長い」群では、「入浴やトイレの手伝い」、「買い物や散歩の付き添い」なども多く、子どもが幅広く日常生活で家族の世話に関わっていると考えられる。

【問 12】（複数回答）あなたがしているお世話の内容を教えてください。

図表 3-3-1 世話の内容



【中2】



3-3-2 世話をする理由

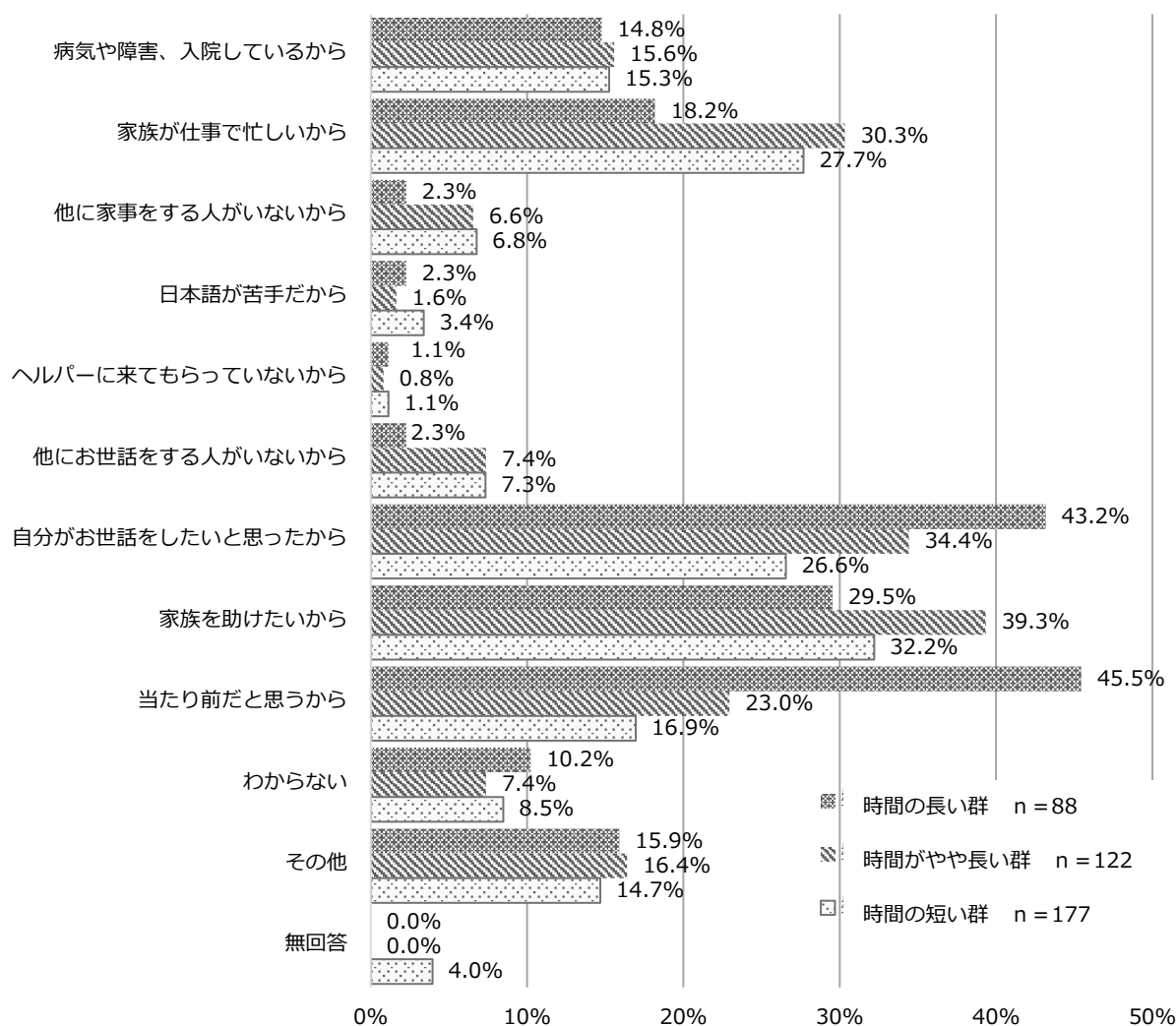
世話をする理由では、「自分が世話をしたいと思った」、「当たり前だと思う」、「家族を助けたい」といった世話に自発的に関わろうとする気持ちを理由にした回答がすべての群において多く、特に「時間の長い」群で「当たり前だから」の回答が多い特徴がある。

また、中学生の「時間の長い」群および「時間がやや長い」群では、気持ちによる理由よりも、具体的な家庭状況の「家族が仕事で忙しいから」の割合が最も高くなっている（図表 3-3-2）。中学生は、自分の置かれた環境をより理解して回答していると考えられる。

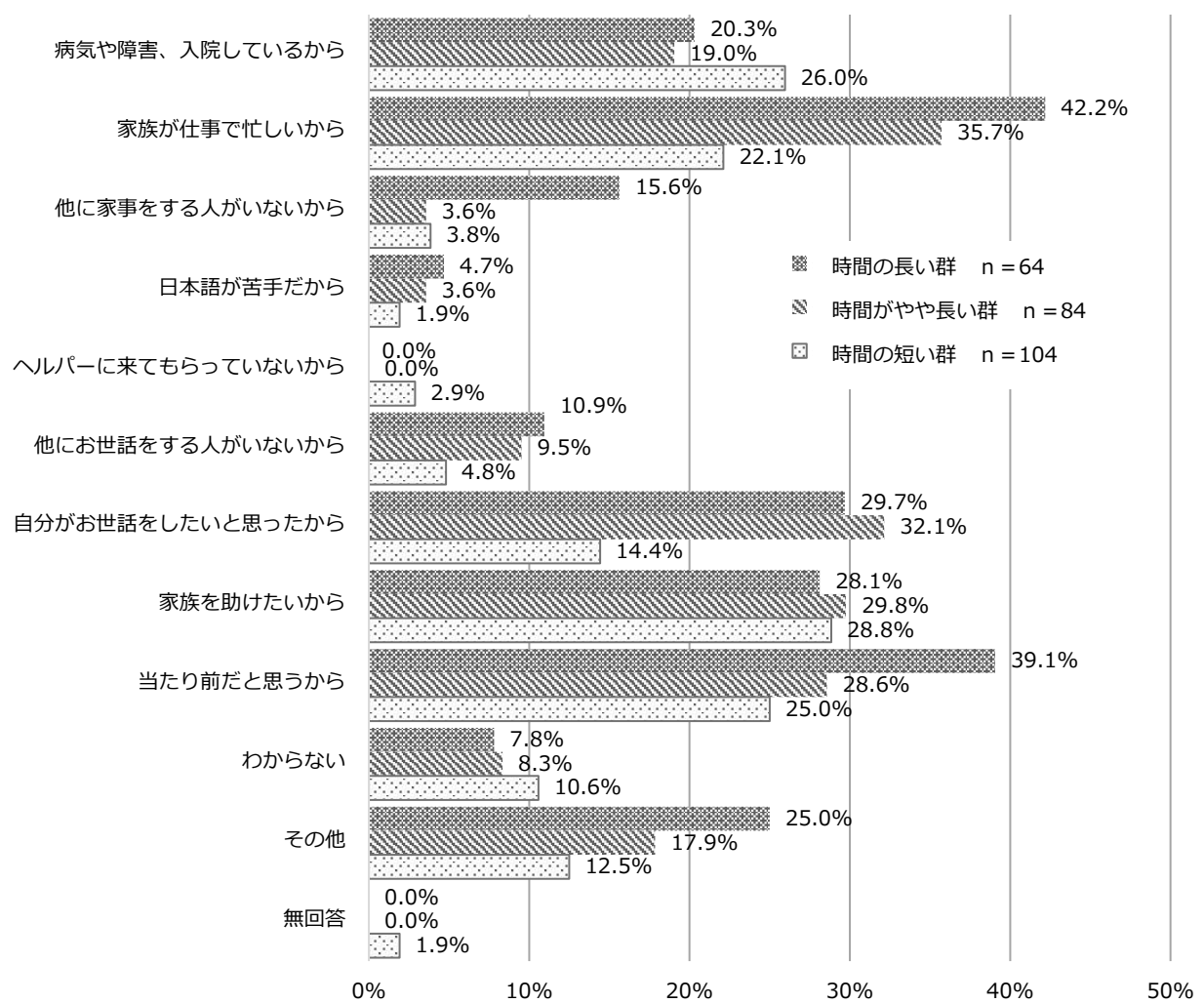
【問 13】（複数回答）あなたがお世話をしている理由を教えてください。

図表 3-3-2 世話をする理由

【小 6】



【中2】



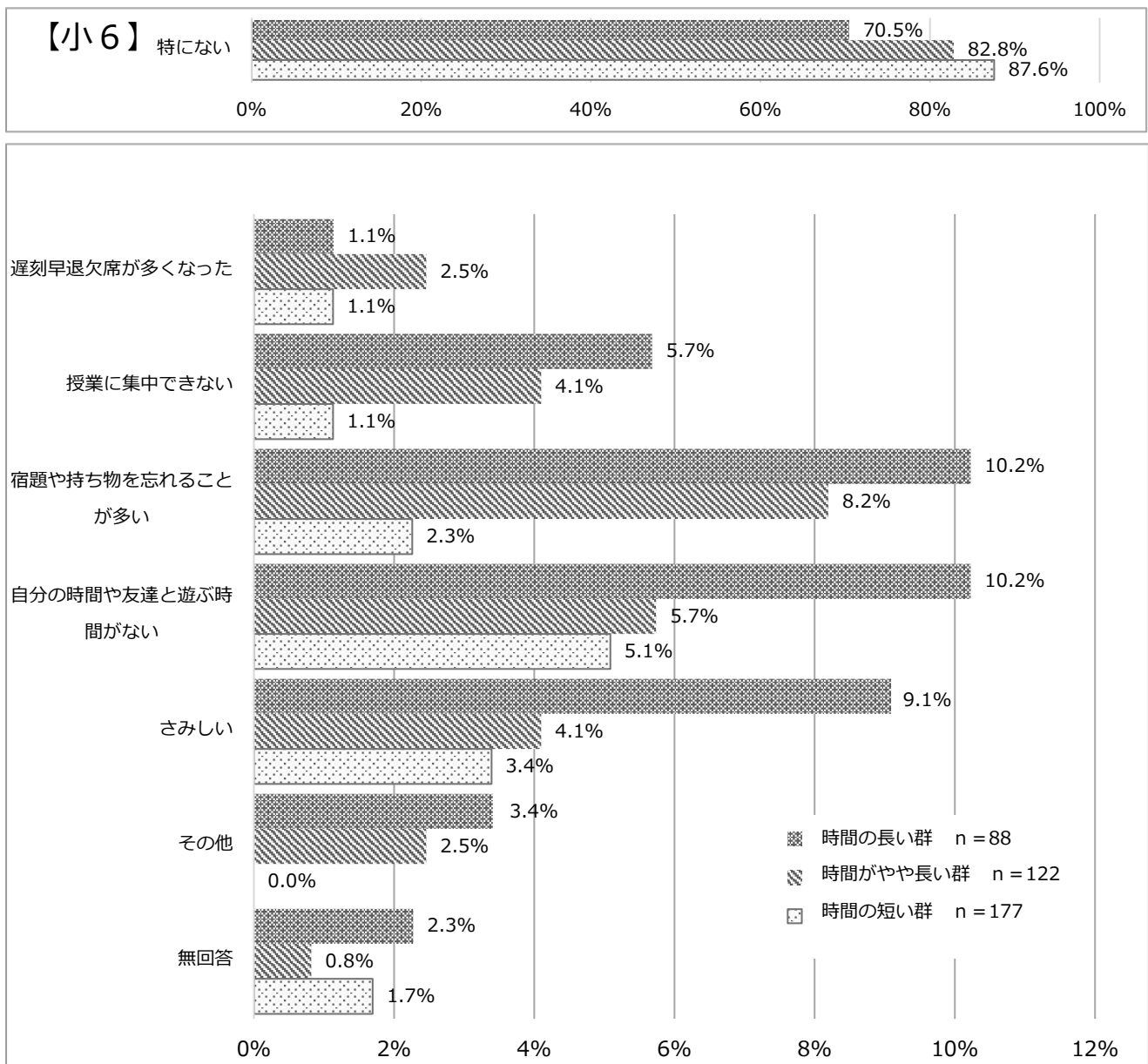
3-4 世話をすることによる影響と思い

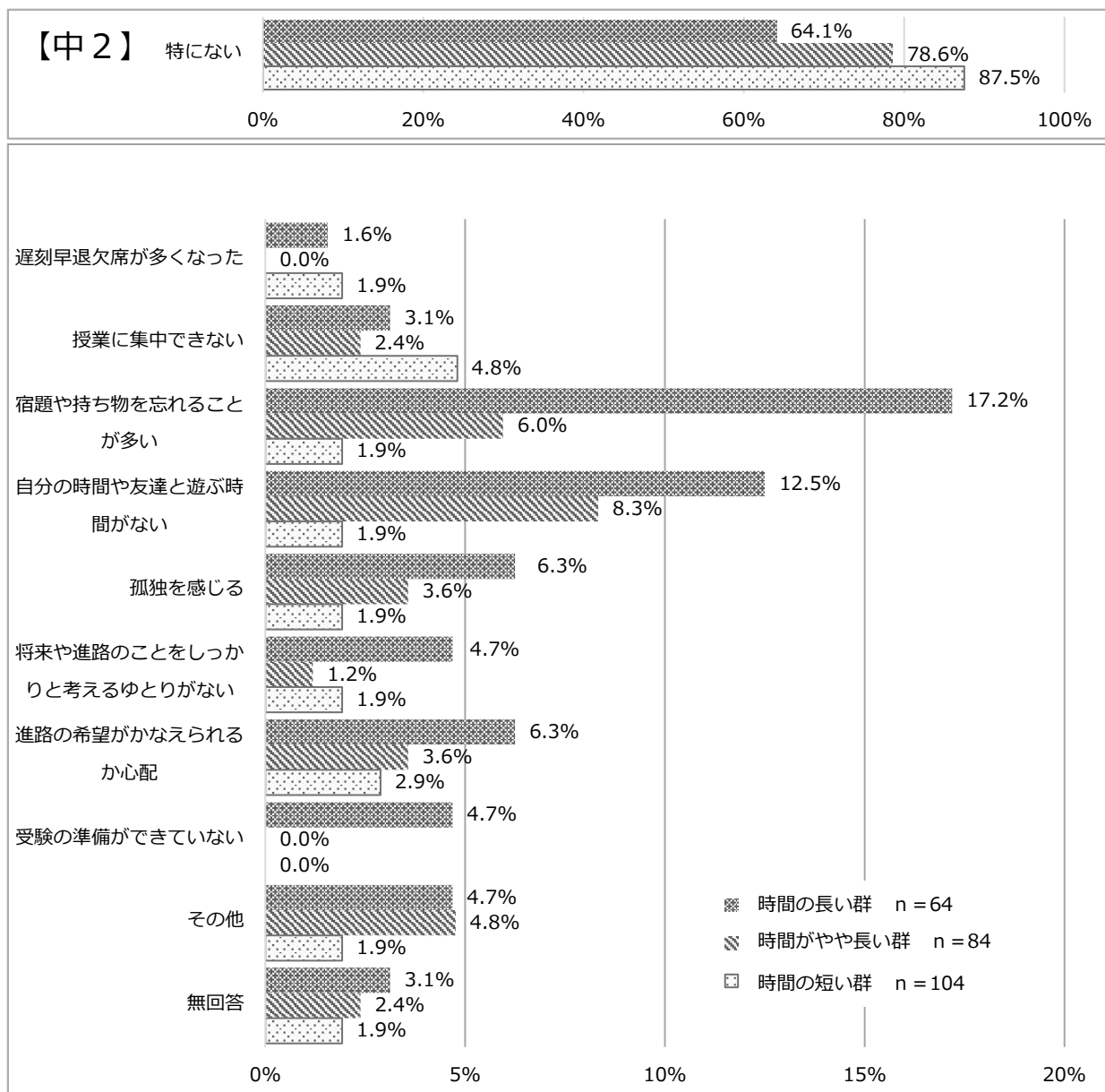
3-4-1 世話をすることによる影響

世話をすることによる影響は、小学生、中学生ともに「特にない」がすべての群で特に多いが、「時間の短い」群でより回答は多くなる。「時間の短い」群では、具体的な選択が少なくなる傾向がある。「宿題や持ち物を忘れることが多い」、「自分の時間や友達と遊ぶ時間がない」の選択は「時間の長い」群が他の群と比して多くなっており、他の具体的な項目の選択も多い傾向にある（図表 3-4-1）。「時間の長い」群は具体的に世話の影響を感じていると考えられる。

【問 16】（複数回答）お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか。

図表 3-4-1 世話をすることによる影響





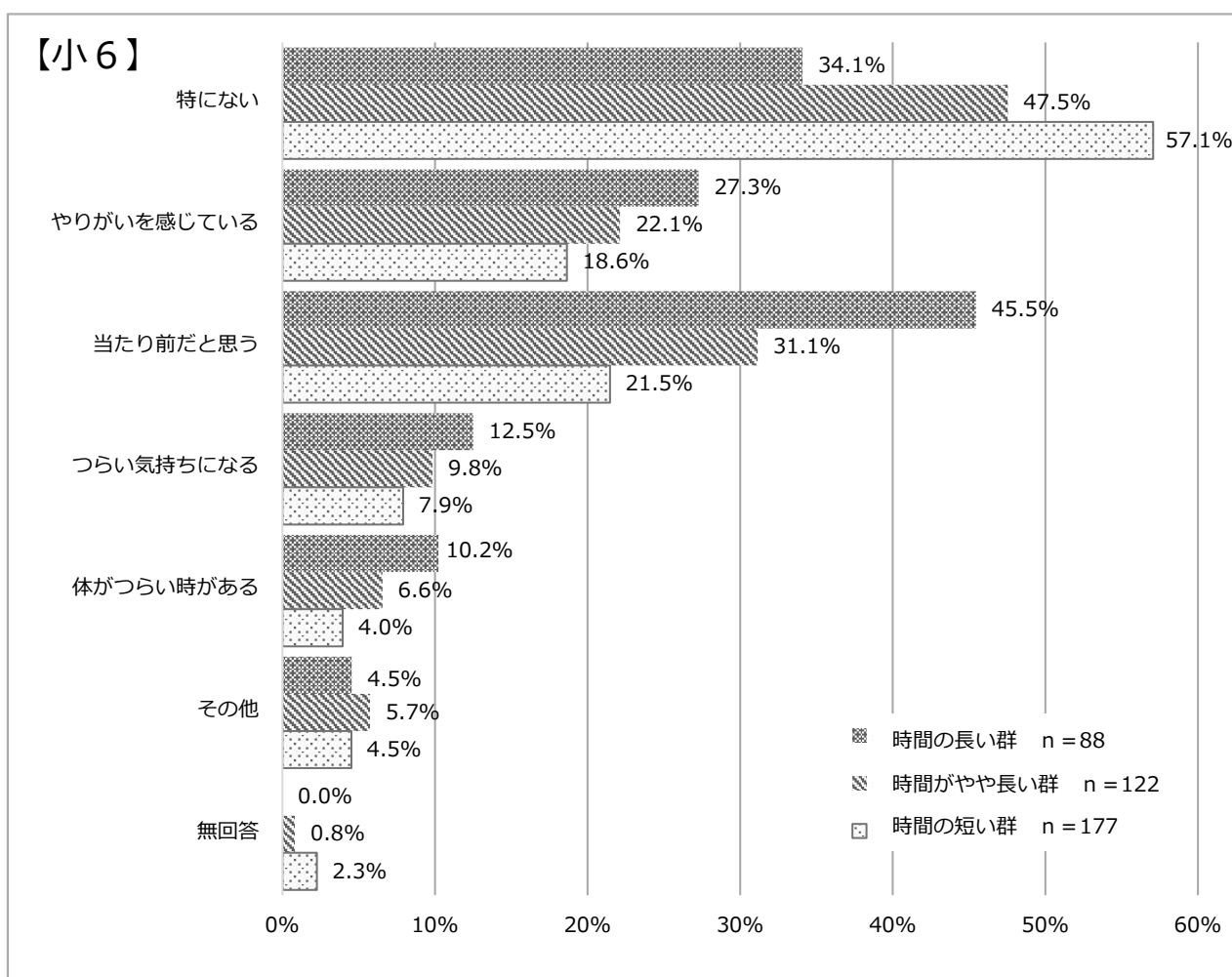
3-4-2 世話をすることについて思っていること

本人が思っていることとしては、すべての群で「特にない」が多い。特徴的な傾向として、「時間の長い」群で具体的な項目の選択が他の群に比して多くなっており、世話をすることによる影響と類似の傾向がある。また、「時間の長い」群でのみ「当たり前だと思う」が「特にない」より多くなっており、世話をすることに対しての思いが、他の群に比べ強いと考えられる（図表 3-4-2）。

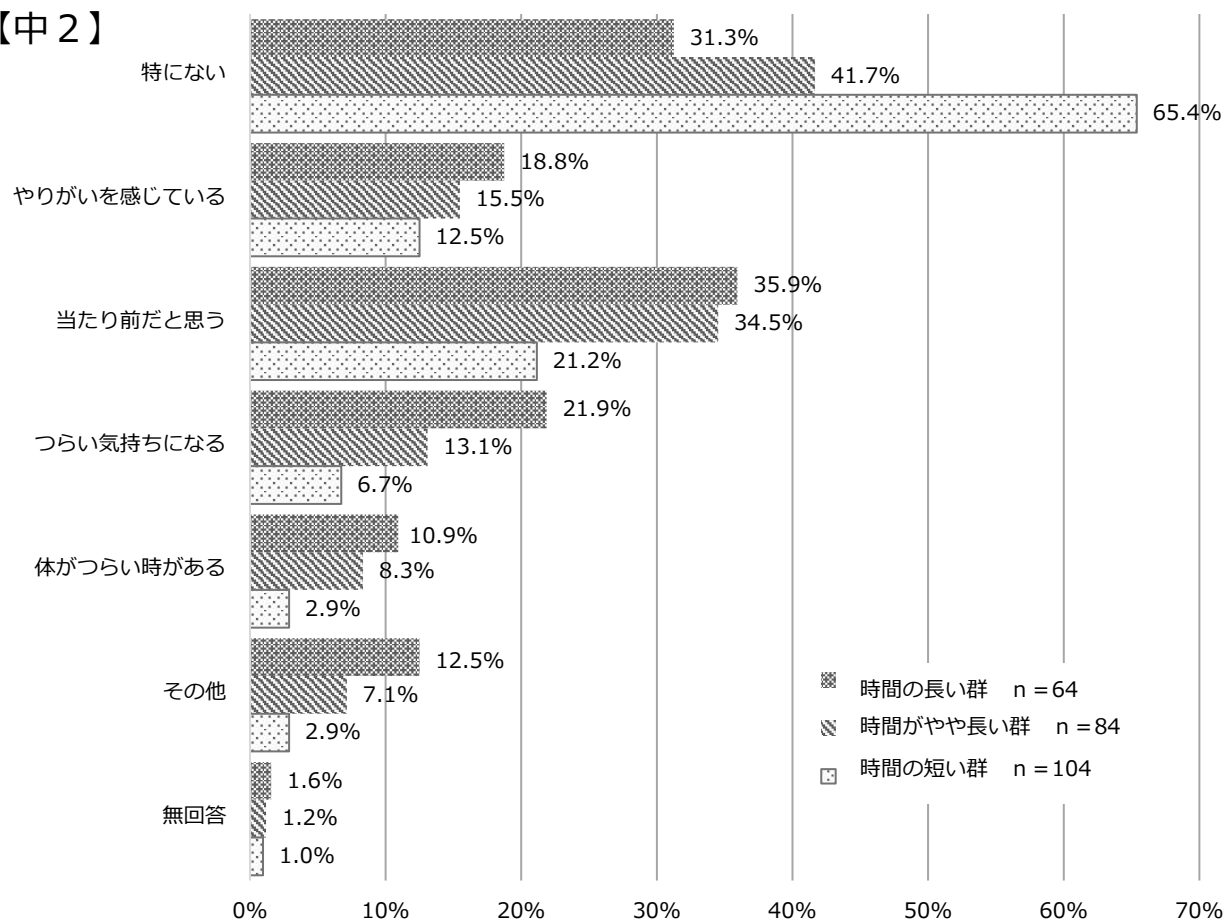
また、「世話をすることによる影響」【問 16】と「世話をすることについて思っていること」【問 17】の両設問における「特にない」が選択された割合を比較すると、「世話をすることについて思っていること」の方がすべての群で3割程度低くなっていることから、影響は具体的に答えられないが、思っていることは具体的に答えられたことがわかる（図表 3-4-1、図表 3-4-2）。

【問 17】（複数回答）お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください。

図表 3-4-2 世話をすることについて思っていること



【中 2】

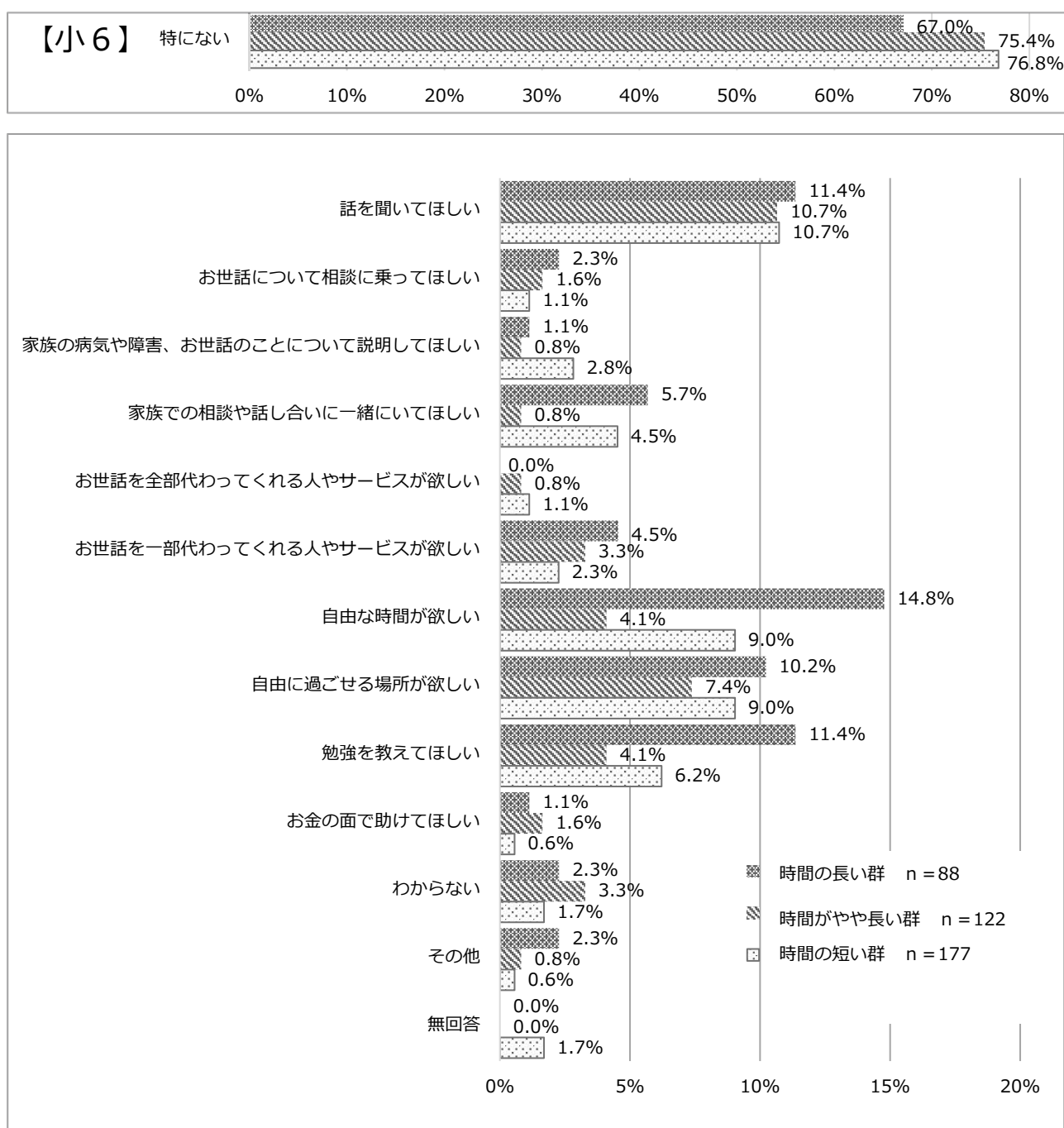


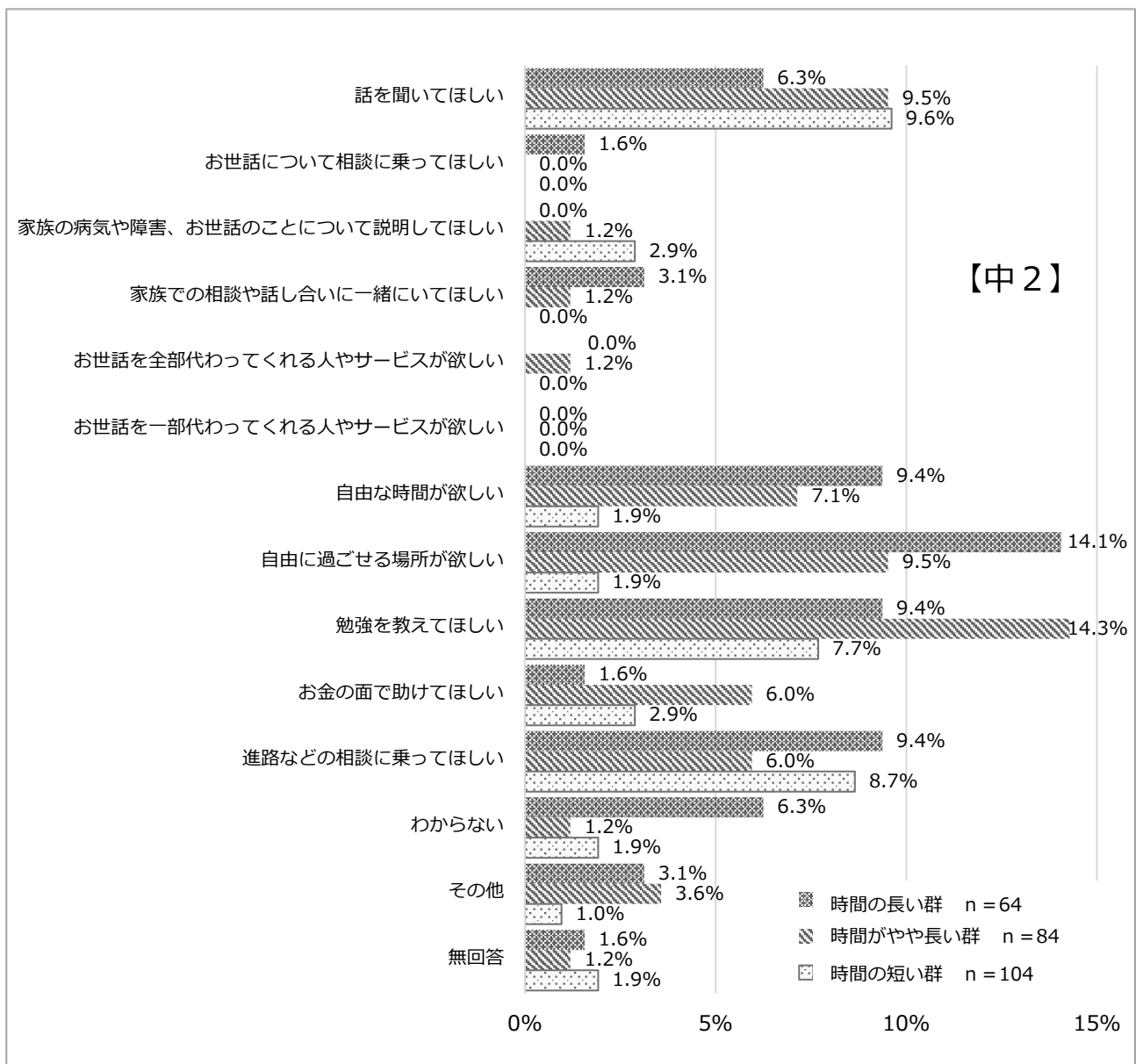
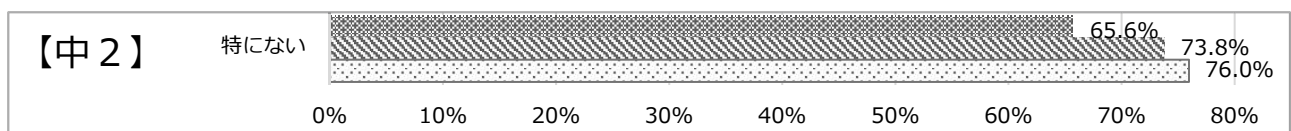
3-4-3 周囲に助けてほしいこと

学校や周りの大人に助けてほしいことでは、すべての群で「特にない」が7割前後と多くなっている。具体的な項目では、すべての群で「話を聞いてほしい」が約1割あり、群間で差異のある項目は、小学生の「時間の長い」群の「自由な時間が欲しい（15%）」、中学生の「時間の長い」群の「自由に過ごせる場所が欲しい（14%）」の回答がやや多くなっている（図表 3-4-3）。

表 3-4-3 学校や周りの大人に助けてほしいこと

【問 18】（複数回答）学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。





3-5 相談の状況

世話の悩みの相談経験は、「ある」の割合が、すべての群で約2割であり、多くの児童・生徒に相談経験がなかった（図表 3-5）。

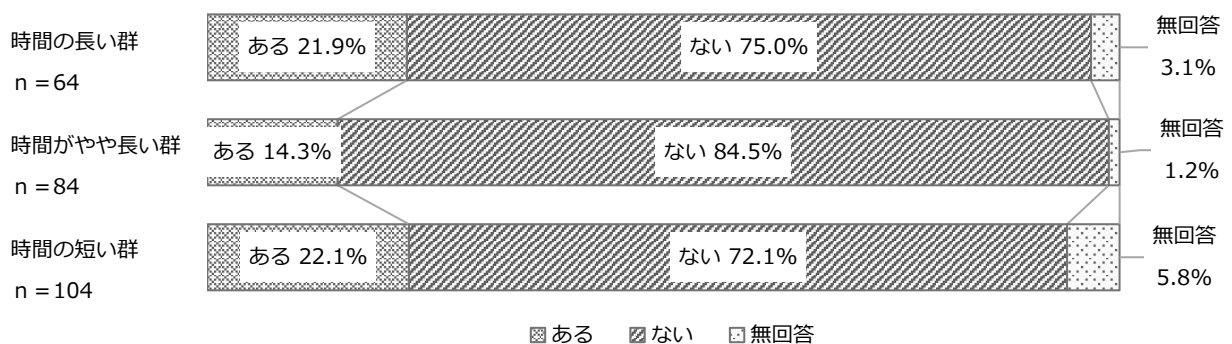
【問 19】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

図表 3-5 世話についての相談経験の有無

【小6】



【中2】





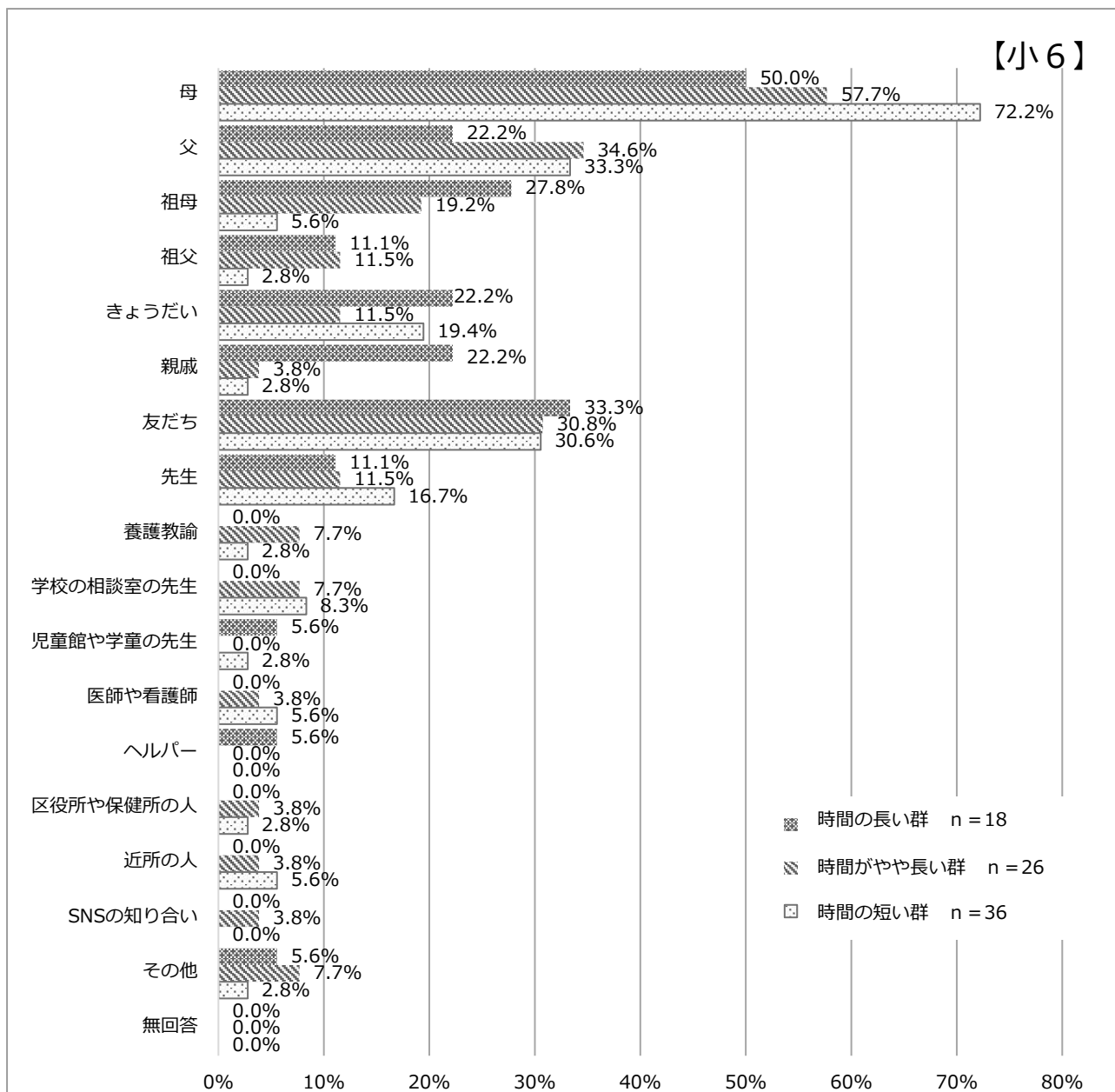
©2011 練馬区ねり丸

3-5-1 相談経験のある子どもの状況

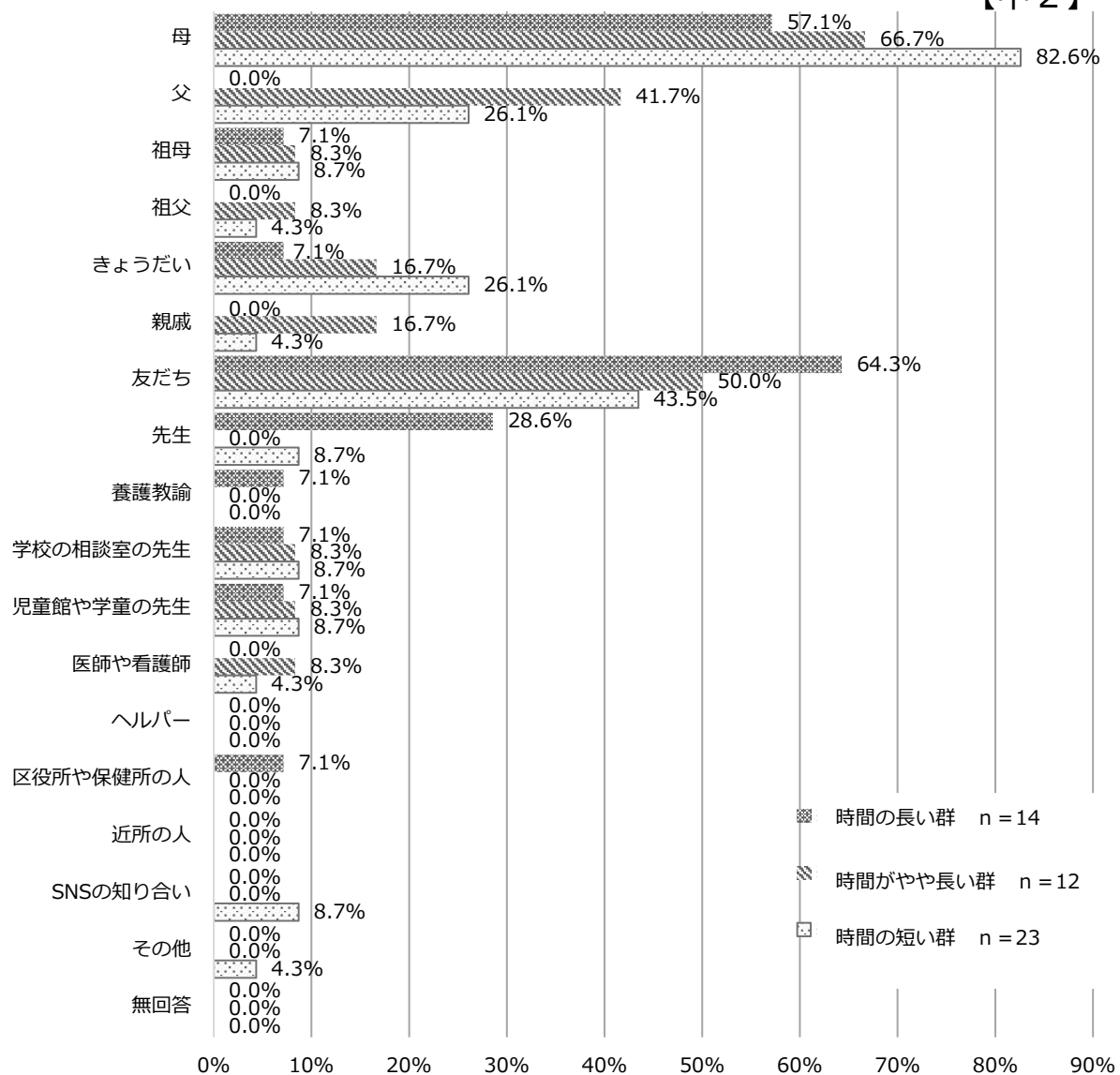
相談経験のある子どもが相談した相手は、「母」、「友だち」が多くなっている。また、「父」や「きょうだい」も一定数あり、世話に関する相談は、家族内での相談が主となっていると考えられる。相談の経験が「ある」【問 19】については、データの個数が少ないため、群間の詳細な分析には留意が必要である。

【問 20】（複数回答）相談した相手の人はだれですか。

図表 3-5-1 世話についての相談相手



【中2】



3-5-2 相談していない理由

相談経験が「ない」と回答した児童・生徒の「相談していない理由」は、すべての群において「誰かに相談するほどの悩みではない」が一番多く、中学生の「時間の長い」群以外のすべての群で4割を超えた。次いで「相談しても変わらないと思うから」が多く、中学生の「時間の長い」群では約3割あり、他の群より約1割多くなっている（図表 3-5-2-1）。

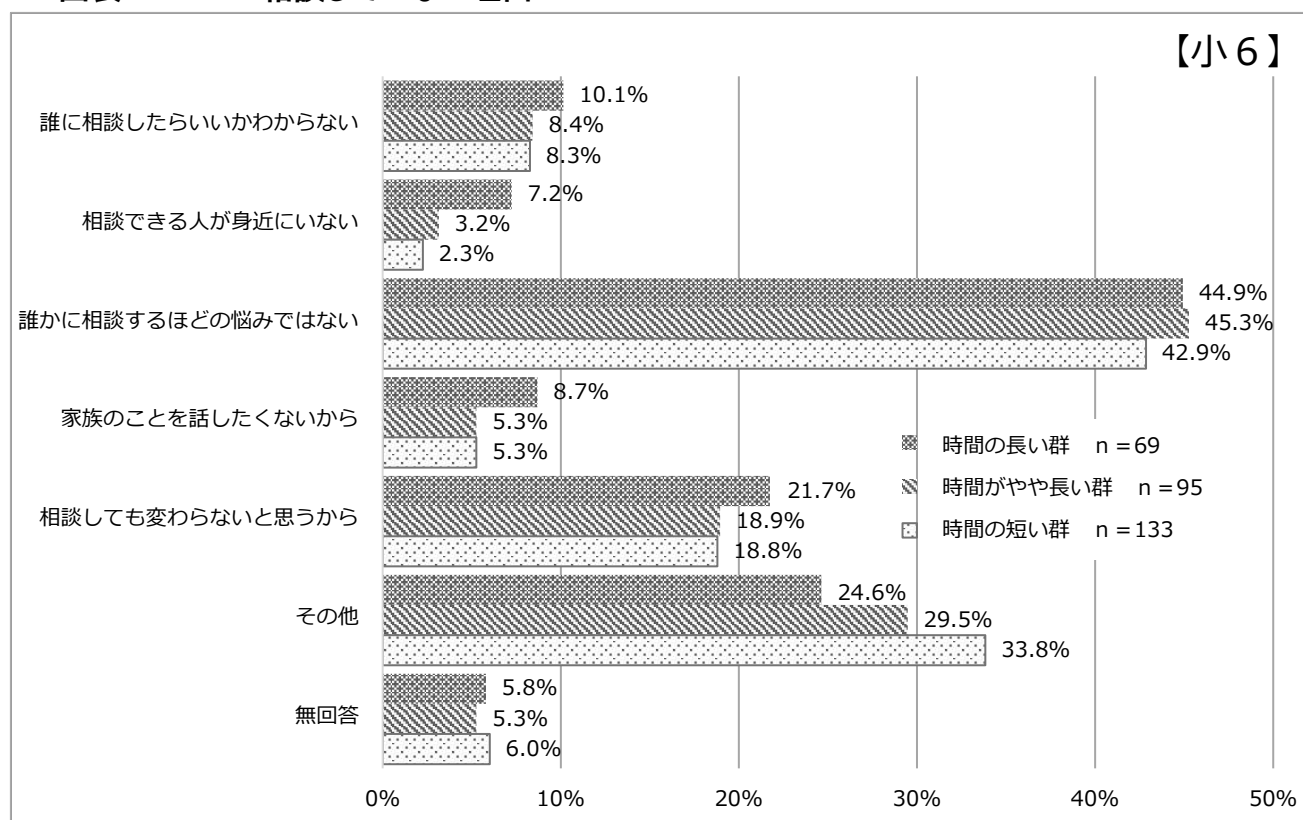
【問 22】悩みを聞いてくれる人の存在において「いる」の回答は、小学生、中学生ともに「時間の長い」群で一番少なくなっている（図表 3-5-2-2）。

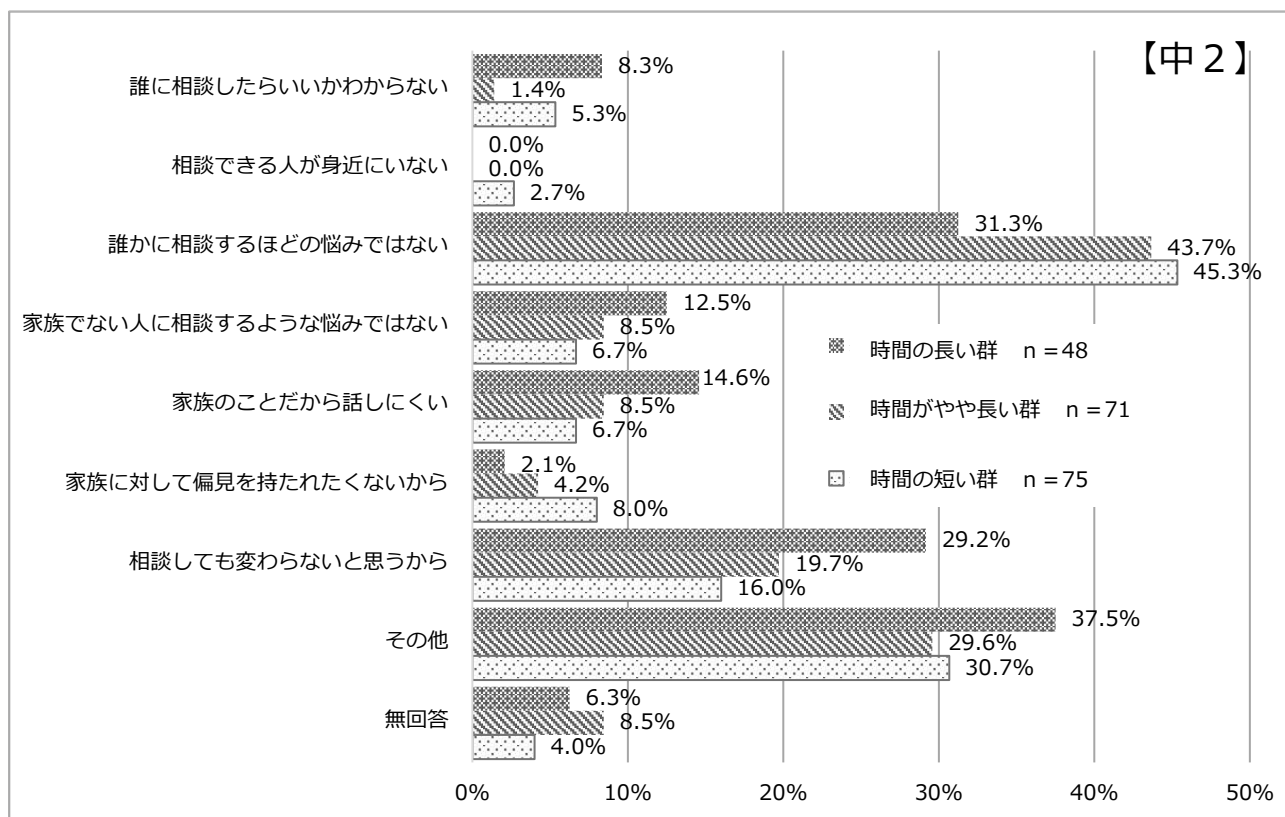
（相談経験のない回答者対象）

【問 21】（複数回答）相談していない理由を教えてください。

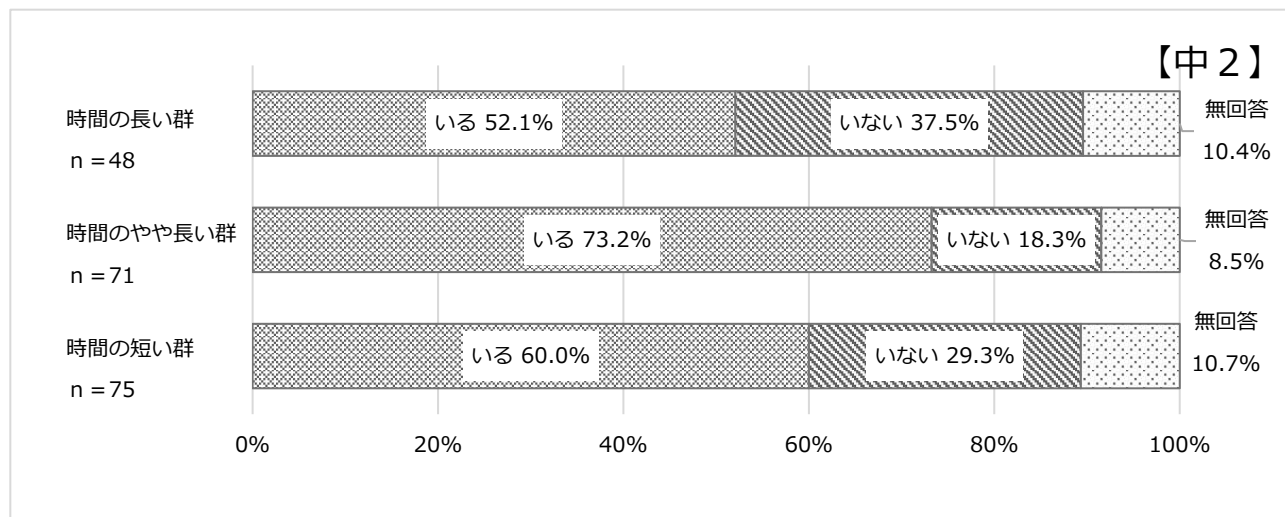
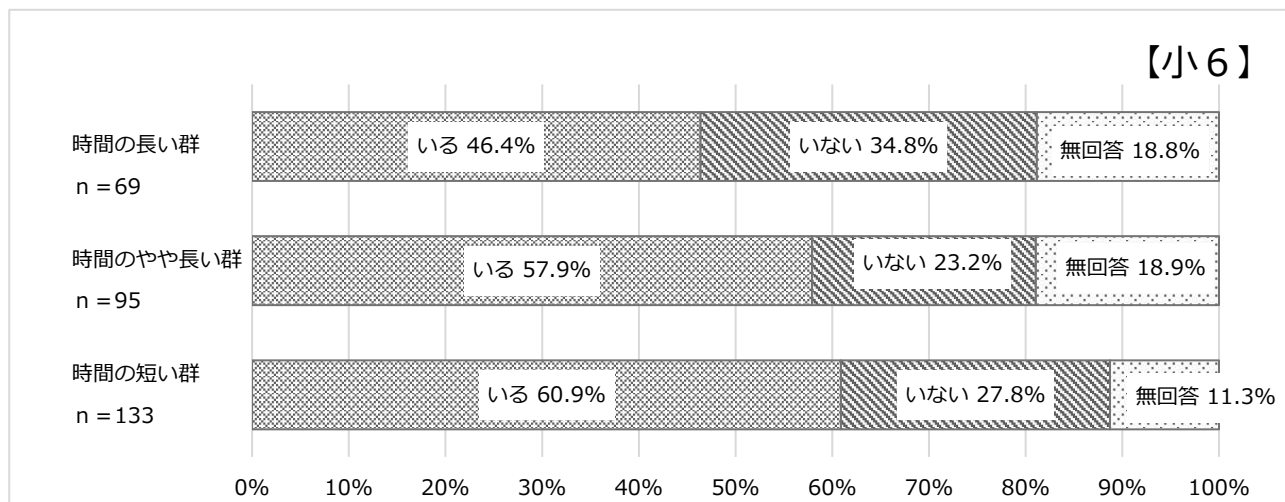
【問 22】（単一回答）お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

図表 3-5-2-1 相談していない理由





図表 3-5-2-2 悩みを聞いてくれる人の存在



3-6 家族の世話をしている児童・生徒の平日の生活状況

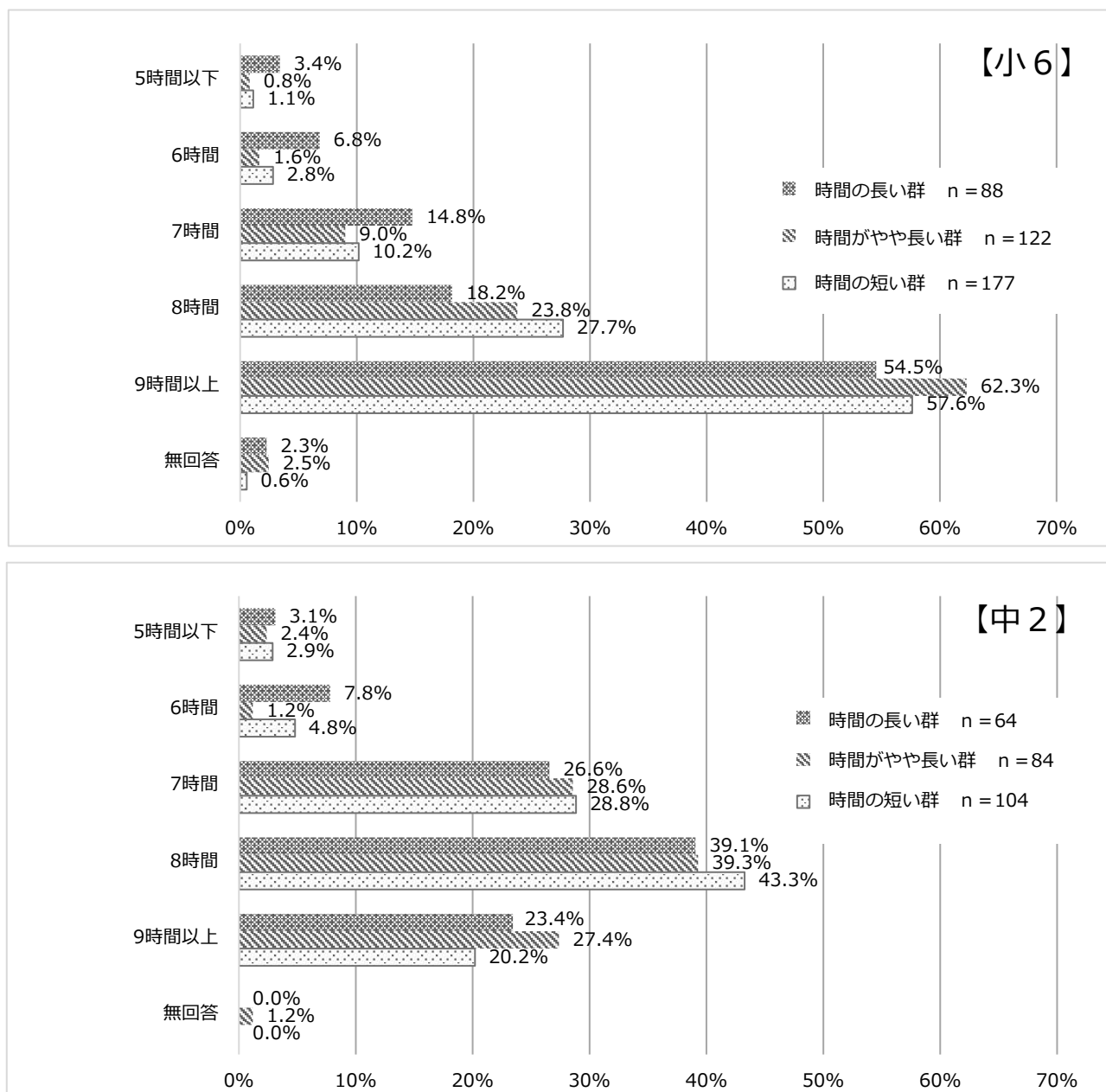
3-6-1 睡眠と朝食

睡眠時間については、「時間の長い」群で、小学生で7時間以下、中学生で6時間以下が他の群よりやや多い傾向があるが、差は小さく評価には留意が必要である（図表 3-6-1-1）。

朝食の喫食状況については、「時間の長い」群は他の群より「毎日食べている」の回答が少ない。「どちらかといえば食べている」を合わせてもその傾向は変わらない（図表 3-6-1-2）。

※【問 2】起床時間と【問 6】就寝時間の回答から算出

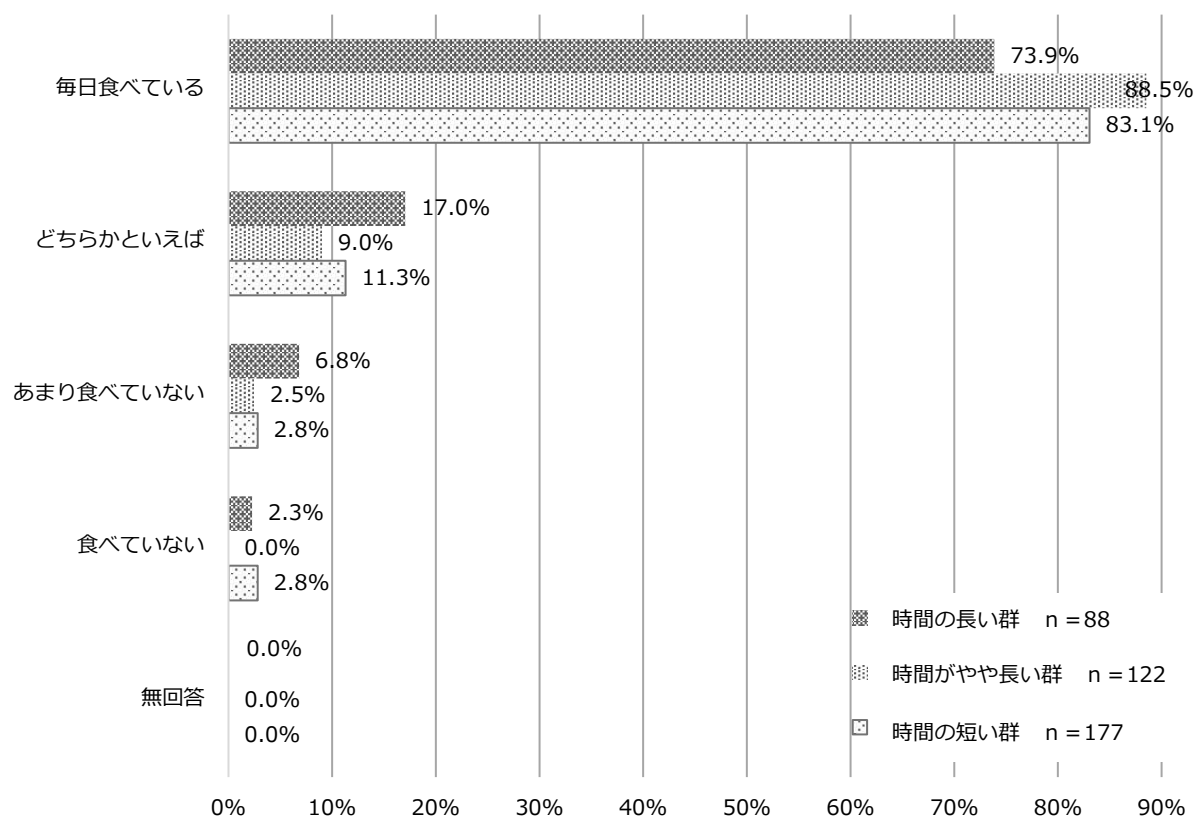
図表 3-6-1-1 睡眠時間



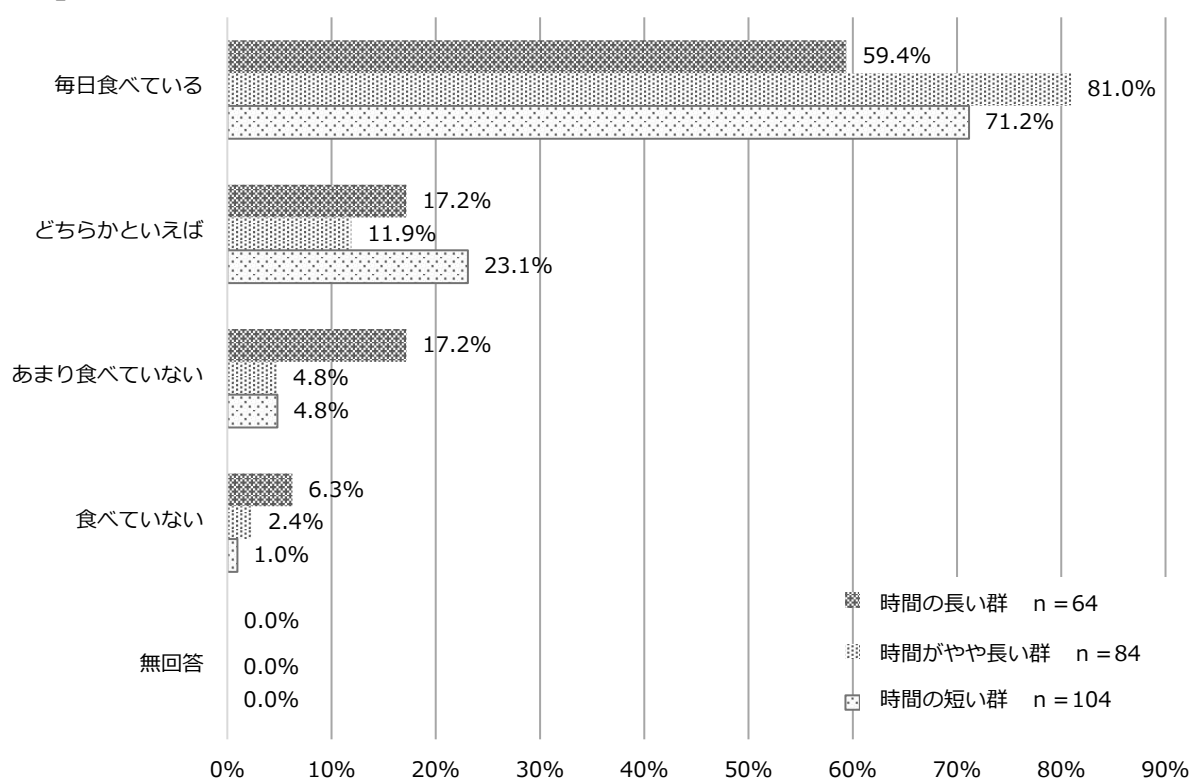
【問 3】（単一回答）朝食を毎日食べていますか。

図表 3-6-1-2 朝食の喫食状況

【小 6】



【中 2】



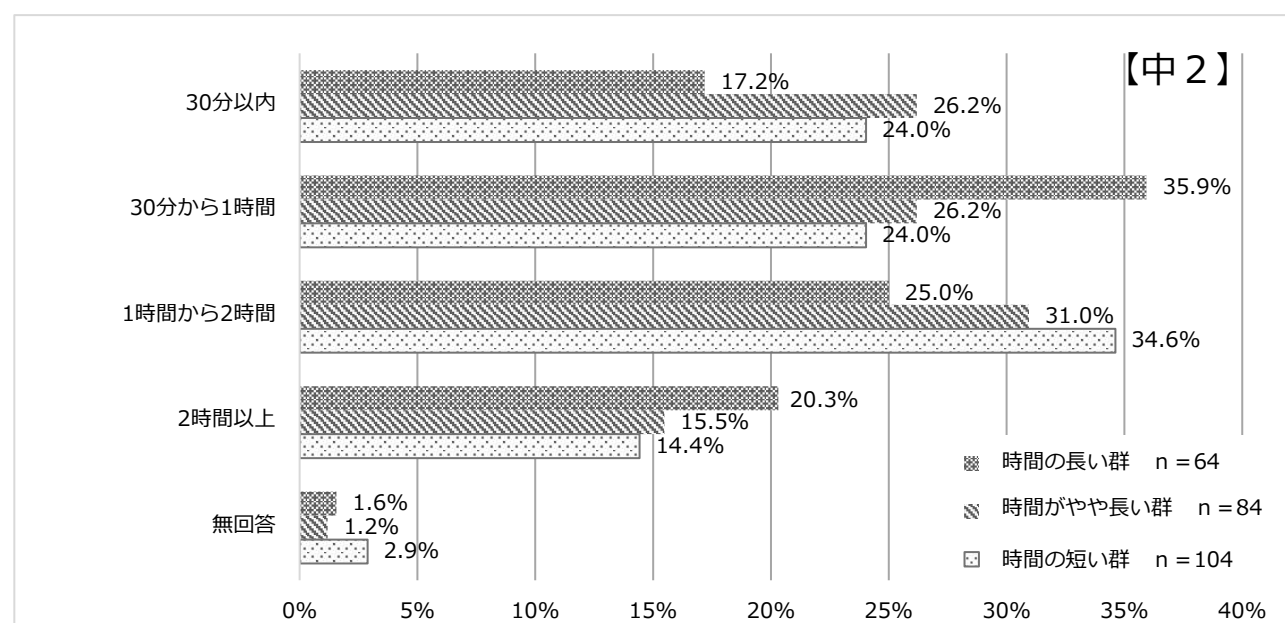
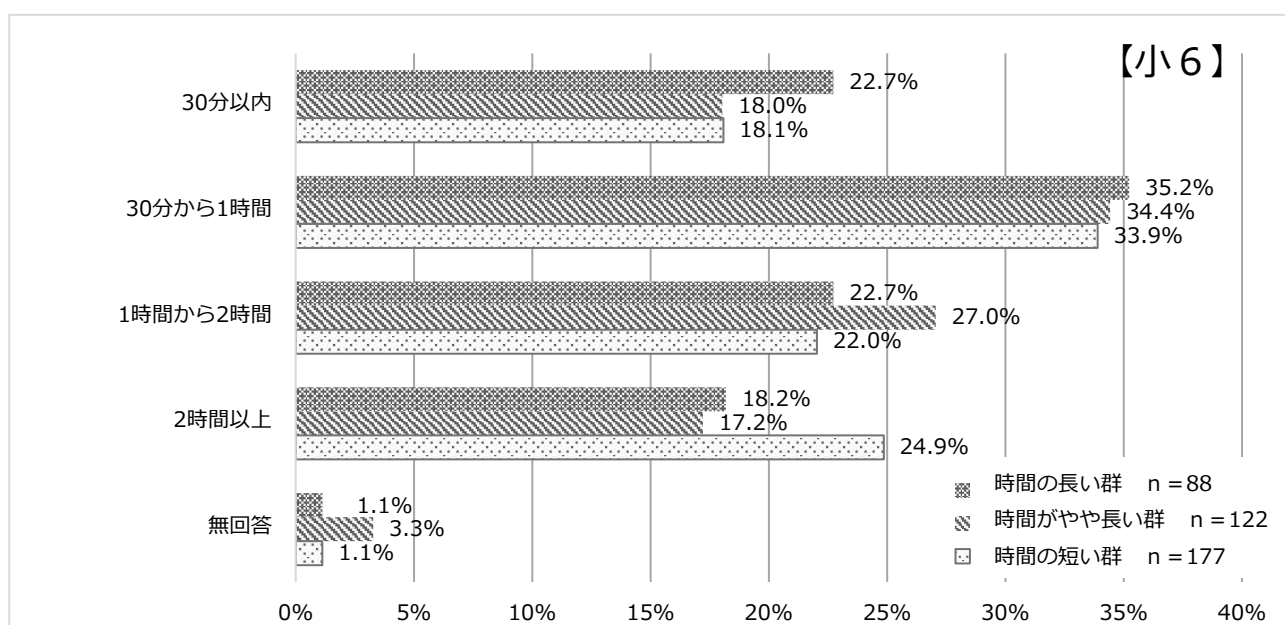
3-6-2 自分の時間

勉強時間については、小学生では「時間の長い」群で他の群より「30 分以内」の回答がやや多く、「2 時間以上」は「時間の短い」群で多くなっている。一方で、中学生では「時間の長い」群の「30 分以内」が他の群と比べて少なく、「2 時間以上」は多くなっている。小学生と中学生の結果には顕著な差異がある（図表 3-6-2-1）。

自由時間については、小学生では各群間に特徴的な差異は認められないが、中学生では「時間のやや長い」群で「1 時間から 2 時間」の割合が高くなっている。

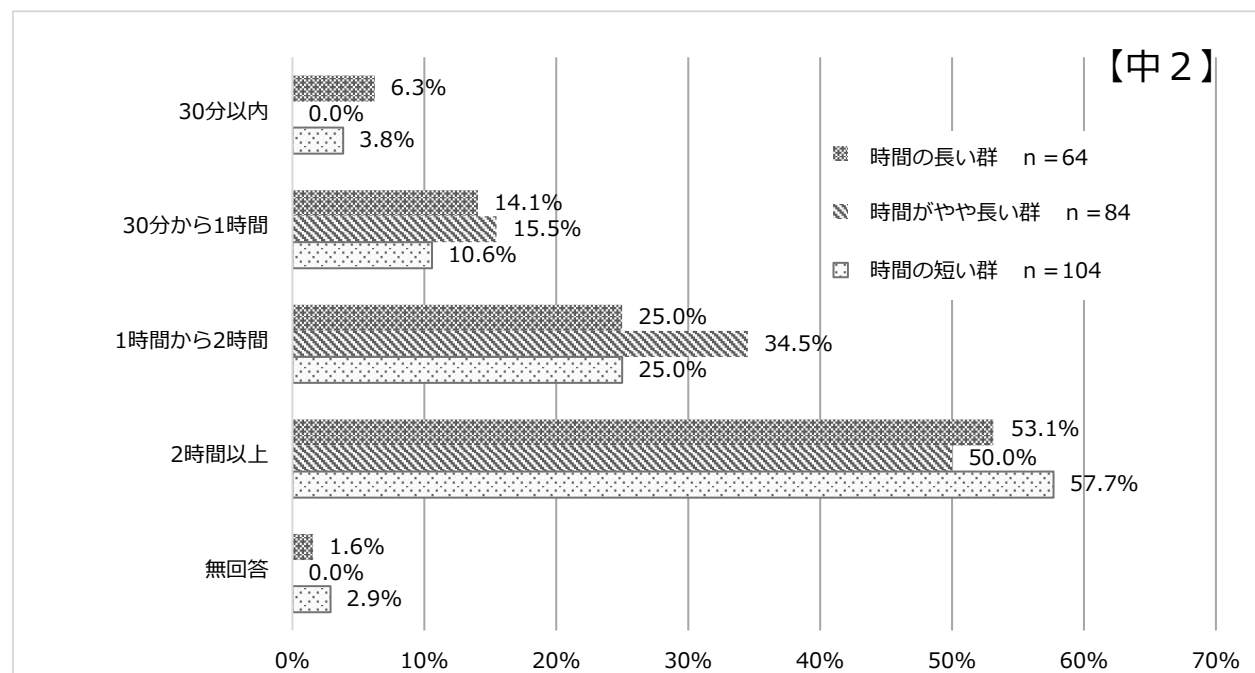
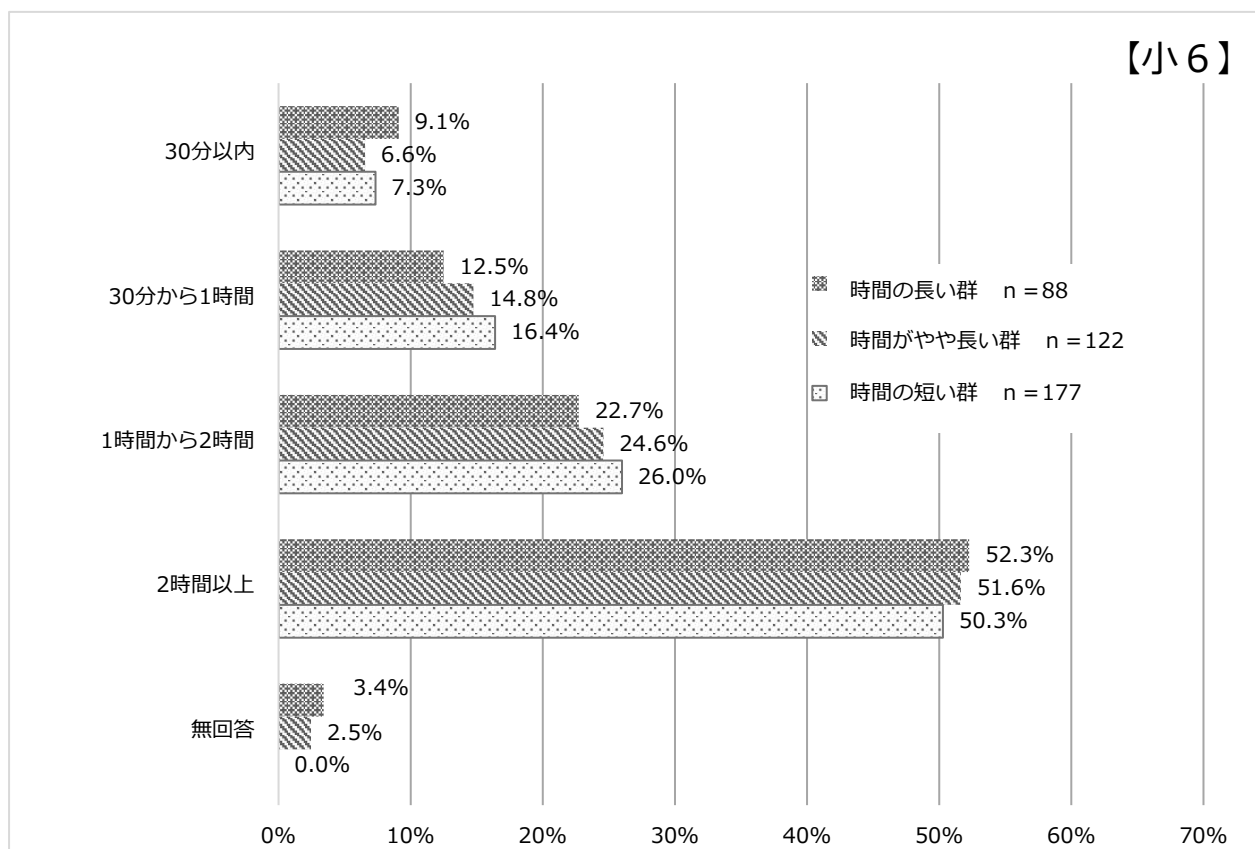
【問 4】（単一回答）学校以外で勉強する時間は 1 日どのくらいですか。

図表 3-6-2-1 勉強時間



【問 5】（単一回答）学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいですか。

図表 3-6-2-2 自由時間



3-7 生活満足度

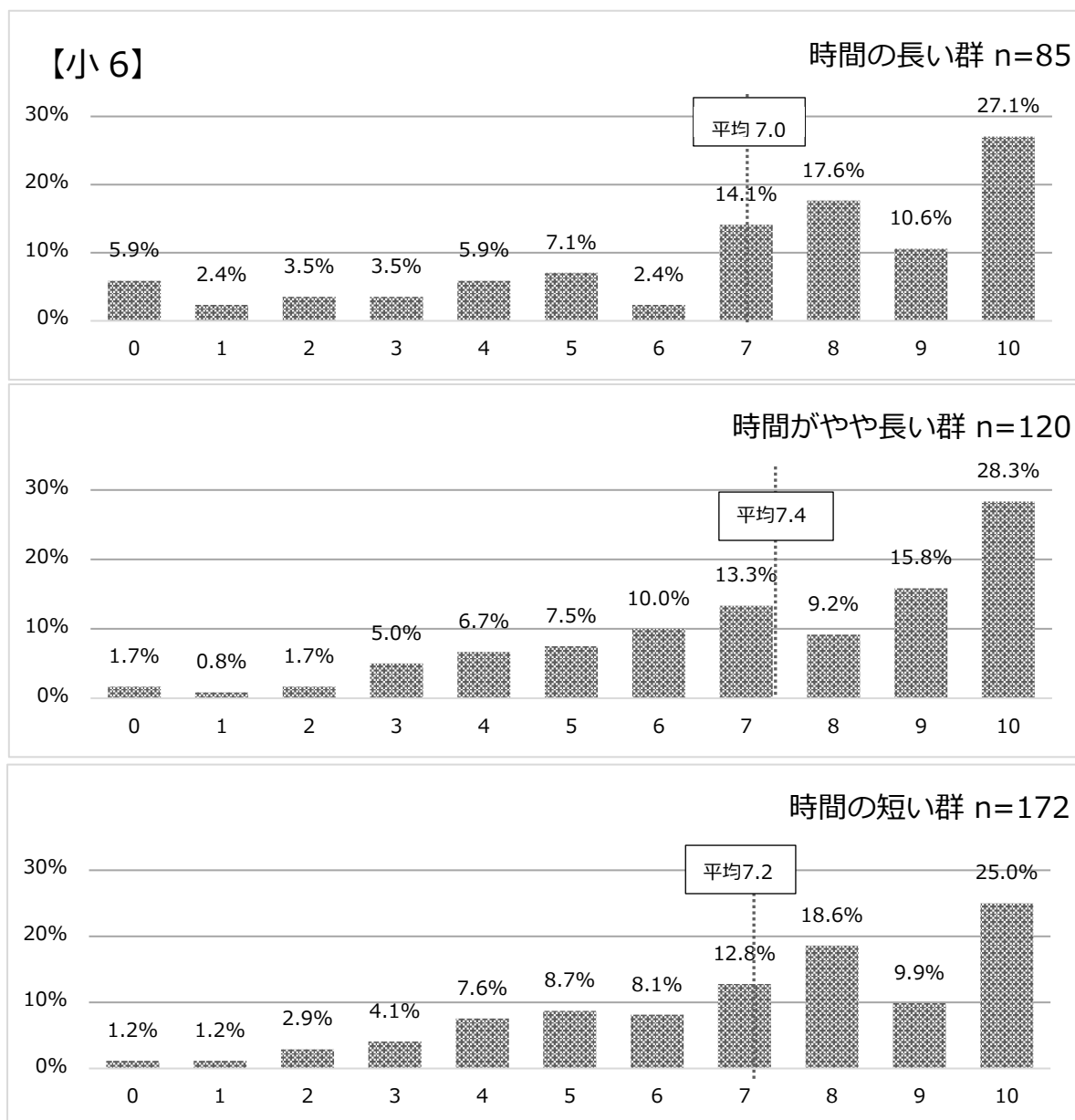
生活満足度では、回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値について、小学生、中学生ともに「時間の長い」群で中央の値が「0」となっており、他の群とは差がある。中学生の最頻値は、他の群が「8」であるのに対し、「時間の長い」群では「7」となっている。また、平均でも差異がある。小学生においては、すべての群の最頻値は「10」であり、平均にも大きな差はない(図表 3-7)。

※生活満足度の集計には無回答を母数から除いている。

「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2018 年度調査」の日本の生徒（15 歳）で生活満足度の平均は 6.2 であった。

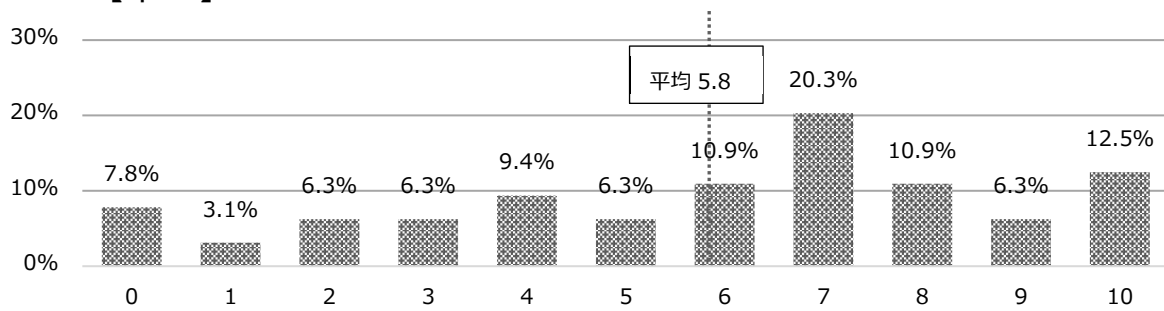
【問 23】（単一回答）最近の生活にどのくらい満足していますか。

図表 3-7 生活満足度

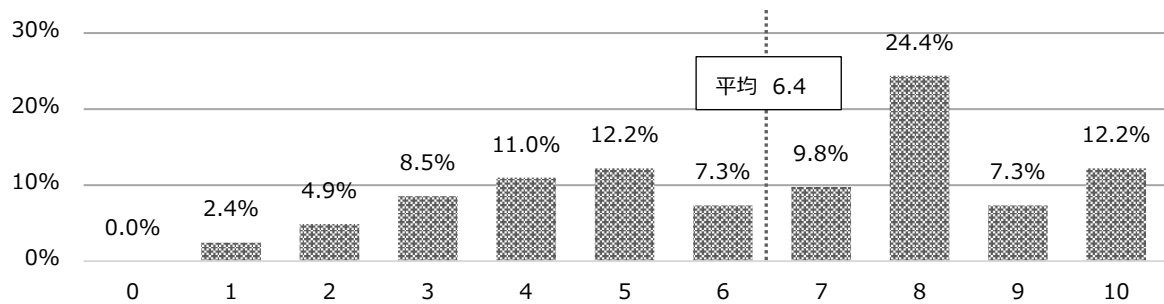


【中2】

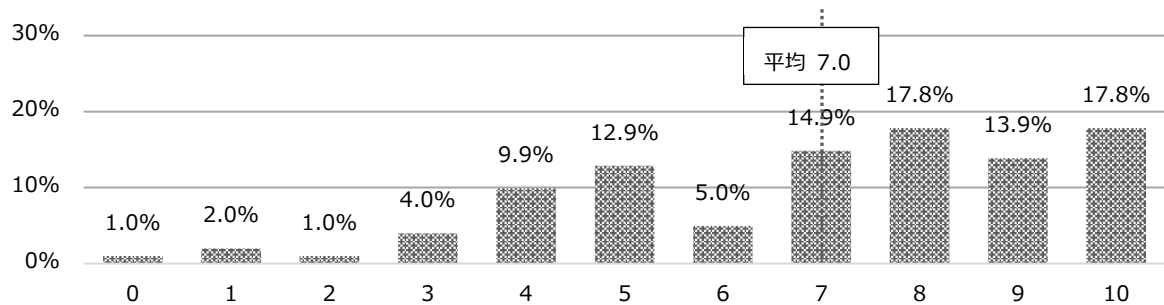
時間の長い群 n=64



時間がやや長い群 n=82



時間の短い群 n=101



第4章 ヤングケアラー概念の認知度と自由記述

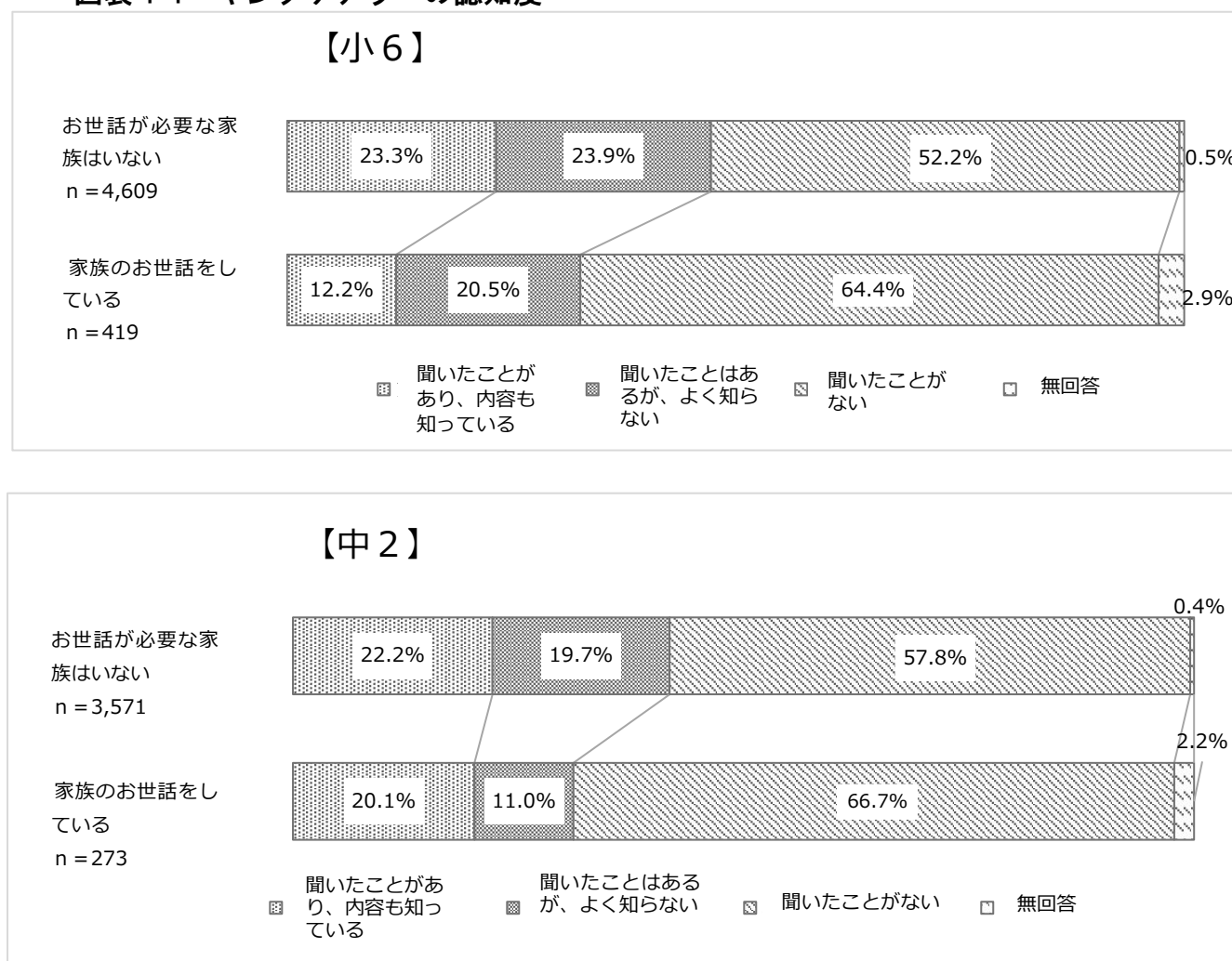
4-1 ヤングケアラー概念の認知度

本調査は「家庭・生活状況調査」として実施したが、調査の終盤で「ヤングケアラー」という言葉の認知度を質問した。

「自分が世話をしている」群において「聞いたことがない」の回答は、小学生で 64.4%、中学生で 66.7%であった。小学生、中学生ともに、「世話が必要な家族がいない」群より約 1 割多く「聞いたことがない」と回答しており、「世話をしている」群では「世話が必要な家族がいない」群と比して「ヤングケアラー」の認知度が低くなっている（図表 4-1）。

【問 24】（単一回答）これまでに「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか

図表 4-1 ヤングケアラーの認知度



4-2 家族の世話をする子どもに必要なと思うこと、してもらいたいこと

問 25 では、子どもの気持ちや支援のニーズをより具体的に把握するために自由記述で調査した。【問 11】で「家族の世話をしている」と回答した子どものうち、小学生の 3 割弱、中学生の 4 割弱から回答があった。回答には、回答者自身の要望と、家族の世話をしている子ども一般に関しての意見等がある。内容は、「話を聞いてほしい」、「時間がほしい」、「助けてほしい」、「お世話について思っていること」にまとめられる。少数であるが、家族の世話を担う自分の生活状況や今後の不安を具体的に記載しているものがある。記述はできる限り要約せず掲載し、類似のものは件数を（ ）内に記載した。

【問 25】家族の世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことなどを自由に書いてください。

図表 4-2 自由記述 記述率

小学 6 年生	母数	記述あり	記述率	中学 2 年生	母数	記述あり	記述率
全体	5,404	2,335	43.2%	全体	4,162	1,972	47.4%
世話をしている 児童	419	121	28.9%	世話をしている 生徒	273	100	36.6%

自由記述 【小 6】

（話を聞いてほしい、相談先がほしい）

もうお世話したくないなーと思っている人のために家族の仕事量を減らすとか、あ、こういうサポートがあるんだって知ってもらえたらその人が楽になる。妹とか誰かのお世話が辛くて病んでいる人の相談できる場所とか、話を聞く←長くても聞いてあげられるとかそういう感じでいい。あと勉強面でハテナがある所は中受をしていて難関中、大に受かっている人に頼りたい

学校などで打ち明ける場所を設ければ、ヤングケアラーさんたちの助けになると思います。

困ったことがあったらすぐに相談できる人がほしい。

その困っている悩みがあるなら他の人に話せば少しは晴れるから誰かと相談をしたらよいと思う。

気軽に相談をしてほしい。

話を安心してきけるようにしたらいいと思う。

心配だと思ったことは誰かに相談したほうが良いと思います。

子どもの中には悩みを抱えている子がいるかもしれないから、身近な大人が積極的に相談や話しかけてくれた方が安心すると思います。
子どもの悩みにしっかり向き合ってほしい。（私は悩みはありません。生活に満足しています！）
しっかりと自分の思いや悩みを聞いてくれる人、自分から誰かに相談できる人が少しでも増えてほしいです。
世話が足りなくて将来人に迷惑をかけてしまう事があるから気持ちを相談してくれる人が必要。
家族の世話をしている子どものために大人たちに相談して解決してほしい。
相談に乗ってほしい人の力になってほしい。
相談相手。
何か辛そうにしている人には優しく話を聞いてあげてほしい。
話を聞いてほしい（様々な面で）。
お世話をしてる人がいたら相談に乗ってあげたりお手伝いをしてあげたらいいと思います。
悩みを聞いてほしい。
話を聞いたりその子によりそう。
積極的に悩み事を聞いてほしい(自分は大丈夫)。
話を聞く。
自分のことをよく分かってもらい、認め合えるようにしたり。

（時間がほしい、休みがほしい）

遊ぶ時間をもう少し長くしてほしい。
世話をしていて、自由な時間がない人もいると思う。だからその人の楽しいことや好きなことを少しでもさせてあげる事。
十分な自分の時間や勉強する時間。
周りの人の手助けや自由に過ごせる時間。
家族のために世話をしているけど、もう少し自分が自由に過ごせる時間を作ってあげてほしい。
自分の時間が必要だと思う。(勉強など) 私は少ししかお手伝いをしていないからもっとしたい。
ゲームをさせてほしい。
もっと自由な時間が欲しい。習い事があるからしょうがないけど。
一人で遊ぶ時間。
自分の時間がほしい。
自由時間。
手伝いなどしてくれる人を呼ぶ。自由時間を作ってあげる。

家族の世話をしている子たちにも、自由時間を作ってあげてほしい。1～2 か月に 1 回くらい、家族の世話をしている子の話を聞いてあげてほしい。
休憩を取らしてあげて。
疲れたら少し休んでもいいと思う。
休むこと。
たまには世話をしなくてもいい日を作るのがいいと思う。
休憩やリラックス。

（協力、助けがほしい）

困っている人は周りの大人ができるだけ協力してあげたほうがいいと思う。
世の大人がなんとかしたらいいと思う。
国や身近な人がその子の手伝い、支援をしてあげたらよいと思う。
助けてくれる人を多くしてほしい。
子ども一人にやらせるのではなく無料で手助けをしてほしい。
他の人たちもその子どもを助けてあげる。
助けたり一緒にやる。
その子のために色々できないことを手伝ってもらいたい。
大変だから助けてほしい。

（その他ほしいもの、ほしい支援）

たまにはごほうびがほしい。
ほうびを出す（お菓子やお金）。
おかしをいっぱい買ってほしい。
家族の世話をしたらおこづかいをもらう。
ボーナス。
保険を税金で払ってくれる仕組みをつくる。
金。
金が欲しい。
本当に助けが必要としている人に、国が人をはけんすれば…と思った。お金の支援をすればいいのでは？
ちょっとだけでもお金をあげる。
赤ちゃんなどをいつも預けられる施設。
お迎え。
リラックスできる場所。ちがいにすぐ対応できる大人を増やす（育てる）。

一番小さい弟が自由に遊べるスペースが欲しい。
赤ちゃんが一人で遊べるような物がほしい。
ボランティアなどのヘルパーを準備すべきだと思う（家族の世話をしている子どものために「自分は世話をしていない」）。
お金がかからないヘルパーをつくる。
もう少しヘルパーの助けを増やす。値段を下げたほうがいい。
かいごを増やしたほうがいいと思う。
そうゆうことは必要ないと思う。子どもが働くこと自体がおかしいので、フリーに家政婦でもやとえばいいんじゃないかと思う。
お金の管理など大事な物や危ない物。
皿洗いの仕方などを教えてもらう。
粉薬を飲んだだけで体がぴんぴんする薬を作ってほしい。
世話を全て代わってほしい。
家事。
夜の学校＆学校に行かなくても勉強できる場所。
宿題を減らす。
子どもたちが遊んでいるときは先生の方から声をかけ、学校が楽しいと感じさせて、毎日が満足させるようにしてほしい。でも先生などの大人も無理はしないで。

（家族の世話について思っていること）

赤ちゃんの時にすぐく助けてくれたから今度は自分が母や父を助けたい。
親だけで大変だからぼくも世話をしています。
親にめいわくをかけないで楽をさせる。
お父さんに甘えてほしい。けんかしない家族を作りたい。
家族が大変そうだし少しでも楽になってほしいから。
よく世話をされているけど、たくさん次はお世話してあげたい(家族など)。
家族の時間を作りたい。
しっかりいいことをした時はほめてほしい。
もっとお世話するか楽しさをあげたい。
お世話の楽しみを見つけたほうがいい。
やさしく接してあげる。（２）
お世話をしている人の気持ちになってする。
お世話が必要としている人への配りよが必要。

おねえちゃんと一緒にあそびたい。
妹の自分勝手をやめさせてほしい。
世話が必要な弟に愛情を注いでほしい。
妹をほったらかしにしたら階段から転落してしまうかもしれないからみていないといけない。
妹の学校が心配。
弟が病気で、言っていることはわかっていてすごくかわいい子だから、弟じゃなくて私が病気になるれば、弟は幸せだったと思います！来世は幸せでいてほしいです！（弟が）
たくさん遊んであげる。
もう少しいっしょに遊んであげたりすること。
トイレとかお風呂が一人でできるようになったからすごいと思います。
一人で頑張り過ぎない。
かかえこまない。どんなにつらくても無理しないこと。死んではいけないこと。
お世話も大切だが自分のことも大切にしてネ。
特にない。自分がしたくてしているから。
必要なものは人それぞれちがうと思います。
いじめない。
誰でもくらしやすい世界。
みんな幸せでいてほしい。
色々な事ができる心の広さ。
体の不自由な方や高齢者を見かけたら、「何かできることはありますか？」などの声掛けをしてほしい。←勇気をもって
これからも支える必要のある人のことを多くの人で手助けしていきたい。支えが必要な人のためにも、周りのみんなで話し合うことを増やしていきたい。
（家族のお世話との関連が薄いとおもわれること）
ペットのこと、学校の授業の内容などに関する記述で、特に家族のお世話と関連しないと思われること（10 回答）

自由記述 【中2】

（話を聞いてほしい、相談先がほしい）

相談相手が必要だと思う。
相談に乗ってくれる相手を作る・無理しすぎないで息抜きもする。
周りの大人に相談すること。（2）

相談に乗ってあげてくれることをすればいいと思います。（３）
しっかりと相談に乗って悩みを話す。
相談することが必要だと思った。
「相談するのが怖い」という子たちが集まる「相談所」のような場所が欲しい→同じような環境の子どもがいると安心するし「相談したい」と思えるから。
あまりむりをしないで、程々にする。自分一人だけでも大変ならだれか身近な人に相談する。
自分が世話をしている楽しければ良いと思うが辛いと思ったら他の大人の人や相談できる人に相談する。
大人がその人の悩みを気付いてあげる事。
周りから相談できる環境を作ってほしい・とにかくつらいときにどうしていいかわからない。
周りの大人は子どもが自分から言うのを待つのではなく、ささいな事でも大人自身が聞くべきだと思う。子どもはあなたたち人間と同じだということをしっかり分かってほしい。
自分から助けを求められない人に対して少しの異変でも声をかけてあげてほしい。
つらい～と思ってそうな時はさっして助けてあげてほしい。
私は特に悩んでいませんが、悩んでいる子話を聞いたり助けてあげたりすることは必要なのかもしれない。
家族の世話をしている子どもには悩みを聞いてあげられる人が身近にいることが必要だと思います。
自分が信頼できる大人がそばにいて、一人で抱え込まないことが大切だと思います。
相談できる人がいる事/子どもは結構ため込みすぎてしまう子が多いので定期的に話を聞いてあげてください。
家族のために自分の時間を使っている子もいるので学校で定期的に相談を聞く。
何でもいいから定期時に雑談を聞いてほしい（強制参加）。
話を聞く時間か、大変なことを聞いて受け止める時間を設ける。本人のしたい事か、どうして欲しいのかを聞く。
周りの先生などがアンケートなどを通して悩みを聞く。
思いやりを持つこと相談を聞く。そういう子どもに関心や理解をする。
私はお母さんやお父さんがいないときに少し留守番ついでに面倒見るくらいだし、今の生活にあまり不満はないけど。将来お父さんとお母さんが亡くなった後、兄と私はどうすればいいのかを知りたい兄の世話を私がするのかそうなった場合の対処や考えを教えてほしい。これから兄は私よりも力や体格が大きくなるし、ぼうりよく的になってしまったらどうすればいいのか？できる限りでいいから、将来の事を他の兄弟達や親せきに伝えるべきです。

私は自分から送り迎えをしたいと思い、夏休みに手伝うていどですが、私なんかより大変な人はもっとたくさんいると思うのでこのアンケートの回数が増えたらいいと思いました。

(時間がほしい、休みがほしい)

時間（２）
自由な時間（２）
その子がお世話している分、自由な時間を作ってあげると良いと思う。
家族の世話をしている子どもが友達と遊べる時間を作ってあげるなど。
自分の時間・リラックスする時間
親に何も注意されない時間を作る。
その子に好きなことをさせてくれる時間。
世話はするけど自分の時間を与えること、一人でも頼れる大人がいる事。
世話をしている分、ゆとりを持たせてあげるのが必要だと思う。

(協力、助けがほしい)

手伝ってあげてほしい（２）
手助けが欲しい。
助けてもらうこと。
みんなが助け合うことでこの世界は変わっていくと思います。みんなで助け合い協力していきましょう。
お手伝いさんが欲しい。
自分はちがうけど、お金の面での支援や専門のヘルパーなどやってあげたらよいと思う。
地域近りんと交流もたくさんすること→万が一の時に大切。
ヤングケアラーの事をもっといろんな人、世代に知ってもらう。

(その他ほしいもの、ほしい支援)

気持ちの面とお金の事で助けてあげたらいいと思います。
たくさんのお金。気軽に話せるようにすること。自由。
勉強をしているときにわからない問題を教えて欲しいです。
金をあげる。
お金に困っているなら、補助金を出してあげてほしい。
生活ができる最低限のお金をあげる。家族の病気を理由に世話をしている人はその病気を治す事ができる技術ある病院や施設、年齢の影響の場合は、老人ホームや施設に家族を送る。
政府に金をだしてもらう。
子どもの生活環境を整えてあげてほしい。

ヤングケアラーが増えてきているようなので、何か取り組むことが必要なんだと思います。
養護施設をもっと増やして、簡単に入れるようにしてほしい。
世話をしてくれる専門の人を家に呼ぶ。悩みを聞いてあげる。
全て子どもに任せるのではなくヘルパーさんなどに相談することが必要だと思う。
障害者手当のような金銭的な援助の申請を分かりやすく簡単にかつ厳重に行う事。目が届かないところで苦しんでいる人を見つけること・気軽に相談できる窓口を設置すること。

（家族のお世話について思っていること）

お父さんとお母さんだけでは家の事を済ませるのは大変だから常に家族の役に立ちたいとおもっている。
世話をしている人の事をよく知って自分の出来るはんいの事を全力でそっせんしてやる事。
楽しむこと（２）
うるさくしないでください。
家族の考えや違いっていうのを否定しないでほしい。
変な同情とがなく、いつも通りに接して、その上で理解する。
やりがいを知ってほしい。
すごくえらいからほめてあげたいとか。
感謝される。
とにかく家族と常に仲良くする。それで助けてもいい時にすぐ対応してくれる。
その子に気づかって他の家族もすることが大事。
相手の気持ちを考え、お互いを信じる。
意見を聞く。
一人一人の意見を大切にすることだと思います。
自分にできることを教えてほしい（能力）。
理解すること。
子どもまだ小さいから出来ないこともあるからできないところをしてあげる。
弟はうるさいです。
遊んであげる。
障害者の事を知ってください。確実に周りにいますから、辛さを知ってください。「大変だね。」という言葉だけで済まさないでください。心配してあげてください。
家族になるべくストレスをためさせないでなるべく楽な状態にしておきたい。
自分が～だったらどうしてほしいかを教えて、世話をするといいと思います。
怒ったり、きげんを悪くして接しない事。

感謝すること。
明るく接する態度。
あまり、せかさないでほしいです。家で自由に過ごせる時間は 2 時間ほどですその中でお風呂に入ったりご飯を食べたりしなきゃいけないので勉強したくても少ない時間でしかできません。そのところご理解してほしいです。
子どもにもできることは限りないから、風呂やトイレなどは同性の人がやってほしい。
家族の世話は「やれっ」言われるからやるんじゃなくて家族のために手伝うと思った方が良い。
安楽死制度やれ。
がまんすること。
必要だと思ったことは、お手伝いを毎日できるようにする。
声がうるさい・冷静の判断すべきだと思う。
食べる。
（家族のお世話との関連性がうすいとおもわれること）
スポーツのこと、ボランティア活動のこと等（5 回答）

第5章 ヤングケアラーに関する学校調査

(教員対象 単純集計)

5-1 属性

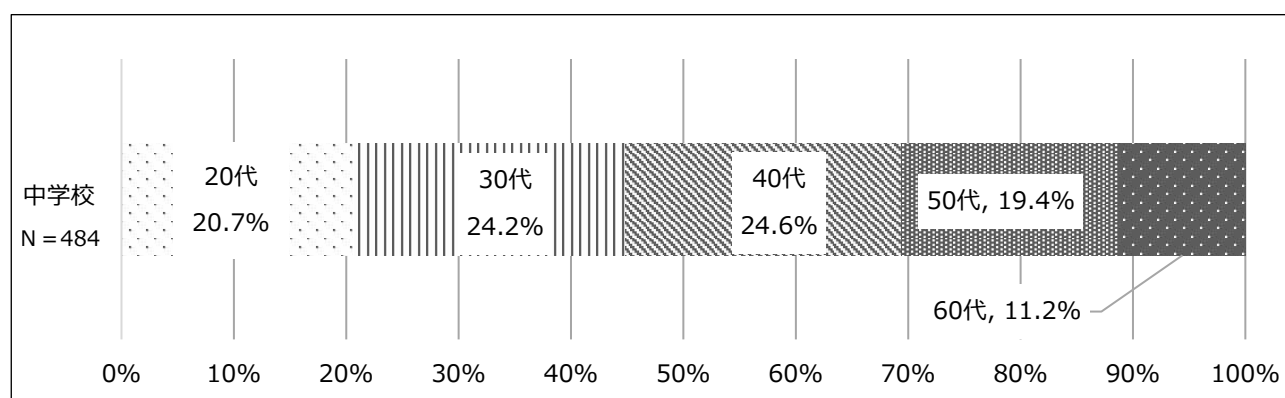
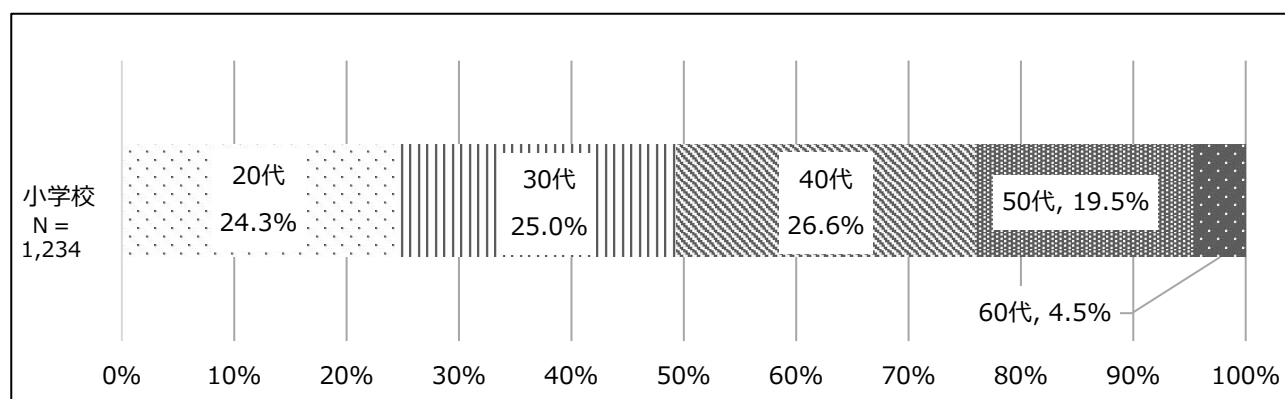
【問 1】(単一回答) 所属を教えてください。

図表 5-1-1 回答者の所属

	対象者数	回答数 (回収率)
小学校	1,737	1,234 件 (71.0%)
中学校	829	484 件 (58.4%)

【問 1-2】(単一回答) あなたの年齢を教えてください。

図表 5-1-2 回答者の年代

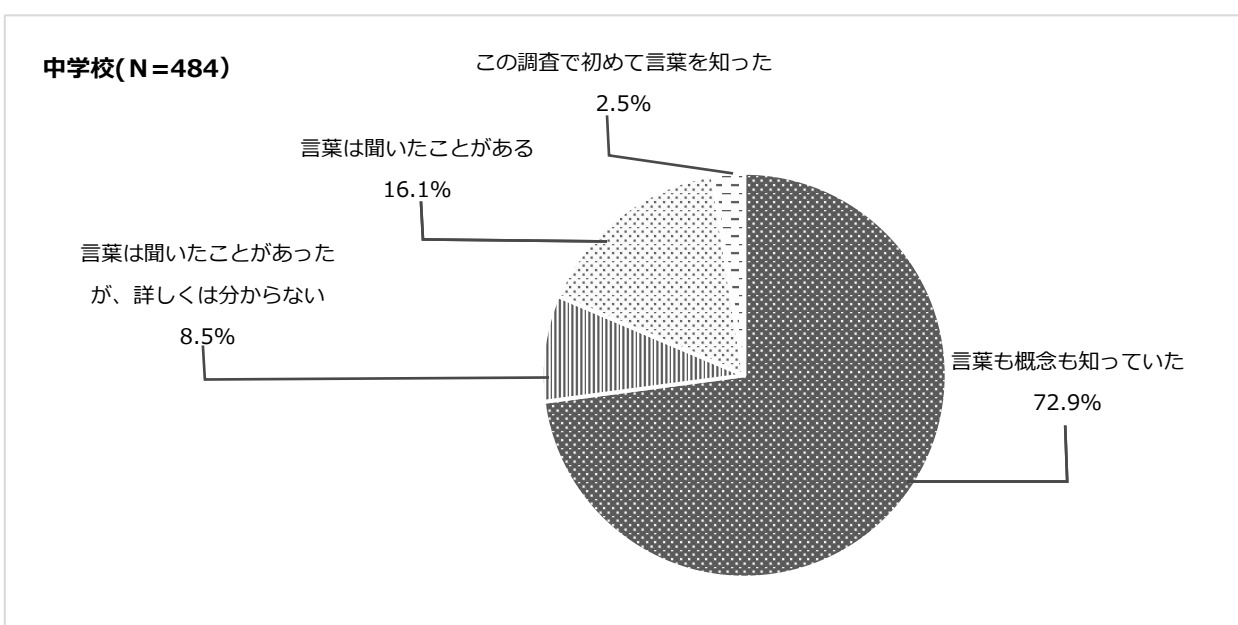
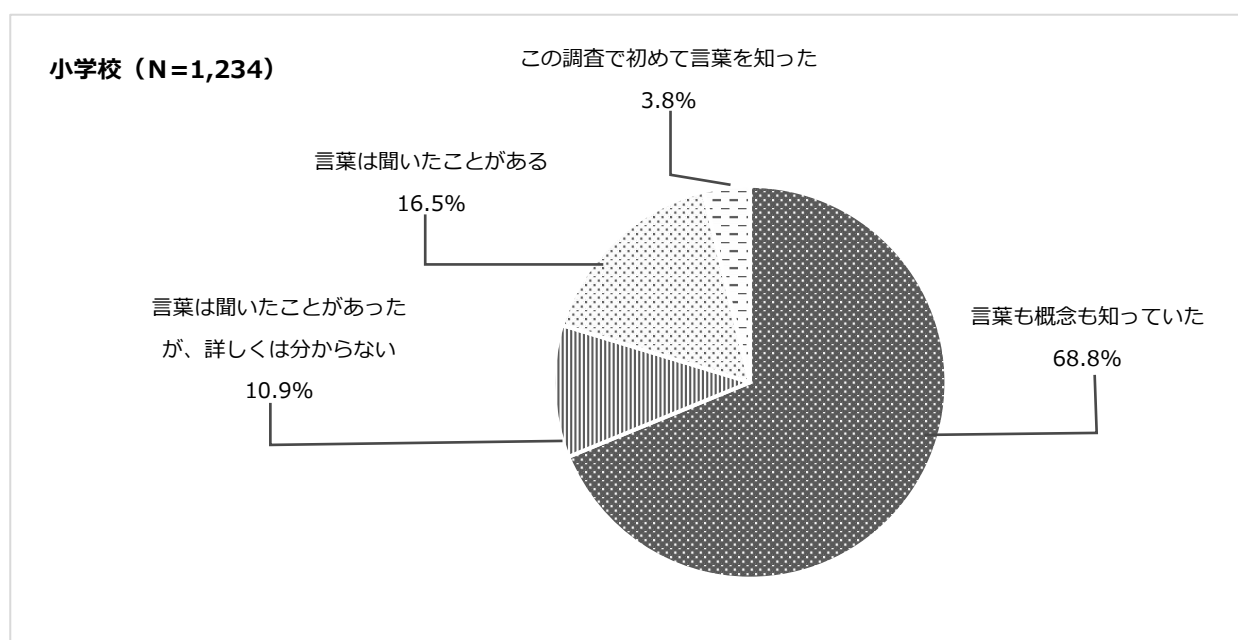


5-2 ヤングケアラー概念の認知度

「言葉も概念も知っていた」と回答した教員の割合は小学校、中学校とも7割近くになっている。「言葉は聞いたことがあったが、詳しくは分からない」、「言葉は聞いたことがある」、「この調査で初めて言葉を知った」の合計は約3割あり、今後も周知・啓発を丁寧に行う必要がある（図表 5-2）。

【問 2】（単一回答）あなたは「ヤングケアラー」という言葉や概念を認識していましたか。

図表 5-2 ヤングケアラー概念の認知度



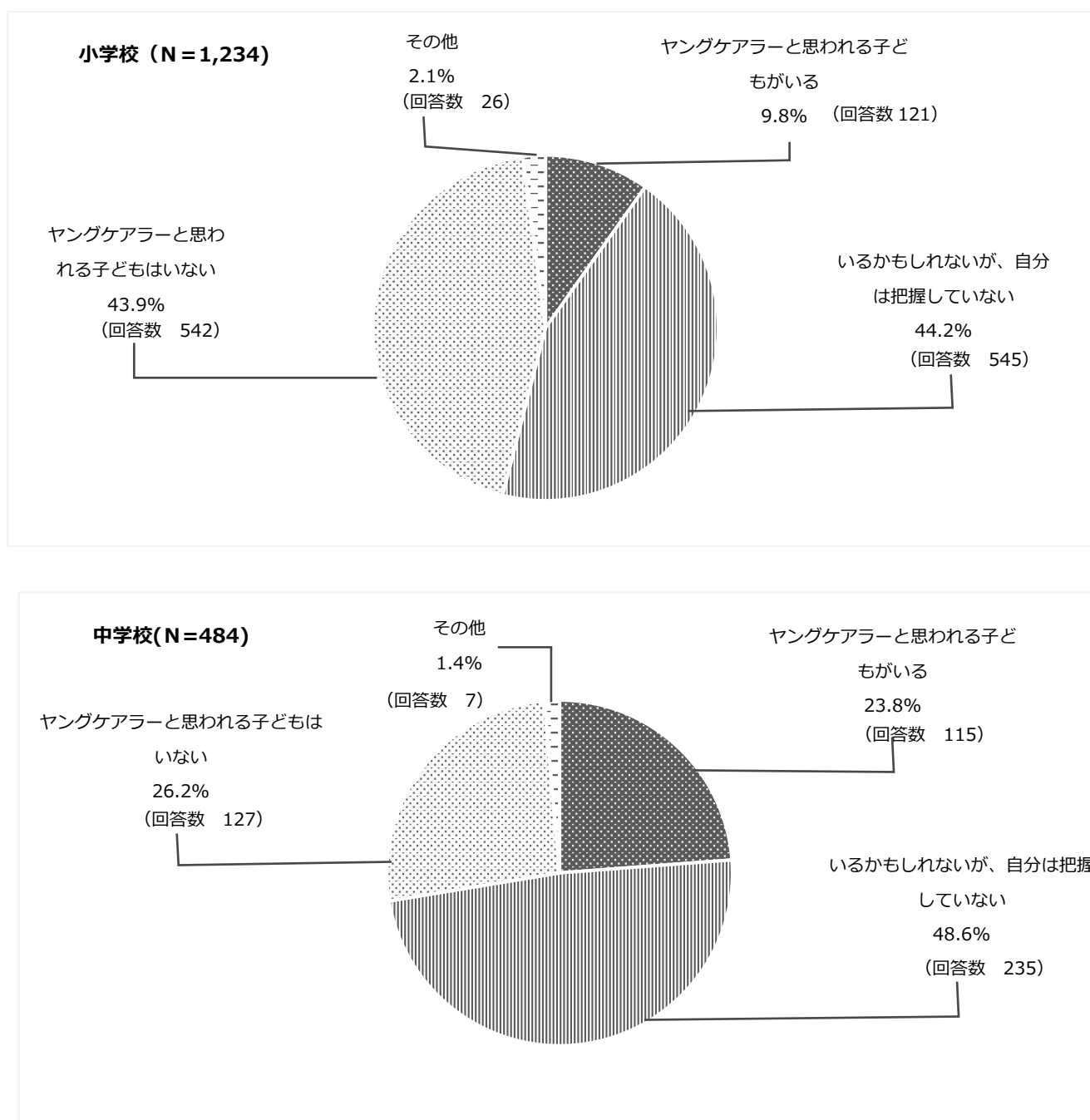
5-3 ヤングケアラーの把握

ヤングケアラーの把握については、小学校と中学校の回答で差異があり、「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」の回答は小学校では約1割、中学校では2割以上となった（図表5-3）。

教科担任制の中学校では、ヤングケアラーと思われる子ども1人について複数の教員が認知し、回答している影響が考えられる。また、「いるかもしれないが、自分は把握していない」、「いない」と回答した教員が、小学校、中学校ともに多くなっている。

【問3】（単一回答）現在、勤務する学校全体にヤングケアラーと思われる子どもはいますか。

図表5-3 ヤングケアラーと思われる子どもの存在



5-4 教員が把握しているヤングケアラーの状況

ヤングケアラーと思われる子どもに気付いた要因として、「家族の世話をしている旨の発言があった」との回答が、小学校、中学校ともに5割以上と多くなっている。他には「提出物などの遅れ」「遅刻、欠席、早退が多い」などの回答が多い（図表 5-4-1）。

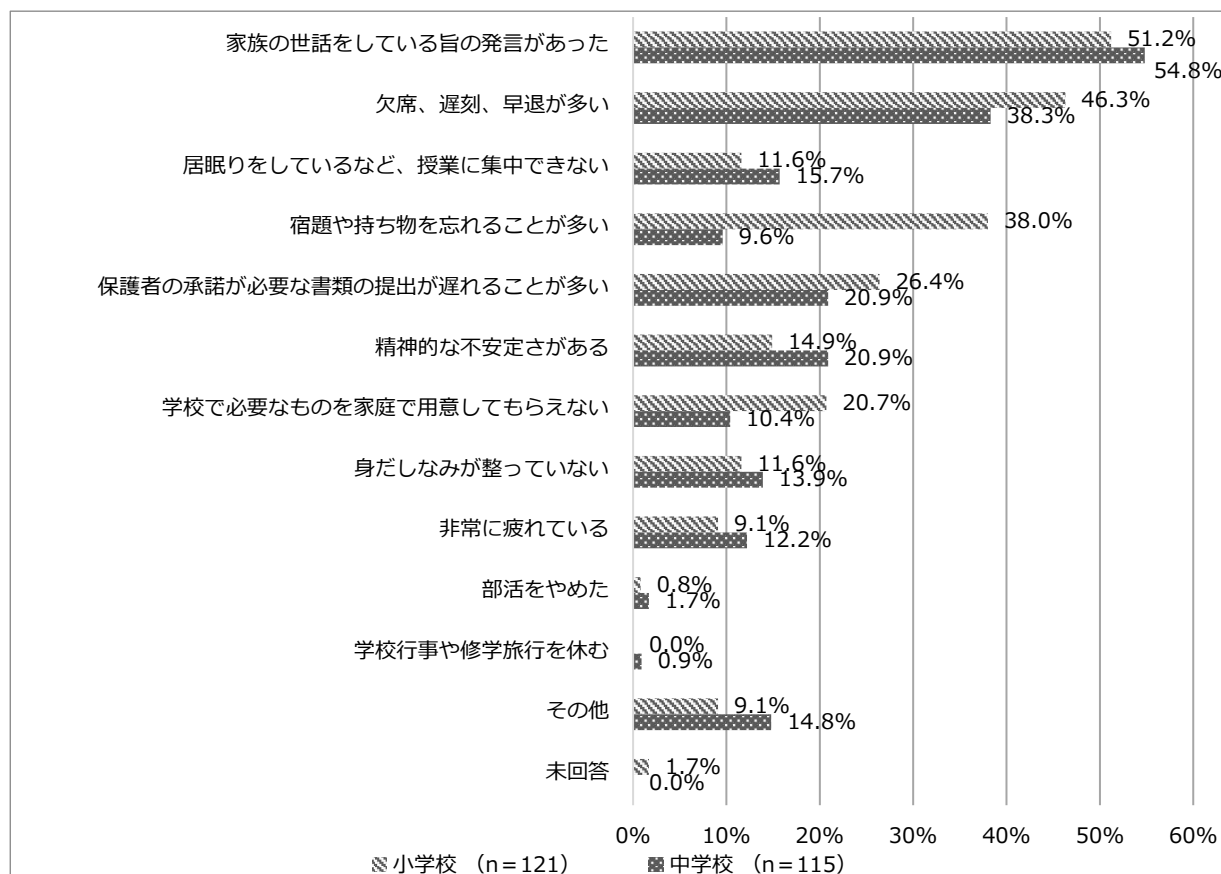
子どもの世話の把握状況については、ヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した教員の3割前後（小学校 32.2%、中学校 26.1%）が「把握している」と回答しているほか、発見した複数の子どものうちの一部の子どもについては状況を把握している、といった回答も、小学校で 43.8%、中学校で 59.1%あった（図表 5-4-2）。

把握した世話の内容については、「家事（掃除、食事の支度、洗濯など）」、「幼いきょうだいの世話」、「目が離せない家族の見守り」が多いが、児童・生徒実態調査では確認が難しかった「精神的に不安定な家族の世話」、「依存症の家族の対応」についても小学校、中学校ともに回答があった（図表 5-4-4）。

これらの事例をヤングケアラーからのサインや実態として共有し、発見から支援にどのようにつなげていくかを示していく必要がある。

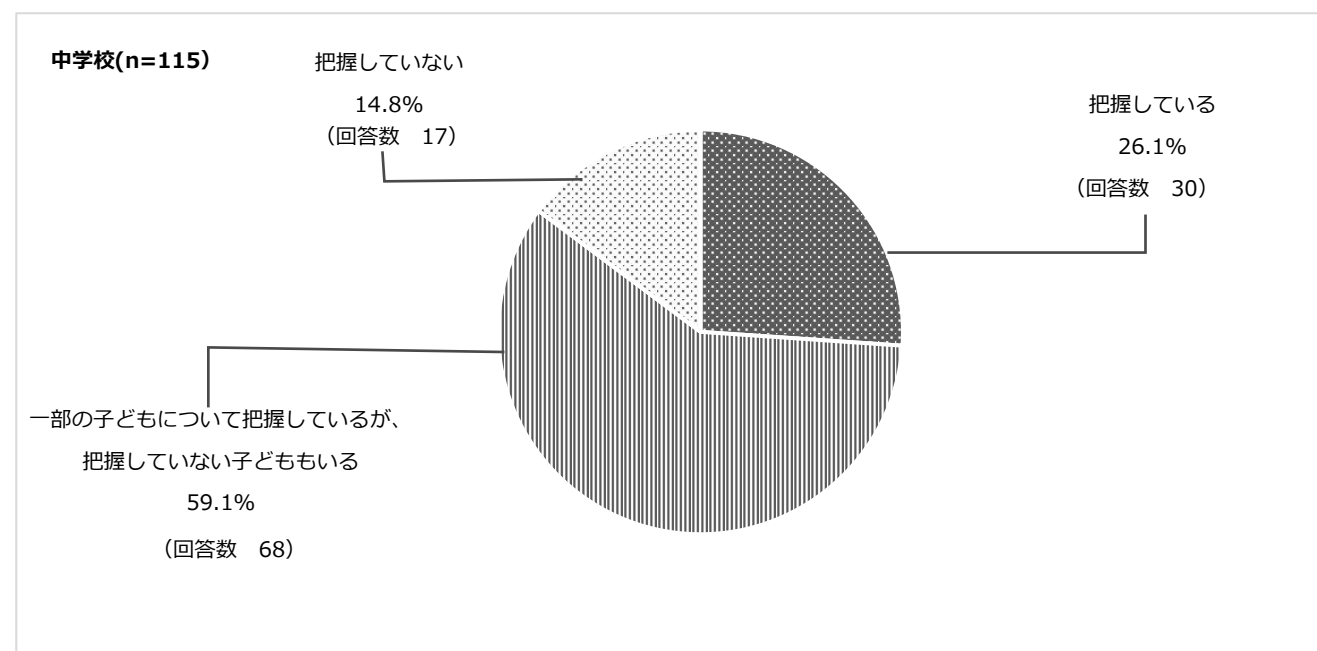
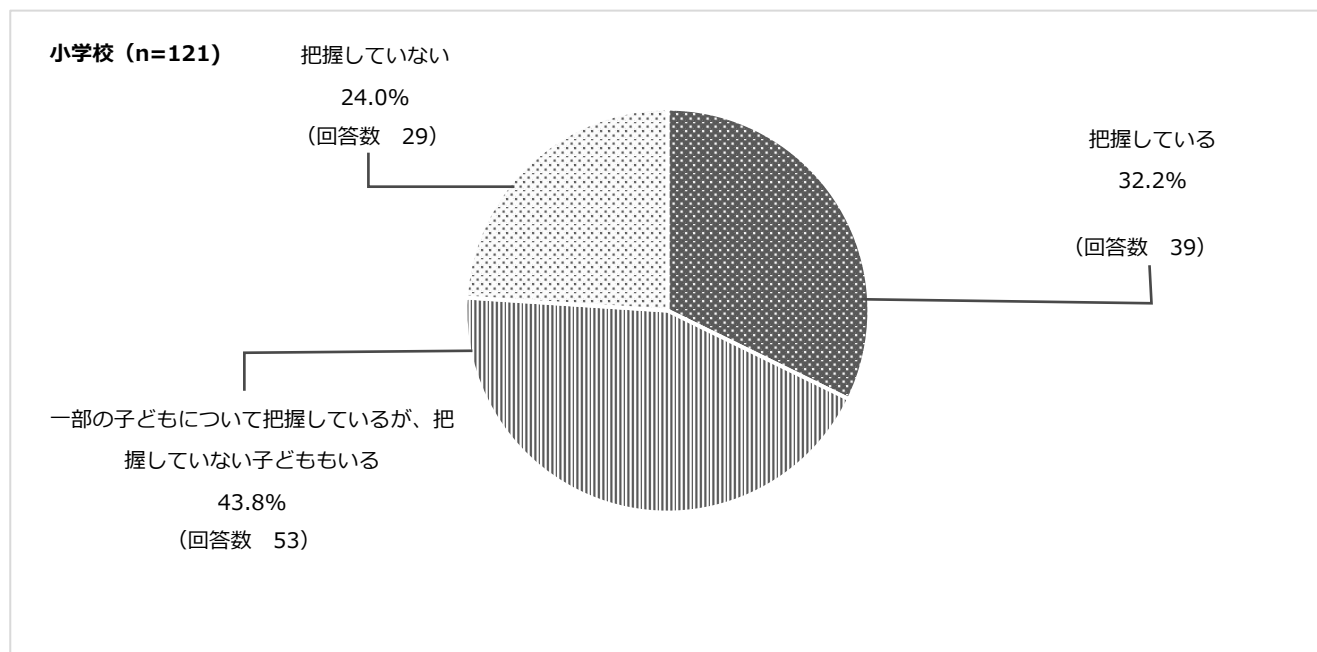
【問 3-2】（複数回答）ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたきっかけは何ですか。

図表 5-4-1 ヤングケアラーに気づいたきっかけ



【問 3-3】（単一回答）ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を把握していますか。

図表 5-4-2 子どもの世話の把握状況

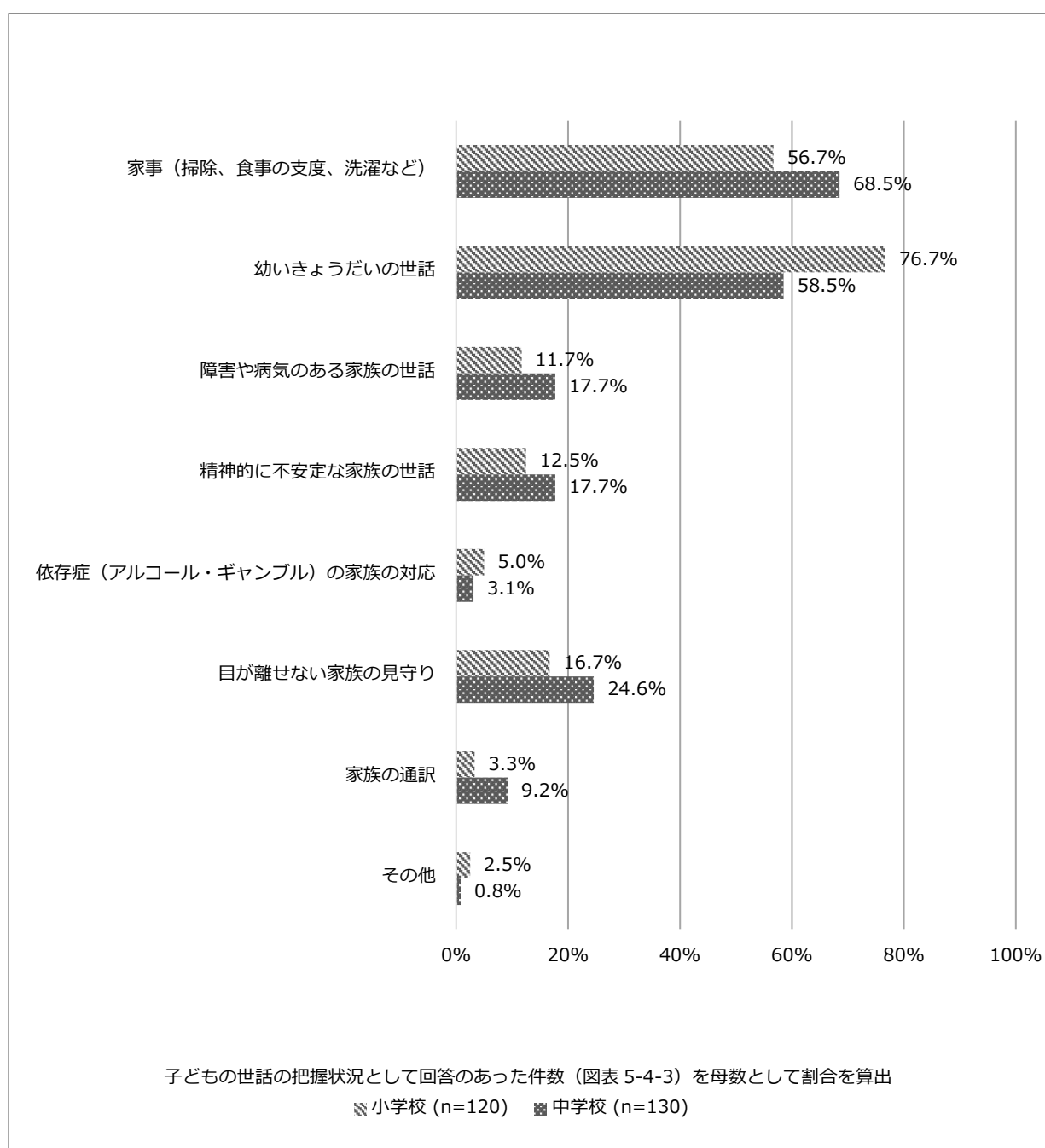


【問 3-3-2】（複数回答）ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください。

図表 5-4-3 子どもの世話の把握状況(世話の内容の回答件数)

	小学校 (n=92)	中学校 (n=98)
子どもの世話の状況を把握しているとして、世話の内容の回答があった件数（1回答者最大3件まで記載）	120	130

図表 5-4-4 教員が把握した世話の内容



5-5 学校で行っているヤングケアラーへの支援

「ヤングケアラーがいる」と回答した教員にヤングケアラーへの支援の有無を聞いたところ、小学校で 44.6%、中学校で 34.8%が「支援を行っている」と回答しているほか、発見した複数の子どものうちの一部の子どもについては支援を行っているという回答も小学校で 24.8%、中学校で 30.4%あった。一方で、小学校、中学校で 3 割前後の教員が、「支援を行っていない」と回答している（図表 5-5-1）。

支援の内容として多い回答は、小学校、中学校とも「子どもの話を聞いている」、「学校で情報を共有し、支援に向けて検討している」、「区の支援機関と連携している」であった（図表 5-5-2）。

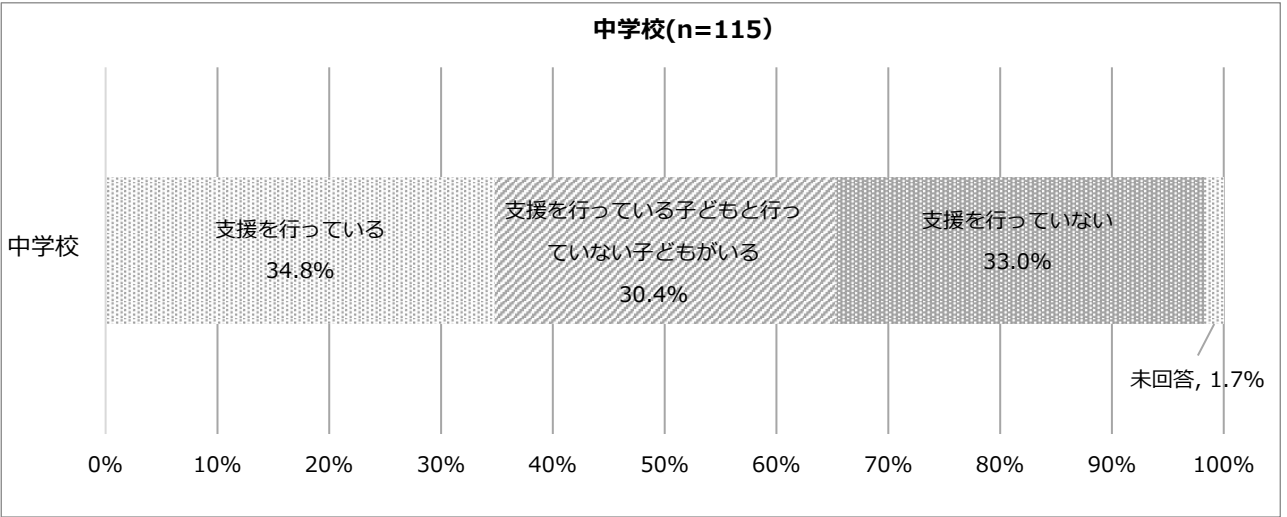
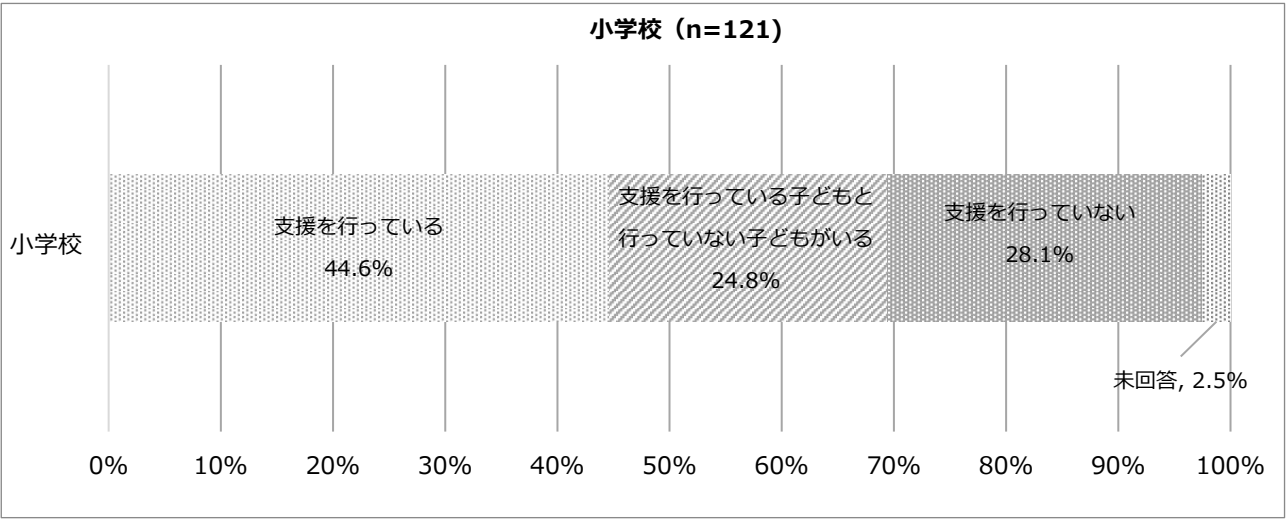
支援を行っていない理由としては「本人や家族に自覚がない」、「家庭のデリケートな問題に学校が関われない」、「支援の方法が分からない」などの回答があり、中学校では「家庭のデリケートな問題に学校が関われない」の回答が特に多くなった。また、「保護者が支援を拒否した」との回答も一部あった。回答からは、学校側から家族の問題にアプローチすることの難しさが読み取れ、ヤングケアラーの存在を認知しても、支援につながらない場合があることがわかる。

「支援の必要な状況ではない」という回答については、児童・生徒実態調査の結果からもわかるように、ヤングケアラーの多くは緊急の支援が必要な状況ではないということと関連があると考えられる。また、「そもそも学校が家庭内の状況に関わるべきではない」という回答が少数あった（図表 5-5-3）。

【問 3-4】（単一回答）問 3 でお答えいただいた子ども（ヤングケアラーと思われる子ども）に、現在、学校として何らかの支援を行っていますか。

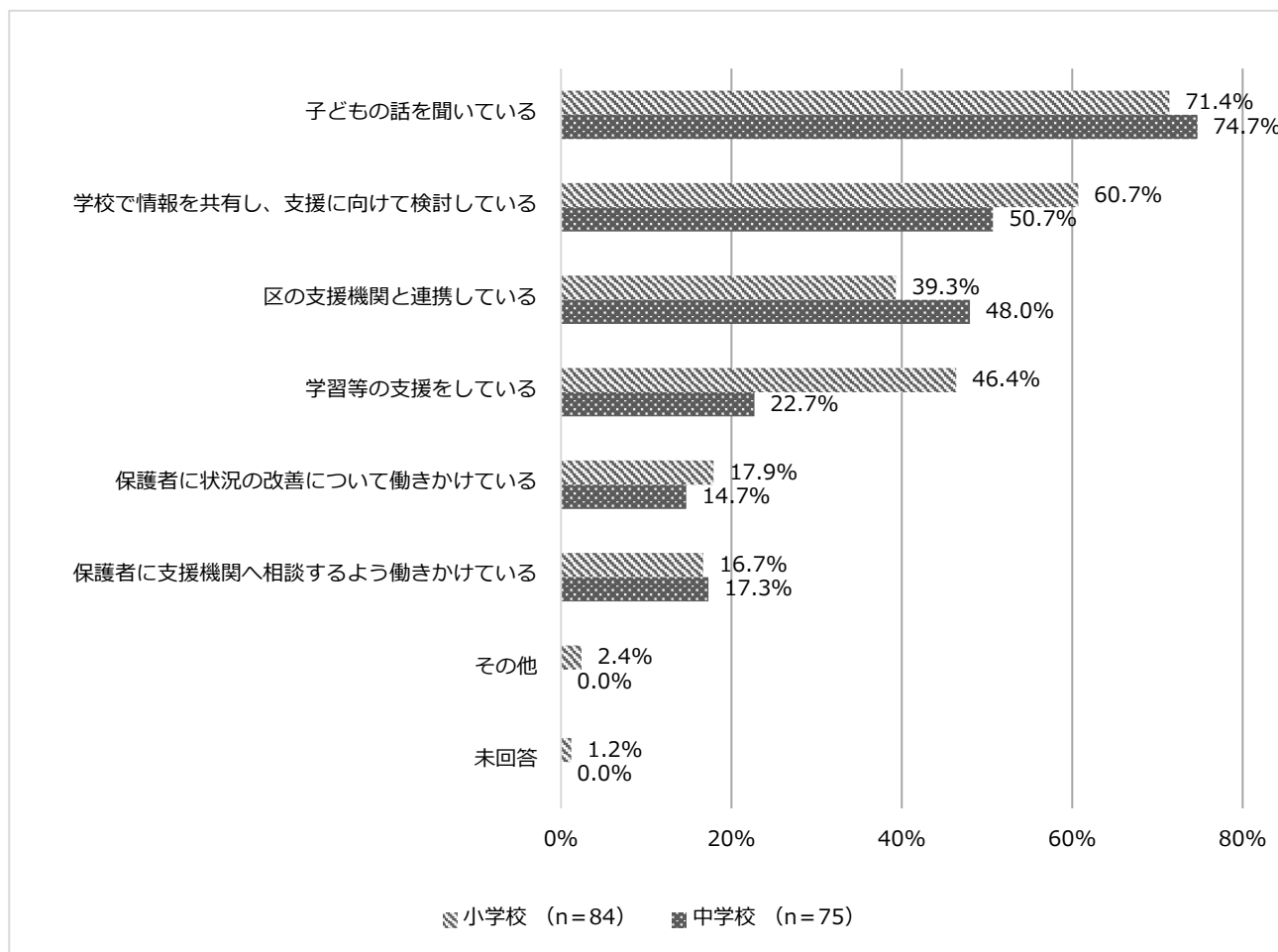
図 5-5-1 支援の有無

	小学校 (n=121)	中学校 (n=115)
支援を行っている	44.6% (54)	34.8% (40)
一部の子どもに支援を行っているが、支援を行っていない子どももいる	24.8% (30)	30.4% (35)
支援を行っていない	28.1% (34)	33.0% (38)
未回答	2.5% (3)	1.7% (2)



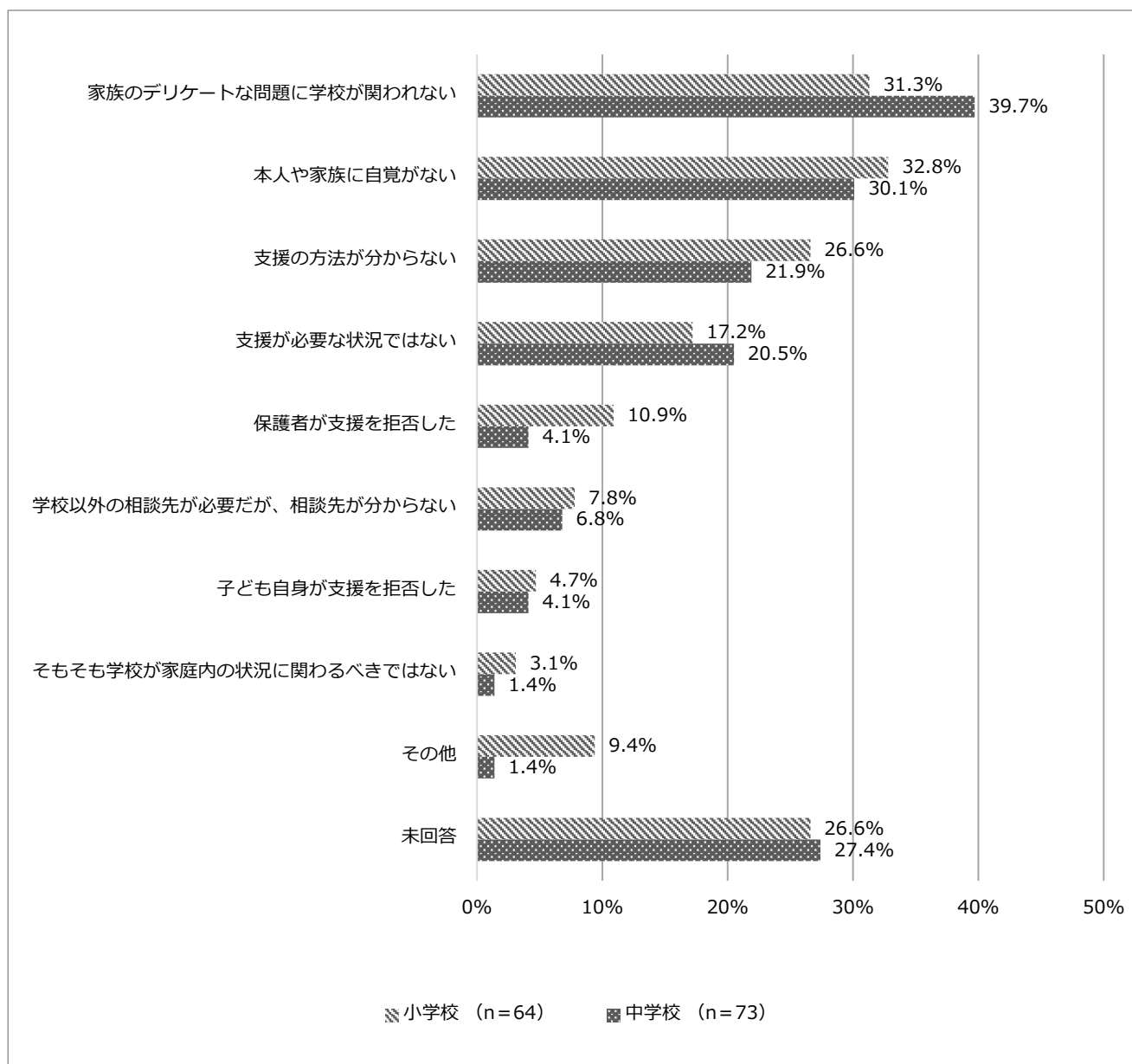
【問 3-4-2】（複数回答）行っている支援の内容を教えてください。

図表 5-5-2 支援の内容



【問 3-4-3】（複数回答）支援を行っていない理由や要因としてあてはまるものを教えてください。

図表 5-5-3 支援を行っていない理由



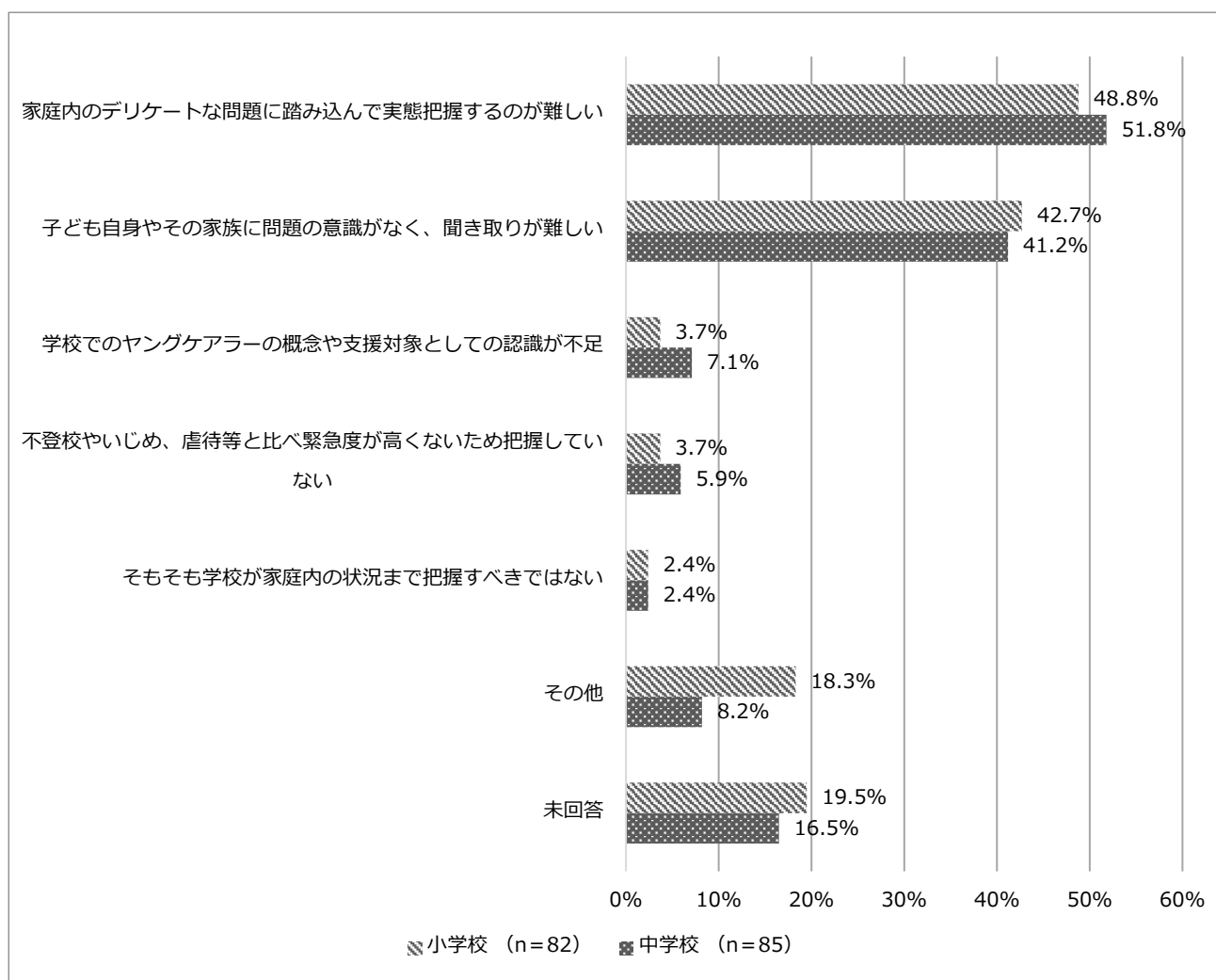
5-6 教員がヤングケアラーを把握できない理由

ヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した教員のうち、小学校 24.0%、中学校 14.8% が子どもの世話の状況を「把握していない」と回答しており、発見した複数の子どものうちの一部の子どもについては把握しているが、把握していない子どももいる、という回答も小学校で 43.8%、中学校で 59.1%あった（図表 5-4-2）。

把握していない理由について、「家庭内のデリケートな問題に学校が踏み込んで実態把握するのが難しい」、「子どもや家族に問題の意識がなく、聞き取りが難しい」が、小学校、中学校ともに多いことから、支援が必要であるという認識はあっても、実際には踏み込むことが難しいと考えている教員が多いことが分かる（図表 5-6）。

【問 3-3-3】（複数回答）家族の世話の状況を把握していない理由を教えてください。

図表 5-6 把握できない理由



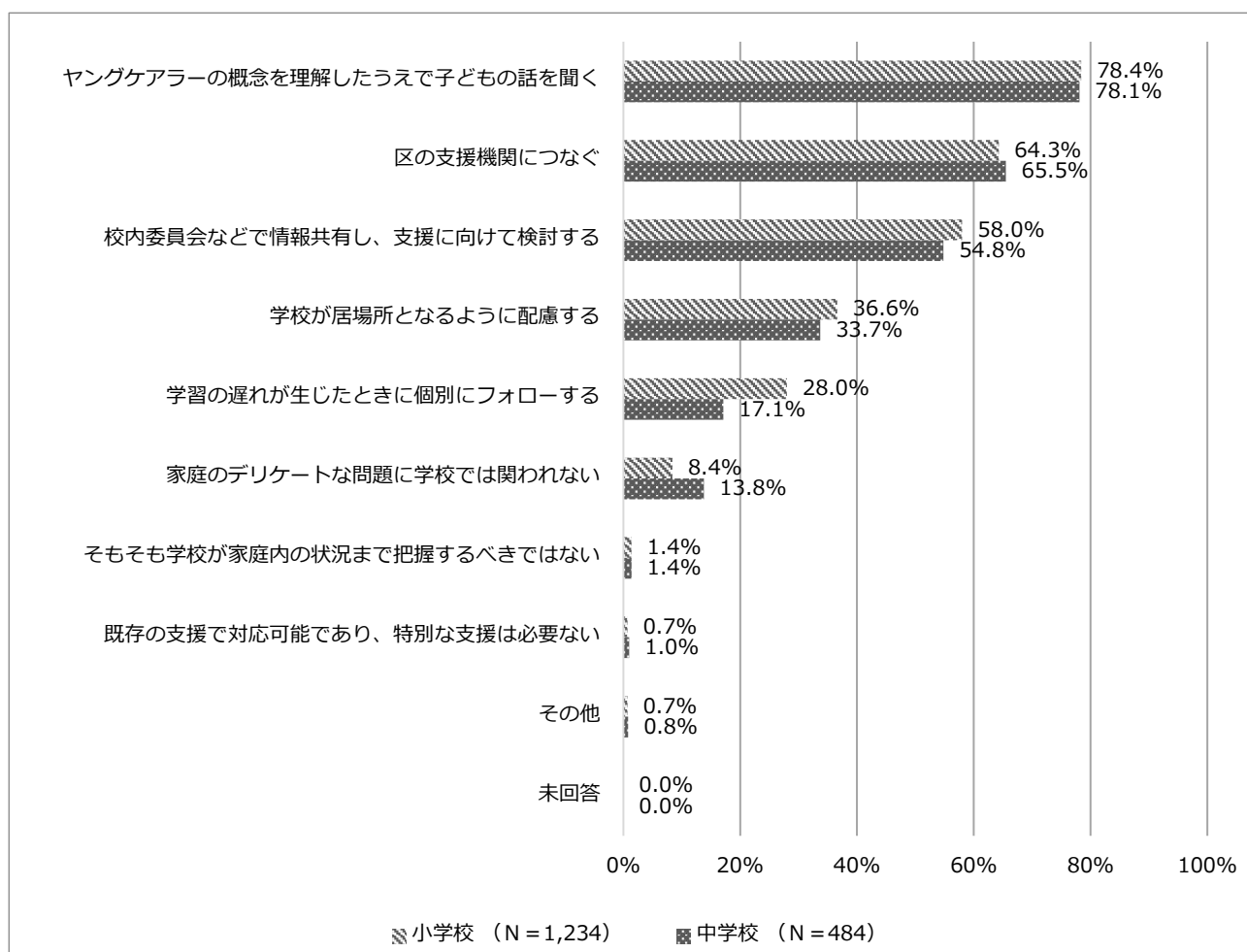
5-7 ヤングケアラー支援に対する教員の思い

ヤングケアラーの支援についての設問では「ヤングケアラーの概念を理解したうえで、子どもの話を聞く、声をかける」、「区の支援機関につなぐ」、「校内委員会などで情報共有し、支援に向けて検討する」の回答が多く、校内で組織的に対応しようと心がけていることが分かる（図表 5-7-1）。

校種によって大きく回答に差異はないため、概ね「課題」と感じていることは同じであると考えられる。「本人や家族にヤングケアラーという問題の認識がなく、支援の理解が得られない」という回答や、一部の教員からは「そもそも学校が家庭内の状況までを把握するべきではない」との声もあった（図表 5-7-2）。自由記述では、上記の課題に加え、きめこまやかな対応をすすめるための教員の時間確保の課題や体制づくりに関する記述、家庭の考え方に対する啓発・アプローチが必要だとする記述があった（図表 5-7-3）。

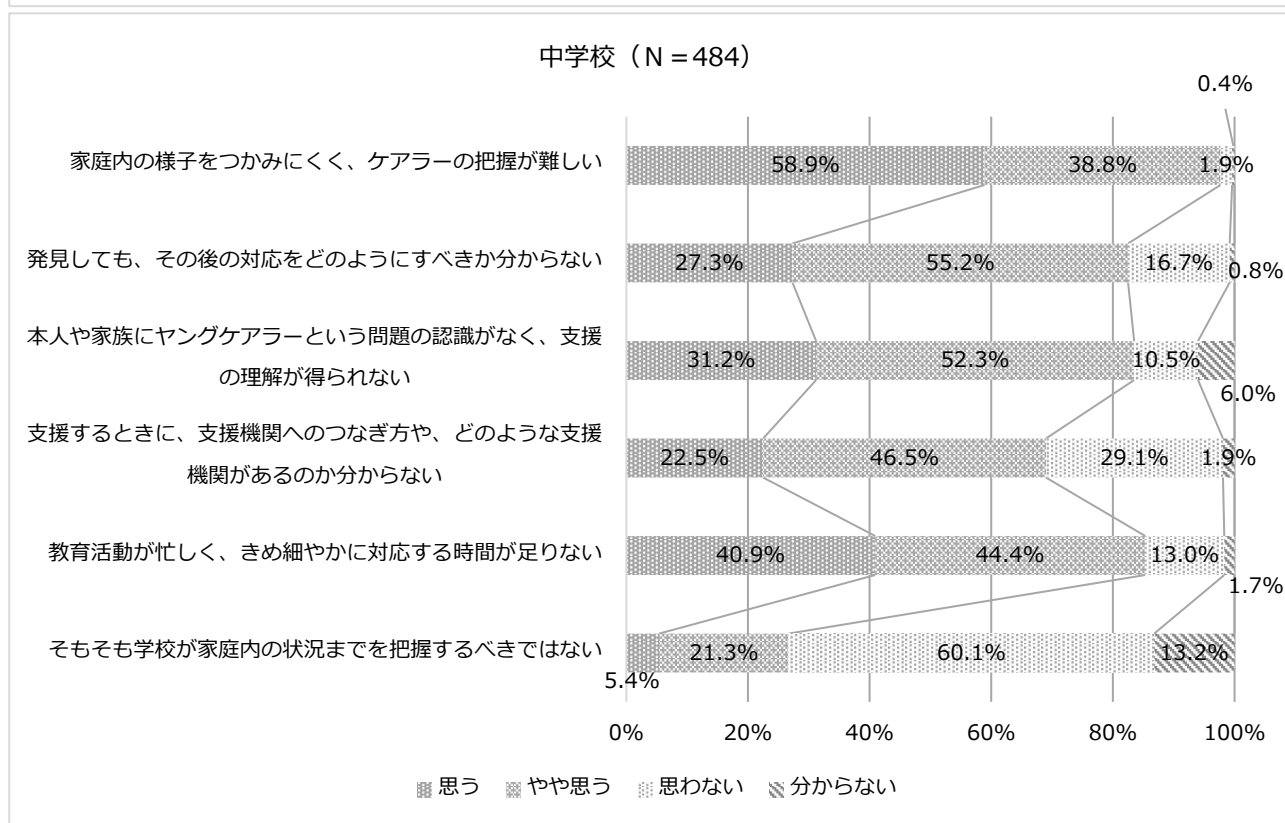
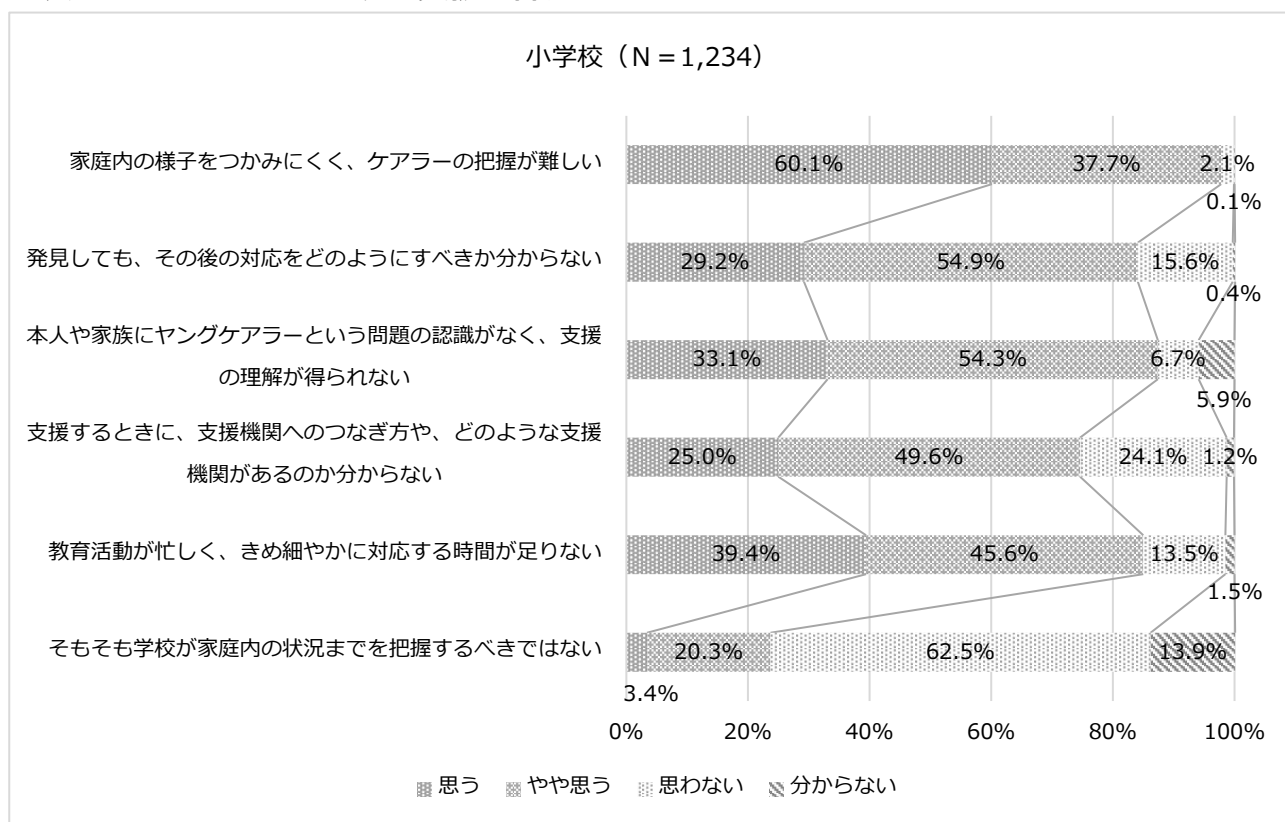
【問 4】（複数回答）ヤングケアラーへの支援について自分の考えに近いものを選択してください（3つ以内）。

図表 5-7-1 ヤングケアラー支援に対する考え



【問 5】 ヤングケアラーへの支援を学校で行うにあたり、あなたが課題と思うことを教えてください。（各項目について「思う」「やや思う」「思わない」「わからない」のいずれかを選択答）

図表 5-7-2 ヤングケアラー支援の課題



【問 6】（自由記述）ヤングケアラーへの支援について、ご意見があればお聞かせください。

図表 5-7-3 ヤングケアラーの支援に対する意見

	小学校 (N = 1,234)	中学校 (N = 484)
記載	16.0%	20.7%
未記載	84.0%	79.3%

自由記述（代表的なものを抜粋）

発見に関する課題

- ・手伝いなのか、ヤングケアラーなのかの判断が難しいため、線引きができない。
- ・子ども自身が「話したくない」と思ってしまえば、介入できない部分もある。
- ・家のことも自分のこともきちんとできる子どももいるため、問題が顕在化してこないという現状もある。

体制づくりに関する課題

- ・子どもたちが SOS を出しやすい環境を整える必要がある。
- ・校内の支援体制を見直し、支援するための体制づくりが必要である。
- ・支援するにあたり、「フローチャート」があると助かる。
- ・学校と福祉関係の部署との連携が必要である。
- ・支援すべき子どもがみつかったときの、実際の「つなげ方」が分からない。
- ・研修など、学ぶ機会がほしい。
- ・心のケアの充実が必要である。

時間確保の課題

- ・教育活動その他の事務作業、他の子どもの対応もあり、対応する時間が足りない。
- ・勤務時間内に授業があるため、家庭に介入するといったきめ細やかな対応をしようと思うと、勤務時間外の対応になってしまう。

家庭支援に関する課題

- ・家庭そのものの考え方があるため、学校や教師が入り込めない場合がある。
- ・家庭での考え方に対してアプローチしてほしい。
- ・保護者への啓発方法などの工夫が必要だと思う。

第6章 ふれあい月間調査（令和4年6月期）

（児童・生徒調査）

6-1 回収状況

区立小中学校の児童・生徒全員を対象としていじめや不登校などの悩みの把握を行うふれあい月間調査を実施している。令和4年6月の実施時には、ヤングケアラーを把握するための設問「家事や家族の世話などで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」を追加して調査した。

図表 6-1 回収状況

	対象者数	回答数（回収率）
小学生	33,666 人	32,966 件 （97.9%）
中学生	13,449 人	12,691 件 （94.4%）

6-2 調査結果

区立小・中学校全校で、いじめや不登校などの悩みを把握する目的で行っているふれあい月間調査に、ヤングケアラーを把握するための設問を追加した。「家事や家族の世話などを行うことで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい」の設問に「はい」と答えた子どもの数は、世話をすることで遊ぶ時間や勉強する時間に影響が出ている子どもの数である。

家庭と生活状況調査では、【問 16】「お世話をすることで次のようなことがありますか」により、世話をすることによる影響を尋ねている。【問 16】で「自分の時間や友だちと遊ぶ時間が取れない」の区分を選んだ子どもの数は、小学6年生で25人（0.46%）、中学2年生で18人（0.43%）であった。調査方法（記名式、無記名式など）の違いや設問の設定により、結果に差が出ていると考えられる。

【設問】(単一回答) 家事や家族の世話などを行うことで、勉強や遊びの時間をつくるのが難しい。

図表 6-2 調査結果(全体状況)

	「はい」と答えた子どもの数	対象者数に占める割合
小学生	489 人	1.5%
中学生	41 人	0.3%

図表 6-3 調査結果(学年別状況)

小学校	対象者数 (割合)	中学校	対象者数 (割合)
第 1 学年	215 人 (3.9%)	第 1 学年	25 人 (0.6%)
第 2 学年	102 人 (1.8%)	第 2 学年	10 人 (0.2%)
第 3 学年	68 人 (1.2%)	第 3 学年	6 人 (0.1%)
第 4 学年	54 人 (1.0%)		
第 5 学年	30 人 (0.6%)		
第 6 学年	20 人 (0.4%)		
計	489 人 (1.5%)	計	41 人 (0.3%)
小中学校計		530 人 (1.1%)	

第7章 ヤングケアラーの実態把握について（調査結果と考察）

7-1 調査の特徴

本調査の実施にあたり、国のヤングケアラー実態調査を参考に設問を設定した。ただし、国の調査をより掘り下げる目的で、区独自の設問「世話が必要な家族がいるか」を加え、設問の順番は変更している。また、調査設計、実施にあたっては、児童・生徒の心の負担等に配慮し、ヤングケアラーの実態により近づけるよう、できる限り子どもの本音を引き出す工夫を2点行った。

- 1点目は、本調査がヤングケアラー実態調査であることを、児童・生徒に意識させないように実施したことである。ヤングケアラーの問題がメディア等で取り上げられる機会が増え、ヤングケアラーであることが「自分はかわいそうな子」、「自分の親はひどい親と思われる」というように子どもの自尊感情を傷つける可能性がある。そのため、調査にあたっては、調査名を「家庭・生活状況調査」とし、「ヤングケアラー」の文言の使用は極力控えている。ヤングケアラーの文言を使用した設問は、調査最後の1問（「認知度」）で、生活満足度とともに全児童・生徒が回答する設問とした。また、学校には「子どもが家庭でお手伝いをするのは良いこと」の認識で児童・生徒が回答できるような配慮をお願いした。
- 2点目は、調査を学校の特別活動等の時間で実施したことである。調査のためにヤングケアラーの自由な時間を費やすことなく、保護者や世話の対象のいない場所で、子ども自身の意見や気持ちを自由に回答できるようにした。

7-2 「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」の分類について

本調査において、区立学校の小学6年生の7.8%、中学2年生の6.6%が、「家族の世話をしている」と回答しており（図表 1-1-2）、これは令和2年から令和4年にかけて実施された国の調査の結果（小学6年生 6.5%、中学2年生 5.7%）よりやや高い割合となった。国の調査報告では、子どもが家族の世話をしている数に「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」が混在している可能性が指摘されている。本調査においても、その可能性があり、特に調査にあたって行った配慮（7-1）によりその傾向が強く出たことも考えられる。

また、第1章の「世話が必要な家族はいない」群と「世話をしている」群の比較では、各群の特徴は世帯構成のみ（「ひとり親」や「3世代」の割合が高い）に現れ（図表 1-2-1-2）、児童・生徒の生活状況（睡眠時間、朝食の喫食状況、勉強時間、自由時間）にはほぼ差がないことがわかった（図表 1-2-2-3、図表 1-2-2-4、図表 1-2-3-1、図表 1-2-3-2）。生活満足度では、平均に大きな差異はないものの、回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値では中学生の「家族の世話をしている」群が「世話が必要な家族はいない」群より高い値となっている（図表 1-3）。

これらの結果は、「世話をしている」群に属する児童・生徒の多くが、世話をしていない子どもたちと同様の生活状況にあり、世話の程度が「お手伝いの範囲」であるか、もしくは生活に支障のない（支援を必要とする可能性の低い）ヤングケアラーであることを示唆している。本調査の目的でもある支援が必要なヤングケアラーの実態把握のためには、「世話をしている」群をさらに分析し、ヤングケアラーに近い集団を「家族の世話をしている」群から区分する必要があった。そこで、本調査では「世話をしている」群を、さらに家族の世話における子どもの世話の関わり方（第2章）や世話の時間の長さ（第3章）で区分することを試みた。

7-3 子どもの世話の関わり方と時間の長さによる分類の評価

第2章においては、世話の関わり方による分類を行い、「世話をしている」群を「自分だけで世話をしている」群、「自分と家族で主に世話をしている」群、「主に世話をする人は別にいる（自分以外）」群の3区分とした（図表 2-1-3）。この3区分の群間で、生活状況に関して比較した場合、特徴的な傾向はほぼ認められず、朝食の喫食状況のみ、中学生の「自分だけで世話をしている」群が他の群より低くなった（図表 2-5-1-2）。世話に関する設問においては、「自分だけで世話をしている」群の回答は、他の群と差異がある項目が多く、生活満足度の平均は、中学生の「自分だけで世話をしている」群は、他の群より明らかに低かった（図表 2-6）。7-2 で「世話をしている」群の生活状況の傾向が他の児童生徒と変わらなかったことを踏まえると、他の児童・生徒と違った傾向を示す「自分だけで世話をしている」群はヤングケアラーとして着目すべき群であり、支援の検討においてはこの群の意見を尊重する必要がある。ただし、本調査において「自分だけで世話をしている」群のデータの個数は、小学生 32 件、中学生 11 件と極めて小さいことから個別事象の特徴が表出している可能性もあり、評価は慎重に行う必要がある。

第3章においては、世話の日数と時間によって世話の時間の長さによる分類を行い、世話の「時間の長い」群、「時間がやや長い」群、「時間の短い」群の3区分とした（図表 3-1-2、図表 3-1-3）。この3区分の群間で、生活状況に関して比較した場合、特徴的な傾向はほぼ認められず、朝食の喫食状況のみ、中学生の「時間の長い」群が他の群より「毎日食べている」が低くなった（図表 3-6-1-2）。また、世話に関する設問においても、「時間の長い」群の回答は、他の群と差異がある項目が多く、生活満足度の平均や、回答が多い順に項目を並べ替えたときの中央の値においては、他群とは明らかに差異があった（図表 3-7）。前述の理由から、「時間の長い」群もヤングケアラーとして着目すべき群であり、支援の検討においてはこの群の意見を尊重する必要がある。

7-4 ヤングケアラーの実態把握

「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」とを判別しようとしたとき、他の児童・生徒の生活状況や世話の状況と差異がある「自分だけで世話をしている」群および世話の「時間の長い」群が「ヤングケアラー」の特徴を示す群として推察される。これらの群が全体に示す割合は、「自分だけで世話をしている」群であれば小学生の0.6%、中学生の0.3%、世話の「時間の長い」群であれば、小学生の1.6%、中学生の1.5%となる。以下、これらの群の調査結果の概要をまとめる。調査結果のまとめにおいて、中学生の「自分だけで世話をしている」群はデータの個数が極めて少ないことから、群の傾向は参考にとどめる。

日常生活の状況では、朝食の喫食状況以外の睡眠時間、勉強時間、自由時間は、他の群の児童・生徒とほぼ変わりがなく、世話により大きな影響を受けている様子はなかった。

なお、朝食の喫食状況が低いことは、ヤングケアラーの様子でよくあげられる「給食をよく食べる（お替りが多い）」といった事象と関連性があると考えられる。

世話をすることによる影響としては「特にない」が7割あり第1位となっている。次いで「宿題忘れや持ち物の忘れ物が多くなった」が中学生の約2割（小学生は約1割）、「友だちと遊ぶ時間や自由な時間がない」が約1割となっている。国の調査では、世話の影響としてではなく、日常の状況として「宿題忘れや持ち物忘れ」を質問したところ、「世話をしている」子どもの4割以上で「宿題忘れや持ち物忘れ」に回答があり、本調査の回答とは差異があった。また、ヤングケアラーの特徴とされる「遅刻・欠席・早退」の回答も本調査ではわずかであった。これは、子ども自身が「宿題忘れや持ち物忘れ」などの様々な状況が「世話をすること」の影響によるものかの判断ができず、そうした状況があっても回答しなかった可能性がある。また、「特にない」が多いことも、同様の理由が考えられる。

世話の対象としては、「母」、「弟・妹」が高い割合であり、内容は「家事」、「見守り」、「話し相手」、世話をする理由は「家族が仕事で忙しいから」、「当たり前だから」、「自分が世話をしたいと思うから」の回答が多くなっている。また、世話の内容に「入浴やトイレの手伝い」も一定の回答があった。一般的に「入浴やトイレの手伝い」については高齢者をイメージしやすいが、今回、回答を詳細に分析したところ、本調査において「入浴やトイレの手伝い」を選択した児童・生徒の約9割が、世話の対象として「弟・妹」を選択していた。

世話することについて思っていることでは、「当たり前だと思う」、「やりがいを感じている」が高い割合を示しながらも、「つらい気持ちになる」が中学生の「時間の長い」群で2割以上、「体がつらい時がある」も小学生、中学生ともに1割程度いることから、これらの群の中で世話をすることの負担を感じている児童・生徒が一定数いることがわかった。なお、「特にない」と回答した児童・生徒も「自分だけで世話をしている」群の5割、「時間の長い」群で3割いた。

世話に関する相談経験は、小学生、中学生ともに2割程度に相談経験があり、家族か友人に相談している様子がある。相談経験のない児童・生徒の「相談していない理由」は「誰かに相談するほどの悩みではない」、「相談しても変わらないと思うから」が多くなっている。また、「その他」の回答も2割から3割程度あり、「そもそも悩みがない」、「相談が必要なことではない」といった趣旨の記述が多かった。また、「相談する相手がいるか」には約4割が「いない」と答えている。

7-5 ヤングケアラー支援に向けて

「助けてほしいこと」について、「自分だけで世話をしている群」および「時間の長い」群の約6割の児童・生徒が「特にない」と回答している。ほかに回答が多かった項目は、小学生は「話を聞いてほしい」、「自由な時間がほしい」、「自由に過ごせる場所がほしい」、「勉強を教えてほしい」が1割前後であった。中学生では「自由に過ごせる場所がほしい」が1割台半ばあり、「自由な時間がほしい」、「勉強を教えてほしい」、「進路などの相談に乗ってほしい」が1割程度あった。行政サービスを求める回答は小学生、中学生ともにほぼなかった。

「特にない」が多いことについては、子ども自身が手助けや行政サービスの具体的なイメージを持ちにくい可能性が考えられ、この回答から子どもに支援ニーズがないと判断することには留意が必要であり、子どもから支援してほしい内容を引き出すことは難しいと考える方が妥当である。

また、世話をすることでの生活への影響について「特にない」と回答した児童・生徒が約7割いたことを考えると、子ども自身が世話の影響に気づき、外部に支援を求める状況は、現状では少ないと考えられる。ヤングケアラーの支援の充実に向けては、子どもからの発信を待つことなく、周囲の大人が子どもの様子から状況を把握し、支援につなげる方策を充実する必要性が高い。特に、学校は、子どもが生活の中で長い時間を過ごす場であり、ヤングケアラーを発見する可能性が高い場所であることから、学校に対して、ヤングケアラーの認知についての意識を高めるための周知・啓発は引き続き行う必要がある。

また、今回の教員への調査で、ヤングケアラーを把握したが、支援を行っていない理由として、「支援の方法が分からない」が25%前後あった(図表 5-5-3)。学校でヤングケアラーと思われる子どもを発見した場合には、学校内で組織的に把握し、支援の必要性の有無等を判断する場を設けることや関係機関と繋ぐための対応を行う方策や体制を構築することが今後の課題である。一般的に、学校内で気になる子どもたちに関する情報を組織的に共有する場合は、「生活指導部会」や「教育相談部会」等が考えられる。「生活指導部会」では、学校生活での問題行動等について優先的に情報共有される場であることから、顕著な問題行動等の様子が見られないヤングケアラーについては議題に上がらない可能性がある。また、「教育相談部会」では、本人に学習面や発達等の課題が見られないケース、本人が悩みを訴えていないケースは、部会で取り上げる対象から外れる場合もある。

今後は、学校は、組織的な対応のために、ヤングケアラーの発見と支援という視点をもつことが必要であり、「生活指導部会」等で取り上げるべき対象として、学校生活では問題が見られないケースや本人の訴えがないケースであったとしても、本人が家族の世話をしていることを把握した場合は、学校としての組織的な検討を踏まえた上で、関係機関と連携し、学校生活では見えない実態を把握することや必要な支援に繋げていくことが求められる。

7-6 まとめ

ヤングケアラーが、子どもの年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負っている子どもであることから、本調査で試みた「世話をしている」児童・生徒を「お手伝いの範囲」と「ヤングケアラー」に分類することについては、世話の時間の長さによる分類に加え、世話の関わり方による結果を加味することで一定の結果が得られている。「世話をしている」児童・生徒の多くが「お手伝いの範囲」であり、「ヤングケアラー」として着目すべきはその一部（全体の1.5%程度）であった。また、その中で生活に影響があったり、自分自身が「つらい」、「きつい」と感じたりしている児童・生徒はさらに限られるとみられる（1.5%のうちの2割程度）。この結果は、区が令和3年に実態として捉えた実数（72名、区立学校に在籍する児童・生徒の0.15%）に近い割合であった。これらから「ヤングケアラー」として、現在は、生活等に影響はないが、今後、家庭の状況が変化した時には、ヤングケアラーとしての支援が必要となる児童・生徒は、令和3年11月に区が把握した数の約10倍と推察できる。

一方で、子どもは、世話の影響を判断できず、相談ニーズも潜在化していることから、自分自身の状況に気づき、支援を求める可能性は低いことも分かった。

ヤングケアラーへの支援については、まずは、子どもの世話の状況や家庭状況に大人が早期に気づき、見守る中で、支援が必要となった時には迅速に支援につなげられる体制が必要である。特に、子どもと日常的に関わる学校の役割は大きく、学校で早期に気づいたヤングケアラーを支援機関につなぐとともに、学校では日常的な見守りを継続することが必要である。また、学校の取組をサポートする役割は、日常的に学校を訪問している福祉の知識を持ったスクールソーシャルワーカーに期待されるところが大きい。一方、児童・生徒に対しても、ヤングケアラーについて正確な情報を与えるとともに、子どもの基礎力として相談力を上げる取り組みを進めることも重要である。

こうした取組から、学校等で発見したヤングケアラーの情報を集約し、情報の一元管理のもと、より実態を把握する仕組みを整備するとともに、ヤングケアラーの状態の変化に合わせ、教育、子育て、福祉、保健の分野で連携し支援する体制の構築を目指していく。

資 料

- ・令和4年度練馬区ひとり親家庭二一ズ調査報告書（抜粋）・・・・・・（資料） 2p
- ・小学生調査票・・・・・・（資料） 3p
- ・中学生調査票・・・・・・（資料） 7p
- ・学校調査票・・・・・・（資料） 11p

【参考】 令和４年度練馬区ひとり親家庭ニーズ調査報告書（抜粋）

（福祉部生活福祉課）

【調査概要】

対象	練馬区に在住する児童育成手当受給世帯のうち、申請事由が離婚、死亡、生死不明、遺棄、未婚である世帯（令和４年４月１日現在）
実施期間	令和４年４月２５日（月）～ 令和４年５月２４日（火）
調査方式	郵送により配付、郵送・オンライン回収
調査内容	ひとり親家庭の自立に向けた支援を充実する目的で、新型コロナウイルス感染症の影響やニーズを把握するために家庭状況の調査を実施。この中で、ヤングケアラーの状況の参考とするため、家庭における子どもが担当する役割について問う設問を追加

【調査結果】

【問 28】（複数回答）あなたの家庭で子どもが担当している役割がありますか。あてはまるものに○をつけてください。
--

	1 家事	2 きょうだいの世話	3 家族の身体的な介護	4 家族の見守り	5 通訳	6 その他	特にない	無回答
n = 1,614	31.9%	8.1%	0.4%	1.8%	0.7%	4.6%	58.7%	1.8%

【問 28-1】（単一回答） (問 28 で「1」～「6」に○をつけた方にお聞きします) 平日１日あたりで、子どもが担当している役割に費やす時間を教えてください。

	1 時間未満	1 時間～ 2 時間未満	2 時間～ 3 時間未満	3 時間～ 4 時間未満	4 時間以上	無回答
n=638	84.3%	10.2%	2.2%	0.6%	0.6%	2.0%

小学生の家庭・生活状況調査

・このアンケート調査は、小学生のふだんの生活や、学校や家庭での悩みや困りごとをお聞きし、どのような手助けがあると今よりも充実した生活を送れるかを考えるために行うものです。

・みなさんの回答の一つ一つが大切な意見です。ぜひ協力をお願いします。

・名前は書かないでください。

・答えたくない質問は答えなくてもよいです。自分の思う答えを書いてください。

答えが思いうかばない場合や、答えたくない場合は、答えずに先に進んでください。



■ あなたのことについて教えてください			
問1 性別			
1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 答えたくない
■ 平日（学校がある日）のあなたの生活について教えてください			
問2 朝は、何時ごろに起きていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 午前6時より前	2. 午前6時台	3. 午前7時台	4. 午前8時過ぎ
5. その他（ ）時ごろ			
問3 朝食を毎日食べていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 毎日食べている		2. どちらかといえば食べている	
3. あまり食べていない		4. 食べていない	
問4 学校以外で勉強をする時間は1日どのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問5 学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいありますか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問6 夜の寝る時間は何時ごろですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 午後9時過ぎから10時の間	2. 午後10時過ぎから11時の間	3. 午後11時過ぎから午前0時の間	
4. 午前0時より後	5. その他（ ）時頃		
■ あなたの家族のことについて教えてください			
問7 いっしょに住んでいる人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください			
1. お母さん	2. お父さん	3. おばあさん	4. おじいさん
5. 兄・姉 ⇒ （ ）人	6. 弟・妹 ⇒ （ ）人		
7. その他（ ）			

問14 あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. ほぼ毎日	2. 週に3～5日	3. 週に1～2日	4. 1か月に数日
問15 あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 0～30分未満	2. 30分～1時間くらい	3. 1時間～2時間くらい	4. 2時間～3時間くらい
5. その他（時間くらい）			
問16 お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか			
※あてはまるものすべてに○をしてください（何もない場合は「1. 特にない」に○）			
1. 特にない			
2. 学校の欠席、遅刻、早退が多くなった		3. 授業に集中できない	
4. 宿題や持ち物を忘れることが多い		5. 自分の時間や、友だちと遊ぶ時間がない	
6. さみしい		7. その他（）	
問17 お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください			
※あてはまるものすべてに○をしてください（何もない場合は「1. 特にない」に○）			
1. 特にない		2. 家族を助けることにやりがいを感じている	
3. 家族だから世話をするのはあたりまえだと思う		4. づらい気持ちになることがある	
5. 体がつらいときがある		6. その他（）	
問18 学校や周りの大人に助けて欲しいことはありますか			
※あてはまるものすべてに○をしてください（何もない場合は「1. 特にない」に○）			
1. 特にない			
2. 自分の話を聞いてほしい			
3. 家族のお世話について相談にのってほしい			
4. 家族の病気や障害、お世話のことなどについて、わかりやすく説明してほしい			
5. 家族での相談や話し合いのときに、いっしょにいてくれる人がほしい			
6. 自分がしているお世話のすべてを誰かに代わってほしい			
7. 自分がしているお世話の一部を誰かに代わってほしい			
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか（）			
8. 自由に使える自分の時間がほしい			
9. 自分の自由に過ごせる場所がほしい			
10. 勉強を教えてもらえたり、わからないところを聞けたりする助けがほしい			
11. お金の面で助けてほしい			
12. わからない			
13. その他（）			

問19 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みをだれかに相談したことはありますか									
※あてはまるもの一つに○をしてください									
1. ある ⇒ 問20へ									
2. ない ⇒ 問21へ									
■問19で「ある」に○をつけた人にお聞きします									
問20 相談した相手の人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください									
1. お母さん									
2. お父さん									
3. おばあさん									
4. おじいさん									
5. きょうだい									
6. 親せき（おじさん、おばさんなど）									
7. 友だち									
8. 学校の先生（保健室の先生以外）									
9. 保健室の先生									
10. 学校の相談室の先生									
11. 児童館や学童クラブの人									
12. 医師や看護師、その他病院の人									
13. お世話をする専門の人（ヘルパー）									
14. 区役所や保健所の人									
15. 近所の人									
16. SNS上での知り合い									
17. その他（ ） ⇒ つぎは、問23へ									
■問19で「ない」に○をつけた人にお聞きします									
問21 相談していない理由を教えてください ※あてはまるものすべてに○をしてください									
1. だれに相談したらよいかわからないから									
2. 相談できる人が身近にいないから									
3. だれかに相談するほどの悩みではないと思うから									
4. 家族のことを話したくないから									
5. 相談しても何も変わらないと思うから									
6. その他（ ）									
問22 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか									
1. いる									
2. いない									
■さいごに皆さんにお聞きします									
問23 最近の生活にどのくらい満足していますか									
「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で、あてはまるものを1つ選んでください									
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
まったく満足 十分に満足して いる									
満足していない									
問24 これまでに「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか									
※あてはまるもの一つに○をしてください									
1. 聞いたことがあり、内容も知っている									
2. 聞いたことはあるが、よく知らない									
3. 聞いたことはない									
問25 家族の世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことなどを自由に書いてください									

中学生の家庭・生活状況調査

・このアンケート調査は、中学生のふだんの生活や、学校や家庭での悩みや困りごとをお聞きし、どのような手助けがあると今よりも充実した生活を送れるかを考えるために行うものです。

・みなさんの回答の一つ一つが大切な意見です。ぜひ協力をお願いします。

・名前は書かないでください。

・答えたくない質問は答えなくてもよいです。自分の思う答えを書いてください。答えが思いうかばない場合や、答えたくない場合は、答えずに先に進んでください。

■ あなたのことについて教えてください			
問1	性別		
1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 答えたくない
■ 平日（学校がある日）のあなたの生活について教えてください			
問2	朝は、何時ごろに起きていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください		
1. 午前6時より前	2. 午前6時台	3. 午前7時台	4. 午前8時過ぎ
5. その他（ ）時ごろ			
問3	朝食を毎日食べていますか ※あてはまるもの一つに○をしてください		
1. 毎日食べている	2. どちらかといえば食べている		
3. あまり食べていない	4. 食べていない		
問4	学校以外で勉強をする時間は1日どのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください		
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問5	学校以外で自分の自由に過ごせる時間は1日どのくらいありますか ※あてはまるもの一つに○をしてください		
1. 30分以内	2. 30分～1時間以内	3. 1時間～2時間以内	4. 2時間以上
問6	夜の寝る時間は何時ごろですか ※あてはまるもの一つに○をしてください		
1. 午後9時過ぎから10時の間	2. 午後10時過ぎから11時の間	3. 午後11時過ぎから午前0時の間	
4. 午前0時より後	5. その他（ ）時頃		
■ あなたの家族のことについて教えてください			
問7	いっしょに住んでいる人はだれですか ※あてはまるものすべてに○をしてください		
1. お母さん	2. お父さん	3. おばあさん	4. おじいさん
5. 兄・姉 ⇒ （ ）人	6. 弟・妹 ⇒ （ ）人		
7. その他（ ）			

問14 あなたが家族のお世話をする日数はどのくらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. ほぼ毎日	2. 週に3～5日	3. 週に1～2日	4. 1か月に数日
問15 あなたがお世話をする時間は、平日何時間くらいですか ※あてはまるもの一つに○をしてください			
1. 0～30分未満	2. 30分～1時間くらい	3. 1時間～2時間くらい	4. 2時間～3時間くらい
5. その他（時間くらい）			
問16 お世話をしていることで、つぎのようなことがありますか			
※あてはまるものすべてに○をしてください（何もない場合は「1. 特にない」に○）			
1. 特にない	2. 学校の欠席、遅刻、早退が多くなった		
3. 授業に集中できない	4. 宿題や持ち物を忘れることが多い		
5. 自分の時間や、友だちと遊ぶ時間がない	6. 孤独を感じる		
7. 将来や進路のことについて、しっかり考えるゆとりがない	8. 進路の希望がかなえられるか心配		
9. 受験の準備ができていない	10. その他（）		
問17 お世話をすることについて思っていることがあれば教えてください			
※あてはまるものすべてに○をしてください（何もない場合は「1. 特にない」に○）			
1. 特にない	2. 家族を助けることにやりがいを感じている		
3. 家族だから世話をするのはあたりまえだと思う	4. つらい気持ちになることがある		
5. 体がつらいときがある	6. その他（）		
問18 学校や周りの大人に助けて欲しいことはありますか			
※あてはまるものすべてに○をしてください（何もない場合は「1. 特にない」に○）			
1. 特にない			
2. 自分の話を聞いてほしい			
3. 家族のお世話について相談にのってほしい			
4. 家族の病気や障害、お世話のことなどについて、わかりやすく説明してほしい			
5. 家族での相談や話し合いのときに、いっしょにいてくれる人がほしい			
6. 自分がしているお世話のすべてを代わってくれる人や、サービスがほしい			
7. 自分がしているお世話の一部を代わってくれる人や、サービスがほしい			
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか（）			
8. 自由に使える自分の時間がほしい			
9. 自分の自由に過ごせる場所がほしい			
10. 勉強を教えてもらえたり、わからないところを聞けたりする助けがほしい			
11. お金の面で助けてほしい			
12. 進路など将来の相談にのってほしい			
13. わからない			
14. その他（）			

ヤングケアラー支援に関する実態調査

○練馬区では、子どもたちの学習機会の保障と健やかな成長のために、ヤングケアラーへの支援策を検討することといたしました。

○この調査は、これからの検討のために、子どもが多く時間を過ごす学校の中で教職員が気づいたヤングケアラーの実態や必要とする支援をお聞きする基礎調査です。ご協力をお願いします。



*必須

ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」のことです。子どもが家族の一員として家庭でお手伝いをすることは一般的なことです。その負担が年齢に見合わない過度な負担となったときに、本人の教育や成長に影響があるといった課題があります。

【ヤングケアラーの例】厚生労働省のHPから抜粋



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもの世話をしている



障がいや病気のある子どもの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

問1 所属を教えてください*

☐ 小学校

☐ 中学校

問 1-2 あなたの年齢を教えてください *

- ☐ 20歳代
- ☐ 30歳代
- ☐ 40歳代
- ☐ 50歳代
- ☐ 60歳代

問 2 あなたは「ヤングケアラー」という言葉や概念を認識していましたか *
・その他を選択する場合は、その他の内容説明を記載してください

- ☐ この調査で初めて言葉を知った
- ☐ 言葉は聞いたことがある
- ☐ 言葉は聞いたことがあったが、詳しくはわからない
- ☐ 言葉も概念も知っていた

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



*必須

これからの質問でお聞きするヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」を指します

- ・上記に該当する子どもについては、学校生活に支障が無い程度の負担とみられる事例であってもヤングケアラーとしてお答えください
- ・あなたの認識や考えに基づいてお答えください

問3 現在、勤務する学校全体にヤングケアラーと思われる子ども（あなたが見*てヤングケアラーではないか、と思う子どもを含む）はいますか

- ・その他を選択する場合は、その他の内容説明を記載してください

- ☐ ヤングケアラーと思われる子どもがいる
- ☐ ヤングケアラーと思われる子どもがいるかもしれない
- ☐ ヤングケアラーと思われる子どもはいない
- ☐ その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3で、「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」と答えた方にお聞きします

問3-2 ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたきっかけは何ですか
顕著であった状況を選択してください（3つ以内）

- ☐ 欠席、遅刻、早退が多い
- ☐ 授業中に居眠りしていたり、集中できていない様子がみられる
- ☐ 宿題や持ち物を忘れることが多い
- ☐ 保護者の承諾が必要な書類の提出が遅れることが多い
- ☐ 身だしなみが整っていない
- ☐ 学校で必要なものを家庭で用意してもらえない
- ☐ 部活動をやめた、または、欠席がちである
- ☐ 学校行事や修学旅行を休む
- ☐ 非常に疲れている
- ☐ 精神的な不安定さがある
- ☐ 家族の世話をしている旨の発言があった
- ☐ その他:

問3-3 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を把握していますか

- ☐ 把握している
- ☐ 一部の子どもについて把握しているが、把握していない子どももいる
- ☐ 把握していない

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問３－３で、ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を「把握している」と答えた方に、子どもが世話をしている対象、世話の内容をお聞きします

家族の世話の状況を把握している子どもが複数いる場合は、世話の負担が重いと思われるケースから３例目までの状況を、１例ずつお知らせください

問3-3-2 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください 【1例目】

・子どもが世話をしている対象と、子どもの世話の内容について、当てはまるものを選択してください

	母	父	祖母	祖父	兄弟	弟妹（1人のみ）	弟妹（複数人）
1. 家事 （掃除・食事の支度・洗濯など）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 幼いきょうだいの世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 障害や病気がある家族の世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 精神的に不安定な家族の世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 依存症（アルコール・ギャンブルなど）の家族の対応	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 目が離せない家族の見守り	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 家族の通訳	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 上の選択肢の中に無い世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問3-3-2 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください 【2例目】

・子どもが世話をしている対象と、子どもの世話の内容について、当てはまるものを選択してください
 ・2例目の回答が無い場合は、画面を下にスクロールし、「次へ」ボタンを押してください

	母	父	祖母	祖父	兄弟	弟妹（1人のみ）	弟妹（複数人）
1. 家事（掃除・食事の支度・洗濯など）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 幼いきょうだいの世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 障害や病気がある家族の世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 精神的に不安定な家族の世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 依存症（アルコール・ギャンブルなど）の家族の対応	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 目が離せない家族の見守り	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 家族の通訳	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 上の選択肢の中に無い世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問3-3-2 ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況について教えてください 【3例目】

- ・子どもが世話をしている対象と、子どもの世話の内容について、当てはまるものを選択してください
- ・3例目の回答が無い場合は、画面を下にスクロールし、「次へ」ボタンを押してください

	母	父	祖母	祖父	兄弟	弟妹（1人のみ）	弟妹（複数人）
1. 家事（掃除・食事の支度・洗濯など）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 幼いきょうだいの世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 障害や病気がある家族の世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 精神的に不安定な家族の世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 依存症（アルコール・ギャンブルなど）の家族の対応	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 目が離せない家族の見守り	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 家族の通訳	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8. 上の選択肢の中に無い世話	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問３－３でお答えいただいた、ヤングケアラーと思われる子どもの家族の世話の状況を「把握していない」ケースについてお聞きします

問３－３－３ 家族の世話の状況を把握していない理由を教えてください

あてはまるものを選択してください（複数選択可）

- ☐ 学校においてヤングケアラーの概念や支援対象としての認識が不足している
- ☐ 子ども自身やその家族にヤングケアラーという問題の認識が無く、聞き取りが難しい
- ☐ 不登校やいじめ、虐待などのケースと比べ緊急度が高くないため、把握していない
- ☐ 家庭内のデリケートな問題に学校が踏み込んで実態把握するのが難しい
- ☐ 学校が家庭内の状況までを把握するべきではない
- ☐ その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3で、「ヤングケアラーと思われる子どもがいる」と答えたすべての方にお聞きします

問3-4 問3でお答えいただいた子どもに、現在、学校として何らかの支援を行っていますか

・学校として行っている支援や、学校と他機関が連携して行っている支援、あなた個人が行っている支援を合わせて教えてください

- ☐ 支援を行っている
- ☐ 一部の子どもに支援を行っているが、支援を行っていない子どももいる
- ☐ 支援を行っていない

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3-4で、「支援を行っている」と回答した方にお聞きします

問3-4-2 行っている支援の内容を教えてください

・あてはまるものを選択してください（複数選択可）

- ☐ 子どもの話を聞いている
- ☐ 学習等の支援をしている
- ☐ 学校で情報を共有し、支援に向けて検討している
- ☐ 保護者に状況の改善について働きかけている
- ☐ 保護者に支援機関へ相談するよう働きかけている
- ☐ 区の支援機関※と連携している（※学校教育支援センター、子ども家庭支援センター、総合福祉事務所、保健相談所など）
- ☐ その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



問3-4で、「支援を行っていない」と回答した方にお聞きします

問3-4-3 支援を行っていない理由や要因としてあてはまるものを教えてください

・主な理由を選択してください（3つ以内）

- ☐ 本人や家族に自覚がない
- ☐ 支援が必要な状況ではない
- ☐ 子ども自身が支援を拒否した
- ☐ 保護者が支援を拒否した
- ☐ 家庭のデリケートな問題に学校が関われない
- ☐ 支援の方法がわからない
- ☐ 学校以外の支援先が必要だが、その相談先がわからない
- ☐ 学校が家庭内の状況に関わるべきではない
- ☐ その他:

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 練馬区教育委員会 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

ヤングケアラー支援に関する実態調査



*必須

すべての方にお聞きします

問4 ヤングケアラーへの支援について自分の考えに近いものを選択してください

自分の考えに近いものを選択してください（3つ以内）

- ☐ 家庭のデリケートな問題には学校は関われない
- ☐ 既存の支援で対応可能であり、ヤングケアラー対応としての特別な支援は必要ない
- ☐ ヤングケアラーの概念を理解したうえで、子どもの話を聞く、声掛けをする
- ☐ 学習の遅れが生じたときに個別にフォローする
- ☐ 学校が居場所になるように配慮する
- ☐ 校内委員会などで情報を共有し、支援に向けて検討する
- ☐ 区の支援機関※につなぐ（※学校教育支援センター、子ども家庭支援センター、総合福祉事務所、保健相談所など）
- ☐ 学校が家庭内の状況までを把握するべきではない
- ☐ その他:

問5 ヤングケアラーへの支援を学校で行うにあたり、あなたが課題と思うこと *
(課題になるのではないかと思うこと) を教えてください

- ・各項目について、課題認識の度合いをお知らせください
- ・ここに提示する事項以外にも課題があるとお考えの場合は、問6(自由記述)に記載してください

	思う	やや思う	思わない	わからない
家庭内の様子を つかみにくく、 ケアラーの把握 が難しい	☐	☐	☐	☐
発見しても、そ の後の対応をど のようにすべき かわからない	☐	☐	☐	☐
本人や家族にヤ ングケアラーと いう問題の認識 が無く、支援に 理解が得られな い	☐	☐	☐	☐
支援をするとき に、支援機関へ のつなぎ方や、 どのような支援 機関があるのか がわからない	☐	☐	☐	☐
教育活動がいそ がしく、きめ細 やかに対応する 時間が足りない	☐	☐	☐	☐
学校が家庭内の 状況までを把握 するべきではな い	☐	☐	☐	☐

問6 ヤングケアラーへの支援について、ご意見があればお聞かせください

回答を入力

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは練馬区教育委員会 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

ヤングケアラー実態調査報告書

令和4年（2022年）10月

編集・発行 練馬区教育委員会事務局 教育振興部
学校教育支援センター

〒179-0072 東京都練馬区光が丘6-4-1

電話 03-6385-9911